
独立行政法人 国立健康・栄養研究所

研究報告

第56号(平成19年度)

独立行政法人
国立健康・栄養研究所

序

国立健康・栄養研究所は、平成 13 年 4 月の独立行政法人化以来、5 か年の第 1 次中期目標・計画期間を平成 17 年に終え、平成 18 年 4 月からは新たな 5 か年の第 2 次中期目標・計画期間に入りました。

歴史を遡りますと、設立後 20 年経った昭和 15 年には公衆衛生院、体育研究所と合併され、厚生科学研究所国民栄養部、さらに昭和 17 年には厚生省研究所となりました。この時期に、大戦末期の深刻な食糧難への対策に役立てるために国民栄養調査が行われました。これが戦後の GHQ による迅速な栄養調査の成功の基となり、食糧配給対策の基礎データが導き出され、戦後の食糧難を乗り切ることに貢献いたしました。

そして昭和 22 年に新宿区戸山に「国立栄養研究所」として再建されて以来、長年にわたり逐次の栄養所要量(現在の食事摂取基準)策定や毎年の国民栄養調査(現在の国民健康・栄養調査)をはじめ、各般にわたる研究を行ってまいりました。

平成元年には、「国立健康・栄養研究所」と改称され、栄養・食生活のみならず、運動を取り入れた、より幅広い健康の保持増進の研究に取り組むことになり、国民健康づくりに不可欠な、食事や運動・休養のガイドライン作成にも寄与してまいりました。平成 13 年に独立行政法人化してからの 5 年間では、新しい食事摂取基準を作ったこと、健康増進法に沿って国民健康・栄養調査を行って肥満者の増加、糖尿病患者の増加の実態を明らかにしたこと、また健康食品の安全性を調査し、情報発信を始めたこと、サプリメントの効能と安全性を正しく消費者に伝えられるように NR 制度を発足させたことは、実学の精神に沿って展開された大きな成果といえます。

新体制のもと、所内全員の協力を得て成果を上げることができました。これからも、長寿社会の到来、肥満者の増加とメタボリックシンドロームの激増、食育の問題など、次々と食と健康にからむ問題が生じています。さらに、サプリメントや「健康食品」については有効性や安全性に関しても対応が求められています。

平成 18 年 4 月には職員の身分を非公務員化するとともにそれまでの部室制から、プログラム・プロジェクト制に移行しました。栄養疫学、健康増進、臨床栄養、栄養教育、基礎栄養、食品保健機能の 6 プログラムは研究部門の柱として、また情報センター、国際産学連携センターは外に向けての情報発信や連携活動の拠点としての組織です。

広く国民の健康と栄養に関する正しい知識を普及するとともに、市町村、保健所、病院、学校給食などの現場で活躍する管理栄養士等の方々に的確なエビデンスを提供することが当研究所に求められている。こうした変化の中においても、研究所の歴史と伝統を踏まえながら、国際的なネットワークをも含め、開かれた研究所として、実学としての健康・栄養の研究にまい進してまいります。

平成 20 年 3 月 31 日

独立行政法人国立健康・栄養研究所
理事長 渡 邊 昌

目 次

研究所概要

1. 平成 19 年度研究・業務の概況	5
2. 評価委員会	5
3. 研究所主催・共催セミナー	6
4. 意見交換会	6
5. 研究倫理審査委員会	7
6. 栄養情報担当者（NR）	7
7. 連携大学院	7

研究・業務の進捗及び成果の概要

栄養疫学プログラム

1. プログラムの概要	8
2. プロジェクトの概要	9
A【国民健康・栄養調査プロジェクト】	9
B【食事摂取基準プロジェクト】	10
C【生体指標プロジェクト】	10

健康増進プログラム

1. プログラムの概要	11
2. プロジェクトの概要	12
A【運動ガイドラインプロジェクト】	12
B【エネルギー代謝プロジェクト】	13
C【休養プロジェクト】	13

臨床栄養プログラム

1. プログラムの概要	15
2. プロジェクトの概要	16
A【メタボリックシンドロームプロジェクト】	16
B【栄養療法プロジェクト】	17

基礎栄養プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要	18
--------------------	----

栄養教育プログラム

1. プログラムの概要	20
2. プロジェクトの概要	21
A【食育プロジェクト】	21
B【生活習慣病予防プロジェクト】	21
C【栄養ケア・マネジメントプロジェクト】	22

食品保健機能プログラム

1. プログラムの概要	23
2. プロジェクトの概要	24
A【食品分析プロジェクト】	24
B【補完成分プロジェクト】	24
C【食品機能プロジェクト】	24

情報センター

1. センターの概要	26
------------	----

2. プロジェクトの概要	27
A【健康食品情報プロジェクト】	27
B【健康・栄養情報プロジェクト】	27
C【IT 支援プロジェクト】	27
国際産学連携センター	
1. センターの概要	29
2. プロジェクトの概要	30
A【国際栄養プロジェクト】	30
B【NR・セミナー業務】	30
C【ニュートラシューティカルプロジェクト】	31
D【生物統計プロジェクト】	31
研究成果等の発表	
1. 業績目録	
(1) 著書	32
(2) 原著論文	33
(3) 総説	38
(4) 解説等	40
(5) 研究班報告書	42
(6) 国際学会等	44
(7) 国内学会等	47
2. 国家予算による研究（競争的資金）	
(1) 厚生労働省研究費	56
(2) 文部科学省科学研究費	58
(3) その他	60
3. 民間等からの受託研究、等	60
4. 研究所外での講義、講演等	60
5. 政府関係機関審議会、委員会等	68
6. 関連学術団体等への貢献	69
7. 併任、非常勤講師等	70
8. 国際貢献	71
9. 特許等の取得	71
資 料	
1. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標	72
2. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画	75
3. 独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画	84
4. 研究所組織	94
5. 予算	95
6. 人事異動	96
7. 海外出張	98
8. 名誉所員	102
9. 客員研究員	103
10. 協力研究員	105
11. 特別研究員	108
12. 所内研究セミナー	109
13. 食品分析リスト	112

研究 所 概 要

1. 平成 19 年度研究・業務の概況

当研究所は、平成 13(2001)年度より独立行政法人となり、平成 19 年度は第 2 期中期計画(～平成 22 年度)の第 2 年度に当たる。「人々の栄養・食生活、運動と健康との関わりについて、基礎から応用に至るまでの調査及び研究を包括的かつ国際的な水準で行い得る試験研究機関」として、「特にヒトを対象とした研究に関して、わが国の大学・研究機関の中心的存在として、総合的・統合的な研究を推進するとともに、研究者を育成する役割を果たす。厚生労働行政上の重要な健康・栄養施策を推進する上で不可欠な科学的根拠を質の高い研究によって示し、それらを専門的立場から要約して発信するとともに、健康科学・栄養学領域において、アジア地域への貢献を含め、国際的なリーダーシップを担う」(中期目標より)ことが、当研究所に求められる役割である。

こうした目標を達成するために、三つの重点調査研究業務を行っている。

生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究

日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究

「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

その他にも、外部からの競争的研究資金を獲得して、関連領域の基礎から応用、開発型の研究を行っている。また、今後の新たな研究展開につながるような萌芽的研究も若手研究者を中心に活発に行っている(下表)。

	競争的研究費			公的機関からの	
	厚生労働省	文部科学省	その他	受託・請負	民間からの
主任研究者	12 件	18	2	2	13
分担研究者	20 件	1	0	5	0
研究費額	284 百万円	60	42	59	39

個々の研究内容及び研究成果の発表については、各プログラム/センターからの報告及び、研究成果の発表を参照されたい。研究成果の発表実績の一部を下表にまとめた。

原著論文		学会発表(招待講演)		学会発表(一般演題)	
英文	和文	国際学会	国内学会	国際学会	国内学会
96	22	31	105	46	145

研究の成果を社会に還元し、皆様の健康づくりに役立てていただけるよう、新たに設置した情報センター(情報部門)及び国際産学連携センター(対外部門)、並びに事務部業務課が中心となって、ホームページ等を介した情報提供、NR 事業、セミナー(一般及び専門家向け)、研究所の公開等を行った。NR 事業としては、平成 19 年 6 月には第 4 回 NR 認定試験を行い、累計で 2,682 名の NR を世に送り出すとともに、有資

格者へのフォローアップ研修を行った。専門家を対象としたセミナーとしては、平成 20 年度から新しい医療制度構造改革の一環として開始される特定健診・保健指導を効果的に行い、その科学的評価を行う基盤をつくるために、都道府県等の健康・栄養調査手法の標準化を目指したセミナーを主催した。

若手研究者の育成という観点からは、お茶の水女子大学、東京農業大学、女子栄養大学、早稲田大学との連携大学院や、全国の管理栄養士を養成する大学・大学院での特別講義等を通じて、ネットワーク型の人材育成を着々と進めている。また、国際協力についてもアジア諸国における栄養関係の研究者との交流・連携を深め平成 20 年 3 月に第 3 回アジア栄養ネットワークシンポジウムを開催した。

2. 評価委員会

(1) 外部評価委員会

下記の 9 名の委員により構成される国立健康・栄養研究所外部評価委員会については、平成 19 年 5 月 31 日(木)に平成 18 年度業務実績事後評価、また平成 20 年 3 月 13 日(木)に平成 19 年度業務実績事後評価、及び平成 20 年度計画事前評価を行った。

【委員】

五十嵐脩	(お茶の水女子大学名誉教授)(委員長)
伊藤 裕	(慶応義塾大学医学部教授)
逢坂哲彌	(早稲田大学理工学術院教授)
加賀谷淳子	(日本女子体育大学客員教授)
加藤則子	(保健医療科学院研修企画部長)
川島由起子	(聖マリアンナ医科大学病院栄養部長)
林 徹	((独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所長)
豊田正武	(実践女子大学教授)
三保谷智子	(女子栄養大学出版部書籍編集課長)

(2) 内部研究業務評価委員会

下記により構成される国立健康・栄養研究所内部研究業務評価委員会については、平成 19 年 11 月 15 日(木)にプログラム/センター中間報告会を、平成 20 年 3 月 13 日(木)には年度事後評価を行った。

【委員】

芝池伸彰	(理事)(委員長)
吉池信男	(研究企画評価主幹)
森田明美	(栄養疫学プログラムリーダー)
田畑 泉	(健康増進プログラムリーダー)
門脇 孝	(臨床栄養プログラムリーダー)
江崎 治	(基礎栄養プログラムリーダー)
饗場直美	(栄養教育プログラムリーダー)
山田和彦	(食品保健機能プログラムリーダー)

3. 研究所主催・共催セミナー

(1) 第 9 回独立行政法人国立健康・栄養研究所主催 一般公開セミナー

主 題: 健診でメタボリックシンドロームと言われたら

日 時: 平成 20 年 2 月 2 日(土)

場 所: よみうりホール(東京都千代田区)

主 催: 独立行政法人国立健康・栄養研究所

後 援: 厚生労働省、文部科学省、東京都、千代田区、
独立行政法人国民生活センター、社団法人日
本医師会、社団法人日本栄養士会、財団法人
健康・体力づくり事業財団、NPO 法人日本健
康運動指導士会

賛助企業: アサヒ飲料株式会社、アピ株式会社、大塚
製薬株式会社、花王株式会社、キャドバリ
ー・ジャパン株式会社、中外製薬株式会社、
株式会社ディーエイチシー、日清オイリオグ
ループ株式会社、日本豆乳協会、ニュースキ
ンジャパン株式会社、ハウス食品株式会社、
不二製油株式会社、三基商事株式会社、株式
会社ミツカングループ本社、株式会社ヤクル
ト本社、株式会社リコム

プログラム:

- 研究所の活動報告(吉池信男)
- メタボリックシンドロームの概念を用いた新しい特
定保健指導
 - ・メタボリックシンドロームとは(門脇孝)
 - ・特定健康診査と特定保健指導(関英一)
- メタボリックシンドローム解決方策の基本と実践
 - ・効果的な運動方法(宮地元彦)
 - ・食事習慣の見直し(饗場直美)
 - ・健康食品の利用について(永田純一)

(2) 当研究所主催専門家向けセミナー

健康・栄養調査技術研修セミナー

日 時: 平成 19 年 8 月 21 日(火)、22 日(水)、24 日
(金)

場 所: 福岡県、奈良県、東京都

プログラム:

- (講義 1) なぜ標準化・精度管理が必要なのか(由田克
士)
- (講義 2) 国民健康・栄養調査を行うための準備～栄養
摂取状況調査を中心に～(荒井裕介)
- (講義 3) 栄養摂取状況調査で得られた内容からでき
るだけ真の値に近づけるために(野末みほ)
- (演習 1) 調査票を使った食事調査のデータ処理
- (情報提供・演習 2) 調査票記入及び確認のポイント
- (意見交換) より効率的、効果的な調査の実施に向け
て

4. 意見交換会

1) NPO 法人日本健康運動指導士会

日 時: 平成 19 年 11 月 8 日(木)

議 題: 今後の協力関係について

2) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食 品総合研究所

日 時: 平成 20 年 1 月 9 日(水)

議 題: 研究所の動向、連携活動について、食と健康
に関する動向について

3) 財団法人日本健康・栄養食品協会

日 時: 平成 20 年 1 月 17 日(木)

議 題: 健康食品のアドバイザースタッフ養成にか
かわる協力、連携について

4) 独立行政法人国民生活センター

日 時: 平成 20 年 1 月 25 日(金)

議 題: 国民生活センターとの情報共有等、具体的な
連携のあり方について

5) 社団法人日本栄養士会行政栄養士協議会

日 時: 平成 20 年 2 月 22 日(金)

議 題: 組織・研究・事業計画の紹介、今後の研究協
力について

6) 財団法人健康・体力づくり事業財団

日 時: 平成 20 年 3 月 3 日(月)

議 題: 健康運動指導士の研究会の発足、健康・体力
づくりと運動に関する文献データベースにつ
いて

7) 健康食品管理士認定協会

日 時: 平成 20 年 3 月 4 日(火)

議 題: 健康食品のアドバイザースタッフ養成にか
かわる協力、連携について

5. 研究倫理審査委員会

研究倫理審査委員会の各部会において、以下のとお
り、研究計画の倫理的適切性等を審査した。

(1) ヒトゲノム・遺伝子解析研究部会

・「新規の遺伝子多型解析法を用いた佐久コホートに
於ける肥満治療介入研究」

(2) 実験動物研究部会

- ・糖代謝に及ぼす身体活動の影響
- ・血管内皮細胞と膵β細胞における IRS-2 の役割につ
いて
- ・細胞内脂肪蓄積による生活習慣病発症機序の解明
- ・血糖値を調節する新規転写因子の機能解析
- ・黒糖抽出液の脂肪細胞分化および脂肪蓄積に及ぼす
影響
- ・肝臓における脂質代謝・合成の制御による生活習慣
病予防法の開発
- ・食品の機能性と機能性成分の役割の解明
- ・個体特性に着目した大豆イソフラボンの骨粗鬆症予
防効果に関する研究
- ・筋萎縮発症機序の解明
- ・運動による生活習慣病予防機序の解明
- ・葉酸の生体利用性の実験
- ・健康食品の評価系の構築と規格基準の設定に関する
基礎的実験
- ・視床下部腹内側核破壊動物の肥満病態に関する研究
- ・熱産生における脳および消化管ペプチドの役割
- ・睡眠とエネルギー代謝調節の脳機構の研究

- ・ニュートリゲノミクスを用いた非タンパク性アミノ酸の多機能解析

(3) 疫学研究部会

- ・日本人の無機質必要量に関する基礎的研究
- ・介護保険施設における栄養ケア・マネジメントの有効性評価に関する調査(質問票調査)
- ・生活習慣病予防のための介入研究・生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
- ・日常生活における活動後の代謝亢進が総エネルギー消費量におよぼす影響
- ・閉経後女性におけるビタミン K の機能性評価に関する研究
- ・一過性の肉体的あるいは精神的負荷によって生じる疲労の回復過程における非特異性免疫能と心臓自律神経バランス変動に関する検討
- ・若年女性を対象としたエクオール含有食品の継続摂取による安全性の検討
- ・健康志向に基づく食品(とくにビタミンの E 含有食品)摂取状況に関するアンケート
- ・生体内タウリン動態と体脂肪蓄積に関する研究
- ・保育所栄養士における食育の効果についての調査研究
- ・加速度計を用いた身体活動強度の推定法に関する検討
- ・第 2 回栄養関連学科女子学生の栄養と健康に関する多施設共同型観察疫学研究
- ・親子のサプリメント使用に関するアンケート調査
- ・地域における障害者の栄養管理に関する調査研究
- ・健診機関におけるメタボリックシンドロームリスクの出現頻度の推計に関する検討
- ・安定同位対比による栄養状態評価に関する基礎研究
- ・各種年代・活動レベルの対象における身体活動量の把握及び簡易な身体活動量調査方法の評価に関する研究
- ・公衆浴場を活用した健康づくりで用いる教材開発ならびに教育効果の評価に関する検討

【研究倫理審査委員会 - ヒトゲノム・遺伝子解析研究部会委員名簿】

- | | |
|-------|---------------------|
| 芝池伸彰 | (理事：委員長) |
| 稲葉 裕 | (順天堂大学教授) |
| 後藤田貴也 | (東京大学医学部附属病院助教授) |
| 佐々木和枝 | (前お茶の水女子大学附属中学校副校長) |
| 吉池信男 | (研究企画評価主幹) |
| 佐々木敏 | (栄養疫学プログラムリーダー) |
| 門脇 孝 | (臨床栄養プログラムリーダー) |
| 江崎 治 | (基礎栄養プログラムリーダー) |
| 岡田誠治 | (事務部長) |

6. 栄養情報担当者(NR)の養成

(1) 栄養情報担当者認定試験

日 時: 平成 19 年 6 月 17 日(日)
場 所: 明治学院大学(東京都港区)
関西大学(大阪府大阪市北区)
受験者数: 1,630 名
合格者数: 784 名

(2) 栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験

日 時: 平成 19 年 11 月 11 日(日)
場 所: 共立薬科大学(東京都港区)
大阪バイオメディカル専門学校(大阪府大阪市中央区)
受験者数: 317 名
合格者数: 125 名

(3) 栄養情報担当者(NR)研修会の開催

東京会場: 平成 19 年 10 月 13 日(土)
大阪会場: 平成 19 年 10 月 20 日(土)
岡山会場: 平成 19 年 10 月 27 日(土)
仙台会場: 平成 19 年 11 月 10 日(土)
名古屋会場: 平成 19 年 11 月 17 日(土)
福岡会場: 平成 19 年 11 月 24 日(土)

(4) その他

NR 養成施設との意見交換会
日 時: 平成 20 年 3 月 11 日(火)
参加施設数: 25 施設(養成講座指定数 37 施設)
議 題: NR の現状について等
NR 制度のあり方検討委員会
第 1 回 平成 20 年 3 月 3 日(月)
第 2 回 平成 20 年 3 月 26 日(水)

7. 連携大学院

- 1) 国立大学法人お茶の水女子大学
- 2) 東京農業大学大学院
- 3) 女子栄養大学大学院
- 4) 早稲田大学スポーツ科学学術院

研究・業務の進捗及び成果の概要

栄養疫学プログラム

1. プログラムの概要

(1) プログラムの目標

栄養疫学に関する基礎ならびに応用研究を行い、日本人の食生活の多様化と健康への影響を明らかにすることによって、わが国の公衆栄養行政・実務に不可欠な科学的根拠を提供する。具体的には、「国民健康・栄養調査」の集計業務を担当するとともに、結果の質の向上をめざした環境整備や基礎研究を行う。また、食事摂取基準の次期改定において必要とされる学術的資料を作成するとともに、そのための基礎研究を行う。

(2) 年度計画

A. 国民健康・栄養調査プロジェクト

国民健康・栄養調査の集計業務を担当する。国民健康・栄養調査等における調査精度の向上や技術的・学術的なレベルアップに寄与できる調査・研究等を実施する。都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を中心に関連する事柄について研修や情報提供等の支援業務を行う。

B. 食事摂取基準プロジェクト

平成 20 年度に予定される「食事摂取基準」改定作業に向け、基礎資料の収集と系統的レビューを平成 19 年度まで重点的に行う。また、今後の改定に向けて、日本人における栄養素摂取量と健康状態との関連を検討する栄養疫学研究を継続して行い、エビデンスを提供する。

C. 生体指標プロジェクト

ミネラル、ビタミン K、ビタミン D、大豆イソフラボンの栄養生理学的意義を明らかにするとともに、これらの血中及び尿中濃度(生体指標)の定量システムを確立する。また、新規生体指標の開発を目指す。

(3) 研究業務概況

A. 国民健康・栄養調査プロジェクト

次に掲げる業務を行った：平成 18 年国民健康・栄養調査について、厚生労働省の指示に基づき集計結果を提出、平成 19 年国民健康・栄養調査について集計作業を継続中、行政栄養士を対象としたセミナーを全国 3 か所で開催、適正な調査の実施及び精度向上のための情報やツールを提供

B. 食事摂取基準プロジェクト

次に掲げる業務ならびに研究を行った：「食事摂取基準」に関連する学術論文の収集と系統的レビュー、日本人を対象とした疫学研究による、24 時間蓄尿の妥当性及び DHQ から計算された GI、GL や推定エネルギー摂取量の妥当性の検討、高齢者施設における食事摂取基準活用の現状についてのアンケート調査

C. 生体指標プロジェクト

次に掲げる研究を行った：ビタミン K の栄養生理学的意義に関する研究、大豆イソフラボンの栄養生理学的意義に関する研究、ミネラルの出納に関する研究、時間分解蛍光免疫測定法による各種生体指標測定法の確立、新規生体指標の開発に関する研究

(4) 構成メンバー

プログラムリーダー：

佐々木敏 (平成 19 年 9 月まで、食事摂取基準プロジェクトリーダー併任)

森田明美 (平成 19 年 10 月から、食事摂取基準プロジェクトリーダー併任)

プロジェクトリーダー：

由田克士 (国民健康・栄養調査プロジェクト)

石見佳子 (生体指標プロジェクト)

上級研究員：

西牟田守

山内 淳

研究員：

荒井裕介

任期付研究員：

宇津木恵

野末みほ (平成 20 年 1 月から)

特別研究員：

野末みほ (平成 19 年 12 月まで)

大瀧裕子 (平成 19 年 10 月から)

客員研究員：

太田篤胤 (城西国際大学)

呉 堅 (日清オイリオグループ株式会社中央研究所)

吉武裕 (鹿屋体育大学)

山本祐司 (東京農業大学)

協力研究員：

千葉大成 (城西大学)

猿倉薫子 (お茶の水女子大学)

王新祥 (北京中医薬大学)

武山英磨 (東海学園大学)

岩本珠美 (県立広島大学)

島田美恵子 (千葉県立衛生短期大学)

大木和子 (昭和女子大学)

佐藤七恵 (聖徳大学)

児玉直子 (東京栄養食糧専門学校)

吉岡やよい

森國英子

松崎伸江

佐藤裕美 (千葉県立衛生短期大学)

村上健太郎 (国立国際医療センター、平成 19 年 9 月まで)

八幡智野	(東京大学、平成 19 年 9 月まで)
板橋真美	(東京大学、平成 19 年 9 月まで)
大久保公美	(女子栄養大学、平成 19 年 9 月まで)
三宅裕子	(ILSI Japan、平成 19 年 7 月から)
技術補助員:	
石井美子	
大野尚子	
福羅由美	
鈴木洋子	
江崎潤子	
井上絵里奈	
小板谷典子	
紙 貴子	(平成 19 年 7 月から)
峯 恵美	(平成 20 年 1 月から)
望月恵理子	(平成 20 年 1 月から)
後藤千春	(平成 20 年 2 月から)
事務補助員:	
高橋良子	(平成 19 年 8 月から)
嶺 佳華	(平成 19 年 9 月まで)
研修生:	
江崎治朗	(広島大学)
池田陽子	(東京大学)
渡邊俊之	(東京大学)
鈴木 望	(東京農業大学)
安部文子	(実践女子大学)
高野 史	(実践女子大学)
清水亜耶	(共立女子大学)
清水 南	(共立女子大学)
脇村智子	(東京栄養食糧専門学校)
山下 葵	(東京農業大学)

2. プロジェクトの概要

A【国民健康・栄養調査プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- ・当研究所の法定業務である国民健康・栄養調査の集計業務を担当する。
- ・国民健康・栄養調査等における調査精度の向上や技術的・学術的なレベルアップに寄与できる調査・研究等を実施する。
- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を中心に関連する事柄について研修や情報提供等の支援業務を行う。

(目標)

- ・国民健康・栄養調査の迅速かつ適切な集計
- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を対象とした技術研修セミナーの開催
- ・平成 19 年国民健康・栄養調査及び各自治体等が実施する健康・栄養調査を適切に実施するための情報提供

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・平成 18 年国民健康・栄養調査の集計
- ・平成 18 年国民健康・栄養調査について、厚生労働

省健康局総務課生活習慣病対策室の指示に基づき、メタボリックシンドロームの該当者数等に関わる仮集計を平成 19 年 4 月 6 日に提出した。また、通常の基本集計表一式は 8 月 17 日に生活習慣病対策室へ提出した。

- 平成 19 年国民健康・栄養調査の集計
- ・平成 19 年国民健康・栄養調査については、各自治体からの調査票の提出を確認後順次作業を開始している。
- 健康・栄養調査技術講習セミナー等の開催
- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を対象とした「健康・栄養調査技術研修セミナー」を福岡市(平成 19 年 8 月 21 日)、奈良市(8 月 22 日)、当研究所(8 月 24 日)において開催した。
- 平成 19 年国民健康・栄養調査及び各自治体等が実施する健康・栄養調査に関する情報提供
- ・当研究所のホームページ上で平成 19 年国民健康・栄養調査の適正な実施に資する情報を提供した。今年度についても、過去に実施された国民健康・栄養調査の際に問い合わせが多かった事項や誤りが多かった点について、Q&A 方式の対応事例を盛り込んだ。また、実際の調査主体となる保健所における調査員の研修に用いる教材や具体的な練習問題についても昨年度の内容をベースにさらに充実させた。
- ・国民健康・栄養調査及び各自治体独自に実施する健康・栄養調査等に関して、質問や依頼があった場合は、個別に技術支援を行った。
- ・栄養摂取状況調査の精度向上と標準化を主たる目的とした「標準的図版ツール」を試作した。利用希望のあった保健所担当者へ配布し、実際の調査に試用してもらった後、それらの内容に関してアンケート調査を実施した。
- ・調査を担当した保健所の管理栄養士を対象としたアンケート調査を実施し、本年度の支援業務の評価と次年度以降の在り方等について情報収集を行った。
- 厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室との連携
- ・平成 19 年国民健康・栄養調査の企画、各種調査票の設計、食品番号表・調査必携の作成並びに厚生労働省が開催している担当者会議の内容等に関して、必要に応じ生活習慣病対策室と連携し、適切な調査が実施されるよう最大限の対応を行った。
- その他関連する請負業務等
- ・厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課からの請負業務として平成 16 年度より実施している食品摂取頻度・摂取量調査(国民健康・栄養調査方式の栄養摂取状況調査等を季節ごとに各 3 日間実施)を今年度も全国 9 地域で実施した。

B【食事摂取基準プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- ・2010 年に予定されている「日本人の食事摂取基準」の改定の作業に先立ち、必要かつ有用な資料

(学術論文等)を収集、整理、解説し、改定の準備をする。

- ・「日本人の食事摂取基準」の改定に有用と考えられる基礎資料を栄養疫学的研究によって得るために、日本人を対象とした調査・研究等を実施する。

(目標)

- ・「日本人の食事摂取基準(2010 年版)」を策定するための、基礎資料の提供および収集と解説(系統的レビュー)を行う。研究所内外の学識者に協力を求め、作業を円滑かつ高度に実施するためのワーキンググループを構築し、2005 年改訂時に系統的レビューが十分でなかった栄養素を中心に、レビュー作業を強化して行う。
- ・健康な一般住民を対象として、各種栄養素の摂取量とその生体指標ならびに健康状態を横断的に調べることによって、日本人における栄養素の摂取状況と健康状態との関連を検討する。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- 食事摂取基準策定のためのエビデンスの収集
- ・「前回策定以降の新たなエビデンス」については、前回のリストをもとにキーワードの抽出を行い、2002 年以降の文献を検索した。
- ・「前回レビューが不十分だった栄養素」として、高齢者、小児のエネルギー必要量 葉酸、鉄、カルシウムを中心に、目標量設定に関する文献の収集に重点的に取り組んだ。
- ・栄養素によって数件～数千件と文献数に幅があったため、より細かいキーワードで抽出を行うための用語を検討、抽出した。現在専門家 3 人による資料の解説および各文献情報のデータベース構築を進めている。
- 日本人の食事摂取と生体指標に関する栄養疫学研究
- ・ビタミンなどを測定する際に有用な 24 時間畜尿の妥当性については、PABA を基準法としてクレアチンを用いた Knuiman らの方法は 24 時間蓄尿が完全でない者を比較的うまく発見できることを明らかにした。
- ・DHQ による食事摂取頻度調査から計算された GI および GL の相対妥当性は、他の栄養素と比べて遜色なかった。
- ・DHQ から推定されたエネルギー摂取量と DLW による総エネルギー消費量との相関については、欧米の先行研究と比べて遜色はないが十分とは言えなかった。
- 「日本人の食事摂取基準」の活用に関する調査
- ・高齢者施設における食事摂取基準の活用状況を調べるため、6 都道府県の全介護施設を対象にアンケート調査を実施し、現在解析中である。

C【生体指標プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- ・栄養素摂取量並びにその生体指標の収集を中心とし

た疫学研究及びミネラルとミネラルの代謝に関する栄養素に着目し、その必要量に関する基礎的研究を行い、日本人の食事摂取基準のための基礎的資料を作成する。また、新たな生体指標の確立を目指す。

(目標)

- ・Mg、Ca、Na 等のミネラル、脂溶性ビタミン、大豆イソフラボンの栄養生理学的意義を明らかにするとともに、これらの血中及び尿中濃度(生体指標)の定量システムを確立する。
- ・脂溶性ビタミンの新たな生体指標としての可能性を検討する。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ビタミン K の栄養生理学的意義に関する研究
- ・閉経後女性を対象に低用量のビタミン K2(MK-4)の補給摂取が、骨折の危険因子である血中の低カルボキシル化オステオカルシン濃度を低下させること、また骨形成に関与する γ カルボキシル化オステオカルシン濃度を増加させることを明らかにした。
- 大豆イソフラボンの栄養生理学的意義に関する研究
- ・大豆イソフラボンの代謝産物であるエクオールの生理的意義を明らかにするための研究を開始した。
- ミネラルの出納に関する研究
- ・これまで摂取量と出納との間に有意な相関が示されなかった微量元素(Fe, Zn, Cu, Mn)についてヒトを対象に出納実験を実施した。例数が 152 例となったので、再び両者の関係を求めたところ、有意な関係が見出され、平衡維持摂取量が算出された。また、セレンに関しても平衡維持摂取量が算出されたが、モリブデンの摂取量と出納の間には有意な関係は見出されなかった。
- ・難消化性たんぱく質を多く含む「低グルテリン米」を用いて窒素出納を測定した。その結果、「低グルテリン米」の窒素吸収率は対照の「コシヒカリ」と比較して有意に低値であり、たんぱく質摂取量が制限される腎機能低下者に有用な品種であることが明らかとなった。
- 生体指標の定量システム確立に関する研究
- ・時間分解蛍光免疫測定法による各種生体指標の測定系及び RIA 法による血中 25(OH)D の定量システムを確立した。
- 新規生体指標の開発に関する研究
- ・活性型ビタミン D である $1\alpha,25(\text{OH})_2\text{D}_3$ が、遺伝子発現とは無関係に MAP キナーゼを活性化することを明らかにした。またこの活性化は、活性型ビタミン D のみならず、遺伝子発現には非活性型とされるビタミン D 代謝物によっても観察された。
- ・メタボリックシンドロームの指標となるビタミン A 結合タンパク(RBP4)遺伝子発現制御機構を明らかにするための研究を開始した。

健康増進プログラム

1. プログラムの概要

(1) プログラムの目標

中期計画に係る事業

- 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究を行うこと。
- 運動・身体活動による生活習慣病予防、運動と食事指導の併用を行った場合の効果等について、実験的、疫学的調査研究を行う。これにより「健康づくりのための運動基準」と「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」及び「日本人の食事摂取基準」を改定するための科学的根拠の提示を行う。

(2) 年度計画

A. 運動ガイドラインプロジェクト

- 生活習慣病発症に関する大規模前向き研究に関して1500名のコホートを構築し、介入を開始する。
- 筋力トレーニングの効果と実施方法について、血管内皮機能に関して検討する。
- メタボリックシンドローム該当者に対して「エクササイズガイド 2006」に基づいた運動介入研究を実施する。

B. エネルギー代謝プロジェクト

- 加速度計法による様々な身体活動の強度評価法を確立した上で質問紙法による身体活動量の推定法を検討するため、様々な職業を有する成人120人以上を対象にDLW法を含むフィールド調査を実施する。
- 児童の歩数及び、その正確な測定法に関する研究を行う。
- 既存の基礎代謝量推定式の妥当性に関する研究を行う。
- レジスタンストレーニングが身体活動量や脂質酸化に及ぼす影響を明らかにする。
- 様々な対象において基礎代謝量を実測し、これまでに蓄積してきたデータとあわせて、既存の基礎代謝量推定式の妥当性を検討し、誤差要因を明示する。

C. 休養プロジェクト

- 成人女性を被験者とし、月経前症候群に代表される生理周期による精神的影響を心拍スペクトル解析による睡眠時心臓自律神経バランスの変動により明らかにする。
- 長距離走選手等を被験者とし、継続的な肉体的負荷による身体疲労と精神疲労の変動を血清生化学検査・非特異的免疫能およびアンケート調査で明らかにする。
- 休養の新しい客観的指標の開発として、血清および唾液の総抗酸化能を検討する。
- 睡眠とエネルギー代謝調節に関する研究を行う。

(3) 研究業務概況

A. 運動ガイドラインプロジェクト

- 大規模介入研究において事前測定が終了し、データベースに登録された1751名のうち349名を対象に

割り付け・運動介入を開始した。事前測定の横断分析の結果から、持久力、筋力、柔軟性の3体力がいずれも生活習慣病リスクと関連することを明らかにした。

- 横断研究により中心動脈内皮機能を評価した結果、レジスタンストレーニング実施者では血圧や動脈スティフネスが高いにもかかわらず、内皮機能は正常であることが明らかになった。
- 動作がゆっくりで低強度な筋力トレーニング(いわゆるスロトレ)が生活習慣病リスクに及ぼす影響を、若者を対象に無作為割り付け介入研究で検討し、筋力、筋量、筋血流量、動脈硬化度などに好ましい効果が見られることを明らかにした。また、中高齢者を対象とした無作為割り付け研究を開始した。
- 240名の中年肥満者の内臓脂肪量減少法に関する無作為割り付け介入研究を実施し、活動量計を用いた年に4回の面接と7回の歩数記録の提出による運動と食事による介入により1年後に、約1500歩/日、70kcal/日の活動量増加と、約5kgの体重、4cmの腹囲減少が起こることを明らかとした。

B. エネルギー代謝プロジェクト

- 様々な職業を有する成人約120人を対象に、DLW法・質問紙法・加速度計法を含むフィールド調査を実施し、身体活動レベルや総エネルギー消費量の推定法を確立するための基礎データを収集した結果、新しい加速度計を用いることにより、一日の総エネルギー消費量を従来より正確に評価できることが明らかとなった。
- 80名の成人を対象に15種類の身体活動について、加速度と身体活動強度の関係を実験室レベルで検討し、これまで評価が難しかった「歩行以外の身体活動」を新しく開発した加速度計により評価する方法を開発した。
- 児童の身体活動量を把握するための歩数計開発を目的として異なる感度の歩数計による歩数を測定し、最適感度を明らかにした。
- 小学生(83名のDLW法によるエネルギー消費量の測定を実施)や幼児について、身体活動量の強度や総量に関して、客観的かつ精度の保証された方法によりデータを蓄積した。
- レジスタンストレーニングが身体活動量や脂質酸化に及ぼす影響を明らかにするため、介入研究及びボディビルダーと一般健康人との比較を行い、レジスタンストレーニングによる脂質酸化能への影響は無いことを明らかにした。
- これまでに蓄積した基礎代謝量の実測値に新たな実測値(150人)を加えて、既存の推定式(当研究所で最近発表した推定式を含む)の妥当性を検討した。その結果、基礎代謝基準値は系統的な推定誤差をもたらす基礎代謝基準値などと比べ、当研究所で最近発表した推定式は確度・精度ともに最もよい結果が得られることを明らかにした。

C. 休養プロジェクト

- ・運動習慣等のない女子大生 7 名を被験者とし、通常の生活状況において生理前後 1 週間の連続した 3 日間の睡眠時心電図をとり、同時にアンケートによる主観的疲労度調査を行った。心拍スペクトルの解析により、心拍数と Total Frequency (TF) が黄体期で有意に高値となり、生理前後での各測定項目の変動をみると HF/TF と POMS の疲労が負に相関することを明らかにした。
- ・大学陸上競技部に所属する女子長距離選手 22 名を被験者とし、約 2 ヶ月間にわたり継続的に行われた夏期トレーニング(合宿)による身体疲労と精神疲労の変動を合宿前、合宿中、合宿後の 3 時点で調査した結果、非特異的免疫能およびサイトカインに有意の変動が見られることを明らかにした。
- ・麻酔ラットにおいて睨ホルモン・アミリンが脳に作用してエネルギー代謝を亢進させることを明らかにした。

(4) 構成メンバー

プログラムリーダー:

田畑 泉

プロジェクトリーダー:

宮地元彦 (運動ガイドラインプロジェクト)

田中茂穂 (エネルギー代謝プロジェクト)

田畑 泉 (休養プロジェクト(併任))

上級研究員:

高田和子、熊江 隆、大坂寿雅

特別研究員:

谷本道哉、引原有輝

流動研究員:

村上晴香 (循環器病研究振興財団)

大河原一憲 (循環器病研究振興財団)

客員研究員:

町田修一 (早稲田大学)

寺田 新 (早稲田大学)

木村靖夫 (佐賀大学)

川中健太郎 (新潟医療福祉大学)

真田樹義 (早稲田大学)

山元健太 (早稲田大学)

家光素行 (奈良産業大学)

田中千晶 (桜美林大学)

二見 順 (東日本国際大学)

井上修二 (共立女子大学)

協力研究員:

薄井澄誉子 (早稲田大学)

別所京子 (鎌倉女子大学短期大学部)

物部優子 (杏林大学)

緑川泰史 (早稲田大学)

技術補助員:

佐々木梓、曹振波、吉池秀之、大森由実、黒瀬苗子、塙 智史、小暮寛子、安藤貴史、坂田晶子、田中祥子、阿部瑞穂、吉田美代子、京須 薫、山本久子

研修生:

河野 寛 (早稲田大学)

藤本恵理 (早稲田大学)

丸藤祐子 (早稲田大学)

内山恵梨子 (昭和女子大学)

山本祥子 (昭和女子大学)

千田英子 (昭和女子大学)

吉田明日美 (昭和女子大学)

吉川由佳里 (昭和女子大学)

山田直子 (エムサービス)

田栗恵美子 (お茶の水女子大学)

曹筱琤 (お茶の水女子大学)

三宅理江子 (県立広島大学)

鈴木洋子 (共立女子大学)

市川美佐 (共立女子大学)

三宅美穂 (共立女子大学)

2. プロジェクトの概要

A【運動ガイドラインプロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

厚生労働省の運動施策の中心である「健康づくりのための運動基準」と「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」の改定に必要なエビデンスに関する調査研究を行う。

(目標)

- ・運動基準 2006 で示された身体活動量、運動量、体力の基準値の妥当性について検討するための、大規模無作為割り付け介入研究を開始するための基礎研究を実施する。
- ・レジスタンストレーニングやその実施方法が生活習慣病危険因子ならびに体力指標に及ぼす影響に関する研究を実施する。
- ・健康運動指導士がエビデンスに基づいた運動指導を行うための研究論文データベース作成を実施する。
- ・栄養教育プログラムと協力し、佐久肥満克服プログラムの身体活動量評価ならびに身体活動・運動介入を行う。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・運動基準 2006 で示された身体活動量、運動量、体力の基準値の妥当性について検討するための大規模無作為割り付け介入研究について、本年度は、被験者割り付け管理ならびに研究支援システムの構築、3 次元加速度計による活動量計、身体活動改善カリキュラム、食事調査・介入カリキュラムが完成した。またベースライン測定を行う準備を行った。協力機関の岡山県南部健康づくりセンターとともに被験者リクルートを開始し、ほぼ 1,000 名のベースライン測定を行った。平成 19 年 7 月より、無作為割り付けと介入を開始し、平成 20 年 3 月の時点で約 349 名の割り付けが完了し、介入が進行している。現在、被験者エントリーの追加と介入を鋭意遂行中である。ベースライン測定結果を横断的に分析すると、体力(最大酸素摂取量)の低い者は高い者と比較して、動脈ステイフネス、血圧、体重、腹囲、血糖値などほぼ全ての生活習慣病危険因子が高いことが示され

た。また、3次元活動量計で評価した、3METs以上の強度の身体活動の量も、体力ほどその関連は強くないが、動脈ステイフネスや中性脂肪と関連することが示唆された。

- ・レジスタンストレーニングや、その実施方法が生活習慣病危険因子ならびに体力指標に及ぼす影響に関する研究のために、中年男性ボディビルダー・リフターと健康一般男性を比較した横断研究を実施した結果、中年ボディビルダー・リフターの動脈ステイフネスが高いという好ましくない効果が見られたが、動脈ステイフネス増加の原因であると考えられている動脈の内皮機能には差がないことが示唆された。
- ・新しい筋力トレーニング方法の一つである緊張力維持法(スロトレ)の効果を検討するために、37名の健康男性を対象として、スロトレ群、通常筋トレ群、対照群の3群を比較する無作為割り付け介入研究を実施した結果、通常筋トレとは対照的に、スロトレは動脈ステイフネスを改善すること、通常筋トレとスロトレ群両方で四肢血流量が増加すること、安静代謝が増加することが示唆された。
- ・健康運動指導士がエビデンスに基づいた身体活動・運動指導を行うための研究論文データベースを、健康・体力づくり事業財団と協力して作成した。平成18年度末には約1,200本の論文データベースが構築されたが、本年度は約100編の論文をデータベースに追加した。また、当研究所のホームページから本データベースにアクセスできるよう、リンクを張った。
- ・栄養教育プログラムと協力し、佐久肥満克服プログラムの身体活動量評価ならびに身体活動・運動介入を担当した。平成18年7月のベースライン測定から約12ヶ月間の身体活動量評価及び活動量計を活用した自己管理による介入を実施した結果、一日あたり約1,500歩、約70kcalの身体活動量の増加が見られ、収縮期血圧約10mmHgの低下が観察された。

B【エネルギー代謝プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

厚生労働省の運動施策である「健康づくりのための運動基準」と「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」における身体活動量・運動量の把握に関する調査研究及び栄養対策である「日本人の食事摂取基準」における推定エネルギー必要量に関する調査・研究を行う。

(目標)

- ・加速度計法や質問紙法による身体活動量評価法の検討を目的に、DLW(二重標識水法)を基準として、様々な身体活動の強度を推定する方法を確立する。
- ・性・年齢階級・体格毎の基礎代謝推定法の再検討を行う。
- ・レジスタンストレーニングが身体活動量や脂質代謝に及ぼす影響を明らかにする。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・15種類の身体活動(歩行、走行、家事など)におけ

る活動強度の評価法を確立することを目的に、約80名の成人を対象として、4種類の加速度計による評価法の検討を行った。また、既存の加速度計については妥当性の検討を、新しい加速度計については推定式の作成を行った。その結果、加速度と活動強度との間に、歩行と生活活動(家事など)とで異なる関係式が得られた。そこで、歩行と生活活動を判別する方法を検討し、開発した。また、歩行を評価するためにつくられた既存の加速度計では、生活活動をかなり過小評価することが明らかとなった。

- ・JALSPAQ等の既存の質問紙や運動基準・食事摂取基準のための質問紙、および上記で検討している加速度計を使って、本年度は、約120名の成人を対象に、DLW法とあわせて日常生活における身体活動量の妥当性を検討するための測定を行った。そのうちのサブグループにおいて、新しい加速度計を用いるとDLW法により得られた総エネルギー消費量に近い値が得られることが明らかとなった。また、子ども(小学生・幼児)についても、DLW法や加速度計による測定を実施した。
- ・これまでに蓄積した基礎代謝量の実測値に新たな実測値を加えて、既存の推定式(当研究所で最近発表した推定式を含む)の妥当性を検討した。その結果、系統的な推定誤差をもたらす基礎代謝基準値などと比べ、当研究所で最近発表した推定式(Ganpule, et al., Eur.J.Clin.Nutr., 2007)は確度・精度ともに最もよい結果が得られた。
- ・様々な活動のエネルギー消費量、体格補正が適当になされているかを検討した。その結果、体重で除する方法では、安静に近い活動で、METsの場合、一部の生活活動や歩行で、補正に問題が生じることが明らかとなった。
- ・約3ヶ月間のレジスタンストレーニングが脂質酸化能および日常の身体活動量に与える影響について、介入前後に、ヒューマンカロリメーター、DLW法、基礎代謝量、加速度計法等の測定を実施した。その結果、ヒューマンカロリメーターにおける呼吸商から推定した脂質酸化能については変化がないことを明らかにした。また、ボディビルダーおよび運動習慣のない者との間で、同様に日常の身体活動量や脂質酸化能の測定を行い、結果の分析を行っている。

C【休養プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

「健康づくりのための運動指針 2006(エクササイズガイド 2006)」で示された身体活動量及び運動量の達成を可能とするために、適切な休養の取り方に関する研究を行う。

(目標)

- ・長距離走選手を被験者とし、継続的な肉体的負荷による身体疲労と精神疲労の変動を血清生化学検査、非特異的免疫能およびアンケート調査で明らかにする。
- ・休養の新しい客観的指標の開発として、血清および

唾液の総抗酸化能を検討する。

- ・成人女性を被験者とし、月経前症候群に代表される生理周期による精神的影響を心拍スペクトル解析による睡眠時心臓自律神経バランスの変動により明らかにする。
- ・睡眠とエネルギー代謝調節の脳機構における視床下部プロスタグランジンと GABA の作用とその機構を明らかにする。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・大学陸上競技部に所属する女子長距離選手 22 名を被験者とし、持久力の向上を目的としたいわゆる「走りこみ」が行われる夏期トレーニング期間(夏期合宿)による主観的疲労度、血中逸脱酵素活性、及び血液性状の変動を合宿前、合宿中、及び合宿後の 3 時点で調査した。主観的疲労度を Profile of Mood States (POMS) と産業衛生の自覚症状調べ(自覚症状)で検討した。夏期合宿は約 2 ヶ月間にわたり行われ、走行距離は合計 1,000km 以上であった。POMS の各項目に有意の変動は認められなかったが、自覚症状の第 2 成分(注意集中の困難)が合宿後に有意に増加した。血液性状では合宿後に白血球数やヘモグロビンの有意な低下が認められたが、血中逸脱酵素活性には有意の変動は認められなかった。したがって、若干の疲労感や貧血傾向の助長は認められるものの、調査した夏期合宿では長年の経験によって選手に肉体的疲労が生じないように計画・実行されていたと考えられた。
- ・感染症防御に重要な非特異的免疫能の変動を休養の客観的な指標とすることを目的に、非特異的免疫能として、血清オプソニン化活性、血中の白血球分画、及び好中球の生体内での活性の指標である血漿ミエロペルオキシダーゼ濃度を測定している。本年度は、

免疫能としてサイトカインに着目し上記の女子長距離選手 22 名を被験者とし、夏期合宿による変動を検討した。サイトカインとして、G-CSF、IL-4、IL-6、IL-8、IL-10、及び TNF α を測定したが、IL-4、IL-6、及び IL-10 は合宿後に有意に低下した。血清オプソニン化活性にも有意の変動が見られ、血清オプソニン化活性と IL-6 の間に相関関係が認められた。

- ・休養の新しい客観的指標として、唾液の総抗酸化能の検討を本年度より試みている。企業との共同研究で新しく総抗酸化能測定試薬を開発し、唾液の総抗酸化能の測定に成功した。現在も唾液の採取方法の改善を始め、測定条件の改良、唾液量と総抗酸化能の関連性、及び唾液中の抗酸化物質の測定等を行っている。
- ・休養の基礎としての睡眠に着目し、主として精神的疲労・ストレスを睡眠時の自律神経バランスの変動から明らかにする研究を行った。特記すべき運動習慣等のない女子大生 7 名を被験者とし、通常的生活状況において生理前後 1 週間の連続した 3 日間の睡眠時心電図をとり、同時にアンケートによる主観的疲労度調査を行った。心拍スペクトル解析を行ったが、心拍数と Total Frequency (TF) が黄体期で有意に高値となり、生理前後での各測定項目の変動をみると HF/TF と POMS の疲労が負に相関していることを明らかにした。
- ・ラットにおいて食事後に分泌される睨ホルモン・アミリンが脳に作用してエネルギー代謝を亢進させることを明らかにした。また、GABA が視床下部視索前野ではエネルギー代謝促進に働き、終板器官周囲部ではエネルギー代謝抑制に働いていることを示唆する結果を得た。

臨床栄養プログラム

1. プログラムの概要

(1) プログラムの目標

臨床栄養プログラムは、「重点調査研究に関する事項」の「生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究」に対応し、運動・身体活動による生活習慣病の一次予防、食事と遺伝的因子の相互作用の解明並びに運動と食事とによるテラーメード予防法に関して、ヒトを対象とした試験、動物や細胞等を用いた研究を行う。近年、我が国において糖尿病患者は増加の一途をたどり、罹患者数は約 740 万人を数えるに到っている。糖尿病は高齢者における主要な疾患であり、糖尿病に肥満・高脂血症・高血圧が合併するメタボリックシンドロームは動脈硬化を促進し、心筋梗塞・脳卒中のリスク増大を介して日本人の健康寿命を短縮する最大の原因となっている。糖尿病などの生活習慣病は、複数の遺伝因子に加えて環境要因が組み合わさって発症する多因子病であり、その 1 つ 1 つの因子は単独では生活習慣病を発症させる効果は弱い、複数の因子が組み合わさって生活習慣病を発症させると考えられている。また近年の我が国における糖尿病患者数の急増については、日本人が欧米人に比し膵β細胞のインスリン分泌能が低い(遺伝的素因)ために、高脂肪食などの食事内容の欧米化や運動量の低下といった変化(生活習慣要因)による肥満・インスリン抵抗性状態に対して、膵β細胞がこれを十分に代償できないことがその一因と考えられている。このような生活習慣病の特性を踏まえて、本プログラムでは糖尿病や動脈硬化症の発症・進展の遺伝的要因、環境要因並びにその分子メカニズムを解明することを目標とする。

(2) 年度計画

A. メタボリックシンドロームプロジェクト

●各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討

既にインスリン抵抗性に関連することを明らかにしている遺伝子と食習慣との相互作用による肥満・メタボリックシンドローム発症への影響を検討するため、本年度は、新潟県新発田市の 700 名からなるコホート対象者について、2 個以上のインスリン抵抗性関連遺伝子多型の遺伝子型をタイピングする。その上でこれらの遺伝子の多型と各栄養素摂取量並びに身体活動量を説明因子として、肥満度、血糖値、糖尿病発症の有無などの従属変数をどのように説明しうるかを多変量解析によって検討する。インスリン抵抗性に関連することを明らかにし、基礎代謝に影響を与える可能性のあるアディポネクチン遺伝子、アディポネクチン受容体 1 および 2 遺伝子、AMPK α 2 サブユニット遺伝子、レジスチン遺伝子、PPAR γ 2 遺伝子、 β 3 アドレナリン受容体遺伝子、PGC-1 遺伝子について SNP(一塩基多型)のタイピング法を最適化する。

●基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究

これまでに 2 型糖尿病を発症させやすくしているこ

とが遺伝子多型を利用した患者対照相関解析によって明らかになった遺伝子のうち、その機能が未知のものについては、遺伝子欠損マウスの解析を行う。実際に糖尿病を発症するかどうか高脂肪食などの環境因子を負荷して表現型を解析し栄養と遺伝子多型の相互作用について検討を行う。

B. 栄養療法プロジェクト

高脂肪食がどのようにして糖尿病・メタボリックシンドロームを惹起するかのメカニズムと糖質・脂質・エネルギー比率からみた適切な生活習慣病の栄養療法のあり方を検討する。

●糖尿病の研究(インスリン分泌を中心に)

2 型糖尿病モデル動物、肥満モデル動物を用いた昨年度の検討から、高脂肪食誘導性のインスリン抵抗性に対する代償性のインスリン分泌においては、膵β細胞の代償性過形成が生じていること、及びその分子メカニズムの解析を通じてインスリン受容体基質(IRS)-2 が重要な役割を果たしていることを明らかにした。そこで本年度は、この研究をさらに発展させるべく、遺伝子操作動物の膵β細胞株樹立を試み *in vitro* でも解析可能な系を確立することにより、膵β細胞の代償性過形成の分子メカニズムをさらに詳細に検討する。

●メタボリックシンドロームの研究(インスリン抵抗性を中心に)

生活習慣病は動脈硬化を惹起し、心血管イベントのリスクを高めることが疫学的調査から明らかとなっている。そして動脈硬化発症の基盤には、高脂肪食により惹起される肥満やインスリン抵抗性が重要な位置を占めている。これまでの 2 型糖尿病モデル動物、肥満モデル動物を用いた検討から高脂肪食は、肝臓や骨格筋の中性脂肪含量を増加させ、肝臓や骨格筋のインスリンシグナルを様々な分子メカニズムにより障害することで、インスリン抵抗性を惹起すると考えられるが、我々は最近、高脂肪食を負荷した生活習慣病モデル動物では、血管におけるインスリンシグナルが低下しており、このことが骨格筋のインスリン抵抗性ならびに動脈硬化の進展に関与している可能性があるという興味深い知見を得た。そこで本年度は、血管特に血管内皮をターゲットにした遺伝子操作動物を作出しその解析を行うことで、血管内皮におけるインスリンシグナルが全身のインスリン抵抗性や動脈硬化の進展に果たす役割を検討する。

(3) 研究業務概況

A. メタボリックシンドロームプロジェクト

●各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討

・罹患同胞対法を用いた全ゲノム解析と候補遺伝子アプローチを組み合わせた統合的解析によって明らかにしたインスリン抵抗性やインスリン分泌、2 型糖尿病に関連する遺伝子多型を効率的・正確にタイピングできる方法を最適化した。

- ・コホートの対象者について欧米で報告された TCF7L2 遺伝子多型と HHEX 遺伝子多型が日本人でも 2 型糖尿病感受性遺伝子であることを確認した。
- 基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究
- ・これまでに 2 型糖尿病の疾患感受性を増加させることが遺伝子多型を利用した患者対照相関解析によって明らかにされた遺伝子で、その機能が未知のものについて、遺伝子欠損マウスを作製した。
- ・当該遺伝子欠損マウスについて糖負荷試験やインスリン負荷試験などを行い、本遺伝子が糖尿病発症に関与していることを個体レベルで確認した。

B. 栄養療法プロジェクト

- 糖尿病の研究(インスリン分泌を中心に)
- ・インスリン抵抗性に対する膵β細胞の代償性過形成に重要な役割を果たしている IRS-2 の flox/flox 膵β細胞株を樹立し、細胞株樹立後に Cre を発現するアデノウイルス (Adeno-Cre) を感染させることで IRS-2 を欠失させることを試みた。
- ・樹立した膵β細胞株でグルコース応答性インスリン分泌能が保たれていること、Adeno-Cre を感染させることで IRS-2 を効率よく欠失させることが可能であることを確認した。
- メタボリックシンドロームの研究(インスリン抵抗性を中心に)
- ・血管内皮細胞において主要な IRS である IRS-2 に着目し、血管内皮細胞特異的 IRS-2 欠損マウス (ETIRS2KO マウス) を樹立した。
- ・このマウスでは、血管内皮機能が低下し、インスリンによる骨格筋血流の増加や骨格筋間質へのインスリン移行の増加が障害され、その結果インスリン抵抗性を惹起した可能性が示唆された。
- ・より一般的なインスリン抵抗性モデル動物として、高脂肪食誘導性肥満モデル動物を用いた検討から、骨格筋における高脂肪食誘導性のインスリン抵抗性には、血管内皮細胞のインスリンシグナル障害による血管内皮機能障害の結果、骨格筋の血流や間質へのインスリンの移行が低下し、骨格筋の糖取り込みが低下するというメカニズムが存在することが示唆された。

(4) 構成メンバー

プログラムリーダー:

門脇 孝

プロジェクトリーダー:

原 一雄 (メタボリックシンドロームプロジェクト)

窪田直人 (栄養療法プロジェクト)

研究員:

窪田哲也 (任期付研究員)

特別研究員:

羽田裕亮

客員研究員:

野田光彦 (国立国際医療センター研究所・内分
泌代謝・臨床検査部長)

協力研究員:

眞鍋一郎 (東京大学大学院医学系研究科循環器内科)

窪田直人 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科)

原 一雄 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科)

松下由実 (国立国際医療センター研究所・国際臨床研究センター・国際保健医療研究部国際疫学研究室長)

流動研究員

大石由美子

研修生:

高本偉碩 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科)

泉 和生 (財団法人国際協力医学研究振興財団)

加藤昌之 (財団法人国際協力医学研究振興財団)

笹本さやか (東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科)

技術補助員:

藤田りつ子 (平成 18 年 9 月まで)

河野小由紀

2. プロジェクトの概要

A【メタボリックシンドロームプロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

生活習慣病を効果的に予防するためには、生活習慣病の根本的な分子病態に立脚した生活習慣への介入が必須である。メタボリックシンドロームは内臓脂肪の蓄積が第一義的な原因であるが、近年の内外の研究により脂肪細胞で産生・分泌されるアディポカイン(特にアディポネクチン)が内臓脂肪の蓄積によって質的・量的に変化することがインスリン抵抗性や糖尿病を引き起こしていることが明らかになりつつある。そこで、食事療法・運動療法のアディポカインに対する影響を検討し、生活習慣病の予防の観点から最も食事・運動療法によってメリットがある対象者をスクリーニングする方法の開発や、最適な食事・運動療法プログラム、テーラーメイド食事・運動療法を開発していくことも本来の業務として重要な研究であると考えている。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

●各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討

これまで罹患同胞対法を用いた全ゲノム解析と候補遺伝子アプローチを組み合わせた統合的解析によって PPAR γ 遺伝子、アディポネクチン遺伝子、PGC-1 遺伝子、AMPK α 2 サブユニット遺伝子、HNF4 α 遺伝子が日本人におけるインスリン抵抗性や 2 型糖尿病の感受性遺伝子であることを明らかにしている。しかしながら、糖尿病をはじめとする生活習慣病は遺伝素因に環境因子の影響が組み合わさって発症する多因子病であり、個々人の易罹患性を予測するためには、個々の遺伝素因と環境因子に加えて遺伝素因・環境因子の

相互作用を考慮に入れた解析を行いそのデータに立脚した易罹患性予測式を構築する必要がある。これまでアディポネクチン遺伝子多型は肥満者でより強く血中アディポネクチン値に影響を与えていることを明らかにしているが、平成 19 年度はこれまでに明らかにしたインスリン抵抗性やインスリン分泌、2 型糖尿病に関連する遺伝子多型を効率的・正確にタイピングできる方法を最適化した。またコホートの対象者についてアディポネクチン遺伝子、アディポネクチン受容体 1 および 2 遺伝子、AMPK α 2 サブユニット遺伝子、レジスチン遺伝子、HNF-4 α 遺伝子、PPAR γ 2 遺伝子、 β 3 アドレナリン受容体遺伝子、PGC-1 遺伝子に加えて、欧米で報告された TCF7L2 遺伝子多型と HHEX 遺伝子多型が日本人でも 2 型糖尿病感受性遺伝子であることを確認した。

●基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究

これまでに 2 型糖尿病を発症させやすくしていることが遺伝子多型を利用した患者対照相関解析によって明らかにした遺伝子で、その機能が未知のものについては、遺伝子欠損マウスの解析を行う。実際に糖尿病を発症するかどうか高脂肪食などの環境因子を负荷して表現型を解析し栄養と遺伝子多型の相互作用について検討を行う。既に平成 18 年度に当該遺伝子欠損マウスについて糖負荷試験やインスリン負荷試験などを行い、本遺伝子が糖尿病発症に関与していることを個体レベルで確認している。

B【栄養療法プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

近年の我が国における糖尿病患者数の急増については、高脂肪食に代表される食習慣の欧米化や車の普及などによる運動不足といった生活習慣に基因する肥満、そしてそれによって引き起こされるインスリン抵抗性に加え、日本人が欧米人に比し膵 β 細胞のインスリン分泌能が低いという遺伝的素因をベースとして、肥満・インスリン抵抗性状態に対して、膵 β 細胞がこれを十分に代償できないことがその一因と考えられている。従って、低インスリン分泌能と高脂肪食誘導性のインスリン抵抗性との相互作用を分子レベルにおいて解明することが求められており、モデル動物を用いた詳細な検討が重要であると考えられる。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

●糖尿病の研究(インスリン分泌を中心として)

平成 18 年度、インスリン受容体基質(IRS)-2 がインスリン抵抗性に対する膵 β 細胞の代償性過形成に重要な役割を果たしていることを明らかにした。その分子メカニズムをさらに詳細に解明することが、次の重要な課題であると考えられるが、膵島として採取できるサンプル量には物理的制限があり、in vivo/ex vivo のままでは詳細な解析が困難である。そこで本年度は、IRS-2 flox/flox 膵 β 細胞株を樹立し、細胞株樹立後に

Cre を発現するアデノウイルス(Adeno-Cre)を感染させることで IRS-2 を欠失させることを試みた。具体的には、IRS-2 flox/flox マウスとインスリノーマを発生する膵 β 細胞特異的 SV40 LargeT 抗原トランスジェニックマウス(IT-6 マウス)を交配して、IRS-2 flox/flox::IT-6 マウスを作出した。続いて、膵臓に発生するインスリノーマから IRS-2 flox/flox 膵 β 細胞株を樹立した。さらに、この膵 β 細胞株にはグルコース応答性インスリン分泌能が認められることと、Adeno-Cre を感染させることで IRS-2 を効率よく欠失させることが可能であることを確認した。

●メタボリックシンドロームの研究 (インスリン抵抗性を中心として)

血管内皮細胞において主要な IRS である IRS-2 に着目し、インスリン抵抗性と血管内皮機能について、血管内皮細胞特異的 IRS-2 欠損マウス(ETIRS2KO マウス)を用いて検討を行った。ETIRS2KO マウスは、血管内皮細胞では IRS-2 の欠損によりインスリン刺激による Akt、eNOS の活性化が約半分に低下していた。ETIRS2KO マウスは、耐糖能異常と骨格筋のインスリン抵抗性を呈したが、単離した骨格筋では糖取り込みに障害は認められず、このことからこのマウスでは骨格筋そのものではなく、骨格筋へのインスリンのデリバリーが低下している可能性が示唆された。ETIRS2KO マウスは血管内皮機能障害を呈し、さらにこのマウスの骨格筋ではインスリン刺激後の血流や間質のインスリン濃度の増加に有意な障害が認められた。以上より、ETIRS2KO マウスは、血管内皮細胞における IRS-2 欠損により血管内皮機能が低下し、インスリンによる骨格筋血流の増加や骨格筋間質へのインスリン移行の増加が障害され、その結果インスリン抵抗性を惹起した可能性が示唆された。

さらに、より一般的なインスリン抵抗性モデル動物で、同様なメカニズムが存在するかを検討するために、高脂肪食誘導性肥満モデル動物を用いた検討を行った。このマウスでは IRS-1、IRS-2 の発現が共に約半分に低下し、インスリン刺激による Akt、eNOS の活性化が ETIRS2KO マウス同様約半分となっていた。このマウスは肝臓とともに骨格筋のインスリン抵抗性を呈し、さらに血管内皮機能障害、インスリン刺激後の骨格筋における血流と間質のインスリン濃度の増加に有意な障害が認められた。このことから、骨格筋における高脂肪食誘導性のインスリン抵抗性には、血管内皮細胞のインスリンシグナル障害による血管内皮機能障害の結果、骨格筋の血流や間質へのインスリンの移行が低下し、骨格筋の糖取り込みが低下するというメカニズムが存在することが示唆された。

以上 2 つのインスリン抵抗性モデルの検討より、血管内皮機能が骨格筋のインスリン感受性調節に重要な役割をしていることが明らかになった。

基礎栄養プログラム

1. プログラム / プロジェクトの概要

(1) プログラムの目標

運動・食事療法が生活習慣病発症予防に有効であることは周知の事実である。しかし、現実には長期間の運動・食事療法を行うことは難しく、特に高齢になると、意欲の低下、筋肉量の減少、関節の摩耗、バランス感覚の障害などにより、運動を継続することが困難となる。食事療法にしても、個人の嗜好を変えることは容易ではない。

生活習慣病発症原因となる遺伝要因、環境要因には多く要因が想定されている。各個人の遺伝要因、環境要因を考慮し、予防法や治療法が策定されるべきであるが、発症機序の研究に比べ、運動・食事の予防機序は十分に解明されていないため、それぞれの個人に、どのような運動・食事療法が適するか不明である。

基礎栄養プログラムでは、各個人の生活習慣、遺伝的背景を考慮にいたした個人別の運動・食事療法の開発のため、分子レベルでの運動・食事療法の生活習慣病予防機を明らかにする研究を行う。

(2) 年度計画

A. 脂質・糖代謝プロジェクト

- 運動による肥満/糖尿病予防機序の解明
 - ・運動は脂肪組織で脂肪分解(リポリシス)を亢進させ、遊離された脂肪酸は筋収縮に用いられる。運動トレーニング(運動を繰り返すこと)を行うと脂肪を燃焼し易い体質になる。これらの機序に AMP-activated protein kinase や交感神経の活性化がどのように関与しているか、トランスジェニックマウスを用いて明らかにする。
 - ・一般的に筋肉での脂肪蓄積は好ましくないと考えられている。しかし、運動選手の筋肉は脂肪蓄積量が多いにもかかわらずインスリン感受性は良い。筋肉での脂肪合成の機序を明らかにする。
- 高脂肪食、アルコールによる脂肪肝発症機序の解明とその予防法の開発
 - ・高飽和脂肪酸食に於ける脂肪肝発症機序を明らかにする。
 - ・アルコールによる脂肪肝発症機序を推定し、脂肪肝の予防法を考案。
- エネルギー摂取制限及び栄養素欠乏時における代謝変動の分子メカニズムの研究
 - ・エネルギー摂取制限は主要な肥満治療法であり、小動物に於いては寿命を延長させる。一方、栄養素の欠乏は脳血管機能障害や皮膚、発育障害などを生じるおそれがある。これらの機序については殆ど研究が行われていない。このため、エネルギー摂取制限によって生じる脂質、糖質代謝の変化、エネルギー消費量減少などの生体適応現象の機序及び臓器障害発症機序などを分子レベルで明らかにする。

(3) プロジェクトの進捗状況(成果)

A. 脂質・糖代謝プロジェクト

- 運動による肥満/糖尿病予防機序の解明
 - ・ β -Adrenergic receptor 1,2,3 のない、 β -less マウス(ノックアウトマウス)を用いて運動における交感神経の役割を推定した。運動時における脂肪分解亢進やエネルギー消費量増加(除脂肪量[fat free mass]当たりで表した場合)は野生型マウスでも β -less マウスでも同程度認められた。しかし、運動トレーニングで生じる基礎代謝量の増加は、野生型マウスで認められたが β -less マウスでは認められなかった。交感神経系の新たな役割が推定された。
 - ・絶食・再摂食のようなエネルギー状態の変動により骨格筋において核内受容体 RXR γ の遺伝子発現が著しく変動する。骨格筋特異的に RXR γ を過剰発現するトランスジェニックマウス(RXR γ マウス)を作製し、RXR γ マウスの骨格筋では脂質合成のマスターレギュレーターである SREBP1c の遺伝子発現が著しく増加することを見出した。
- 高脂肪食、アルコールによる脂肪肝発症機序の解明とその予防法の開発
 - ・バターやマーガリンなど飽和脂肪酸を多く含む油と n-6 系高不飽和脂肪酸を多く含むサフラワー油を比べた場合、肥満増加の程度は同じであるが脂肪肝の程度に著しい違いがあった。バターやマーガリンを摂取させたマウスの方がサフラワー油を摂取させたマウスに比べ、肝臓での脂肪蓄積量が 2-3 倍程度多かった。この原因の一部に PPAR γ 活性化による CD36(脂肪酸輸送に関与)の発現の増加が推定された。
 - ・アルコール 1 回の飲酒により脂肪肝を発症するマウスモデルを作成した。SREBP-1c, ChREBP の活性化、脂肪合成酵素 DGATs の増加、PPAR γ の活性化、及び PPAR α 活性の阻害など多くの成因が認められた。前日の魚油摂取はアルコールによる脂肪蓄積を 70% 抑制し、SREBP-1c 活性を予め低下させておくことが、アルコールによる脂肪蓄積に有効であることが推定された。
- エネルギー摂取制限及び栄養素欠乏時における代謝変動の分子メカニズムの研究
 - ・カロリー制限を行うと筋肉において、フォークヘッド型転写調節因子である FOXO1 の遺伝子発現が著しく増加する。FOXO1 の遺伝子発現とカロリー制限による寿命延長とが関連するかどうか明らかにするため、筋肉特異的 FOXO1 過剰発現マウスの寿命を調べたが、野生型の寿命と差は認められなかった。筋肉での FOXO1 は寿命延長には関与しないことが想定された。

(4) 構成メンバー

プログラムリーダー:

江崎治

プロジェクトリーダー:

三浦進司

上級研究員:

山崎聖美

研究員:

千葉 剛

客員研究員:

辻 悦子 (兵庫大学)

亀井康富 (東京医科歯科大学)

協力研究員:

柳沢佳子

(自治医科大学人類遺伝学部門・花王株式会社ヘルスケア第1研究所)

研修生:

和田智史

(東京農業大学 大学院)

派遣職員:

甲斐裕子

技術補助員:

中森明子(4月~5月)、田村真弓(4月~6月)

勝又阿貴(4月~1月)、白石冴香(4月~)、

白石梨紗(7月~)、榊原圭代子

栄養教育プログラム

1. プログラムの概要

(1) プログラムの目標

生涯を通じた健康づくりのための栄養教育のあり方について、食育・生活習慣病予防・栄養ケア・マネジメント(食介護)の3プロジェクトで研究する。

食育プロジェクトでは食育の実践活動を通じながら、食育の現状解析と評価、食育実施の為に食育ツールの開発、食育実践の為に科学的基盤づくりを行う。また、食育の方法について評価し、管理栄養士・栄養教諭等の食育専門家へ対して情報提供を行う。

生活習慣病予防プロジェクトでは肥満者を対象に行動科学的アプローチを用いて、運動及び栄養教育による介入研究を実施し、性格や遺伝子多型 SNP のデータと組み合わせてテラーメードニュートリションをめざす。

栄養ケア・マネジメントプロジェクトでは今後増大する高齢者の食介護を現状分析し、嚥下困難食の基準化をはかり、食事を通じた QOL の向上に関する研究を行う。

(2) 年度計画

A. 食育プロジェクト

- ・食育全国大会への参加、小・中・高校生に対して、総合的学習の時間を用いて食育についての教育セミナーの実施。また、食育担当者(保護者、教職員、栄養士)に対して、教育講演を実施する。食育推進計画にのっとった食育の推進活動を実践する。
- ・食育に効果的なツールを開発し、その効果を検討する。
- ・学校保健データや国民・健康栄養調査データ等を基に、食育推進のためのエビデンス構築を行う。

B. 生活習慣病予防プロジェクト

- ・佐久肥満克服プログラム(SCOP)において、行動変容理論に基づいた運動と栄養の介入を継続し、1年目のデータを解析する。
- ・Baseline データについて報告集を発刊する。
- ・生活習慣病発症と生活習慣病リスク因子に関連した遺伝子多型との関連性について解析する。
- ・心理因子と食習慣、肥満や生活習慣病発症との関連性について解析する。

C. 栄養ケア・マネジメントプロジェクト

- ・食介護に関して老健施設等にアンケートを送付し、介護食の現状を分析する。
- ・「第2回摂食・嚥下障害を考える研究交流会」を開催する。第1回の報告集を発刊する。

(3) 研究業務概況

A. 食育プロジェクト

- ・食育推進のための普及啓発活動
小・中・高校生に対して、総合的学習の時間(7校、1団体)において、食育について教育セミナーを実施した。

第2回食育推進全国大会(福井)への出典とシンポジウムを実施した。

- ・食育推進のためのエビデンスづくり

母親の食態度や食育の経験が子供の食習慣や食事の自立性に与える影響についてまとめ、学会で発表した。

また、学校保健データや国民・健康栄養調査データ等を基に、食育推進のためのエビデンス構築を行い、食育担当者(保護者、教職員、栄養士、行政担当者)に対して、食育の展開法等について教育講演を行った。

- ・肥満者の運動および栄養教育による介入研究

SCOP の栄養教育担当者として参画し、肥満者の食生活における問題意識、行動変容過程における目標設定について解析し、論文を発表した。

- ・新規健診・保健指導のための技術開発

効果的な健診・保健指導の為にのための専門家向けの科学的栄養情報データベースを作成した。

B. 生活習慣病予防プロジェクト

- ・肥満者の運動および栄養教育による介入研究

佐久肥満克服プログラムにおいて A 群 119 名の介入を終わり経過追跡に入った。B 群 116 名の介入を開始した。Baseline データについて被験者の身体的特徴、心理的特徴について解析した。

対象者の、UCP1、UCP2、UCP3、PPAR γ 2、Calpain 10、Leptin Receptor、Adiponectin、MTHFR、Ghrelin 等の肥満や糖尿病などのリスク遺伝子と考えられている 12 多型を PCR-RFLP 法で解析終了した。

- ・健診受診者を対象とした大規模コホート研究

佐久総合病院人間ドック受診者を対象者とした一万人規模のコホートを設定し、肥満や糖尿病などのリスク因子抽出のための研究を進めた。

C. 栄養ケア・マネジメントプロジェクト

- ・摂食・嚥下障害を有する高齢者の食介護のあり方についての研究

食形態(食種)に関する問題点をピックアップし、QOL や栄養状態に及ぼす影響を解析できるようにアンケートを作成し、全国の老健施設(2767ヶ所)に対して実態調査を行った。現在、アンケート用紙を回収し、データ解析のためのデータベース化の準備を行っている。

平成 19 年 12 月 8 日にワークショップ「第2回摂食・嚥下障害を考える研究交流会」を開催し、食介護における問題を医師・歯科医師・栄養士等食介護に携わる多方面の人たちと共有した。

昨年度実施したワークショップ「第1回摂食・嚥下障害を考える研究交流会」の報告集を書籍として出版した。

(4) 構成メンバー

プログラムリーダー:

渡邊 昌 (平成 19 年 12 月 31 日まで)

饗場直美 (平成 20 年 1 月 1 日より)

プロジェクトリーダー:

- 饗場直美 (食育プロジェクト:平成 20 年 2 月 29 日まで)
(生活習慣病予防プロジェクト:平成 20 年 1 月 1 日より)
- Melissa Melby (食育プロジェクト:平成 20 年 3 月 1 日より)
- 森田明美 (生活習慣病予防プロジェクト:平成 19 年 9 月 30 日まで)
- 渡邊昌 (生活習慣病予防プロジェクト:平成 19 年 10 月 1 日から平成 19 年 12 月 31 日まで)
- 手嶋登志子 (栄養ケア・マネジメントプロジェクト:平成 19 年 1 月 1 日から)

上級研究員:

山田晃一

客員研究員:

Melissa Melby

石渡尚子 (跡見学園)

梶本雅俊 (相模女子大学)

協力研究員:

柘植道代 (山村短期大学)

平川あずさ (「食生活」編集員)

井手智子 (東京家政大学)

日比野佐和子(同志社大学)

研究補助員:

須田尚美、後藤美央、新生暁子、三上陽子、

小原亜希子、竹沢純、岡村信子

研修生:

二瓶敦子 (東京家政大学)、

鈴木望、(東京農大)

2. プロジェクトの概要

A【食育プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

平成 17 年に施行された「食育基本法」に基づいて、推進会議に關与し、多くの団体(国、地方自治体、地域ボランティア、生産者、企業など)が積極的に展開している食育の実践活動を支援する。また、食育基本計画の中には、5 年後の見直しを視野に入れた、数値目標が設定されており、その達成状況も評価される。食育活動展開及び評価法に関する科学的基盤をうるためにフィールドでの調査研究を実施する。

(目標)

・食育啓発活動

食育を総合的学習の時間や PTA を対象として食育を実践する。また、食育担当者(栄養士・教師等)に対して、食育の理念と効果的な推進方法について広める。

・食育推進のためのエビデンスづくり

食育推進するための、科学的根拠を様々な既存のデータを活用してレビューする。また、断面研究を実施して、食育の効果的なアプローチの方法について明らかにする。

・肥満者の運動および栄養教育による介入研究

メタボリックシンドローム・生活習慣病予防のために、肥満者を対象に運動・栄養教育による減量を目指した介入試験を継続する。

・保健指導のための技術開発

新規健診・保健指導のための技術開発・推進の一環として、「栄養教育実施の為の科学的基盤データベース」を完成させる。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

・食育啓発活動

小・中・高校生に対して、総合的学習の時間(7 校、1 団体)において、食育について教育セミナーを実施した。

第 2 回食育推進全国大会(福井)への出典とシンポジウムを実施した。大会への来場者は 1 万 7 千人であり、研究所ブースにも 3 千人が訪れた。

・食育推進のためのエビデンスづくり

母親の食態度や食育の経験が子供の食習慣や食事の自立性に与える影響についてまとめ、学会で発表した。

学校保健データや国民・健康栄養調査データ等を基に、食育推進のためのエビデンス構築を行い、食育担当者(保護者、教職員、栄養士、行政担当者)に対して、食育の展開法等について教育講演を行った。

・肥満者の運動および栄養教育による介入研究

SCOP の栄養教育担当者として参画し、肥満者の食生活における問題意識、行動変容過程における目標設定について解析し、論文を発表した。

・保健指導のための技術開発

効果的な健診・保健指導の為のための専門家向けの科学的栄養情報データベースを完成させた。特定保健指導の際において必要と考えられる、食事・栄養・運動に関する最新の英文研究論文を収集し、最終掲載論文数は 1086 件となり、すべての論文についてレビューを実施・評価した後、データベース化した。

B【生活習慣病予防プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

・生涯を通じた健康づくりに有効な栄養教育方法の確立を目指して、特に成人期の生活習慣病予防のための、リスク因子抽出及び介入方法検討の基礎的基盤を築く。

・新規健診・保健指導に寄与するため、メタボリックシンドローム予備群・有病者群を減少させる効果的介入の科学的基盤を確立する。

(目標)

・肥満者の運動および栄養教育による介入研究

メタボリックシンドローム・生活習慣病予防のために、肥満者を対象に運動及び食事指導による減量を目指した介入試験デザインを構築し、介入研究を開始する。

・健診受診者を対象とした大規模コホート研究

健診を受診している一般健康住民を対象に大規模なコホートを設定し、レトロスペクティブ及びプロスペクティブに検討を行い、生活習慣病の発症・進展の予防に関する研究を進める。

他施設・他大学との疫学・基礎医学的共同研究に協力し、生活習慣病予防のための科学的根拠の基盤形成を図る。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

●肥満者の運動及び食事指導による介入研究

佐久総合病院人間ドック受診者を対象とした肥満克服のための介入研究を継続している。対象者は、235名(男性 116 名、女性 119 名)で、無作為に 2 群に分けクロスオーバー法で介入効果を検証中である。医師・栄養士・運動指導士などから組まれたチームによる食事及び運動への行動変容教育を実施し、食事・運動と本人の意欲の改善による肥満解消への効果及びその要因(血液生化学、エネルギー消費量および基礎代謝、遺伝性素因や性格傾向など)を解析している。3 ヶ月毎の健診および個別面談による指導と、1 ヶ月毎の郵送による状況把握および指導を実施中である。ベースラインデータによる肥満者の特質の解析および介入デザインの検討については、結果を学会で発表するとともに論文にまとめ発表した。

●健診受診者を対象とした大規模コホート研究

佐久総合病院人間ドック受診者を対象とした 1 万人規模のコホートを設定し、肥満や糖尿病などのリスク因子(身体計測値・血液生化学・内臓脂肪・遺伝子型・性格傾向など)抽出のための、縦断研究を進めた。具体的な対象者の抽出方法や実施体制整備を進めた。

●他施設・他大学との分子疫学・予防疫学的共同研究

がん予防の基礎研究として、癌細胞の障害修復機構に関与する新しい因子を発見し、癌の化学療法等との併用による、癌治療への方向性を見出し、成果として論文を発表した。

C【栄養ケア・マネジメント】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

高齢者の食環境を調査研究し、QOL を高く保つ方法を研究する。摂食・嚥下障害を有する高齢者に対す

る食事療法・栄養療法のあり方について問題の把握と対策をたてる。異分野の専門家によるワークショップを開催し、実行にむけて改善案を提言する。

(目標)

- ・摂食・嚥下障害を有する高齢者の食介護のあり方についての研究

全国の老健施設における食介護状況についての実態調査を実施し、食介護における問題点を明らかにする。

- ・食介護に携わる異職種間においての食介護の共通認識化

ワークショップ「第 2 回摂食・嚥下障害を考える研究交流会」を開催し、食介護における問題を医師・歯科医師・栄養士等食介護に携わる多方面の人たちと検討し、食介護のあり方についての共通認識を深める。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- 摂食・嚥下障害を有する高齢者の食介護のあり方についての研究

食形態(食種)に関する問題点をピックアップし、QOL や栄養状態に及ぼす影響を解析できるようにアンケートを作成し、全国の老健施設(2767 ヶ所)に対して実態調査を行った。現在、アンケート用紙を回収し、データ解析のためのデータベース化の準備を行った。

- 食介護に携わる異職種間における食介護の共通認識化

咀嚼・嚥下困難を有する高齢者に対する食事療法・栄養療法のあり方について問題の把握と対策を抽出し、問題点の共通化を行うために、6 名の異職種からなる専門家によるワークショップ「第 2 回咀嚼・嚥下障害を考える件きゅ交流会」を開催し、摂食障害での共通問題が認識された。「第 1 回咀嚼・嚥下障害を考える件きゅ交流会」の成果をまとめ出版した。現在、第 2 回ワークショップの成果を書籍として出版準備中である。

食品保健機能プログラム

1. プログラムの概要

(1) プログラムの目標

中期目標は、健康増進法に基づく業務、及び、「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究を行う。

I. 健康増進法に基づく業務

- ・厚生労働省が収去した特別用途食品、栄養表示された食品の試験業務を的確かつ迅速に実施する。
- ・特別用途食品の許可に係る試験業務について、分析技術が確立している食品成分の試験業務は、検体の受理から試験の回答までを2ヶ月以内に行うことを目指す。
- ・分析技術の確立していない特定保健用食品の関与成分等の新たな食品成分技術的対応については、他登録試験機関での応用も可能な分析技術の規格化及び当該食品成分の標準品の開発の実現を図る。

II. 健康食品を対象とした食品成分の有効性及び健康影響評価に関する調査研究

- ・保健機能食品等の健康志向に基づく食品の使用実態等の情報を収集・把握し、栄養表示及び健康表示の側面から、健康影響について調査検討する。
- ・栄養素以外の食品成分から広く健康影響を持つ食品素材をスクリーニングして、癌抑制及び動脈硬化抑制効果等、ヒトにおける有効性評価について細胞モデル及び動物モデルを用いて検討する。

(2) 年度計画

A. 食品分析プロジェクト

- ・収去した特別用途食品、栄養表示がなされた食品について表示とおりの栄養素や成分が入っているか確認する。
- ・特定保健用食品の新食品成分への技術的対応を図るための分析技術の規格化。
- ・厚生労働省への特定保健用食品許可申請時の関与成分分析及びそのヒアリング対応。
- ・分析精度管理を行うために必要な機器・試薬・検査品等取扱いに関する手順書の作成。

B. 補完成分プロジェクト

- ・食品成分から広く健康影響を持つ食品素材をスクリーニングして、生活習慣病に代表される慢性疾患の予防・治療に有効な補完成分を特定し、細胞モデル、動物モデルを用いてその有効性を科学的に裏付けることを研究する。アンケート調査を解析すると同時に、今後利用が期待されるトコトリエノールのサプリメント成分としての有効性を高める技術開発に着手する。
- ・慢性疾患の補完成分として有効と思われる成分を新しい評価系である細胞接着因子のコネキシン 43 遺伝子の機能維持を指標にスクリーニングを行う。
- ・大豆食品加工の際に未利用な画分に多く含まれる機能性成分について、新たなサプリメント成分としての

の可能性を探る。

C. 食品機能プロジェクト

- ・食品抗酸化力測定法の選択と標準化：脂質ヒドロペルオキシラジカル(ROO $\cdot$)に対する捕捉活性を測定原理とした Oxygen Radical Absorbance Capacity (ORAC)法による測定法の確立。
- ・食品抗酸化力の測定：ORAC 法による食品抗酸化力の測定並びに、ORAC アッセイと HPLC ポストカラム法を組み合わせた食品中抗酸化物質の一斉分析法開発の開始。

(3) 研究業務概況

A. 食品分析プロジェクト

- ・収去食品分析を遅滞無く行った。
- ・申請食品 55 検体の分析及びヒアリング。

(ヒアリング 11 日/年、調査会・部会合計 12 日/年)

- ・分析精度管理のための標準作業書を完成させた。機械器具保守管理、試薬等管理、試験品取扱い、許可試験実施標準作業書等を作成した。
- ・分析方法の資料及び標準品等の情報収集

B. 補完成分プロジェクト

- ・アンケート調査から、サプリメント成分としてのトコトリエノールはある程度認知されているものの、現在の摂取状況および今後の摂取意欲は、低いレベルにあることが判明した。また、トコトリエノールのサプリメント成分としての有効性を高めるために、トコトリエノールの CD(シクロデキストリン)抱接化の技術開発を行い、エーテル誘導体化による生理活性強化を確認した。
- ・慢性疾患の補完成分として有効と思われる成分を新しい評価系である細胞接着因子を指標としてスクリーニングした結果、大豆由来の Bowman-Birk protease inhibitor(BBI)が新たな機能性成分として有望であることを複数の評価系で確認した。

C. 食品機能プロジェクト

- ・食品の抗酸化力の測定法として、in vitro 抗酸化アッセイの中から、生体適合性、汎用性、一般性を考慮し、脂質ペルオキシラジカル消去活性を反映する Oxygen Radical Absorbance Capacity(ORAC)法を選択した。食品の抗酸化力の統一した指標の確立を目指して、ORAC 法の標準化を行った。
- ・食品抗酸化力の測定は、ORAC 法を用い、約 50 品目の食品の抗酸化力を測定した。
- ・食品中に含まれる抗酸化物質の探索を効率良く行うために、ORAC アッセイと HPLC ポストカラム法を組み合わせた食品中抗酸化物質の新規一斉分析法の開発に着手した。

(4) 構成メンバー

プログラムリーダー：
山田和彦

プロジェクトリーダー:

永田純一 (食品分析プロジェクト)
 矢野友啓 (補完成分プロジェクト)
 山田和彦 (食品機能プロジェクト)

上級研究員:

研究員:

松本輝樹、竹林純(平成 20 年 1 月 1 日より)

特別研究員:

佐藤(三戸)夏子、竹林純(平成 19 年 12 月 31 日まで)

客員研究員:

江指隆年、中嶋洋子、中川靖枝、清瀬千佳子、
久保和弘

協力研究員:

石田達也、笠井通雄、小島圭一、寺田幸代、
花井美保、馬場貴司、渡部景子、前田剛希、
室田一貴、

技術補助員:

垣外菜生子、小林香、二井千日、木戸和貴子、
陳 健斌、佐藤洋美

研修生:

小倉俊子、柏木真維人、原島恵美子

2. プロジェクトの概要

A【食品分析プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

食品分析業務(厚生労働省新開発食品保健対策室との連携)

- ・ 特別用途食品(病者用食品、乳児用調製粉乳、高齢者用食品、特定保健用食品など)許可時の食品成分分析を行う。
- ・ 収去食品の分析を行う。
- ・ 「特定保健用食品関与成分分析方法」の規格化及び技術的示唆。
- ・ 食品行政における分析に関する技術的サポート

(目標)

- ・ 特定保健用食品及び特別用途食品の分析手法の適正化を図るとともに、分析結果精度の向上と情報管理システム構築の準備。
- ・ 新たな分析技術の習得や新規分析機器に関する情報収集。
- ・ 多様化する分析法に対応するため、各自の研究分野における様々な分析手法への取り組み。
- ・ 特定保健用食品審査業務における柔軟かつ円滑な対応。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

・ 特別用途食品許可時の分析

特定保健用食品を含む特別用途食品許認可時の分析を行っている。特に特別用途食品に関しては表示された栄養成分全般に関して、また特定保健用食品は関与成分の定量および定性分析を行っている。本年度の試験実績は H20/3/31 現在 55 件(うち特定保健用食品 35 件)の分析依頼があり、3 件は分析継続中である。

・ 特別用途食品および栄養表示食品などの収去食品分析

厚生労働省の指示により各都道府県保健所が栄養成分表示の行われている食品群を収去し、3 月中旬を目途に研究所に提出を行う。提出された収去食品の栄養成分分析を行い、市販されているこれらの食品群の栄養成分含有量の確認および適正表示の確認検査を行っている。本年度の分析食品数は 79 品目であった。

・ 特定保健用食品関与成分分析方法の規格化及び技術的示唆

分析方法の規格化に関して従来の分析方法を順次見直し、精度の向上と汎用的な分析方法への変更を促している。また、特定保健用食品申請資料における分析法の確認と適正化の指導を行っている。

・ その他

厚生労働省新開発食品保健対策室と連携し、食品行政における適正な分析法の確立と運用に関する対応を適宜行っている。

分析精度の向上と結果に関する適正な評価および情報管理を行うための標準書を作成した。

B【補完成分プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- ・ 健康志向に基づく食品成分の使用状況等の情報を収集・把握する。
- ・ 予防・治療が望まれる慢性疾患に対して栄養素以外の食品成分から有効な成分を検索し、その有効性を評価する。

(目標)

- ・ 慢性疾患の予防・治療に有効と思われる補完成分を、新たに食品由来成分の中から、慢性疾患の抑制に有効な遺伝子を標的にしてスクリーニングし、その有効性を作用機構も含めて検討する。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・ 慢性疾患の補完・代替医療に幅広く適用可能な新たな成分を食品中に含まれる生理活性成分の中から、迅速にかつ的確に選び出し、その有用性を評価するスクリーニング法を確立するために、慢性疾患の発生抑制に幅広く作用する可能性がある遺伝子として、細胞間の情報伝達に関与し、隣接する細胞間のホメオスターシス維持に寄与し、細胞の分化機能維持、細胞増殖や細胞死の制御を行っているコネキシン(Cx)43 遺伝子を標的遺伝子として選択した。その上で、Cx43 の機能維持・回復を指標にした FACS を利用した新たな補完成分のスクリーニング法を樹立し、その方法を使って食品由来成分の活性を評価したところ、現在、サプリメント成分としては未利用な大豆由来の Bowman-Birk protease inhibitor(BBI)の活性が高いことを確認した。

C【食品機能プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- ・ 抗酸化機能性食品の研究・開発、安全性等に関する

調査研究を行う。

- ・上記研究結果を公表することにより、「健康食品」の適切な利用による健康の保持・増進を推進し、国民の QOL の向上に寄与する。

(目標)

- ・食品の抗酸化力値の測定法として、多くの抗酸化アッセイの中から、汎用性、生体適合性を考慮し、脂質ペルオキシラジカル消去活性を反映する Oxygen Radical Absorbance Capacity(ORAC)法を選択し、食品の抗酸化力値の統一した指標の確立を目指す。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・抗酸化力測定法の選択と標準化：生体適合性(生体内で意味を持つ抗酸化反応を測定原理としているか)、汎用性(汎用的な分析機器で測定できるか)、一般性(研究者及び一般国民に認知されているか)を考慮し脂質ヒドロペルオキシラジカルに対する捕

捉活性を測定原理とした(ORAC)法を選択した。食品の抗酸化力の統一した ORAC 法の標準化を行った。

- ・食品抗酸化力の測定：ORAC 法を用い約 50 品目の食品の抗酸化力を測定した。食品の抗酸化力データベース構築を目指し、日本食品標準成分表に記載されている食品成分(特に強い抗酸化力を有していると期待される野菜・果物類を中心)に焦点を当て現在分析を進めている。
- ・食品中抗酸化物質の網羅的解析法の開発：食品中に含まれている有用な抗酸化物質の探索を効率良く行えるように、ORAC アッセイと HPLC ポストカラム法を組み合わせ、食品中抗酸化物質の新規一斉分析法の開発に着手した。抗酸化物質標品の混合液を用いた基礎的検討を行い、抗酸化物質を分離して検出することが可能であることを確認した。

情報センター

1. センターの概要

(1) センターの目標

A. 健康食品プロジェクト

健康食品に関する正しい知識の普及と健康被害の未然防止並びに拡大防止を目的に、公正で科学的な健康食品の情報を継続的に収集・蓄積し、幅広く公開する。情報はホームページで一般公開し、ページアクセス数を 6000 件/日以上維持できるようにする。また、社会的ニーズの把握、消費者とのリスクコミュニケーションの一つとして、現場の専門家、関係機関との連携が可能な新たなシステムの構築を検討する。

B. 健康・栄養情報プロジェクト

所内の他のプログラムとの連携等により、これまでに収集・蓄積してきた情報をホームページ等を通じて継続発信するとともに、必要な情報の更新に努める。また、国民の要望や意見、健康・栄養分野の専門家が必要とする情報を、各種セミナー・シンポジウム等の機会や情報技術を用いて把握する。

C. IT 支援プロジェクト

研究所の活動情報についてのデータベースや特許情報他、研究所からの対外的な総合情報発信の基盤としてのインターネットワーク、また内部における研究活動の促進とデータの活用を促すためのイントラネットワーク、双方にまたがる総合的なネットワークシステムの基盤整備を行う。

(2) 年度計画

- ・食品成分等に関する公正な情報の提供、いわゆる健康食品が関連した健康被害の発生防止・拡大防止を目的として、科学的根拠に基づく最新の健康食品情報、ならびに国内外の危害情報を継続的に蓄積し、ホームページ上で公開する。また、国の保健機能食品制度に関する情報提供も併せて行う。さらに、現場の専門家との連携をより積極的に行うためのシステム構築をさらに進める。特に本年度は、既公開の健康食品素材 329 に対して最新情報の追加作業を重点的に行う。
- ・前年度に行ったニーズ調査から得られた要望や意見の反映に留意しつつ、ホームページからの発信内容の充実に努める。また、研究所のプロジェクト紹介や研究成果について、『健康・栄養ニュース』を年 4 回刊行し、電子メディアでの配信等を行う。さらに、運動実験施設等における体験コーナーや食事・体力診断等を含めて、研究所の研究・業務内容を PR するためのオープンハウスを 9 月に実施するとともに、若い世代における健康・栄養への興味や知識の普及を図るため「総合的な学習の時間」による中学・高校生等の見学などに積極的に応じる。
- ・国民全般、専門職等外部からの意見、要望等を幅広く、効率的に収集し、クライアント相互間での情報交換なども行いやすくするため、ホームページ上に

新たなコミュニケーションチャンネル(『健康・栄養フォーラム(仮称)』など)の設置を検討する。また、収集された意見、要望等を、すみやかに業務に反映できるよう、周知用掲示板あるいはメーリングリスト等のソフトウェアを整備する。さらに、個人情報等の保護に努めるとともに、外部の利用者保護の観点から情報システムのセキュリティを確保する。

(3) 研究業務概況

- ・健康食品の安全性・有効性情報に関して、ニーズ把握及びデータベースのアップデート等に努めた。
- ・専門職(薬剤師、栄養士)と一般人を対象に健康食品に関する意識調査を実施した。
- ・特定保健用食品などデータベースの充実のため、業界団体等との連絡会議を 10 月に開催し、協力体制を整えた。
- ・ニュースレターを予定通り発行した。休日オープンハウスを 9 月 29 日に実施した(参加者数 162 名)。
- ・「総合的な学習の時間」による中学生及び高等学校生の受け入れを行った。また、その他の見学受け入れも行った。
- ・情報の充実の一環として、食材情報 DB の構築および食生活年表・解説 DB の作成を実施した。
- ・研究所ホームページ(トップページ)への年間アクセス件数は 33 万 7 千件(1 日平均 922)であった。また、健康食品の安全性・有効性情報のホームページアクセス数は、平日は約 6000 件/日であった。
- ・メールや電話での外部からの相談・問い合わせ等に関して的確な対応に努めた。
- ・「保健指導(食事、運動等)」に関する質問をデータベース化し、「よくある質問(FAQ)」として取りまとめ、ホームページ上で公開した。
- ・ホームページ上で意見、要望等を収集するための新たなコミュニケーションチャンネル「健康・栄養フォーラム」を、設置し試験的公開を開始した。研究所の活動状況を配信するための新たなコンテンツマネジメントシステムを「健康・栄養フォーラム」の一部として試験公開した。
- ・当研究所の公式ホームページ、各種サイトの維持管理と更新、また、幅広く国民からの意見・質問等を集めまた情報発信するための新規サイトの構築により、当研究所各プログラムにおける研究成果・関連情報を公開、提供した。
- ・『健康・栄養ニュース』をホームページに PDF として公開し、メールマガジンとして希望者に電子配信した。
- ・情報のセキュリティ確保に努めた。

(4) 構成メンバー

センター長:

芝池伸彰 (併任:理事)

プロジェクトリーダー:

梅垣敬三 (健康食品情報プロジェクト)

松村康弘 (健康・栄養情報プロジェクト)

廣田晃一 (IT 支援プロジェクト)
 研究員:
 卓 興銅
 特別研究員:
 瀧 優子
 佐藤陽子
 客員研究員:
 林邦彦 (群馬大学)
 梅國智子 (人間総合科学大学)
 協力研究員:
 杉山朋美 (北陸大学)
 木村典代 (高崎健康福祉大学)
 阿部詠子 (慶應義塾大学)
 沢村耕太 (国立がんセンターがん対策情報センター)
 技術補助員:
 中西朋子、渡邊真紀子、林欽
 古池直子、細井俊克、海老原美樹
 研修生:
 遠藤香 (共立女子大学)
 大木咲恵子 (共立女子大学)
 横谷馨倫 (昭和女子大学)
 金田泰奈 (東京家政大学)
 田山優子 (東京家政大学)
 前島恵 (東京家政大学)
 山口舞 (東京家政大学)
 熊澤華子 (昭和女子大学)
 八谷貴子 (昭和女子大学)
 長崎友里 (昭和女子大学)
 三浦志穂 (昭和女子大学)
 荻野悠斗 (人間総合科学大学)

2. プロジェクトの概要

A【健康食品情報プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- 健康食品に関する正しい知識の普及と健康被害の未然防止並びに拡大防止を目的に、公正で科学的な健康食品の情報を継続的に収集・蓄積し、幅広く公開する。
- 健康食品に関する社会的ニーズの把握、消費者とのリスクコミュニケーションの一つとして、現場の専門家、関係機関との連携が可能な新たなシステムの構築を検討する。

(目標)

- 科学的根拠に基づく最新の健康食品情報、ならびに国内外の危害情報を継続的に蓄積し、「健康食品」の安全性・有効性情報 (<http://hfnet.nih.go.jp/>) のページを介して効果的に提供する。
- 現場の専門職との連携をより積極的に行うためのシステム構築を進める。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- 健康食品の安全性・有効性情報ページを介した効果的な情報提供のため、データベースの継続的更新、望まれる情報提供の把握等に努めた。

- 国内外の安全情報・被害関連情報、新規素材情報を週に 1-2 回の頻度で更新した。具体的には、最新の医学中央雑誌と Natural Standard の情報の追加、ビタミンとミネラルの最新情報への更新である。また、ネット会員への更新情報のお知らせメール送付(月 1 回)、専門職(薬剤師、栄養士)と一般人を対象とした健康食品に関する意識調査を実施した。
- 健康食品に関する知識普及のため、当研究所の公開セミナーに主体的に対応するとともに、外部からのメールや電話を介した健康食品についての問い合わせについても的確に対応した。
- 健康食品の安全性・有効性情報のデータベースに蓄積した被害情報の特徴を解析した。
- 特定保健用食品などデータベースの充実のため、業界団体等との連絡会議を 10 月に開催し、協力体制を整えた。
- イソフラボン抽出物の脂質改善効果に関する無作為化比較試験論文のメタ分析を行った。

B【健康・栄養情報プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

所内の他プログラムとの連携等により、これまでに収集・蓄積してきた情報をホームページ通じて継続発信するとともに必要な情報の更新に努める。また、国民の要望や意見、健康・栄養分野の専門家が必要とする情報を各種セミナー・シンポジウム等の機会や情報技術を用いて把握する。

(目標)

これまでに収集・蓄積してきた情報(各種データベース、FAQ データ、研究所の広報等)を継続発信するとともに、必要な情報の更新に努める。また、食品や栄養に関する新たな情報発信のページを設けるとともに、健康・栄養活動の専門家が必要とする情報や、広く国民が要望することや意見に関して調査を行い、今後の情報発信のあり方の参考とする。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ニュースレターを予定通り年 4 回発行した。
- 休日オープンハウスを 9 月 29 日に実施し、162 名(一般: 144 名、高校生: 18 名)が参加した。実施内容は、食生活診断、骨密度測定、血糖値測定、健康体力診断及び健康フィットネス体験、所内見学ツアー、講演、インターネット体験、書籍展示、パネル展示・ビデオなどである。
- 「総合的な学習の時間」による中学生及び高等学校生の受け入れを行った(中学校: 7 校 27 名、高校: 6 校 65 名)。また、その他の見学受け入れも行った(大学: 3 校 41 名、その他: 2 施設 30 名)。
- 情報の充実の一環として、食材情報 DB の構築および食生活年表・解説 DB の作成を実施した。

C【IT 支援プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

一般及び専門家からの電話、メール等による相談を

受けるとともに、それらの相談に適切に対応する。研究所として総合的な情報発信を行うとともに、対外的な業務の推進を図るための組織整備を行う。研究所に対する意見、要望等をホームページやセミナー等の参加者を通じて把握し、その内容を検討し、可能な限り業務に反映させる。ホームページに研究所の活動状況を積極的に配信し、ホームページの掲載内容をより充実させる。ホームページアクセス件数は、中期目標期間中、毎年 50 万件程度を維持させる。情報システムに係る情報のセキュリティの確保に努める。

(目標)

国民全般、専門職等外部からの意見、要望等を幅広く、効率的に収集し、クライアント相互間での情報交換なども行いやすくするため、ホームページ上に新たなコミュニケーションチャンネル(『健康・栄養フォーラム(仮称)』など)の設置を検討する。また、収集された意見、要望等を、すみやかに業務に反映できるよう、周知用掲示板あるいはメーリングリスト等のソフトウェアを整備する。また、個人情報等の保護に努めるとともに、外部の利用者保護の観点から情報システムのセキュリティを確保する。

外部からの相談・問合せに効率的に対応するため、頻度の高い質問等については、FAQ としてとりまとめを進め、ホームページ上で公開する。18 年度は特に、健康食品について立ち上げたが、19 年度は「保健指導(食事・運動等)」について FAQ を整備する。

情報センターにおいて、引き続き、所内各プログラムにおける研究成果及び研究所内外の関連情報を集約・加工し、国民が適切な運動・食生活を実践するために必要な情報の提供を行う。

コンテンツマネジメントシステム、メールマガジン等の運用により、研究所の活動内容・成果等を積極的に配信するとともに、ホームページの内容全般について、最新情報の追加・更新を精力的に行う。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・研究所ホームページ(トップページ)へのアクセス件数は約 33 万 7 千件(1 日平均 922 件)であった。
- ・メールや電話での外部からの相談・問い合わせ等に

関して的確な対応に努めた。また 19 年度は特に「保健指導(食事・運動等)」に関する質問をデータベース化し、よくある(FAQ)としてとりまとめて、ホームページ上で公開した。

- ・ホームページ上で意見、要望等を収集するための新たなコミュニケーションチャンネル「健康・栄養フォーラム」を設置し、試験的公開を開始した。研究所の活動状況を配信するための新たなコンテンツマネジメントシステムは「健康・栄養フォーラム」の一部として試験公開した。
- ・当研究所の公式ホームページ、「健康食品の安全性・有効性情報」、「健康栄養情報基盤データベース」、「えいようきつず」を始めとする各種サイトの維持管理と更新、また、幅広く国民からの意見・質問等を集めまた情報発信するための「健康・栄養フォーラム」、文献データベース「健康・体力づくりと運動に関するデータベース」等新規サイトの構築により、当研究所各プログラムにおける研究成果・関連情報を公開、提供した。
- ・『健康・栄養ニュース』をホームページに PDF として公開し、メールマガジンとして希望者(1,130 名)に電子配信した(6、9、12 月)。
- ・研究実績のデータベースおよびその入力・閲覧・検索・集計システムの維持管理を行い、実績を取りまとめた。
- ・研究所の諸規定・職員の公募等の情報開示を、ホームページ上で積極的に行った。
- ・「独立行政法人 国立健康・栄養研究所 情報ネットワークセキュリティポリシー」の改訂及び、「独立行政法人 国立健康・栄養研究所 情報セキュリティ対策実施手順」を制定し、これを遵守することで情報のセキュリティ確保に努めた。また、昨年度末に新たに導入された Web アプリケーション・ファイアウォールシステムによって常にアプリケーション環境に適した防御体制を維持する機能を持たせ、セキュリティレベルの維持に努めた。
- ・所内イントラネットを活用して研究費、事務連絡等のオンライン化を推し進めた。

国際産学連携センター

1. センターの概要

(1) センターの目標

研究所の「対外部門」として位置づけられている「国際産学連携センター」は、国際的な学术交流、情報提供及び民間企業との共同研究・開発等の対外的な事業を企画・運営する業務を行う。具体的な目標・課題は以下の通りである。

- ・国際交流・貢献：アジア諸国との間で共同研究等のネットワーク構築を積極的に行う。「国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業」により年間2名程度の若手研究者に研修機会を提供する。アジア地域の研究者を交えたシンポジウムの開催等を行う。
- ・栄養情報担当者(NR)：NR に対する研修や情報提供等を通じて質的向上を図る。中期目標期間開始より3年以内に、NR の実際の業務内容、社会でのあり方についてモニタリングを実施する。制度のあり方や研究所の関わりについて検討を行い、中期目標期間終了までに結論を得る。
- ・講演会等の開催、社会ニーズの把握：健康・栄養関連の専門家向けのセミナー、幅広い人々を対象とした講演会等を各年1回以上開催する。関係団体による教育・研修プログラムへの職員の派遣を積極的に推進する。関連する団体、大学、民間企業等との意見交換を年6回程度行い、社会的ニーズを把握する。業務関連行政部局との間で、定期的な情報・意見交換を行う。

(2) 年度計画

- ・国際栄養プロジェクト：第3回アジア栄養ネットワークシンポジウムを主催する。国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業で3名の研究者を受け入れる(マレーシア2名、バングラデシュ1名)。研究所の研究成果、栄養行政に関する資料について、適時、英語版ホームページを通じて情報発信を行う。WHO、CODEX、OECD 等の国際機関への協力を積極的に行うとともに、連携を強化する。わが国における「国際栄養」の拠点ネットワークの構築のために、連絡会議を発足させる。WHO 指定研究協力センターとして、本プログラムの活動、成果のレポートの刊行を準備する。
- ・NR・セミナー業務：一般向けの公開セミナー(第9回)を、平成20年2月に東京で開催する。専門家向けのセミナーを、他機関との連携による開催を含めて、2回程度行う。管理栄養士・栄養士等の研修や生涯教育のプログラムに対して、講師や企画等への支援を行う。健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等との意見交換会を年6回程度開催する。厚生労働省生活習慣病対策室、新開発食品保健対策室、内閣府食育推進担当と情報・意見交換を行う。連携大学院、関連学会との連携を強化するために連絡会議等を行う。NR の資格取得後のフォローアップ研修として、全国5~6カ所で研修会を実施。遠隔教

育システムについても検討する。NR に関して情報収集、モニタリング調査等を行い、外部有識者による検討委員会であり方を検討する。

- ・ニュートラシューティカルズプロジェクト：新たに開発された乳酸菌や乳酸菌発酵物の有効性と安全性に関して、主に腸管免疫の変動を指標としたヒトを対象とした疫学的調査研究を行う。新たに開発された大豆発酵物含有食品の有効性・安全性に関して、運動との併用効果も含めて、ヒトを対象とした介入研究を行う。
- ・生物統計プロジェクト：特定保健用食品等の有効性評価を目的としたヒト試験デザインに関して、主として統計学的観点からの検討を行う。メタボリックシンドローム等に関連する各種健康・栄養指標に関して、都道府県格差等を評価する手法の検討及び将来予測のためシミュレーションを行う。

(3) 研究業務概況

A. 国際栄養プロジェクト

国レベルでの栄養調査システムを主題として、第3回アジア栄養ネットワークシンポジウムを主催した。「若手外国人研究者招へい事業」では、3名の研究者を受け入れた。「Health and Nutrition News(「健康・栄養ニュース」英語版)」を、定期的に研究所ホームページに収載した。「国際栄養」の拠点ネットワークの構築のために、外部の有識者を含めた検討会を行った。

B. NR・セミナー業務

資格確認試験、NR 認定試験の問題作成に関わる進行管理を行った。過去問題のDB化等を通じて、問題作成の効率化を図った。フォローアップ研修会を、全国6カ所で開催した。NR のあり方検討会を立ち上げ、今後の研究所の関与や方向性を検討した。一般向け公開セミナー(「健診でメタボリックシンドロームと言われたら」)を開催した。日本栄養士会が行う特定健診・保健指導の管理者養成研修会に協力し、企画づくり、講義などを行った。

C. ニュートラシューティカルズプロジェクト

栄養疫学プログラム生体指標プロジェクトと大塚製薬株式会社との3者で「エクオール含有食品の骨代謝および脂質代謝に対する有効性の評価」に関する共同研究を開始した。試験は無作為化二重盲検プラセボ比較試験とし、エクオール産生能を有しない閉経後5年未満女性を対象とした。

D. 生物統計プロジェクト

特定保健用食品のヒト試験を文献的に整理し、メタ観察(解析)を行った。食品成分の機能性にかかわるいくつかのヒト試験に対し統計学的解析サポートを行った。メタボリックシンドロームに着目し、地域差、性、年齢、世代間における違いを、大規模調査資料を用いて解析した。

(4) 構成メンバー

センター長:

吉池信男 (併任:研究企画評価主幹)

プロジェクトリーダー:

水野正一 (生物統計プロジェクト)

久米村恵 (ニュートラシューティカルプロジェクト)

研究員:

國井大輔 (平成 19 年 11 月 30 日まで)

三好美紀 (平成 20 年 1 月 1 日から)

特別研究員:

三好美紀 (平成 19 年 12 月 31 日まで)、

吉田真咲

客員研究員:

藤井康弘 (大塚製薬株式会社)

草間かおる (国立保健医療科学院)

菅野幸子 (宮崎県立看護大学)

大賀英史

協力研究員:

石田晋也 (大塚製薬株式会社)

片山有香 (八王子養護園)

斎藤京子 (東京都老人総合研究所)

技術補助員:

林 芙美、宇田川孝子、光岡奈緒、角倉知子、

伊藤真由美、狩野照誉、植朋子、鈴木香奈子

研修生:

石脇亜紗子 (お茶の水女子大学大学院)

アンドレア脇田・浅野 (お茶の水女子大学大学院)

2. プロジェクトの概要

A【国際栄養プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

国際栄養プロジェクトは国際的な学術交流(招へい事業、セミナー開催等)、情報提供及び国際機関との協力を行う。具体的には、海外からの研修生の受け入れ(「若手外国人研究者招へい事業」等)、国際シンポジウムの開催、アジア各国との共同研究、WHO など国際機関への協力・連携、海外向け情報発信等を通じて、国際的な研究ネットワーク構築を図ることを目指している。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

・海外の研究機関との交流・共同研究および国際機関の活動への対応

ベトナム国立栄養研究所との IMCI に関する共同研究をすすめている。国際機関の活動への対応としては、本年度は WHO ワークショップにおける講義を担当、OECD の専門家会合に参加した。また、WHO 西太平洋地域における「Diet, Physical Activity and Health」の栄養学研究の WHO 指定研究協力センターの設立に向けて準備中であり、WHO 西太平洋地域事務局の栄養担当官と具体的な連絡調整をすすめている。

近年、国際栄養協力の重要性への認識が高まる一方で、これまで優先順位の高い課題やその解決策を系統的に検討したり、人材の確保・育成のための仕組みづ

くりがなされてこなかった。そこで、研究所が中核となり、国内の国際栄養分野の研究者及び研究機関との連携を強化し、国際栄養のネットワークを構築することを目的として平成 19 年 4 月に「国際栄養拠点ネットワーク検討会」を立ち上げた。

・海外からの訪問・研修受入

本年度はスウェーデン、韓国、ラオスからの研究者の訪問を受け入れ、要請に応じて該当分野のプログラムとの打ち合わせの準備調整を行った。

本年度の「若手外国人研究者招へい事業」では、マレーシアより 2 名、バングラデシュより 1 名の研究者を受け入れ、それぞれ受入研究者との共同研究が進められた。来年度の招へい研究者 1 名が決定しており、現在、受入および来日に係る準備手続きを進めている。また、他機関からの依頼による研修受入れとして、本年度は JICA より 4 件(すべて 1 日)、国際機関からは国際原子力機関(IAEA)の“Regional Training Course on Anthropometry and Stable Isotope Preparation and Administration for Body Composition Assessment”(平成 19 年 10 月 1 日～5 日)の開催を受け入れ、事務局を担当した。

・国際シンポジウム・セミナー

研究所が主催する代表的な国際シンポジウムである「アジア栄養ネットワークシンポジウム」は平成 15 年度より隔年で開催されている。第 3 回シンポジウム(平成 20 年 3 月 1 日開催)では、「アジアにおける健康づくりのための栄養調査と地域栄養プログラムの役割」をテーマとして、アジア各国の現状および今後の方向性について議論を深めることができた。

また、前回のシンポジウム(平成 18 年 3 月 3 日開催)の講演集が Asian Pacific Journal of Clinical Nutrition の Supplement として平成 20 年 4 月に発刊される予定である。

・広報・情報発信

英語版ホームページを通して、研究所の研究成果、栄養行政の情報を発信している。研究所のニュースレター「健康・栄養ニュース」(年 4 回発行)の英語版「Health and Nutrition News」を作成し、英語版ホームページに掲載している。本年度は専門課題のサイト拡充に努め、「健康づくりのための運動基準 2006」および「エクササイズガイド」の紹介サイトを開設、「日本人の食事摂取基準 2005」の英訳版を掲載した。

また、英語版ホームページに問い合わせ用メールアドレスを掲載し、海外からの問い合わせに対応している。

B【NR・セミナー業務】

(1) プロジェクトの役割及び目標

「対外部門」としての国際産学連携センターの中で、講演会・セミナー等を通じた人材育成、栄養情報担当者(NR)の学術的基盤づくり、行政部門との各種調整等を行っている。

・NR 業務(事務部業務課との連携):栄養情報担当者(NR)事業の学術面(試験、研修等)への対応を行う。NR 制度のあり方や研究所の関わりについて検討を行う。

- ・セミナー業務:管理栄養士等の専門家を対象としたセミナーの企画・運営、外部団体・機関と連携した各種人材育成プログラムの企画等を、中長期的な視点から行う。研究の成果を社会に還元するため、一般向けセミナーを開催する。社会的ニーズを把握するため関連機関等と定期的な情報交換の場を設け、社会的・行政ニーズを把握する。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・NR事業の学術面への対応
資格確認試験(第5回;H19年11月)、NR認定試験(第4回;H19年6月、第5回;H20年6月)の問題作成に関わる進行管理を行った。過去問題のデータベース化等を通じて、問題作成の効率化を図った。
- ・NR研修会の開催
フォローアップ研修会を、全国6カ所(仙台、東京、名古屋、大阪、岡山、福岡)で開催した。
- ・NR制度のあり方に関する検討
NRに対するフォローアップのアンケート調査や、NR養成講座の連絡会議を開催により、現状把握及び問題点の抽出を行った。NR制度のあり方検討委員会を立ち上げ、それらを踏まえて、今後の研究所の関与や方向性を検討した。

C【ニュートラシューティカルプロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

産学連携の一環として、企業(大塚製薬株式会社)からの寄附金により運営するプロジェクトである。運動と食事(栄養素)の相互関連を中心に、ヒトを対象とした実験研究を進め、新たな科学的知見、知的財産、商品開発に向けた取組を行う。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

当プロジェクトと栄養疫学プログラム生体指標プロジェクト(石見リーダー)、大塚製薬株式会社の3者で「エクオール含有食品の骨代謝および脂質代謝に対する有効性の評価」に関する共同研究を平成19年7月より開始した。この試験は無作為化二重盲検プラセボ比較試験とし、エクオール産生能を有しない閉経後5年未満女性94名を対象として実施中である。被験物

摂取期間は12ヶ月間であり、摂取開始前、3ヶ月目、6ヶ月目及び12ヶ月目に研究所にて健診を実施する。現在6ヶ月目健診が終わったところである。なお、本年1月に被験者の追加募集を行い、試験説明会並びに事前健診を行った。

大豆胚芽発酵物の骨代謝及び脂質代謝への有効性の評価に関しては生体指標プロジェクトが分担し、当プロジェクトは探索的研究の一環として、閉経後のエストロゲンの減少が影響を及ぼすと考えられている血管系及び口腔内環境に対する有効性の評価を目的として評価項目である全身血圧並びに脈波伝播速度(PWV)、口腔内環境(唾液分泌量及び成分)に関する測定と解析を分担した。

D【生物統計プロジェクト】

(1) プロジェクトの役割及び目標

特定保健用食品等の有効性評価を目的としたヒト試験デザインに関して、主として統計学的観点からの検討を行う。メタボリックシンドローム等に関連する各種健康・栄養指標に関して、国全体としての推移、また都道府県地域差等を評価する手法の検討及び将来予測のためシミュレーションを行う。

(2) プロジェクトの進捗状況(成果)

特定保健用食品のヒト試験(有効性)Evidenceを文献的に整理し、メタ観察(解析)を行い、「(食後の)血糖値の気になるかたへ」を標榜する機能性食品に関し問題点の整理を行った。ヒト試験の結果は、糖尿病の予防や管理という観点からは、一面の真実はあるものの、総合的な検討が不十分であった。食品の機能性にかかわるいくつかのヒト試験に対し統計学的サポートを行った。メタボリックシンドローム、特に肥満のトレンド(傾向)に関して、いくつかの大規模調査資料を解析し特徴的な知見を得た。即ち、コホート資料の解析から肥満の流行は、戦後世代の男の20~40歳にかけて大きく、女性では10歳ほど遅れて立ち上がり、また男性ではピーク時年齢が10歳ほど早く、その後の体重減少も急であった。

研究成果等の発表

1. 業績目録

(1) 著 書

a. 英 文

- 1) Inaoka T, Matsumura Y, Suda K: Tongan Obesity: causes and consequences. Health Change in the Asia-Pacific Region (edited by Ohtsuka R & Ulijaszek SJ). 2007; 125-146, Cambridge Univ. Press
- 2) Shioda, S, Kageyama H, Takenoya F, Date Y, Nakazato M, Osaka T, Minokoshi Y: Regulation of energy homeostasis by GALP. Eds., Miyazaki, A. and Imawari, M., New Frontiers in Lifestyle-Related Diseases.. 2007; 47-53, Springer

b. 和 文

- 1) 石見佳子: メナキノン、ステロール、植物性エストロゲン. 機能性食品の事典. 2007; 朝倉書店, 東京
- 2) 梅垣敬三: サプリメント等の実態とは?.(株)東京教育情報センター編、健康食品の安全・安心な食べ方. 2007; 111-132,(株)東京教育情報センター, 東京
- 3) 梅垣敬三: イチョウ葉エキス. 津志田藤二郎、梅垣敬三、他編、機能性食品の安全性ガイドブック. 2007; 389-392,(株)サイエンスフォーラム, 東京
- 4) 石見佳子: ビタミン D、ビタミン E. 病気予防百科. 2007; 302-305, 日本医療企画, 東京
- 5) 高田和子: 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト スポーツと栄養. 2007;
- 6) 田畑泉: 新しい「健康づくりのための運動基準・運動指針」. 津田謹輔, 林達也編 春日雅人, 岡芳知責任編集 糖尿病の食事・運動療法, 糖尿病ライブラリー. 2007; 131-135, 文光堂, 東京
- 7) 江崎治, 三浦進司: グルコーストランスポーター. 門脇 孝, 小川佳宏編 糖尿病カレントライブラリー7 脂肪細胞と脂肪組織. 2007; 100-103, 文光堂, 東京
- 8) 由田克士: . 事例 健康・栄養一口メモ(POPメニュー)による継続的な情報提供 他. 石田裕美 村山伸子 由田克士 編著 特定給食施設における栄養管理の高度化ガイド・事例集. 2007; 63-169, 第一出版, 東京
- 9) 羽田裕亮, 門脇孝: 糖尿病治療薬としての可能性: PPAR 分子標的薬. カラー版 糖尿病学 基礎と臨床. 2007; 5-25, 西村書店, 東京
- 10) 山田和彦: 食生活と健康運動.(財)健康・体力づくり事業財団編、健康運動指導士養成講習会テキスト(下). 2007; 1449-1467,(株)社会保険研究所、東京
- 11) 山田和彦: 消化と吸収の機構.(財)健康・体力づくり事業財団編、健康運動指導士養成講習会テキ

スト(下). 2007; 1469-1483,(株)社会保険研究所、東京

- 12) 江崎治, 三浦進司, 亀井康富: PGC-1 α と PGC-1 β . 門脇孝, 石橋俊, 佐倉宏, 戸邊一之, 野田光彦編 カラー版糖尿病学 基礎と臨床. 2007; 559-562, 西村書店, 新潟
- 13) 手嶋登志子: 2. 摂食・嚥下障害の食事の歴史と現状. 国立健康・栄養研究所, 食介護研究会編著, 摂食・嚥下障害を考える. 2007; 6-14, カザン, 東京
- 14) 手嶋登志子: 第 4 章摂食・嚥下機能の評価と口腔ケア、第 5 章食介護アセスメント、第 7 章高齢者の食介護と対応のポイント、第 8 章高齢者の栄養管理は食介護の視点から. 手嶋登志子, 大越ひろ編著, 高齢者の食介護ハンドブック. 2007; 60-86, 医歯薬出版, 東京
- 15) 田畑泉: 身体活動の増加は健康増進にどこまで貢献できるか. 財団法人 日本学術協力財団 編集 スポーツの科学. 2007; 176-187,(株)ビュープロ, 東京
- 16) 江崎治, 三浦進司: メタボリックシンドロームにおける運動療法の分子基盤 - 脂肪を燃やしやすい運動とは? . 春日雅人, 伊藤 裕, 箕越靖彦編 実験医学増刊号 解明が進むメタボリックシンドローム. 2007; 25(15):211-217, 羊土社, 東京
- 17) 宮地元彦, 久保明: 「病気予防」百科. 日本医療企画(共著). 2007;
- 18) 卓興綱: 「病気予防」百科. 日本医療企画(共著). 2007;
- 19) 松村康弘: 公衆栄養学分野を担当. 日本栄養・食糧学会編「栄養・食糧学用語辞典」建帛社. 2007; 東京
- 20) 永田純一: 「病気予防」百科. 日本医療企画(共著). 2007;
- 21) 高田和子: 「病気予防」百科. 2007; 日本医療企画(共著)
- 22) 手嶋登志子: おいしく食べる調理の基本(高齢者)「高齢者の状態に合わせて食事や調理法に工夫をこらす」. 渡邊昌, 和田攻総監修, 「病気予防」百科. 2007; 346-347, 日本医療企画, 日本
- 23) 饗場直美: 健康づくりの実践編 食品をバランスよく(甘味料、穀類、食物繊維、肉類、魚類、野菜類、果実類、塩分、酢). 渡邊昌, 和田功総監修, 「病気予防」百科. 2007; 344-363, 日本医療企画, 東京
- 24) 廣田晃一: 第 7 章 日本人の食事摂取基準について他. 廣田才之(代表)編 公衆栄養学[第 2 版]. 2007; , 共立出版, 東京
- 25) 渡邊昌(監修): 渡邊昌, 和田攻総監修, 「病気予防」百科. 2007; 日本医療企画, 東京
- 26) 田畑泉: Chapter1. 健康づくりのための運動基準 2006-身体活動・運動・体力-. NPO 法人 日本健

- 康運動指導士会 編集 特定保健指導における運動指導マニュアル. 2007; 8-26, サンライフ企画, 東京
- 27) 宮地元彦: 特定健診・保健指導における運動・身体活動支援. 特定保健指導における運動指導マニュアル、日本健康運動指導士会. 2007; 27-45, サンライフ企画, 東京
- 28) 荒井裕介: 管理栄養士と栄養士. 渡邊昌、和田攻 総監修「病気予防」百科. 2007; 日本医療企画, 東京
- 29) 饗場直美: 食育の現状～問題点とこれからの課題～. [食生活] 編集部編, 子どもの食育. 2007; 30-35, カザン, 東京
- 30) 高田和子: トレーニングとエネルギー消費量. 新版コンディショニングのスポーツ栄養学(市村出版). 2007;
- 31) 石見佳子: 骨粗鬆症 翻訳. 最新栄養学 第9版. 2007; 678-688, 建帛社, 東京
- 32) 石見佳子: 大豆イソフラボンを含む食材と骨代謝. アンチエイジング・ヘルスフード. 2008; 157-164, サイエンスフォーラム社, 東京
- 33) 笠岡(坪山)宜代: 第12章 遺伝子と栄養現象. 小林修平・山本 茂 編集、管理栄養士講座 人体栄養学の基礎. 2008; 建帛社, 東京
- 34) 高田和子: 食事バランスガイド. メタボリックシンドローム解消ハンドブック. 2008; 44-55, 杏林書院, 東京
- 35) 田畑泉: 1章 メタボリックシンドローム. 田畑泉 編 メタボリックシンドローム解消ハンドブック. 2008; 1-13, (株)杏林書院, 東京
- 36) 大河原一憲, 田中茂穂: 3章運動プログラム作成 基本的運動プログラムに関するエビデンスと具体例 田畑泉編 メタボリックシンドローム解消ハンドブック. 2008; 58-86, 杏林書院, 東京
- 37) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準-身体活動・運動・体力-. 佐藤祐造, 川久保清, 田畑泉, 樋口満監修 特定健診・保健指導に役立つ健康運動指導マニュアル. 2008; 18-26, 文光堂, 東京
- 38) 宮地元彦: 健康運動指導士の役割. {特定健診・保健指導に役立つ} 健康運動指導マニュアル 佐藤祐造ほか編. 2008; 2-6, 文光堂, 東京
- 39) 高田和子: 特定高齢者と介護予防. 健康運動指導マニュアル. 2008; 文光堂
- 40) 西牟田守: 栄養と食事. 八重垣健、吉田貴彦編. 子どものヘルスプロモーション. 2008; 116-120, 医歯薬出版株式会社, 東京
- 41) 大賀 英史: 健康づくりでまちづくり. 福留強監修. 齋藤ゆか・河井孝仁編著. 創年のススメ ぎょうせい. 2008;
- 42) 田畑泉: 運動指導のよりどころ『運動基準』を知っていますか? 「食生活」編集部編. 栄養指導のためのメタボ対策ハンドブック. 2008; 99-104, (株)カザン, 東京
- (2) 原著論文
- a. 英文
- 1) Saijo Y, Utsugi M, Yoshioka E, Horikawa N, Sato T, Gong Y, Kishi R: The relationship of gamma-glutamyltransferase to C-reactive protein and arterial stiffness. *Nutr Metab Cardiovasc Dis*. 2007;
- 2) Nakagami T, Tominaga M, Nishimura R, Daimon M, Oizumi T, Yoshiike N, Tajima N: Combined use of fasting plasma glucose and glycated hemoglobin A1c in a stepwise fashion to detect undiagnosed diabetes mellitus. *Tohoku J Exp Med*. 2007; 213(1):25-32
- 3) Suzuki M, Oki T, Sugiyama T, Umegaki K, Uchida S, Yamada S: Muscarinic and alpha 1-adrenergic receptor binding characteristics of saw palmetto extract in rat lower urinary tract. *Urology*. 2007; 69(6):1216-20
- 4) Murakami K, Sasaki S, Okubo H, Takahashi Y, Hosoi Y, Itabashi M: Food intake and functional constipation: a cross-sectional study of 3,835 Japanese women aged 18-20 years. *J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo)*. 2007; 53(1):30-36
- 5) Murakami K, Sasaki S, Takahashi Y, Uenishi K, Yamasaki M, Hayabuchi H, Goda T, Oka J, Baba K, Ohki K, Kohri T, Watanabe R, Sugiyama Y: Misreporting of dietary energy, protein, potassium and sodium in relation to body mass index in young Japanese women. *Eur J Clin Nutr*. 2007; 62(1):111-118
- 6) Miyamoto S, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Ohya Y, Matsunaga I, Yoshida T, Oda H, Ishiko O, Hirota Y: Fat and fish intake and asthma in Japanese women: baseline data from the Osaka Maternal and Child Health Study. *Int J Tuberc Lung Dis*. 2007; 11(1):103-109
- 7) Murakami K, Sasaki S, Takahashi Y, Uenishi K, Yamasaki M, Hayabuchi H, Goda T, Oka J, Baba K, Ohki K, Kohri T, Muramatsu K, Furuki M: Hardness (difficulty of chewing) of the habitual diet in relation to body mass index and waist circumference in free-living Japanese women aged 18-22 y. *Am J Clin Nutr*. 2007; 86(1):206-213
- 8) Kanno Y, Sasaki S, Suzuki H: Nutritional assessment by a new method for patients with renal disease. *Contrib Nephrol*. 2007; 155:29-39
- 9) Iida T, Todaka T, Hirakawa H, Hori T, Tobiishi K, Matsueda T, Watanabe S, Yamada T: Concentration and distribution of dioxins and related compounds in human tissues. *Chemosphere*. 2007; 67(9):S263-S271
- 10) Yoshida M, Takashima Y, Inoue M, Iwasaki M, Otani T, Sasaki S, Tsugane S: Prospective study showing that dietary vitamin C reduced the risk of age-related cataracts in a middle-aged Japanese population. *Eur J Nutr*. 2007; 46(2):118-124
- 11) Okubo H, Sasaki S, Murakami K, Kim MK, Takahashi Y, Hosoi Y, Itabashi M: Dietary patterns associated

- with functional constipation among Japanese women aged 18 to 20 years: a cross-sectional study. *J Nutr Sci Vitaminol* (Tokyo). 2007; 53(3):232-238
- 12) Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Ohya Y, Miyamoto S, Matsunaga I, Yoshida T, Hirota Y, Oda H: Fish and fat intake and prevalence of allergic rhinitis in Japanese females: the Osaka maternal and child health study. *J Am Coll Nutr.* 2007; 26(3):279-287
 - 13) Sato H, Senba H, Virgona N, Fukumoto K, Ishida T, Hagiwara H, Negishi E, Ueno K, Yamasaki H, Yano T: Connexin 32 potentiates vinblastine-induced cytotoxicity in renal cell carcinoma cells. *Molecular Carcinogenesis.* 2007; 46:215-224
 - 14) Miyatake N, Wada J, Saito T, Nishikawa H, Matsumoto S, Miyachi M, Makino H, Numata T: Comparison of muscle strength between Japanese men with and without metabolic syndrome. *Acta Med Okayama.* 2007; 61(1):99-102
 - 15) Miyatake N, Saito T, Wada J, Miyachi M, Tabata I, Matsumoto S, Nishikawa H, Makino H, Numata T: Comparison of ventilatory threshold and exercise habits between Japanese men with and without metabolic syndrome. *Diabetes Res Clin Pract.* 2007; 77(2):314-319
 - 16) Taku K, Umegaki K, Sato Y, Taki Y, Endoh K, Watanabe S: Soy isoflavones lower serum total and LDL cholesterol in humans: a meta-analysis of 11 randomized controlled trials. *Am J Clin Nutr.* 2007; 85(4):1148-1156
 - 17) Nagata J, Saito M: Effects of dietary Angelica keiskei on serum and liver lipid profiles, and body fat accumulations in rats. *J. Nutr. Sci. Vitaminol.* 2007; 53(2):133-137
 - 18) Yamada K, Takezawa J: Measurement of DNA synthesis and strand breaks using alkaline sucrose gradient centrifugation. *Subcell Biochem.* 2007; 40:435-438
 - 19) Horikoshi M, Hara K, Ito C, Nagai R, Froguel P, Kadowaki T: A genetic variation of the transcription factor 7-like 2 gene is associated with risk of type 2 diabetes in the Japanese population. *Diabetologia.* 2007; 50:747-751
 - 20) Shimazaki T, Kadowaki T, Ohya Y, Ohe K, Kubota K: Hemoglobin A1c (HbA1c) predicts future drug treatment for diabetes mellitus: a follow-up study using routine clinical data in a Japanese university hospital. *Translational Research.* 2007; 149:196-204
 - 21) Hashimoto H, Arai T, Ohnishi Y, Eto T, Ito M, Suzuki R, Yamauchi T, Ohsugi M, Saito M, Ueyama Y, Tobe K, Kadowaki T, Tamaoki N, Kosaka K: Phenotypes of IRS-2 deficient mice produced by reproductive technology are stable. *Exp. Anim.* 2007; 56:149-154
 - 22) MK Melby: Chilliness: A vasomotor symptom in Japan. *Menopause.* 2007; 14(4):1-8
 - 23) MK Melby: Chilliness: A vasomotor symptom in Japan. *Menopause.* 2007; 14(4):1-8
 - 24) Tanaka C, Tanaka S, Kawahara J, Midorikawa T: Triaxial accelerometry for assessment of physical activity in young children. *Obesity* (Silver Spring). 2007; 15(5):1233-1241
 - 25) Hada Y, Yamauchi T, Waki H, Tsuchida A, Hara K, Yago H, Miyazaki O, Ebinuma H, Kadowaki T: Selective purification and characterization of adiponectin multimer species from human plasma. *Biochem Biophys Res Commun.* 2007; 356(2):487-493
 - 26) Yoneyama S, Miura K, Sasaki S, Yoshita K, Morikawa Y, Ishizaki M, Kido T, Naruse Y, Nakagawa H: Dietary intake of fatty acids and serum C-reactive protein in Japanese. *J Epidemiol.* 2007; 17(3):86-92
 - 27) Murakami K, Sasaki S, Okubo H, Takahashi Y, Hosoi Y, Itabashi M: Association between dietary fiber, water and magnesium intake and functional constipation among young Japanese women. *Eur J Clin Nutr.* 2007; 61(5):616-622
 - 28) Miyake Y, Ohya Y, Tanaka K, Yokoyama T, Sasaki S, Fukushima W, Ohfuji S, Saito K, Kiyohara C, Hirota Y: Home environment and suspected atopic eczema in Japanese infants: The Osaka Maternal and Child Health Study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2007; 18(5):425-432
 - 29) Miyake Y, Arakawa M, Tanaka K, Sasaki S, Ohya Y: Cross-sectional study of allergic disorders associated with breastfeeding in Japan: The Ryukyus Child Health Study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2007; 18(5):433-440
 - 30) Okamoto K, Kihira T, Kondo T, Kobashi G, Washio M, Sasaki S, Yokoyama T, Miyake Y, Sakamoto N, Inaba Y, Nagai M: Nutritional status and risk of amyotrophic lateral sclerosis in Japan. *Amyotrophic Lateral Sclerosis.* 2007; 8(5):300-304
 - 31) Hara K, Yamauchi T, Imai Y, Manabe I, Nagai R, Kadowaki T: Reduced adiponectin level is associated with severity of coronary artery disease. *Int. Heart. J.* 2007; 48:149-153
 - 32) Sanada K, Midorikawa T, Yasuda T, Miyachi M, Yamamoto K, Kearns CF, Abe T: Nonexercise models for predicting maximal oxygen uptake existing physiological basis. *European Journal of Applied Physiology.* 2007; 101(2):265-266
 - 33) Nishimura R, Nakagami T, Tominaga M, Tajima N: Prevalence of metabolic syndrome and optimal waist circumference cut-off values in Japan. *Diabetes Res Clin Pract.* Apr 26; [Epub ahead]. 2007;
 - 34) Umegaki K, Taki Y, Endoh K, Taku K, Tanabe H, Shinozuka K, Sugiyama T: Bilobalide in Ginkgo biloba extract is a major substance inducing hepatic CYPs. *J Pharm Pharmacol.* 2007; 59(6):871-877
 - 35) Murakami K, Sasaki S, Takahashi Y, Yamasaki M, Hayabuchi H, Goda T, Oka J, Baba K, Ohki K, Watanabe R, Sugiyama Y: Nutrient and food intake in

- relation to serum leptin concentration among young Japanese women. *Nutrition*. 2007; 23(6):461-468
- 36) Miyabara Y, Onoe Y, Harada A, Kuroda T, Sasaki S, Ohta H: Effect of physical activity and nutrition on bone mineral density in young Japanese women. *J Bone Miner Metab*. 2007; 25(6):414-418
 - 37) Miura S, Kawanaka K, Kai Y, Tamura M, Goto M, Shiuchi T, Minokoshi Y, Ezaki O: An increase in murine skeletal muscle PGC-1 α mRNA in response to exercise is mediated by β -adrenergic receptor activation. *Endocrinology*. 2007; 148(7):3441-3448
 - 38) Hayashi F, Yoshiike N, Yoshita K, Kawahara K: Trends in the prevalence of anaemia in Japanese adult women, 1989-2003. *Public Health Nutr*[Epub ahead of print]. 2007; 1-6
 - 39) Takimoto H, Mito N, Umegaki K, Ishiwaki A, Kusama K, Abe S, Yamawaki M, Fukuoka H, Ohta C, Yoshiike N: Relationship between dietary folate intakes, maternal plasma total homocysteine and B-vitamins during pregnancy and fetal growth in Japan. *Eur J Nutr*. 2007; 46:300-306
 - 40) Matsumoto A, Mizukami H, Mizuno S, Umegaki K, Nishikawa JI, Shudo K, Kagechika H, Inoue M: beta-Cryptoxanthin, a novel natural RAR ligand, induces ATP-binding cassette transporters in macrophages. *Biochem Pharmacol*. 2007; 74(2):256-264
 - 41) Yoneyama S, Miura K, Itai K, Yoshita K, Nakagawa H, Shimmura T, Okayama A, Sakata K, Saitoh S, Ueshima H, Elliott P, Stamler J: Dietary intake and urinary excretion of selenium in the Japanese adult population: the INTERMAP Study Japan. *Eur J Clin Nutr*. 2007; 1-7
 - 42) Kubota N, Yano W, Kubota T, Yamauchi T, Itoh S, Kumagai H, Kozono H, Takamoto I, Okamoto S, Shiuchi T, Suzuki R, Satoh H, Tsuchida A, Moroi M, Sugi K, Noda T, Ebinuma H, Ueta Y, Kondo T, Araki E, Ezaki O, Nagai R, Tobe K, Terauchi Y, Ueki K, Minokoshi Y, Kadowaki T: Adiponectin stimulates AMP-activated protein kinase in the hypothalamus and increases food intake. *Cell Metab*. 2007; 6(1):55-68
 - 43) Ishikawa M, Kitayama J, Yamauchi T, Kadowaki T, Maki T, Miyato H, Yamashita H, Nagawa H: Adiponectin inhibits the growth and peritoneal metastasis of gastric cancer through its specific membrane receptors AdipoR1 and AdipoR2. *Cancer Sci*. 2007; 98:1120-1127
 - 44) Sekiya M, Yahagi N, Matsuzaka T, Takeuchi Y, Nakagawa Y, Takahashi H, Okazaki H, Iizuka Y, Ohashi K, Gotoda T, Ishibashi S, Nagai R, Yamazaki T, Kadowaki T, Yamada N, Osuga J, Shimano H: SREBP-1-independent regulation of lipogenic gene expression in adipocytes. *J. Lipid Res*. 2007; 48:1581-1591
 - 45) Southgate RJ, Neill B, Prelovsek O, El-Osta A, Kamei Y, Miura S, Ezaki O, McLoughlin TJ, Zhang W, Untermaier TG, Febbraio MA: FOXO1 regulates the expression of 4E-BP1 and inhibits mTOR signaling in mammalian skeletal muscle. *J Biol Chem*. 2007; 282(29):21176-21186
 - 46) Sato H, Fukumoto K, Hada H, Hagiwara H, Fujimoto E, Negishi E, Ueno K, Yano T: Enhancing effect of connexin 32 gene on vinorelbine-induced cytotoxicity in A549 lung adenocarcinoma cells. *Cancer Chemother Pharmacol*. 2007; 60:449-457
 - 47) Saito T, Sato H, Virgona N, Hagiwara H, Kashiwagi K, Suzuki K, Asano R, Yano T: Negative growth control of osteosarcoma cell by Bowman-Birk protease inhibitor from soybean; involvement of connexin 43. *Cancer Letters*. 2007; 253:249-257
 - 48) Ishiwaki A, Yokoyama T, Fujii H, Saito K, Nozue M, Yoshita K, Yoshiike N: A statistical approach for estimating the distribution of usual dietary intake to assess nutritionally at-risk populations based on the Japanese new Dietary Reference Intakes (DRIs). *J Nutr Sci Vitaminol*. 2007; 53:337-344
 - 49) Murakami K, Sasaki S, Okubo H, Takahashi Y, Hosoi Y, Itabashi M: Dietary fiber intake, dietary glycemic index and load, and body mass index: a cross-sectional study of 3931 Japanese women aged 18-20 years. *Eur J Clin Nutr*. 2007; 61(8):986-995
 - 50) Kudo T, Tamagawa T, Kawashima M, Mito N, Shibata S: Attenuating Effect of Clock Mutation on Triglyceride Contents in the ICR Mouse Liver under a High-Fat Diet. *Journal of Biological Rhythms*. 2007; 22(4):312-323
 - 51) Saheki T, Iijima M, Li MX, Kobayashi K, Horiuchi M, Ushikai M, Okamura F, Meng XJ, Inoue I, Tajima A, Moriyama M, Eto K, Kadowaki T, Sinasac DS, Tsui LC, Tsuji M, Okano A, Kobayashi T: Citrin/mitochondrial glycerol 3-phosphate dehydrogenase double-knockout mice recapitulate features of human citrin deficiency. *J.Biol.Chem.* 2007; 282:25041-25052
 - 52) Ebinuma H, Miida T, Yamauchi T, Hada Y, Hara K, Kadowaki T: Improved ELISA for selective measurement of adiponectin multimers and identification of adiponectin in human cerebrospinal fluid. *Clin. Chem*. 2007; 53:1541-1544
 - 53) Hadsell DL, Olea W, Lawrence N, George J, Torres D, Kadowaki T, Lee AV: Decreased lactation capacity and altered milk composition in insulin receptor substrate null mice is associated with decreased maternal body mass and reduced insulin-dependent phosphorylation of mammary Akt. *J. Endocrinol*. 2007; 194:327-336
 - 54) Fujioka M, Sudo Y, Okumura M, Wu J, Uehara M, Takeda K, Hosokawa Y, Yamada K, Ikegami S, Ishimi Y: Differential effects of isoflavones on bone formation in growing male and female mice. *Metabolism*. 2007; 56(8):1142-1148
 - 55) Sato H, Hagiwara H, Ohde Y, Senba H, Virgona N,

- Yano T: Regulation of Renal Cell Carcinoma Cell Proliferation, Invasion and Metastasis by Connexin 32 Gene. *J Membrane Biol.* 2007; 216:17-21
- 56) Nishimura S, Manabe I, Nagasaki M, Hosoya Y, Yamashita H, Fujita H, Ohsugi M, Tobe K, Kadowaki T, Nagai R, Sugiura S: Adipogenesis in obesity requires close interplay between differentiating adipocytes, stromal cells and blood vessels.. *Diabetes.* 2007; 56:1517-1526
- 57) Wu J, Oka J, Ezaki J, Ohtomo T, Ueno T, Uchiyama S, Toda T, Uehara M, Ishimi Y: Possible role of equol status in the effects of isoflavone on bone and fat mass in postmenopausal Japanese Women: a double-blind, randomized, controlled trial. *Menopause.* 2007; 14(5):866-874
- 58) Naritomi H, Fujita T, Ito S, Ogihara T, Shimada K, Shimamoto K, Tanaka H, Yoshiike N: Design and baseline characteristics of an observational study in Japanese patients with hypertension: Japan Hypertension Evaluation with Angiotensin II Antagonist Losartan Therapy (J-HEALTH). *Hypertens Res.* 2007; 30(9):807-814
- 59) Endoh K, Murakami M, Sugiyama T, Taki Y, Umegaki K: Low folate status enhanced benzene-induced cytogenetic damage in bone marrow of mice: a relationship between dietary intake and tissue levels of folate. *Nutr Cancer.* 2007; 59(1):99-105
- 60) Hayashi K, Mizunuma H, Fujita T, Suzuki S, Imazeki S, Katanoda K, Matsumura Y, Kubota T, Aso T: Design of the Japan Nurses' Health Study: A prospective occupational cohort study of women's health in Japan. *Ind Health.* 2007; 45(5):679-686
- 61) Fujita T, Hayashi K, Katanoda K, Matsumura Y, Lee JS, Takagi H, Suzuki S, Mizunuma H: Prevalence of diseases and statistical power of the Japan Nurses' Health Study. *Ind Health.* 2007; 45(5):687-694
- 62) Takebayashi J, Kaji H, Ichiyama K, Makino K, Gohda E, Yamamoto I, Tai A: Inhibition of free radical-induced erythrocyte hemolysis by 2-O-substituted ascorbic acid derivatives. *Free Radic Biol Med.* 2007; 43(8):1156-1164
- 63) Kume S, Uzu T, Araki S, Sugimoto T, Isshiki K, Chin-Kanasaki M, Sakaguchi M, Kubota N, Terauchi Y, Kadowaki T, Haneda M, Kashiwagi A, Koya D: Role of altered renal lipid metabolism in the development of renal injury induced by a high-fat diet: lessons from insulin-sensitive PPAR γ -deficient mice. *J. Am. Soc. Nephrol.* 2007; 18:2715-2723
- 64) Miyatake N, Matsumoto S, Miyachi M, Fujii M, Numata T: Relationship between changes in body weight and waist circumference in Japanese. *Environmental Health and Preventive Medicine.* 2007; 12(5):220-223
- 65) Yamazaki T, Nakamori A, Sasaki E, Wada S, Ezaki O: Fish oil prevents sucrose-induced fatty liver but exacerbates high-safflower oil-induced fatty liver in ddy mice. *Hepatology.* 2007; 46(6):1779-1790
- 66) Takeuchi Y, Yahagi N, Nakagawa Y, Matsuzaka T, Shimizu R, Sekiya M, Iizuka Y, Ohashi K, Gotoda T, Yamamoto M, Nagai R, Kadowaki T, Yamada N, Osuga J, Shimano H: In vivo promoter analysis on refeeding response of hepatic sterol regulatory element-binding protein-1c expression. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 2007; 363:329-335
- 67) Sadagurski M, Nofech-Mozes S, Weingarten G, White MF, Kadowaki T, Wertheimer E: Insulin receptor substrate 1 (IRS-1) plays a unique role in normal epidermal physiology. *J. Cell. Physiol.* 2007; 213(2):519-527
- 68) Ochi M, Osawa H, Hirota Y, Hara K, Tabara Y, Tokuyama Y, Shimizu I, Kanatsuka A., Fujii Y, Ohashi J, Miki T, Nakamura N, Kadowaki T, Itakura M, Kasuga M, Makino H: The frequency of the G/G genotype of resistin single nucleotide polymorphism at -420 appears to be increased in younger onset type 2 diabetes. *Diabetes.* 2007; 56(112834):2834-2838
- 69) Ganpule AA, Tanaka S, Ishikawa-Takata K, Tabata I: Interindividual variability in sleeping metabolic rate in Japanese subjects. *Eur J Clin Nutr.* 2007; 1256-1291
- 70) Ohkawara K, Tanaka S, Miyachi M, Ishikawa-Takata K, Tabata I: A dose response relation between aerobic exercise and visceral fat reduction: systematic review of clinical trials. *Int J Obes.* 2007; 31(12):1786-1797
- 71) Ohashi J, Naka I, Kimura R, Natsuhara K, Yamauchi T, Furusawa T, Nakazawa M, Ataka Y, Patarapotikul J, Nuchnoi P, Tokunaga K, Ishida T, Inaoka T, Matsumura Y, Ohtsuka R: FTO polymorphisms in Oceanic populations. *J Human Genetics.* 2007; 52(12):1031-1035
- 72) Usui C, Gando Y, Sanada K, Oka J, Miyachi M, Tabata I, Higuchi M: Relationship between blood adipocytokines and resting energy expenditure in young and elderly women. *J Nutri Sci Vitaminol.* 2007; 53:529-535
- 73) Midorikawa T, Tanaka S, Kaneko K, Koizumi K, Ishikawa-Takata K, Futami J, Tabata I: Evaluation of Low-Intensity Physical Activity by Triaxial Accelerometry. *Obesity.* 2007; 15(12):3031-3038
- 74) Nozue M, Miyoshi M, Okumura J, Sanchez H, Andreu J, Kuroiwa C: Prevalence and determinants of obesity and dietary habits among adults in rural area, Chile. *BioScience Trends.* 2007; 1(3):140-148
- 75) Kumae T, Arakawa H: Assessment of effects of in vivo nitrogen dioxide exposure started from different periods on alveolar macrophage activity in Fischer rats using chemiluminescent technique. *J Phys Fit Nutr Immunol.* 2007; 17(3):196-207
- 76) Watanabe S, Morita A, Aiba N, Miyachi M, Sasaki S, Morioka M, Noda M, Takebayashi T, Kimura M: Study Design of the Saku Control Obesity Program (SCOP). *Anti-Aging Med.* 2007; 4(2):70-73

- 77) Ohmori Y, Suzuki N, Morita A, Aiba N, Miyachi M, Watanabe S, Kikuchi Y, Kimura M: Association of Personality (NEO-Five Factor Inventory) with Eating Behaviors and Physical Activity Levels in Obese Subjects in the Saku Control Obesity Program (SCOP). *Anti-Aging Med.* 2007; 4(2):43-50
 - 78) Yamada K, Takezawa J, Morita A, Matsumura Y, Watanabe S: DNA polymorphism of obese people in Saku Control Obesity Program (SCOP). *Anti-Aging Medicine.* 2007; 4(2):63-69
 - 79) Watanabe S, Morioka M, Hirai T, Mizuno S: Dioxin exposure and type 2 diabetes mellitus: Case control study. *Anti-Aging Medicine.* 2007; 4(2):51-56
 - 80) Watanabe S, Otaki N, Uehara M, Suzuki K, Ueno T, Uchiyama S, Mizuno S: Pharmacokinetics of an Equol Supplement in Humans. *Anti-Aging Medicine.* 2007; 4(2):57-62
 - 81) Inoue E, Ishimi Y, Yamauchi J: Differential Regulation of Extracellular Signal-related Kinase Phosphorylation by Vitamin D3 Analogs. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry.* 2008; 72(1):246-249
 - 82) Usui C, Takahashi E, Gando Y, Sanada K, Oka J, Miyachi M, Tabata I, Higuchi M: Relationship between Blood Adipocytokines and Resting Energy Expenditure in Young and Elderly Women. *J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo).* 2008; 53(6):529-535
 - 83) Kashiwagi K, Harada K, Yano Y, Kumadaki I, Hagiwara K, Takebayashi J, Kido W, Virgona N, Yano T: A redox-silent analogue of tocotrienol inhibits hypoxic adaptation of lung cancer cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 2008; 365:875-881
 - 84) Kawamura N, Kugimiya F, Oshima Y, Ohba S, Ikeda T, Saito T, Shinoda Y, Kawasaki Y, Ogata N, Hoshi K, Akiyama T, Tobe T, Kadowaki T, Azuma Y, Nakamura K, Chung UI, Kawaguchi H: Akt1 in osteoblasts and osteoclasts controls bone remodeling. *PLoS ONE.* 2007; 2: e1058
 - 85) Horikoshi M, Hara K, Ito C, Shojima N, Nagai R, Ueki K, Froguel P, Kadowaki T: Variations in the HHEX gene are associated with increased risk of type 2 diabetes in the Japanese population. *Diabetologia.* 2008; 50:2461-2466
 - 86) Kadowaki T, Yamauchi T, Kubota N: The physiological and pathophysiological role of adiponectin and adiponectin receptors in the peripheral tissues and CNS. *FEBS Lett.* 2008; 582(1):74-80
 - 87) Penalvo JL, Adlererentz H, Uehara M, Ristimaki A, Watanabe S: Lignan content of selected foods from Japan. *J Agric Food Chem.* 2008; 56(2):401-409
 - 88) Morita A, Ohmori Y, Suzuki N, Ide N, Morioka M, Aiba N, Sasaki S, Miyachi M, Noda M, Watanabe S: Anthropometric and Clinical Findings in Obese Japanese: The Saku Control Obesity Program (SCOP). *Anti-Aging Med.* 2008; 5(1):13-16
 - 89) Takahashi Y, Murakami K, Morita A, Aiba N, Sasaki S: Baseline dietary intake in the Saku Control Obesity Program (SCOP). *Anti-Aging Med.* 2008; 5(1):6-12
 - 90) Tanaka S, Ohkawara K, Ishikawa-Takata K, Morita A, Watanabe S: Accuracy of predictive equations for basal metabolic rate and contribution of abdominal fat distribution to basal metabolic rate in obese Japanese people. *Anti-Aging Med.* 2008; 5(1):17-21
 - 91) Miyachi M, Ohmori Y, Yamamoto K, Kawano H, Murakami H, Morita A, Watanabe S: The Use of a Uniaxial Accelerometer to Assess Physical-activity-related Energy Expenditure in Obese Men and Women: Saku Control Obesity Program (SCOP). *Anti-Aging Med.* 2008; 5(1):1-5
 - 92) Miyoshi M, Hayashi F, Arai Y, Nozue M, Yoshita K, Yoshiike N: Regional Characteristics of Secular Changes in Obesity-Related Lifestyle Behavior in Japan. *Anti-Aging Med.* 2008; 5(2):30-38
 - 93) Tsuboyama-Kasaoka N, Sano K, Shozawa C, Osaka T, Ezaki O: Studies of UCP2-transgenic and -knockout mice reveal that liver UCP2 is not essential for the anti-obesity effects of fish oil. *Am J Physiol Endocrinol Metab.* 2008; 294(3):E600-E606
 - 94) Takezawa J, Ishimi Y, Yamada K: Proteasome inhibitors remarkably prevent translesion replication in cancer cells but not normal cells. *Cancer Science.* 2008;
 - 95) Aiba N, Watanabe S, Morita A, Suda N, Taguchi H, Miyachi M: Nutritional Education and Exercise Treatment Based on Cognitive Behavioral Treatment in Saku Control Obesity Program (SCOP). *Anti-Aging Med.* 2008; 5(2):39-45
 - 96) Okazaki H, Tazoe F, Okazaki S, Isoo N, Tsukamoto K, Sekiya M, Yahagi N, Iizuka Y, Ohashi K, Kitamine T, Tozawa R, Inaba T, Yagyu H, Okazaki M, Shimano H, Shibata N, Arai H, Nagai R, Kadowaki T, Ishibashi S: Increased cholesterol biosynthesis and hypercholesterolemia in mice overexpressing squalene synthase in the liver. *J. Lipid Res.* 2007, 48 (7) :1581-1591
- b. 和文
- 1) 鈴木洋子, 仲田瑛子, 金高有里, 大坂寿雅, 井上修二: マウスの内側視床下部破壊による腹部臓器組織細胞の増殖: 視床下部腹内側核の役割. *肥満研究.* 2007; 13:290-295
 - 2) 梅垣敬三, 鍛冶木いつ子: 栽培シオデ(牛尾菜)の栄養成分. *栄養学雑誌.* 2007; 65:81-84
 - 3) 宮武伸行, 松本純子, 西川英隆, 国橋由美子, 藤井昌史, 宮地元彦, 高橋佳子, 沼田健之: メタボリックシンドロームと生活習慣との関連. *保健の科学.* 2007; 49(5):355-359
 - 4) 卓興鋼, 梅垣敬三, 田辺宏樹, 陳文, 談景旺, 渡邊昌: 中国における癌の補完代替医療に関する研究. *日本補完代替医療学会誌.* 2007; 4(2):59-69
 - 5) 今泉圭隆, 吉池信男, 白石寛明, 鈴木規之: 一律基準を組み入れた食品残留農薬リスク評価と残留

- 農薬実測結果の不確実性を加味した曝露評価. 環境化学. 2007; 17:435-441
- 6) 久保田晃生, 永田順子, 杉山眞澄, 藤田信, 高田和子, 太田壽城: 高齢者における Quality of Life の縦断的变化に関する研究. 厚生の指標. 2007; 54(7):32-40
 - 7) 井上裕子, 榎原周平, 西牟田守, 福井徹, 渡邊敏明: 健康成人女性におけるビオチンの吸収と排泄についての検討. 日本臨床栄養学会雑誌. 2007; 29(1):28-34
 - 8) 早淵仁美, 久野真奈見, 松永泰子, 吉池信男: 秤量記録法による食事調査データを用いた系統的分析に基づく料理分類の試み. 日本栄養・食糧学会誌. 2007; 60(4):189-198
 - 9) 内山成人, 木村弘之, 上野友美, 鈴木淑水, 只野健太郎, 石見佳子: *Lactococcus garvieae* の食品中からの検出およびヒト腸内在性. 腸内細菌学雑誌. 2007; 21:221-225
 - 10) 田中千晶, 田中茂穂, 河原純子, 緑川泰史: 一軸加速度計を用いた幼児の身体活動量の評価精度. 体力科学. 2007; 56(5):489-499
 - 11) 佐藤陽子, 星山佳治, 小島彩子, 橋本洋子, 中西朋子, 遠藤香, 梅垣敬三: 薬剤師、栄養士、一般人のサプリメント利用行動と意識の実態に関する検討. 臨床栄養. 2007; 11(5):675-684
 - 12) 矢野友啓, 柏木維人, 佐藤洋美: がん抑制遺伝子 (コネキシン 43) の発現・機能回復による中皮腫発生抑制に関する研究—大豆由来の Bowman-Birk protease inhibitor を用いた検討—. 大豆たん白質研究. 2007; 10:115-119
 - 13) 卓興綱, 陳健斌, 平井哲也, 渡邊昌: ポリフェノール多項目個別測定の意味と応用. FOOD STYLE 21. 2007; 11(10):95-98
 - 14) 高橋恵理, 樋口満, 細川優, 田畑泉: 若年成人女性の基礎代謝量と身体組成. 栄養学雑誌. 2007; 65(5):241-247
 - 15) 倉掛重精, 梅田 孝, 中路重之, 熊江隆, 岡村典慶, 明石秀伸, 村田洋介, 海老根直之, 藤崎晶子, 寺町芳子: 冬季のマラソンが選手の生体に及ぼす影響 (2) - 完走者とは非完走者の血液成分の比較 -. 体力・栄養・免疫学雑誌. 2007; 17(2):100-112
 - 16) 須藤紀子, 清野富久江, 吉池信男: 自然災害発生後の自治体による栄養・食生活支援. 日本集団災害医学会誌. 2007; 12(2):169-177
 - 17) 野末みほ, 猿倉薫子, 荒井裕介, 由田克士: 栄養素摂取量の算出におけるデータベースのあり方—調理加工食品や特定の栄養素が強化されている食品からの栄養素摂取に着目して—. 日本循環器予防学会誌. 2007; 42(2):129-133
 - 18) 梅垣敬三: 健康食品素材の品質と製品の有効性・安全性. 薬学雑誌. 2007; 127(suppl.4):89-92
 - 19) 卓興綱, 梅垣敬三, 渡邊昌: 国内における健康機能食品の現状と動向. アンチ・エイジング医学 - 日本抗加齢医学会雑誌. 2008; 4(1):21-29
 - 20) 永山寛, 木村靖夫, 島田美恵子, 中川直樹, 西牟田守, 大橋正春, 宮崎秀夫, 浜岡隆文, 吉武裕: 都市在住高齢者における日常生活での歩数と体力との関係. 体力科学. 2008; 57(1):151-162
 - 21) 久野真奈美, 早淵仁美, 松永泰子, 吉池信男: 料理中の栄養素及び食品構成による料理群分類方法の検討—クラスター分析による料理型との比較. 栄養学雑誌. 2008; 66(1):15-23
 - 22) 高橋恵理, 薄井澄誉子, 田畑泉, 樋口満: 若年女性の基礎代謝量は除脂肪体重から高い精度で推定できる—スポーツ選手と運動習慣のない女性を対象とした研究—. トレーニング科学 20(1):25-31, 2008. 2008
- (3) 総説
- a. 英文
 - 1) Yoshiike N, Hayashi F, Takemi Y, Mizoguchi K, Seino F: A new food guide in Japan: The Japanese Food Guide Spinning Top. Nutr Rev. 2007; 65(4):149-154
 - 2) Yano T, Sato H, Hagiwara H, Virgona N: Conenxin genes as promising therapeutic targets in cancers. Current Pharmacogenomics. 2007; 5:314-318
 - b. 和文
 - 1) 饗場直美: 抗酸化食品と免疫老化の予防. 乳酸菌ニュース. 2007; 456:5-10
 - 2) 由田克士: 循環器疾患を予防するための栄養・食生活からのアプローチ. 日本循環器病予防学会誌. 2007; 42(1):14-22
 - 3) 窪田直人, 窪田哲也, 門脇孝: インスリン作用の分子機構 血管内皮におけるインスリン作用 分子糖尿病学の進歩. 基礎から臨床まで (1344-0861). 2007; 2007:36-40
 - 4) 門脇孝: 糖尿病の治療に関する最近の知見 PROactive Study の結果とその解釈 2 型糖尿病患者における心血管イベントの発症抑制効果. 分子糖尿病学の進歩: 基礎から臨床まで 2007. 2007; 102-107
 - 5) 門脇孝, 植木浩二郎, 野田光彦: 【糖尿病の新しい治療戦略】合併症の治療戦略 糖尿病予防のための戦略研究 J-DOIT3. 最新医学. 2007; 62(4):910-915
 - 6) 山内敏正, 門脇孝: 【糖尿病の新しい治療戦略】糖尿病の治療戦略 インスリン抵抗性改善薬の現状と未来. 最新医学. 2007; 62(4):867-879
 - 7) 戸辺一之, 植木浩二郎, 中江淳, 門脇孝: 【アンチエイジングに迫る】インスリンはアンチエイジングの鍵分子か?. Life Style Medicine. 2007; 1(2):140-147
 - 8) 原一雄, 門脇孝: 糖尿病の病態と診断に関する最近の知見 高分子量アディポネクチン測定の臨床的意義. 分子糖尿病学の進歩: 基礎から臨床まで 2007. 2007; 80-85
 - 9) 窪田直人, 窪田哲也, 門脇孝: インスリン作用の分子機構 血管内皮におけるインスリン作用. 分子糖尿病学の進歩: 基礎から臨床まで 2007. 2007; 80-85
 - 10) 亀井望, 戸辺一之, 窪田直人, 山内敏正, 門脇孝:

- 【動脈硬化と炎症】アディポカインと炎症、炎症と免疫. 2007; 15(3):321-326
- 11) 岡崎由希子, 植木浩二郎, 門脇孝: 女性と生活習慣病 女性とアディポカイン. 産科と婦人科. 2007; 74(4):426-431
 - 12) 山内敏正, 門脇孝: 特集 糖尿病の新しい治療戦略 インスリン抵抗性改善薬の現状と未来. 最新医学社. 2007; 62(4):35-47
 - 13) 林芙美, 吉池信男: 周産期と食育. 周産期医学. 2007; 37(5):541-545
 - 14) 羽田裕亮, 門脇孝: メタボリックシンドロームと脂質代謝異常. 臨床検査. 2007; 医学書院
 - 15) 山内敏正, 門脇孝: 【糖尿病による心血管合併症】インスリン抵抗性と動脈硬化症. BIO Clinica. 2007; 22(5):388-394
 - 16) 羽田裕亮, 山内敏正, 門脇孝: 【脂質】脂質代謝異常と疾病 メタボリックシンドロームと脂質代謝異常. 臨床検査. 2007; 51(5):493-498
 - 17) 羽田裕亮, 山内敏正, 門脇孝: 【脂質】脂質代謝異常と疾病 メタボリックシンドロームと脂質代謝異常. 臨床検査. 2007; 51(5):493-498
 - 18) 金子和真, 植木浩二郎, 門脇孝: 【メタボリックシンドローム研究の進展】Metabolic syndrome の成因. 内分泌・糖尿病科. 2007; 24(5):414-424
 - 19) 山内淳: AMP 活性化プロテインキナーゼシグナル伝達による糖新生酵素遺伝子発現調節機構. ILSI japan. 2007; 89:10-19
 - 20) 門脇孝: 【メタボリックシンドローム up to date】基礎 アディポサイトカイン. 日本医師会雑誌. 2007; 136(1):S71-S75
 - 21) 原一雄, 門脇孝: 【メタボリックシンドローム up to date】トピックス 俟約遺伝子仮説. 日本医師会雑誌. 2007; 136(1):S288-S289
 - 22) 松下由実, 戸辺一之, 原一雄, 門脇孝: 【メタボリックシンドローム up to date】メタボリックシンドロームは予防医学のなかで、どのように位置づけられますか? . 日本医師会雑誌. 2007; 136(1):S259-S260
 - 23) 山内敏正, 原一雄, 門脇孝: 【メタボリックシンドローム up to date】検査・診断 アディポネクチン. 日本医師会雑誌. 2007; 136(1):S179-S184
 - 24) 松下由実, 戸辺一之, 原一雄, 門脇孝: 【メタボリックシンドローム up to date】病態 メタボリックシンドロームとインスリン抵抗性・糖代謝異常. 日本医師会雑誌. 2007; 136(1):S114-S119
 - 25) 山内敏正, 門脇孝: 【メタボリックシンドローム up to date】アディポサイトカインとメタボリックシンドロームの病態との関連は? . 日本医師会雑誌. 2007; 136(1):S107-S107
 - 26) 矢野友啓: 抗がん分子標的としてのヒストン脱アセチル化酵素(HDAC)と食品由来成分の HDAC 活性阻害作用. ビタミン. 2007; 81(5-6):238-240
 - 27) 石脇亜紗子, 吉池信男: メタボリックシンドロームと国民栄養. Life Style Medicine. 2007; 1(3):281-287
 - 28) 吉池信男, 石脇亜紗子: 栄養学見地から見たメタボリックシンドローム. 日本医師会雑誌. 2007; 136(特別号(1)):S62-S64
 - 29) 山内敏正, 門脇孝: オスモチン. 臨床栄養. 2007; 111(1):10-11
 - 30) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療戦略. Osteoporosis Japan. 2007; 15(3):61(403)-73(415)
 - 31) 山内敏正, 門脇孝: アディポネクチンの臨床応用の現状・展望(Q&A). 日本医事新報. 2007; 4344:86-87
 - 32) 山内敏正, 門脇孝: 【脂質代謝異常、高脂血症、低脂血症】高脂血症と動脈硬化 動脈硬化発症にかかわるアディポサイトカインの役割. 日本臨床. 2007; 65(7):63-70
 - 33) 岡崎由希子, 植木浩二郎, 門脇孝: 糖尿病予防のための戦略研究課題 3(J-DOIT3)とは何か その意義と展望. ブラックティス. 2007; 24(4):425-430
 - 34) 山内敏正, 門脇孝: 脂質代謝異常—高脂血症・低脂血症— 概論 高脂血症と動脈硬化 動脈硬化発症にかかわるアディポサイトカインの役割. 日本臨床. 2007; 65(7):63-70
 - 35) 田中茂穂: 身体活動レベル(PAL)とエネルギー必要量. 臨床スポーツ医学. 2007; 24(8):847-853
 - 36) 宇田川孝子, 吉池信男: 肥満と死亡率. BIO Clinica. 2007; 22(10):915-920
 - 37) 宮地元彦: 「エクササイズガイド 2006」から知る生活習慣病予防の運動科学. コーチング・クリニック. 2007; 2007(8):22-26, 東京
 - 38) 原眞澄, 門脇孝: 【肥満の治療は必要か】なぜ肥満は問題なのか. 臨床と研究. 2007; 84(8):1041-1045
 - 39) 石見佳子: サプリメントと骨の健康. 日本臨床栄養協会誌. 2007; 23(1):16-22
 - 40) 秋葉澄伯, 水野正一: 低線量放射線被ばくによるがんリスクの評価. 放射線生物研究. 2007; 42(3):239-247
 - 41) 門脇孝, 伊藤千賀子, 加来浩平, 難波光義: 2 型糖尿病を糖尿病治療薬からアプローチ 2 型糖尿病を糖尿病治療薬からアプローチ. 糖尿病 UP-DATE. 2007; 23:134-153
 - 42) 門脇孝: 2 型糖尿病を糖尿病治療薬からアプローチ 2 型糖尿病とオーダーメイドによる経口糖尿病治療薬の選択とは. 糖尿病 UP-DATE. 2007; 23 :82-105
 - 43) 原 一雄, 門脇孝: 糖尿病とゲノム. 最新医学第 62 巻 9 月増刊号 臨床遺伝学 ' 07. 2007; 7:2164-2176
 - 44) 窪田直人, 門脇孝: 【解明が進むメタボリックシンドローム 脂肪細胞の機能からエネルギー代謝・摂食・心血管系の制御機構、予防と治療まで】メタボリックシンドロームの予防と治療 PPAR γ を介するメタボリックシンドロームの治療. 実験医学. 2007; 25(15):2458-2464
 - 45) 山内敏正, 門脇孝: アディポサイトカイン調節を改善する食事療法. Adiposience. 2007; 4(3):281-289

- 46) 山内敏正, 門脇孝: 【メタボリックシンドロームと循環器疾患】アディポネクチン受容体異常からみたメタボリックシンドローム. 呼吸と循環. 2007; 55(9):969-975
- 47) 岡崎由希子, 植木浩二郎, 門脇孝: 【メタボリックシンドローム】糖尿病. 心療内科. 2007; 11(5):296-301
- 48) 家光素行, 宮地元彦: HDL コレステロールをアップさせる運動療法. 食生活. 2007; 101(10):30-36
- 49) 江崎治, 三浦進司: 運動とアディポサイトカイン. Adipo science. 2007; 4(3):255-259
- 50) 梅垣敬三: 健康食品の実態・情報とその効果的な利用. 食品工業. 2007; 50(18):54-60
- 51) 吉川敏一, 大澤俊彦, 桜井弘, 中村丁次, 門脇孝: 【創刊記念座談会】いま、なぜ機能性食品なのか?. Functional Food. 2007; 1(1):6-16
- 52) 柏木維人, 矢野友啓: ミトコンドリアを標的にした抗がん成分 (Mitocan) としてのビタミン E redox-silent 誘導体. ビタミン. 2007; 81(11):578-580
- 53) 宮地元彦, 家光素行, 村上晴香: 高血圧症、特集生活習慣病の発症機序と身体活動・運動. 体育の科学. 2007; 57(12):881-887, 杏林書院(東京)
- 54) 吉池信男, 林英美: 妊娠中の栄養と胎児発育. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 2007; 43(4):861-865
- 55) 永田純一: トランス脂肪酸に関する最近の話題 - トランス脂肪酸過剰摂取に対する欧米諸国の対応と日本の現状について. 日本食生活学会誌. 2007; 18(3):211-215
- 56) 西牟田守: 精神医学に対する生理学的アプローチ. 最新精神医学. 2008; 13(1):23-27
- 57) 三戸夏子, 瀧本秀美: 葉酸と胎児発育. ビタミン. 2008; 82(1):19-23
- 58) 饗場直美, 山田和彦: 健康食品の国際的な機能表示. ANTI-AGING MEDICINE. 2008; 4(1):30-36
- 59) 窪田直人, 山内敏正, 門脇孝: 肥満・インスリン抵抗性に対する分子標的治療. 細胞工学. 2008; 27(1):44-47
- 60) 窪田哲也, 窪田直人, 門脇孝: 血管内皮機能とインスリン抵抗性. 日本薬理学会誌. 2008; 131:85-88
- (4) 解説等
 - a. 英文
 - 1) Ishikawa-Takata K, Tabata I: Exercise and physical activity reference for health promotion 2006 (EPAR2006). J Epidemiol. 2007; 17(5):177
 - 2) Watanabe S, Morioka M: Letter to the Editor. Anti-Aging Med. 2007; 4(2):74-75
 - b. 和文
 - 1) 石見佳子: 栄養・食糧学用語辞典. 日本栄養・食糧学会編. 2007; 建帛社, 東京
 - 2) 宮地元彦, 元持茂: エクササイズガイド徹底活用. 健康づくり. 2007; 355:1-6
 - 3) 吉池信男: 「食育」におけるポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ. 母子保健情報. 2007; 56(11):5-8
 - 4) 手嶋登志子: 摂食・嚥下障害と食事 嚥下障害食 -ユニバーサルデザインフード(UDF)の活用. 総合リハビリテーション. 2007; 35(1):62-63
 - 5) 高田和子: 運動基準 2006・運動指針 2006(エクササイズガイド 2006)をより深く理解するために. 栄養学雑誌. 2007; 65(3):155-159
 - 6) 手嶋登志子: QOL を高める食介護支援 ~ 介護食のこれから ~ 高齢者栄養管理の重要なキーワード「食介護」を理解しよう. 食生活 2007;101-3. 2007; 饗場直美: 食育の現状 ~ 問題点とこれからの課題 ~. 食生活. 2007; 101(5):16-21
 - 8) 吉池信男: これからの社会で期待される管理栄養士. 管理栄養士コースで学ぶ ~ キャリアデザインのために ~. 2007; 2-4, 同文書院, 東京
 - 9) 吉池信男: 平成 20 年度から始まる新しい健診・保健指導 ~ より効果的な生活習慣病予防をめざして. NR ニュース, 栄養情報担当者(NR)協会機関誌. 2007; 1-1
 - 10) 政安静子, 吉池信男: 「食事バランスガイド」を使ったらくらく食生活サポートマニュアル. 社団法人日本栄養士会. 2007;
 - 11) 高田和子: 生活機能評価の考え方. 体育の科学. 2007; 57(4):260-264
 - 12) 高田和子: 摂取したエネルギーの体内での吸収. 体力科学. 2007; 56(2):287-290
 - 13) 梅垣敬三: 「健康食品」の安全性・有効性情報サイト (<http://hfnet.nih.go.jp/>) の概要と役割. ソフト・ドリンク技術資料. 2007; 83-91
 - 14) 梅垣敬三: 「健康食品」の安全性・有効性情報 (http://hfnet.nih.go.jp) の現状と今後の課題. けんしよくこん 健康と食品懇話会. 2007; 27-32
 - 15) 廣田晃一: 出典を明記すれば. 臨床栄養. 2007; 110(4):467-467
 - 16) 増田邦子, 手嶋登志子: 摂食・嚥下障害と食事 嚥下障害食 - 介護老人福祉施設における経口維持への対応. 総合リハビリテーション. 2007; 35(2):62-63
 - 17) 渡邊昌: 油脂関連の健康素材, 大豆関連(大豆イソフラボン). 油脂. 2007; 24-27, 東京
 - 18) 吉池信男: 世界に誇ることのできる生活習慣病対策. KAO ヘルスケアレポート, 花王健康科学研究会. 2007; 2-3
 - 19) 梅垣敬三: 「健康食品の安全性・有効性情報」のサイトについて. 日本調理科学会誌. 2007; 202-205
 - 20) 饗場直美: IT を用いた自己学習とは. 肥満と糖尿病. 2007; 6(3):523-524
 - 21) 渡邊昌: 農業技術進化系. 農業経営者. 2007; 15(5):87, 東京
 - 22) 渡邊昌(監): 腹囲の測定 おなかが出てきたら要注意. 元気ライフ 21. 2007; 4-5, 東京
 - 23) 梅垣敬三: 質疑応答 健康食品による劇症肝炎. 日本医事新報. 2007; 97
 - 24) 田畑泉: 新しい運動基準と運動指針. 臨床整形外科. 2007; 42(5):424-426, 東京
 - 25) 梅垣敬三: 健康食品等の利用と薬剤師の役割. 岩

- 手県薬剤師会誌 イーハトープ. 2007; 3-9
- 26) 廣田晃一: ウェーバーの社会科学について. 臨床栄養. 2007; 110(6):923-923
- 27) 伊藤裕, 門脇孝: 糖尿病合併高血圧治療について考える 高血圧治療薬の位置づけ. Progress in Medicine. 2007; 27(6):1367-1373
- 28) 谷本道哉, 宮地元彦: タンパク質サプリメントの摂取と代謝. 日本医事新報. 2007; 4338:95-96, (東京)
- 29) 高田和子: フィットネスと栄養(翻訳). メイヨークリニックのフィットネス・ガイド. 2007;
- 30) 高田和子: 高齢者の健康増進のための運動栄養. FOOD Style21. 2007; 11(7):42-45
- 31) 永田純一: マーガリンにはトランス脂肪酸が含まれるためアメリカでは使用禁止の動きがあると聞きました. 食べても大丈夫なのでしょうか. 健康づくり. 2007;
- 32) 増田邦子, 手嶋登志子: 摂食・嚥下障害と食事嚥下障害食一家族への栄養・食事指導. 総合リハビリテーション. 2007; 35(2):62-63
- 33) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの分子機構と治療戦略. 阿蘇シンポジウム記録 30 回. 2007; 77-93
- 34) 廣田晃一: あなたの人生の物語(仮). 臨床栄養. 2007; 111(2):271-271
- 35) 田畑泉: 厚生労働行政における最近の身体活動・運動施策の変化. 体育の科学. 2007; 57(8):580-584
- 36) 由田克士: 平成 17 年国民健康・栄養調査の概要を読む 子どもの体型と生活習慣・メタボリックシンドロームの状況を中心に. 食生活. 2007; 101(8):96-101
- 37) 宇田川孝子, 吉池信男: 「健康日本 21」の中間評価 ~ 栄養・食生活分野を中心に ~. 栄養学レビュー. 2007; 15(4):69-74
- 38) 吉池信男: 「食事バランスガイド」のねらいと特徴 ~ 世界初の料理選択型ガイド. Wellness Letter. 2007; 2-3, 財団法人明治安田厚生事業団
- 39) 高田和子: 強い運動と肥満予防が高血圧発症リスクを軽減させる. 健康づくり. 2007; 11, 社会保険研究所
- 40) 由田克士: 国民健康・栄養調査結果(平成 17 年)概要から 今、日本人の健康・栄養状態は. ヘルシスト. 2007; 31(5):23-29
- 41) 廣田晃一: 科学 * 根拠のスキ * マ. 臨床栄養. 2007; 111(5):703-703
- 42) 松村康弘: コーヒー摂取と肝がんリスク: メタ解析(文献紹介). 栄養学雑誌. 2007; 65(5):266-266
- 43) 梅垣敬三: 健康食品の有害事象の事例と解説, 有害事例の特徴. Functional Food. 2007; 1(1):90-95
- 44) 堀越桃子, 原一雄, 門脇孝: TCF7L2 2 型糖尿病の主要遺伝子. BIO Clinica. 2007; 22(11):990-995
- 45) 石見佳子: ビタミン K2 の補充摂取は閉経後女性の大腿骨頸部の構造と骨強度を改善する. 文献紹介. 2007; 65(5):47, 栄養学雑誌
- 46) 山田和彦: 食品表示(1)(2). 病気予防百科. 2007; 898-901, 日本医療企画
- 47) 吉池信男: 生活環境・環境保健. 図説国民衛生の動向 2007, (財)厚生統計協会. 2007;
- 48) 吉池信男: エネルギー摂取量と糖尿病の関係は?. 肥満と糖尿病. 2007; 6(6):931-934
- 49) 宮地元彦: 保健指導の道しるべ. けんぼれんあいち. 2007; 278:2-4
- 50) 吉池信男: [監修] 食事と運動で生活習慣病の予防・改善へ. 健康増進のしおり. 2007; 日本栄養士会
- 51) 武見ゆかり, 吉池信男: これ見てマスター「食事バランスガイド」学習ツール. 第一出版. 2007; 社)日本栄養士会監修
- 52) 廣田晃一, 古池直子, 細井俊克, 海老原美樹: ウェブ上の一般向け健康栄養情報の新たな判別法の検討. 医療情報学. 2007; 27((Suppl.):1273-1274
- 53) 細井俊克, 海老原美樹, 古池直子, 廣田晃一: 健康・運動関連情報の分析 ~ 運動方法学的観点からの運動ニュース解析(2006-2007). 医療情報学. 2007; 27((Suppl.):935-936
- 54) 海老原美樹, 古池直子, 細井俊克, 廣田晃一: 海外論文ニュースにおける情報収集ツールとしての可能性(Web リサーチとインタビューによる 20-30 代男性の生活習慣把握). 医療情報学. 2007; 27((Suppl.):1314-1317
- 55) 古池直子, 梅國智子, 辻(-田中)雅子, 海老原美樹, 細井俊克, 松村康弘, 廣田晃一: 小学生向け健康栄養情報サイトの構築. 医療情報学. 2007; 27((Suppl.):1259-1262
- 56) 高田和子: 体力向上、肥満解消で心臓血管系疾患は予防できる. 健康づくり. 2007; 11, 社会保険研究所
- 57) 梅垣敬三: 製品としてのサプリメントの有効性・安全性の考え方. 日本抗加齢医学会雑誌. 2007; 14:398-402
- 58) 佐藤陽子, 梅垣敬三: 子どもの食とサプリメント. 母子保健情報. 2007; 56:73-77
- 59) 石見佳子: 「イソフラボン」の上手な摂り方は?. うかたま. 2007; 9:88-89
- 60) 廣田晃一: 健康栄養学情報探索頁. 臨床栄養. 2007; 111(7):953-953
- 61) 高田和子: 体力向上が脳卒中の発症リスクを軽減させる. 健康づくり. 2007; 11, 社会保険研究所
- 62) 森田明美: 健康づくり Q&A カルシウムの摂取法. 月刊健康づくり. 2007;
- 63) 田中茂穂: やせの国際比較に有用な国際基準が提案された. The Mainichi Medical Journal. 2008; 4(1):22, 毎日新聞社(東京)
- 64) 三戸夏子, 瀧本秀美: 今注目を浴びている栄養素、葉酸の働きと疾患の予防効果について. 野菜情報. 2008; 46:24-29
- 65) 松村康弘: 健康食品を用いた統合医療と評価制度の現状. 公衆衛生. 2008; 72(2):120-124, 東京
- 66) 梅垣敬三: 健康づくり Q&A ミネラルウォーター. 健康づくり(財団法人健康・体力づくり事業財団). 2008; 24-24
- 67) 宇津木 恵, 大久保 孝義: 「日常臨床に役立つ

- 高血圧診断のエビデンス - ハイリスク女性における高ホモシスチン血症の意義」. 先端医学社. 2008; 74-75
- 68) 石見佳子: 「植物性エストロゲン」の秘密を探る. 毎日ライフ. 2008;
- 69) 石見佳子: 健康づくり Q&A: コラーゲンとは. 健康づくり. 2008; 357:24
- 70) 廣田晃一: えいよう・こみゅーん. 臨床栄養. 2008; 112(2):231-231
- 71) 廣田晃一: 栄養士のためのお役立ちサイト (1)(独)国立健康・栄養研究所 HP. 臨床栄養. 2008; 112(2):126-127
- 72) 高田和子: 身体活動量が高いことと適切な体重でいることが高血圧症の発症を予防する. 健康づくり. 2008; 11, 社会保険研究所
- 73) 手嶋登志子: 摂食・嚥下機能と食介護ー飲み込みやすい食形態と栄養アセスメント 嚥下障害者に対する栄養補給の考え方. 食生活. 2008; 102(2):23-26
- 74) 荒井裕介: 管理栄養士に役立つガイドライン. これからの管理栄養士(からだの科学増刊). 日本評論社. 2008; 41-41
- 75) 荒井裕介: 管理栄養士として知っておきたい法律. これからの管理栄養士(からだの科学増刊). 日本評論社. 2008; 73-73
- 76) 荒井裕介: 管理栄養士に関係する学会・研究会. これからの管理栄養士(からだの科学増刊). 日本評論社. 2008; 108-108
- 77) 由田克士: 国民健康・栄養調査について. 食品衛生学雑誌. 2008; 49(1):J-17-J-18
- 78) 石見佳子: 更年期ヘルスケアにおける大豆イソフラボンの位置づけ. 日本更年期学会ニューズレター. 2008; 13(3):20
- 79) 吉池信男: [監修] 食事バランスガイド～あなたの身体を大切に～. 健康・体力づくり事業財団, 平成 19 年度健康・体力づくり視覚教材(DVD)制作事業. 2008;
- 80) 須藤紀子, 吉池信男: 県型保健所管内市町村における災害時の栄養・食生活支援に対する準備状況. 栄養学雑誌. 2008; 66(1):31-37
- 81) 宇田川孝子, 吉池信男: [文献紹介] アメリカ人の食生活指針 2005 年版とメタボリックシンドロームのリスク. 栄養学雑誌. 2008; 66(1):56
- 82) 吉池信男, 石田裕美, 政安静子: これからの管理栄養士. からだの科学・増刊, 日本評論社. 2008;
- 83) 梅垣敬三: 「健康食品」・サプリメントをめぐって. からだの科学(増刊). 2008; 91
- 84) 竹林純, 加地弘明, 市山健司, 牧野和隆, 合田榮一, 山本格, 田井章博: 2-O-置換型アスコルビン酸誘導体によるフリーラジカル誘導性赤血球溶血反応の抑制. ビタミン. 2008; 82(3):187-189
- 85) 廣田晃一: 栄養士のためのお役立ちサイト(2)リンク DE ダイエット. 臨床栄養. 2008; 112(3):242-243
- 86) 松村康弘: 有効性の科学的根拠. New Diet Therapy. 2008; 23(4):25-30
- 87) 大賀英史: マインドフルネス認知療法の原理に基づく新しい食事と運動アドバイス. 臨床栄養. 2008; 112(3):335-339
- 88) 由田克士, 荒井裕介, 野末みほ, 石田裕美: これからの健康づくり支援策 ～食事支援～ 特定健診・保健指導と連動した職域における栄養・食生活改善(1)～取り組みの必要性を考える～. 労働安全衛生広報. 2008; 40(934):14-19
- 89) 江崎治: 健康づくり Q&A: オリーブオイルについて. 健康づくり. 2008; 31(3):24-24
- 90) 江崎治: 生活習慣病が心配. 毎日の食事での注意点は?. 改訂 家庭の安全・安心 発行: 財団法人全国危険物安全協会. 2008; 264-267
- (5) 研究班報告書
- 1) 由田克士, 荒井裕介, 猿倉薫子, 野末みほ: 行政による健康・栄養調査の精度向上を目指した保健所栄養士等を対象とする技術支援の在り方に関する研究(栄養摂取状況調査に関する分野での取り組み). 平成 18 年度 厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業 都道府県等の生活習慣リスク因子の格差及び経年モニタリング手法に関する検討(主任研究者: 吉池信男). 2007; 53-85
- 2) 吉池信男, 由田克士, 宇田川孝子: 国民健康・栄養調査における食事調査法の適正化に関する検討. 平成 18 年度 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業 都道府県等の生活習慣リスク因子の格差及び経年モニタリング手法に関する検討(主任研究者: 吉池信男). 2007; 86-96
- 3) 由田克士: 健診の事後に実施された栄養教育の有効性に関する検討. 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金「生活習慣病予防のための効果的な栄養教育手法に関する研究」. 2007;
- 4) 江崎治: モデル系を用いた環境要因の分子メカニズムについての解析. 厚生労働科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業、慢性疾患としての糖尿病の病期に注目した病態の解析と、新たな診断、治療法の探索. 平成 18 年度総括・分担研究報告書(主任研究者: 安田和基). 2007; 71-77
- 5) 田中茂穂, 田中千晶: 4. 子どもにおける身体活動・運動の測定方法に関する研究 4-2 加速度計および質問紙を用いた幼児の身体活動量測定法の検討. 平成 18 年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 日本の子どもにおける身体活動・運動の行動目標設定と効果の検証 - 第 1 報 -. 2007; 39-46
- 6) 田口素子, 高田和子, 石崎朔子, 佐伯徹郎, 森山進一郎: 女子アスリートのエネルギーバランスとエネルギー代謝に影響を及ぼす諸要因. 日本オリンピック委員会/日本コカ・コーラ スポーツ科学基金報告書. 2007;
- 7) 由田克士, 中川秀昭, 三浦克之, 荒井裕介, 猿倉薫子, 野末みほ, 石井美子, 大野尚子, 鈴木洋子, 福羅由美: 現業系職域における特定給食施設を中心

- とした取り組みに関する研究. 平成 18 年度 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業 勤労者の健康づくりのための給食を活用した集団及びハイリスク者への対策に関する研究(主任研究者: 石田裕美). 2007; 47-67
- 8) 丸井英二, 松村康弘, 林邦彦, 山路義生, 山本精一郎, 吉田亮一, 須貝佑一: 地域高齢者を対象としたコホート調査研究. 平成 18 年度老人保健健康増進等事業「認知症ケアの地域診断に基づいた効果的な地域包括ケア実施のための調査研究事業」. 2007;
 - 9) 太田仁史, 田中甲子, 東内京一, 村井千賀, 手嶋登志子, 中村育子, 水野三千代: 介護予防訪問介護による在宅版介護予防プログラムの開発および介入・評価. 平成 18 年度老人保健事業推進費補助費等補助金による報告書. 2007; 67-112
 - 10) 田畑泉, 宮地元彦, 田中茂穂, 高田和子, 増田和茂: 高齢者の運動による健康増進に関する学術論文の系統的レビューとそれに基づく文献データの作成. 平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業 主任研究者(田畑泉). 2007;
 - 11) 田畑泉, 樋口満, 田中宏暁, 林達也, 檜垣靖樹, 戸山芳昭: 「健康づくりのための運動指針」に関する研究 - 身体活動量増加による生活習慣病の一次予防効果 -. 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業)(主任研究者: 田畑泉). 2007;
 - 12) 田中茂穂, 高田和子, 宮地元彦, 佐々木敏, 内藤義彦, 海老根直行: エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究. 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業)報告書. 2007;
 - 13) 高橋佳子, 宮地元彦, 宮武伸行, 樋口満, 佐々木敏: 生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究. 厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業)(主任研究者: 高橋佳子). 2007;
 - 14) 梅垣敬三: いわゆる健康食品の安全性に影響する要因分析とそのデータベース化・情報提供に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金・食品の安心・安全確保推進研究事業. 2007;
 - 15) 山田和彦: 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金・食品の安心・安全確保推進事業・特定保健用食品の新たな審査基準に関する研究(主任研究者: 山田和彦). 2007;
 - 16) 矢野友啓: 大豆由来成分の新規食素材としての可能性. 平成 19 年度文部科学省科学研究費補助金実績報告書. 2007;
 - 17) 山田和彦, 石見佳子, 田畑泉, 西牟田守: 男性の骨粗鬆症・骨折の予防を目的とした運動と食品成分の併用効果に関する研究. 平成 18 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書. 2007;
 - 18) 矢野友啓: コネキシン遺伝子の癌抑制遺伝子機能の網羅的解析; 癌予防および治療への応用. 平成 18 年度政策創薬総合研究重点研究報告書. 2007; 196-207
 - 19) 石見佳子: 個体特性に着目した食品成分の骨粗鬆症に対する予防効果に関する研究. 平成 18 年度政策創薬総合研究重点報告書. 2007; 2:657-670
 - 20) 江崎治, 後藤 正英, 服部 浩明, 矢野 崇: 平成 18 年度政策創薬総合研究 重点研究報告書 ().(財)ヒューマンサイエンス振興財団. 2007; 235-246
 - 21) 石見佳子: 骨粗鬆症の予防における大豆イソフラボンの生体利用性に関する研究. サッポロ生物科学振興財団助成研究報告書. 2008;
 - 22) 門脇孝: アディポネクチンを標的にした糖尿病・メタボリック症候群の新規診断法・治療法の臨床応用. 平成 18 年度 厚生労働科学研究費補助金(基礎研究成果の臨床応用推進研究事業)総括研究報告書. 2008;
 - 23) 門脇孝: 厚生労働省多目的コホート班との共同による糖尿病実態及び発症要因の研究(若手医師・協力者活用に関する研究). 平成 18 年度 厚生労働省科学研究費補助金(臨床研究基盤整備推進研究事業)総括研究報告書. 2008;
 - 24) 門脇孝: 厚生労働省多目的コホート班との共同による糖尿病実態及び発症要因の研究(若手医師・協力者活用に関する研究). 平成 18 年度 厚生労働省科学研究費補助金(臨床研究基盤整備推進研究事業)総合研究報告書. 2008;
 - 25) 門脇孝: 厚生労働省多目的コホート班との共同による糖尿病実態及び発症要因の研究. 平成 18 年度 厚生労働省科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業)総括研究報告書. 2008;
 - 26) 門脇孝: 厚生労働省多目的コホート班との共同による糖尿病実態及び発症要因の研究. 平成 18 年度 厚生労働省科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業)総合研究報告書. 2008;
 - 27) 門脇孝: 脂肪毒性による生活習慣病・心血管疾患メカニズムの解明と制御法の確立に関する研究. 医薬品副作用被害救済・研究進行調査機構(保険医療分野における基礎研究推進事業)終了時評価用総括研究報告書. 2008;
 - 28) 江崎治, 山崎聖美: ニュートリゲノミクスを用いた高機能性新規食品の多機能性解明とその評価・管理に関する研究. 農林水産省 安信プロジェクト(安全で信頼性・機能性が高い食品・農産物供給のための評価・管理技術の開発)平成 19 年度運営委員会中間評価報告. 2008; 16 -17
 - 29) 高田和子, 小長谷陽子, 田中喜代次, 吉田祐子: 大規模コホートの観察研究に基づく生活機能低下スクリーニング指標の開発. 長寿科学総合研究事業報告書. 2008;
 - 30) 金子佳代子, 高田和子, 大森桂: 現在の小・中学生の生活スタイルと身体活動レベル(PAL)に関する

- る研究. 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (A) 報告書. 2008;
- 31) 杉山みち子, 加藤昌彦, 合田敏尚, 西村秋生, 高田和子, 太田貞司, 臼井正樹: 介護保険制度における栄養ケア・マネジメント事業評価に関する研究. 長寿科学総合研究事業報告書. 2008;
 - 32) 杉山みち子, 太田貞司, 木下福子, 合田敏尚, 小山秀夫, 西村秋生, 高田和子, 星野和子, 三橋扶佐子, 多田由紀: 施設及び居宅高齢者に対する栄養・食事サービスのマネジメントに関する研究. 老人保健事業推進等補助金報告書. 2008;
 - 33) 植田耕一郎, 相田潤, 大原里子, 北原稔, 木村隆次, 杉山みち子, 高田和子, 月岡正朋, 戸原玄, 三橋扶佐子: 介護予防給付の栄養改善・口腔機能改善の向上の実施に関する研究. 老人保健事業推進等補助金報告書. 2008;
- (6) 国際学会等
- a. 特別講演
 - 1) Kadowaki T: Adiponectin Signaling and Action. The 2nd Xiang-Ya Diabetes Immunology Symposium Lecture. 2007.04.27, Changsha, China
 - 2) Kadowaki T: The Role of Insulin Adiponectin Receptors in the Brain and Vasculature. Xth International Symposium on Insulin Receptors and Insulin Action. 2007.05.03, Stockholm, Sweden
 - 3) Kadowaki T: The Role of adiponectin in type 2 diabetes and metabolic syndrome. 2007 Turkish National Diabetes Congress. 2007.05.10, Istanbul, Turkish
 - 4) Kadowaki T: Adiponectin and adiponectin receptors. 2007 GORDON CONFERENCE ON ATHEROSCLEROSIS. 2007.06, ITALY
 - 5) Kadowaki T: Adiponectin and its receptors in insulin resistance, diabetes, and the metabolic syndrome. THE UNIVERSITY OF HONG KONG LI KA SHING FACULTY OF MEDICINE Research Centre of Heart, Brain, Hormone & Healthy Aging AS. 2007.09.03, Hong Kong
 - 6) Kadowaki T: Adiponectin and its receptors in insulin resistance, diabetes, and the metabolic syndrome. The Annual Scientific Meeting of The Australian Diabetes Society. 2007.09.05, New Zealand
 - 7) Kadowaki T: New roles of IRS-2 in compensatory beta cell hyperplasia and vascular function. The Annual Scientific Meeting of The Australian Diabetes Society. 2007.09.05, New Zealand
 - 8) 門脇孝: Strategy for the treatment of type2 diabetes and role of PPAR α agonist. Global Executive Management in Research and Development. 2007.09.20, 東京
 - 9) 門脇孝: Molecular Mechanism of type 2 diabetes. 14th Japan-Korea Symposium on Diabetes Mellitus Plenary Lecture 1. 2007.10.05, 京都
 - 10) 門脇孝: Modeling Diabetes and Metabolic Syndrome. 第 21 回 IMGC2007 国際哺乳類ゲノム会議. 2007.10.30, 京都
 - b. シンポジウム等
 - 1) Yamada K: Health claim evidence requirements in Japan. Canadian Nutrition Congress. 2007.06.21, Winnipeg, Canada
 - 2) Yano T: Anti-tumor effects of Bowman-Birk protease inhibitor from soybean: involvement of connexin 43. UNJR Food and Agricultural Panel, 36th Annual Meeting. 2007.10.22, つくば
 - 3) Takebayashi J, Kubo K, Saeki A, Yamada K, Saito M: Effect of Citrus aurantium combined with caffeine and/or tea catechins on body fat accumulation and its safety in rats. UNJR Food and Agricultural Panel, 36th Annual Meeting. 2007.10.22, つくば
 - 4) Nagata J: Effects of structured lipids (SLs) containing eicosapentaenoic (E) and docosahexaenoic (D) acid and caprylic acid (8) on lipid profiles in rats fed cholesterol diets and oxidative stability of SLs in vitro.. UNJR Food and Agricultural Panel, 36th Annual Meeting.. 2007.10.22, つくば
 - 5) 門脇孝: Modeling Diabetes and Metabolic Syndrome. 第 21 回 IMGC2007 国際哺乳類ゲノム会議. 2007.10.30, 京都
 - 6) Umegaki K: Evaluating Scientific Evidence – The Japanese Experience & Case Examples from FOSHU ". 2nd International Conference on East-West Perspectives on Functional Foods: Science, Innovations and Claims.. 2007.11.06, Kuala Lumpur
 - 7) 門脇孝: 「日本人、アジア人における肥満と糖尿病」 " Obesity and diabetes in Asian Countries ". 第 16 回国際医療協力シンポジウム. 2007.11.16, 東京
 - 8) Yoshiike N, Hayashi F, Miyoshi M: Social Determinants of Overweight in Men and Underweight in Women in Japan. The 39th Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health. 2007.11.23, Saitama, Japan
 - 9) Yoshita K: Role of National Health and Nutrition Survey in Japan. The 39th Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health. 2007.11.24, Saitama, Japan
 - 10) Ishimi Y: Effects of soybean isoflavones on bone health and its safety in postmenopausal Japanese women. 3rd International Conference of Polyphenols

- and Health 2007 Joint Symposium. 2007.11.28, 京都
- 11) Umegaki K: Evaluation of polyphenol safety focused on chromosomal damage and interaction with drugs.. The 3rd INTERNATIONAL CONFERENCE ON POLYPHENOLS AND HEALTH (ICPH 2007). 2007.11.28, Kyoto
 - 12) Ishikawa-Takata K, Ohta T: Recreation in the Elderly and Healthy Aging. 2007 SEA Games & ASEAN Para Games Scientific Congress and 5th Bangkok ASPASP International Congress on Sport Psychology. 2007.12.04, Bangkok, Thailand
 - 13) 門脇孝: Waist circumference: a Japanese perspective. IDF workshop in London. 2008.02.12, London
 - 14) Akiba S, Nakamura S, Mizuno S: Epidemiological Studies in High-Background Radiation Areas. NIRS International Symposium on the Effects of Low Dose Radiation. 2008.02.14, Chiba Japan
 - 15) Kadowaki T: Discovery of the function of adiponectine and the adiponectin receptor. Scientific Symposium marking the 20th anniversary of the opening of PBRC LOUISIANA STATE UNIVERSITY. 2008.03.03, LOUISIANA
 - 16) Kadowaki T: A KLF family transcription factor which regulates obesity-linked downregulation of adiponectin gene. 1st International Symposium on the Biology of the küppel-like factors (KLFS). 2008.03.06, Tokyo
 - 17) Kadowaki T: How does the beta cell adapt to insulin resisten. 9th Servier -IGIS Symposium. 2008.03.08, France
 - 18) 笠岡(坪山)宜代: Frontiers in Cellular Energetics, Diet & Cancer Prevention. NIH workshop. 2008.03.12
- c. 一般講演等
- 1) Sato H, Nagashima Y, Senba H, Hagiwara H, Negishi E, Ueno K, Yano T: The inhibitory effect of connexin 32 gene on metastasis in renal cell carcinoma. 100th Annual Meeting of American Association for Cancer Research. 2007.04.16, Los Angeles, CA, USA
 - 2) Yano T, Saito T, Kashiwagi K, Hagiwara H, Sato H: A New Mechanism on Anti-carcinogenic Effect of Bowman-Birk Protease Inhibitor (BBI) from Soybeans. 100th Annual Meeting of American Association for Cancer Research. 2007.04.17, Los Angeles, CA, USA
 - 3) Watanabe S: Intake of phytochemicals by Japanese and their health effects. International Perspectives on Dietary Supplement Regulation. 2007.04.17, Yokohama
 - 4) Kamada M, Inoue S, Yoshiike N, Komatsu T, Mutoh Y: The relationship between step counts, commuting mode and train station density -Japanese national data analysis. American College of Sports Medicine 54th Annual Meeting. 2007.05.30, New Orleans, USA
 - 5) Inoue S, Ishii K, Ohya Y, Odagiri Y, Takamiya T, Yoshiike N, Shimomitsu T: Weekly variations in duration of accelerometer use as a possible cause of measurement bias. American College of Sports Medicine 54th Annual Meeting. 2007.05.30, New Orleans, USA
 - 6) Miyachi M, Sanada K, Yamamoto K, Kawano H, Gando Y, Tanimoto M, Oh T, Ohmori Y, Higuchi M, Tabata I: Age, Flexibility, and Metabolic Syndrome. ACSM 54th Annual Meeting. 2007.05.30, New Orleans, Louisiana
 - 7) Yamamoto K, Kawano H, Gando Y, Sanada K, Tanimoto M, Oh T, Ohmori Y, Higuchi M, Tabata I, Miyachi M: Poor Flexibility is associated with Arterial Stiffening. ACSM 54th Annual Meeting. 2007.05.30, New Orleans, Louisiana
 - 8) Gando Y, Miyachi M, Kawano H, Sanada K, Yamamoto K, Tanimoto M, Oh T, Ohmori Y, Miyatani M, Usui C, Takahashi E, Tabata I, Higuchi M: Greater Age-related Arterial Stiffening and Left Ventricular Hypertrophy in Poor Cardiorespiratory Fitness Women. ACSM 54th Annual Meeting. 2007.05.30, New Orleans, Louisiana
 - 9) Sanada K, Yamamoto k, Miyachi M, Kawano H, Gando Y, Tanimoto M, Oh T, Ohmori Y, Suzuki K, Tabata I, Higuchi M: Fitness and the Predisposition to Metabolic Syndrome in Japanese Men and Women. ACSM 54th Annual Meeting. 2007.05.31, New Orleans, Louisiana
 - 10) Furuichi Y, Takakura H, Masuda K, Ishida K, Katayama K, Miyachi M, Akima H: Effect of Intensive Interval Training During Unloading on the Muscle Oxygenation Kinetics. ACSM 54th Annual Meeting. 2007.05.31, New Orleans, Louisiana
 - 11) Yoshida M, Nijima T, Yokoyama T, Miyachi M, Tabata I, Fujii Y: Effects of BCAA Supplementation on Markers of Muscle Damage and Inflammation during Low-Intensity Prolonged Exercise. American College of Sports Medicine 54th Annual Meeting. 2007.05.31, New Orleans, USA
 - 12) Kubota T, Kubota N, Kumagai H, Itoh S, Takamoto I, Mineyama T, Moroi M, Sugi K, Yamauchi T, Ueki K, Terauchi Y, Tobe K, Kadowaki T: Endothelial-cell specific IRS-2 deficient mice showed endothelial dysfunction and muscle insulin resistance Scientific Sessions 67th American Diabetes Association. 2007.06, Chicago
 - 13) Kubota N, Yano W, Kubota T, Ueki K, Yamauchi T, Itoh S, Terauchi Y, Ezaki O, Tobe K, Minokoshi Y, Kadowaki T: Adiponectin Stimulates AMP-Activated Protein Kinase in the Hypothalamus and Increases Food Intake. Scientific Sessions 67th American Diabetes Association. 2007.06, Chicago
 - 14) Watanabe S: Soy and the Discoveries of Healthy Ingredients from Soy in Japan. The Ultimate Innovation of SOYPEPTIDE for Health. 2007.06, Bangkok
 - 15) Morita A, Ohmori Y, Suzuki N, Watanabe S, Aiba N, Miyachi M, Sasaki S, Morioka M, SCOP group:

- Anthropometric and Clinical Findings and Physical Activity in Obese People - SAKU Control Obesity Program (SCOP) -. 2007 Annual Meeting of The International Society For Behavioral Nutrition and Physical Activity. 2007.06.20, Oslo
- 16) Tanaka H, Aiba N, Suda N, Watanabe S: "SHOKUIU"(Food Education) promotion in JAPAN: The concept and approaches. Sixth Annual Meeting of The International Society For Behavioral Nutrition and Physical Activity. 2007.06.20, Oslo
 - 17) Iide T, Unusan N, Aiba N, Oka J: A study on the consciousness and eating habits for the foods of women's college students in Japan. Sixth Annual Meeting of The International Society For Behavioral Nutrition and Physical Activity. 2007.06.20, Oslo
 - 18) Miura S, Kawanaka K, Ezaki O: An Increase in Murine Skeletal Muscle PGC-1 alpha mRNA in Response to Exercise Is Mediated by Beta2-Adrenergic Receptor Activation. American Diabetes Association, 67th Scientific Sessions. 2007.06.24, Chicago, IL, USA
 - 19) Zapater J, Zhang W, Unterman A, Larsen P, Kamei Y, Miura S, Ezaki O, Unterman T: Effects of FoxO1 on Gene Expression in Skeletal Muscle. American Diabetes Association, 67th Scientific Sessions. 2007.06.24, Chicago, IL, USA
 - 20) Watanabe S: Diversity on Consumer Food Choices-Asian Context Case Study -Japan. Consumer Food Behaviors for Health. 2007.07., Singapore
 - 21) Hayashi K, Fujita T, Mizunuma H, Katanoda K, Matsumura Y, Suzuki S, Kubota T, Aso T: Prevalence of oral contraceptive users for birth control and their characteristics in a Japanese women cohort. International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management. 2007.08.20, Quebec
 - 22) Watanabe S: Saku Control of Obesity Program (SCOP) . U.S.Japan Nutrition and Metabolism Panel U.S.Japan Cooperative Medical Science Program. 2007.09, Minneapolis
 - 23) Nagata J, Saito M: Effects of structured lipids (SLs) containing either eicosapentaenoic (EPA) or docosahexaenoic (DHA) acid and caprylic acid (C8:0) on lipid profiles in rats fed cholesterol diets and oxidative stability of SLs in vitro. The 10th Asian Congress of Nutrition. 2007.09.10, Taipei
 - 24) Ishimi Y, Oka J, Uchiyama S, Ueno T, Toda T, Uehara M, Ezaki J, Yamada K, Wu J: Possible role of equol status in the effects of isoflavone on bone and fat mass in postmenopausal Japanese women: a double-blind randomized controlled trial.. 10th Asian Congress of Nutrition. 2007.09.12, Taipei
 - 25) Miyoshi M, Arai Y, Yoshita K, Yoshiike N: Secular trend in prevalence of undernutrition among children in Japan; 1976-2003. 10th Asian Congress of Nutrition. 2007.09.12, Taipei, Taiwan
 - 26) Yoshita K, Arai Y, Nozue M, Sarukura N, Miyoshi M, Yoshiike N: Changes in the markers of metabolic syndrome among different generations: from the National Health and Nutrition Survey, Japan. 10th, Asian Congress of Nutrition. 2007.09.13, Taipei, Taiwan
 - 27) Ishimi Y, Oka J, Uchiyama S, Ueno T, Toda T, Uehara M, Ezaki J, Wu J: Possible role of equol status in the effects of isoflavone on bone and fat mass in postmenopausal Japanese women: a double-blind randomized controlled trial. 29th Annual Meeting of American Society for Bone and Mineral Research. 2007.09.19, Honolulu
 - 28) Kobayashi T, Nishimura A, Inaoka T, Matsumura Y, Ataka Y, Keobouahome B, Kuangphaxay C, Chanthakhoummae K, Xayavong S, Boupha B: Assessment for quality of life of adult rural Lao residents using WHOQOL-BREF. National Health Research Forum in Lao PDR. 2007.09.24, Vientiane
 - 29) Matsumura Y, Inaoka T, Kobayashi T, Ataka Y, Kawabe T, Chanthakhoummae K, Xayavong S, Luangphaxay C, Soundavong K, Keobouahome B, Boupha B: Adult health conditions in changing rural community in Lao PDR. National Health Research Forum in Lao PDR. 2007.09.24, Vientiane
 - 30) Inaoka T, Otsubo R, Shigyo A, Matsumura Y, Ataka Y, Nakamura S, Chanthakhoummame, Xayavong S, Luangphraxay C, Sonsangsack B, Boupha B: Nutritional ecology of the Oy people in Attapeu, Southern Laos. National Health Research Forum in Lao PDR. 2007.09.24, Vientiane
 - 31) Watanabe S: Risk of lifestyle related diseases due to obesity. 5th Nutrition and Aging , ILSI. 2007.10, Tokyo
 - 32) Oshima Y, Kawaguchi K, Doi R, Ohkawara K, Hikihara Y, Ishikawa-Takata K, Tanaka S, Tabata I: Classification of lifestyle and locomotive activities using triaxial accelerometer. The Obesity Society Scientific Meeting 2007. 2007.10.22, New Orleans, LA, USA
 - 33) Ohkawara K, Tanaka S, Hikihara Y, Ishikawa-Takata K, Oshima Y, Kawaguchi K, Doi R, Tabata I: Validity of triaxial accelerometry for assessing the intensity of various physical activities in aduring daily living. The Obesity Society Scientific Meeting 2007. 2007.10.22, New Orleans, LA, USA
 - 34) Mito N, Hayashi H, Odaka Y, Yoshino H, Kaburagi T, Sato K, Yamada K: Effect of high-fat diet induced obesity on inflammatory factors in aged mice. The 5th International Conference on Nutrition and Aging. 2007.11.01, Tokyo
 - 35) Iemitsu M, Maeda S, Miyachi M, Miyauchi T: Exercise training prevents aging-induced cardiomyocyte loss via apoptotic signaling activation in the heart. American Heart Association's Scientific Sessions 2007. 2007.11.05, USA (Orlando, Florida)
 - 36) Asano AW, Yoshiike N, Yamamoto S: Food-pattern

- in Japanese adults with high-vegetable consumption in a nationally representative data: The National Health and Nutrition Survey 2003. The 39th Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health. 2007.11.24, Saitama, Japan
- 37) Kusama K, Hayashi F, Takimoto H, Yoshiike N: Dietary assessment for pregnant women using the 'Japanese Food Guide Spinning Top for Pregnancy and Lactation'. The 39th Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health. 2007.11.24, Saitama, Japan
- 38) Miyoshi M, Arai Y, Okubo H, Hashimoto R, Tsubokura M, Nozue M, Koike N, Hirota K: Strategies for Health Promotion and Lifestyle-related Diseases Prevention by Shokuiku: a systematic review. The 39th Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health. 2007.11.24, Saitama, Japan
- 39) Yano T, Kashiwagi K, Sato H, Fast D, Roh-Schmidt H: Restoration of connexin 43-dependent tumor-suppressive effect by Bowman-Birk protease inhibitor from soybeans. ICoFF2007. 2007.11.26, Kyoto
- 40) Nagata J, Saito M: Effects of combination of some functional food components on lipid profiles in rats. ICoFF2007. 2007.11.28, Kyoto
- 41) Hada Y, Yamauchi T, Waki H, Tsuchida A, Hara K, Yago H, Miyazaki O, Ebinuma H, Kadowaki T: Selective purification of adiponectin multimers from human plasma and CSF. Keystone Symposia Diabetes Mellitus, Insulin Action and Resistance. 2008.02, USA(keystone)
- 42) Ohkawara K, Tanaka S, Ishikawa-Takata K, Tabata I: Impact of elevated post-physical activity energy expenditure on 24-hour daily-living modeling in metabolic chamber. RACMEM (Recent Advances and Controversies in the Measurement of Energy Metabolism) 2008. 2008.02.06, Denver, Colorado
- 43) Hikihara Y, Tanaka S, Ishikawa-Takata K, Ohkawara K, Ebine N, Aoki K, Misumi J, Tabata I: Comparison of three accelerometers for assessment of total energy expenditure against doubly-labeled water method under free-living conditions. RACMEM (Recent Advances and Controversies in the Measurement of Energy Metabolism) 2008. 2008.02.06, Denver, Colorado
- 44) Oshima Y, Kawaguchi K, Doi R, Ohkawara K, Hikihara Y, Ishikawa-Takata K, Tanaka S, Ebine N, Aoki K, Misumi J, Tabata I: Contribution of sedentary, locomotive and lifestyle activity in daily life assessed by a triaxial accelerometer. RACMEM (Recent Advances and Controversies in the Measurement of Energy Metabolism) 2008. 2008.02.07, Denver, Colorado
- 45) Mohd Hamdi Baharuddin, Hazizi Abu Saad, Tabata I: Nutritional status and physical activity level of students of the Department of Nutrition and Dietics, Universiti Putra Malaysia. 23rd Scientific Conference of the Nutrition Society of Malaysia. 2008.03.27, Kuala Lumpur, Malaysia
- 46) Zahratul Nur Kalmi, Hazizi Abu Saad, Tabata I: Relationship between pedometer-determined physical activity, lifestyle factors, and body mass index among staff of the Universiti Putra Malaysia. 23rd Scientific Conference of the Nutrition Society of Malaysia. 2008.03.27, Kuala Lumpur, Malaysia
- (7) 国内学会等
- a. 特別講演
- 1) 門脇孝: 血管合併症抑制にむけたメタボリックシンドローム治療戦略. TAMA Expert Meeting 2nd レクチャー. 2007.05.16, 東京
 - 2) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームのメカニズムと治療・予防戦略—栄養学研究の視点から. 日本栄養・食糧学会創立 60 周年記念学術講演会 特別講演. 2007.05.18, 京都
 - 3) 門脇孝: 血管合併症抑制にむけたメタボリックシンドローム・糖尿病治療戦略. 第 4 回西東京腎と生活習慣病フォーラム 特別講演. 2007.06.01, 東京
 - 4) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と治療・予防戦略. メタボリックシンドローム対策学術講演会. 2007.06.12, 金沢
 - 5) 門脇孝: 『糖尿病の合併症の管理』- 日常診療の質と向上させる 7 つのポイント -. 多摩糖尿病合併症学術講演会. 2007.07.05, 東京
 - 6) 門脇孝: 糖尿病の臨床分子医学. 第 44 回日本臨床分子医学学会学術総会 教育講演. 2007.07.20, 和歌山
 - 7) 門脇孝: 大血管症抑制を目指した 2 型糖尿病の治療戦略. 脳卒中と糖尿病～神経内科医から見た糖尿病治療～ 特別講演. 2007.07.20, 名古屋
 - 8) 門脇孝: 糖尿病への扉を開く—若手医師の皆様へ—. 第一回『研究医・若手医師キャリアデザイン』の会』基調講演. 2007.07.24, 東京
 - 9) 門脇孝: 脂肪細胞と血管からみたメタボリックシンドロームの新しい分子機構. 第 5 回 Translational Medicine Seminar 特別講演. 2007.08.11, 三島
 - 10) 門脇孝: 大血管症抑制を目指した 2 型糖尿病の治療戦略. 第 10 回京都糖尿病・循環器ジョイントミーティング 特別講演. 2007.08.28, 京都
 - 11) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの治療戦略—心血管イベント抑制に向けて—. 鹿児島県内科医会学術講演会 特別講演. 2007.08.31, 鹿児島
 - 12) 門脇孝: メタボリックシンドロームの先端科学と治療戦略. 第 24 回和漢医薬学会大会 特別講演. 2007.09.08, 富山
 - 13) 門脇孝: 糖尿病と肥満の遺伝子. 第 17 回遺伝医学セミナー 講演. 2007.09.09, 千葉
 - 14) 田畑泉: 健康づくりのための運動指針 2006(エクササイズガイド 2006). 身体福祉学会第 1 回学術

- 大会. 2007.09.10, 国立
- 15) 梅垣敬三: 機能性食品の開発において留意すべき事項. 第 9 回応用薬理シンポジウム. 2007.09.11, 東京
 - 16) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療・予防戦略. 文部科学省選定事業記念シンポジウム 講演. 2007.09.11, 東京
 - 17) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と医薬品・食品開発. 機能性食品の開発&申請 up-to-date 基調講演. 2007.09.13, 東京
 - 18) 門脇孝: 糖尿病と冠動脈疾患. 循環器内科学術講演会. 2007.09.13, 東京
 - 19) 門脇孝: メタボ克服力—新健康フロンティア戦略. 抗加齢医学の実際 2007 講演. 2007.09.17, 東京
 - 20) 門脇孝: 糖尿病の合併症の管理—日常診療を向上させる 7 つのポイント—. 福岡地区糖尿病療養指導セミナー 特別講演. 2007.09.22, 福岡
 - 21) 門脇孝: 2 型糖尿病の分子機構と治療戦略. アクトス 8 周年記念講演会. 2007.09.27, 岐阜
 - 22) 門脇孝: 糖尿病の合併症管理—日常診療の質を向上させる 7 つのポイント. 横須賀糖尿病合併症セミナー 特別講演. 2007.10.10, 横須賀
 - 23) 門脇孝: 2 型糖尿病の成因と治療に関する最近の知見. 第 12 回和歌山糖尿病談話会 特別講演. 2007.10.11, 和歌山
 - 24) 門脇孝: 先端融合領域イノベーション創出. 薬学界懇話会第二回「大学における創薬研究」(. 2007.10.18, 東京
 - 25) 田中茂穂: ヒューマンカロリーメーターを用いたエネルギー代謝の測定. 第 28 回日本肥満学会 イブニングセミナー. 2007.10.19, 東京
 - 26) 宮地元彦: 動脈の老化とその予防のための運動～保健指導に向けて～. 第 30 回 日本高血圧学会総会、ランチオンセミナー. 2007.10.27, 沖縄県
 - 27) 門脇孝: 糖尿病治療のエビデンスを臨床に反映する～ガイドラインに基づく糖尿病治療～. Actos Symposium 2007 Autumn 基調講演. 2007.10.27, 東京
 - 28) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と治療戦略～J-DOIT3 の重要性. Meet the specialist in Yamaguchi. 2007.11.02, 山口
 - 29) 門脇孝: 心血管症抑制を目指した 2 型糖尿病の治療戦略. 第 3 回糖尿病と循環器疾患を考える会. 2007.11.15, 宮崎
 - 30) 門脇孝: 『糖尿病の合併症の管理』- 日常診療を向上させる 7 つのポイント-. 船橋市内科医学会学術講演会 特別講演. 2007.11.21, 千葉
 - 31) 門脇孝: 糖尿病の病態と治療・予防に関する最近の知見～より良い糖尿病療養支援に. 第 4 回藍野シンメディカル糖尿病セミナー 特別講演. 2007.11.24, 大阪
 - 32) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの治療の実際～メンタルケアも含めて～. 第 75 回尾道地区内科学会学術講演会. 2007.11.27, 広島
 - 33) 門脇孝: 「糖尿病の合併症の管理」- 日常診療を向上させる 7 つのポイント-. 大分糖尿病合併症フォーラム 2007 特別講演. 2007.11.29, 大分
 - 34) 門脇孝: 糖尿病・メタボ—知っておきたい予防法—. 日本消化器病学会大会第 49 回市民公開講座. 2007.12.09, 東京
 - 35) 門脇孝: 大血管症抑制を目指した 2 型糖尿病の治療戦略. Diabetes Expert Meeting in Kitakyusyu 特別講演. 2007.12.12, 北九州
 - 36) 江崎治: 栄養素(マクロニュートリエント)摂取制限と運動による体脂肪減少効果: 理論と実際. 第 11 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2008.01.12, 国立京都国際会館(京都)
 - 37) 田中茂穂: 子どもにおける身体活動の評価. 第 15 回小児 BI 法研究会. 2008.01.19, 東京
 - 38) 門脇孝: 2 型糖尿病の分子機構—臓器間ネットワークの視点から—. 神戸大学医学部第 24 回 COE 講演会. 2008.01.29, 神戸
 - 39) 門脇孝: 心血管イベント抑制を目指した糖尿病の治療戦略～インスリン抵抗性とアディポカインに関する新知見. 学術講演会. 2008.02.01, 北海道
 - 40) 門脇孝: 糖尿病の成因と治療に関する最近の話題. 第 1 回日本内科学会生涯教育講演会. 2008.02.03, 大阪
 - 41) 門脇孝: 遺伝子操作動物を用いた糖尿病の分子機構の研究. 第 22 回日本糖尿病動物研究会 特別講演. 2008.02.08, 東京
 - 42) 門脇孝: 心血管イベント抑制に向けた糖尿病の治療戦略. 第 42 回糖尿病学の進歩 モーニングセミナー. 2008.02.16, 高松
 - 43) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療. 平成 19 年度日本医師会生涯教育講座. 2008.02.17, 島根
 - 44) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの治療の実際—メンタルケアも含めて—. 第 4 回千葉心身医学研究会 特別講演. 2008.02.21, 千葉
 - 45) 門脇孝: 糖尿病の合併症の管理—日常診療を向上させる 7 つのポイント-. 東京糖尿病合併症研究会 2008 特別講演. 2008.02.23, 東京
 - 46) 門脇孝: 心血管病を抑制する 2 型糖尿病の治療戦略～J-DOIT3 のコンセプト～. Tokyo Actos Forum. 2008.02.25, 東京
 - 47) 門脇孝: メタボのからくり—驚異の脂肪細胞—. 日本化学会第 88 回春季年会 市民公開講座. 2008.03.29, 東京
- b. シンポジウム等
- 1) 門脇孝: 2 型糖尿病の遺伝的背景. 日本人類遺伝学会第 52 回大会シンポジウム. 2007.03.14, 東京
 - 2) 門脇孝: メタボリックシンドロームとバイオマーカー研究の最新動向. 機能性食品バイオマーカーシンポジウム. 2007.04.03, 東京
 - 3) 由田克士, 三浦克之, 中川秀昭, 岡村智教, 上島弘嗣: 栄養・食習慣・食生活へのアプローチ～産業医の実務・生活習慣病対策～. 第 27 回日本医学会総会. 2007.04.06, 大阪
 - 4) 吉池信男: メタボリックシンドロームの対策～健診と介入の基準と評価～. 第 27 回日本医学会総

- 会. 2007.04.07, 大阪
- 5) 門脇孝: 新たな糖尿病治療戦略と J-DOIT3. SGLT2 inhibitor Advisory Board Meeting ランチョンセミナー. 2007.04.07, 大阪
- 6) 門脇孝: 糖尿病の成因と治療に関する最近の知見. Actos Symposium 2007. 2007.04.14, 東京
- 7) 江崎治: 肥満予防のための骨格筋の役割. 第 61 回日本栄養・食糧学会大会/日本栄養・食糧学会創立 60 周年記念式典. 2007.05.19, 国立京都国際会館(京都)
- 8) 三浦進司: 運動が糖尿病を予防するのはなぜか?. 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会 イブニングセミナー4(脂肪毒性を考える). 2007.05.24, 仙台
- 9) 門脇孝: インスリン抵抗性改善薬の役割と戦略的アウトカム研究～日常診療に EBM を反映する～. 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会 イブニングセミナー. 2007.05.24, 仙台
- 10) 山田和彦: 健康強調表示とビタミン. 日本ビタミン学会第 59 回大会. 2007.05.25, 佐世保
- 11) 門脇孝: J-DOIT3. 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会 特別シンポジウム わが国の糖尿病対策: DOIT-3 を踏まえて. 2007.05.25, 仙台
- 12) 門脇孝: 糖尿病の治療・予防戦略を考える—一次予防から三次予防まで. 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会 ランチョンセミナー. 2007.05.25, 仙台
- 13) 西牟田守: 日本人の食事摂取基準[2005 年版]における微量元素摂取基準策定. 第 18 回日本微量元素学会. 2007.07.05, 福井
- 14) 梅垣敬三: 健康食品を巡る諸問題. 第 26 回日本臨床化学会夏期セミナー. 2007.07.07, 伊勢
- 15) 吉池信男, 林芙美: 妊娠中の栄養と胎児発育. 第 43 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2007.07.09, 東京
- 16) 西牟田守: 栄養学最新情報. 第 3 回日本心体美学会学術総会. 2007.07.10, 東京
- 17) Yoshiike N: Situations and national strategies for controlling metabolic syndrome in Japan. Asian Pacific Perspectives "Metabolic Syndrome in Asia", 第 39 回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 2007.07.14, 大阪
- 18) 西牟田守: 食事と体力・健康とのかかわり. 第 15 回日本運動生理学会大会. 2007.07.27, 弘前
- 19) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの分子機構. 第 5 回 RCGM フロンティアシンポジウム. 2007.07.27, 東京
- 20) 梅垣敬三: 食品の安全性評価と適切な情報提供. 脂質栄養学会第 16 回大会. 2007.09.01, 出雲
- 21) 門脇孝: 糖尿病診療の課題と将来像. 第 13 回糖尿病治療を考えるフォーラム. 2007.09.01, 東京
- 22) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準-身体活動・運動・体力-. シンポジウム (国際シンポジウム)健康づくりと身体活動-科学的根拠とプロモーション-. 日本体育学会第 58 回大会. 2007.09.06, 神戸大学, 神戸市
- 23) 門脇孝: メタボリックシンドロームの先端科学と治療戦略. Spinal Symposium in Tokyo 2007. 2007.09.06, 東京
- 24) 永田純一: トランス酸に関する最近の話題 - 国際的な動向と国内の現状について -. 日本食生活学会. 2007.09.08, 東京(昭和女子大)
- 25) 宮地元彦: 地域での健康増進をバックアップ — 特定健診・保健指導に焦点をあてて—, 特定保健指導における標準的な運動・身体活動支援. 第 63 回日本体力医学会. 2007.09.14, 秋田県秋田市、ノースアジア大学
- 26) 田中茂穂, 大河原一憲, 宮地元彦, 高田和子, 田畑泉: シンポジウム: 地域での健康増進をバックアップ — 特定健診・保健指導に焦点をあてて— 「メタボリックシンドローム改善に必要な運動量」. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.14, 秋田
- 27) 手嶋登志子: 「食介護」の視点で段階的な食事区分を考える. 第 13 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会. 2007.09.15, 大宮
- 28) 熊江隆: 運動と好中球. 第 62 回 日本体力医学会大会予稿集. 2007.09.16, 秋田
- 29) 宮地元彦: シンポジウム - 、健康診断における保健指導の意義と管理栄養士の関わり、保健指導における運動・身体活動指導. 第 54 回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.19, 長崎県長崎市長崎ブリックホール
- 30) 大坂寿雅: 終板器官周囲部での GABA 作動性伝達の抑制と PGE2 発熱. 第 3 回 体温調節、温度受容研究会. 2007.09.27, 自然科学研究機構岡崎カンファレンスセンター(岡崎市)
- 31) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの体質解明の進歩とテーラーメイド医療の展望. 第 57 回日本体質医学会総会 イブニングセミナー講演. 2007.09.29, 大分
- 32) 窪田直人, 窪田哲也, 寺内康夫, 山内敏正, 植木浩二郎, 箕越靖彦, 門脇孝: アディポネクチンの中枢における役割. 第 28 回日本肥満学会. 2007.10, 東京
- 33) 窪田直人, 窪田哲也, 寺内康夫, 植木浩二郎, 門脇孝: 発生工学の観点から —血管内皮特異的 IRS2 欠損マウスを用いた解析—. 第 22 回日本糖尿病合併症学会. 2007.10, 筑波
- 34) 門脇孝: 治療介入の必要性和重要性 J-DOIT3 から. TV シンポジウム「糖尿病患者における積極的な治療介入—J-DOIT3—」. 2007.10.02, 東京
- 35) 西牟田守: ナトリウムの不足症状と平衡維持摂取量. 日本口腔衛生学会シンポジウム. 2007.10.05, 東京
- 36) 西牟田守: ナトリウムの不足症状と平衡維持摂取量. 第 56 回日本口腔衛生学会. 2007.10.05, 東京
- 37) 門脇孝: 『肥満と ARB』 「糖尿病からみた RAS 抑制の意義」. 第 12 回武田高血圧シンポジウム. 2007.10.06, 東京
- 38) 吉池信男: 栄養を通じて次世代の健康を守る～母と子のための栄養学～. 第 22 回日本国際保健医療学会全国総会. 2007.10.08, 大阪

- 39) 廣田晃一: 健康食品は糖尿病にいいの?。糖尿病シンポジウム in 栃木. 2007.10.14, 宇都宮
 - 40) 田中茂穂, 大河原一憲: シンポジウム: 新しい科学的根拠に基づく肥満症, メタボリックシンドロームの運動支援 「肥満対策における運動の効果に関するシステマティックレビュー」. 第 28 回日本肥満学会. 2007.10.19, 東京
 - 41) 梅垣敬三: 健康食品素材の品質と製品の有効性・安全性. 第 2 回食品薬学シンポジウム(日本薬学会天然物部会). 2007.10.19, 静岡
 - 42) 田畑泉: 健康づくりのための運動指針 2006(エクササイズガイド 2006) - 健康日本 21 目標達成のためのツール-. フォーラム 2007: 衛生薬学・環境トキシコロジー, フォーラム 健康日本をめぐって. 2007.11.01, 大阪市
 - 43) 門脇孝: 心血管イベント抑制に向けた糖尿病の治療戦略. 第 44 回日本糖尿病学会近畿地方会 ランチョンセミナー. 2007.11.03, 大阪
 - 44) 永田純一: 保健機能食品の役割と食品成分分析の重要性. 第 18 回クロマトグラフィー科学会議. 2007.11.08, 函館市
 - 45) 西牟田守: ミネラルと健康. 第 27 回日本マグネシウム学会総会公開シンポジウム. 2007.11.09, 東京
 - 46) 西牟田守: 今日もめられる健康医学について- 人間栄養学の立場から-. 第 17 回日本健康医学会総会シンポジウム. 2007.11.10, 東京
 - 47) 田中茂穂, 大河原一憲: 公開シンポジウム: 肥満の予防・改善とトレーニング 「肥満の予防および改善に必要な身体活動量」. 第 20 回日本トレーニング科学会. 2007.11.17, 東京
 - 48) 片野田耕太, 藤田利治, 松村康弘, 李廷秀, 久保田俊郎, 水沼英樹, 麻生武志: 女性看護職におけるホルモン補充療法使用状況と使用者の属性: Japan Nurses' Health Study. 第 22 回日本更年期医学会. 2007.11.17, 東京
 - 49) 林邦彦, 水沼英樹, 藤田利治, 鈴木庄亮, 今関節子, 片野田耕太, 李廷秀, 松村康弘, 久保田俊郎, 麻生武志: JNHS の研究デザインとベースライン調査 - 対象者募集を終了して -. 第 22 回日本更年期医学会. 2007.11.17, 東京
 - 50) 藤田利治, 松村康弘, 片野田耕太, 李廷秀, 久保田俊郎, 水沼英樹, 麻生武志, 林邦彦: 女性看護職における疾病の既往状況: Japan Nurses' Health Study. 第 22 回日本更年期医学会. 2007.11.17, 東京
 - 51) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの適正使用. 第 22 回日本更年期医学会. 2007.11.17, 東京
 - 52) 門脇孝: わが国のメタボリックシンドロームの診断基準は現状で良いか?。第 9 回循環器ディベイト・カンファランス. 2007.11.17, 東京
 - 53) 門脇孝: 脂肪細胞の分解・形質転換とその制御. 第 6 回 CREST 研究領域「生物の発生・分化・再生」シンポジウム. 2007.11.20, 東京
 - 54) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの安全性と有用性 - その問題点と対応を考える - 健康食品・サプリメントの実態と問題点. 第 28 回日本臨床薬理学会. 2007.11.30, 宇都宮市
 - 55) 門脇孝: 生活習慣病の予測、治療へ向けたバイオマーカーの応用. 第 9 回創薬ビジョンシンポジウム. 2008.01.24, 東京
 - 56) 窪田直人, 窪田哲也, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 箕越靖彦, 門脇孝: アディポネクチンの中核における役割の検討. 第 22 回日本糖尿病・肥満動物学会. 2008.02, 東京
 - 57) 門脇孝: 「糖尿病対策の現状」J-DOIT3. 第 42 回糖尿病学の進歩 シンポジウム. 2008.02.16, 高松
 - 58) 門脇孝: 糖尿病による血管障害予防を目指した治療戦略 ~ J-DOIT3 の取組み ~. 第 14 回日本糖尿病眼学会 ランチョンセミナー. 2008.03.14, 東京
- c. 一般講演等
- 1) 門脇孝: 2 型糖尿病の遺伝素因と分子機構. SGLT2 inhibitor Advisory Board Meeting. 2007.04.06, 大阪
 - 2) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と治療戦略 ~ J-DOIT3 の重要性. Pfizer 「J-DOIT3」Forum. 2007.04.13, 名古屋
 - 3) 由田克士, 溝口景子, 石田裕美, 武見ゆかり, 清野富久江, 吉池信男: 従業員食堂等を活用した健康・栄養教育に関する取り組み - 食事バランスガイドを活用した栄養教育の試み -. 第 80 回日本産業衛生学会. 2007.04.26, 大阪
 - 4) 平田亜古, 井上浩一, 由田克士, 村山伸子, 石田裕美, 大槻京子, 足立留美子: 職域の特定給食施設で食環境整備の一環として行った健康イベントの効果. 第 80 回日本産業衛生学会. 2007.04.26, 大阪
 - 5) 森河裕子, 三浦克之, 米山智子, 中川秀昭, 石崎昌夫, 城戸照彦, 成瀬優知, 東山正子, 永山栄美, 岡本千秋, 由田克士: 若年健常男性労働者における職種・勤務体制と栄養摂取の関係. 第 80 回日本産業衛生学会. 2007.04.27, 大阪
 - 6) 窪田哲也, 窪田直人, 小園秀樹, 伊藤晋介, 高本偉碩, 峯山智佳, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 戸辺一之, 門脇孝: 血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質(IRS)-2 の役割の解明. 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2007.05, 仙台
 - 7) 伊藤晋介, 窪田直人, 窪田哲也, 小園秀樹, 高本偉碩, 峯山智佳, 橋本信嗣, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 戸辺一之, 門脇孝: 肝臓特異的 IRS-2 欠損マウスはインスリン抵抗性、耐糖能異常を呈する. 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2007.05, 仙台
 - 8) 窪田直人, 窪田哲也, 小園秀樹, 伊藤伸介, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 戸辺一之, 門脇孝: アディポネクチンの中核における役割の検討. 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2007.05, 仙台
 - 9) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療・予防—生活習慣改善から薬物治療まで. 第 2 回沖縄メタボリックシンドローム研究会. 2007.05.12, 沖縄
 - 10) 江崎潤子, 橋本美幸, 細川優, 石見佳子: 変形性膝関節症モデルマウスの骨・軟骨に対するメチルスルフォニルメタン摂取の影響. 第 61 回日本栄養・食糧学会大会. 2007.05.19, 京都

- 11) 猿倉薫子, 野末みほ, 池上幸江, 倉田澄子, 清水俊雄, 山田和彦, 由田克士, 和田政裕, 池本真二, 藤澤由美子, 坂本元子: 栄養成分と健康に関する表示の認識の状況(第 1 報). 第 61 回日本栄養・食糧学会大会. 2007.05.19, 京都
- 12) 野末みほ, 猿倉薫子, 池上幸江, 倉田澄子, 清水俊雄, 山田和彦, 由田克士, 和田政裕, 池本真二, 藤澤由美子, 坂本元子: 栄養成分と健康に関する表示の認識の状況(第 2 報). 第 61 回日本栄養・食糧学会大会. 2007.05.19
- 13) 和田智史, 山崎聖美, 中森明子, 佐々木江梨子, 川野因, 江崎治: ソンデ投与によるアルコール性脂肪肝発症モデルマウスの作成. 第 61 回日本栄養・食糧学会大会. 2007.05.20, 国立京都国際会館(京都)
- 14) 大友拓弥, 上原万里子, Jose Luis Penalvo, 勝間田真一, 鈴木和春, 武田健, 石見佳子: Daizein 代謝産物である Equol 及び O-DMA が骨代謝に及ぼす影響. 第 61 回日本栄養・食糧学会大会. 2007.05.20, 京都
- 15) 千葉大成, 上原万里子, 石見佳子, 鈴木和春, 金賢珠, 松本明世: ヘスペリジンの高齢期マウスに対する骨代謝調節作用. 京都. 2007.05.20
- 16) 佐藤幾太郎, 只野健太郎, 鈴木淑水, 上野友美, 石見佳子, 内山成人: *Lactococcus garvieae* の食品中からの検出およびヒト腸内在常性の確認. 第 61 回日本栄養・食糧学会大会. 2007.05.20, 京都
- 17) 石見佳子, 岡純, 内山成人, 上野友美, 戸田登志也, 上原万里子, 大友拓弥, 江崎潤子, 呉堅: 個体特性に着目した大豆イソフラボンの閉経後女性の骨・脂質代謝に対する調節作用. 第 61 回日本栄養・食糧学会大会. 2007.05.20, 京都
- 18) 大内愛子, 早淵仁美, 戸次真知子, 松永泰子, 吉池信男: 料理レベルで食事を記録する簡易記録食事調査方法の検討. 第 61 回日本栄養・食糧学会大会. 2007.05.20, 京都
- 19) 山内淳, 井上絵里奈: ビタミン D による non-genomic 作用発現機構の解析. 第 61 回日本栄養・食糧学会大会. 2007.05.20, 京都
- 20) 熊江隆, 伊藤千夏, 古泉佳代, 金子佳代子: 呼吸器モデルを用いたフード法による安静時代謝量の測定精度に関する検討. 第 61 回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集. 2007.05.20, 京都
- 21) 藤井康弘, 吉田真咲, 新島貴子, 横山徹爾, 宮地元彦, 田畑泉: 低強度長時間運動時にストレス反応に対する分岐鎖アミノ酸(BCAA)摂取の影響. 第 61 回日本栄養食糧学会大会. 2007.05.20, 京都
- 22) 矢野友啓, 柏木維人, 矢野善久, 熊懷稜丸, 吉村寛幸: エーテル誘導体化によるトコトリエノールの持つ生理活性強化の可能性. 第 59 回日本ビタミン学会. 2007.05.25, 長崎
- 23) 佐塚泰之, 藤木定弘, 鈴木一由, 浅野隆司, 矢野友啓: Connexin26 阻害剤 Oleamide による抗腫瘍剤効果増強作用に関する研究. 第 23 回日本 DDS 学会. 2007.06.15, 熊本
- 24) 門脇孝: 大血管症抑制からみた糖尿病・メタボリックシンドロームの治療戦略. Fighting Vascular Events in Hokkaido. 2007.06.29, 北海道
- 25) 窪田直人, 窪田哲也, 寺内康夫, 山内敏正, 植木浩二郎, 箕越靖彦, 門脇孝: アディポネクチンの中枢における役割の検討. Crest シンポジウム. 2007.07, 東京
- 26) 窪田直人, 窪田哲也, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 箕越靖彦, 門脇孝: アディポネクチンの中枢における役割の検討. 第 5 回アディポサイト研究会. 2007.07, 東京
- 27) 窪田哲也, 窪田直人, 熊谷洋紀, 小園秀樹, 伊藤晋介, 植木浩二郎, 門脇孝: 血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質 2 の役割の解明. 第 44 回日本臨床分子医学会学術集会. 2007.07, 和歌山
- 28) 矢野友啓, 柏木維人, 斉藤, 佐藤洋美: 大豆由来成分 Bowman-Birk protease inhibitor(BBI)を使った新たな癌化学予防の可能性. 第 14 回日本がん予防学会. 2007.07.12, 東京
- 29) 水野正一, 片野田 耕太, 祖父江友孝: がん死亡動向分析および地理分布解析. がん疫学研究会. 2007.07.13, 東京
- 30) 石見佳子, 岡純, 田畑泉, 江崎潤子, 戸田登志也, 内山成人, 呉堅: 閉経後女性の骨密度と体脂肪に対する大豆イソフラボンと運動の併用効果: 介入中止 1 年後の追跡調査. 第 25 回日本骨代謝学会. 2007.07.19, 大阪
- 31) 山根理学, 稲熊隆博, 石見佳子: 老年性骨粗鬆症モデルマウス(SAMP6)の骨密度に対するリコピン摂取の影響. 第 25 回日本骨代謝学会. 2007.07.19, 大阪
- 32) 千葉大成, 内田礼奈, 石見佳子, 上原万里子, 鈴木和春, 金賢珠, 松本明世: 大豆イソフラボンと魚油の併用摂取は骨粗鬆症モデルマウスの骨量減少を相乗的に抑制する. 第 25 回日本骨代謝学会. 2007.07.19
- 33) 江崎潤子, 石見佳子: メチルスルフォニルメタンが変形性膝関節症マウスの骨・軟骨に及ぼす影響. 第 25 回日本骨代謝学会. 2007.07.21, 大阪
- 34) 渡邊昌: 湯川博士誕生百年を記念して、いのちを語る. 日本抗加齢医学会総会. 2007.07.22, 京都
- 35) 窪田直人, 窪田哲也, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 門脇孝: アディポネクチンの中枢における役割の検討. 第 1 回 Diabetes Leading-Edge Conference. 2007.08, 淡路島
- 36) 窪田直人, 窪田哲也, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 箕越靖彦, 門脇孝: アディポネクチンの中枢における役割の検討. 第 12 回アディポサイエンス研究会. 2007.08, 大阪
- 37) 門脇孝: メタボリックシンドロームとアディポネクチン. 第 12 回病態と治療におけるプロテアーゼとインヒビター学会. 2007.08.04, 大阪
- 38) 山田和彦: 保健機能食品・特別用途食品. 日本健康・栄養システム学会研修会. 2007.08.07, 東京
- 39) 熊江隆, 伊藤千夏, 古泉佳代, 金子佳代子: 呼吸器モデルによるフード法の測定精度の検討. 第 17 回 体力・栄養・免疫学会プログラム・抄録集.

- 2007.08.31, 東京
- 40) 家光素行, 前田清司, 大槻毅, 宮地元彦, 久野譜也, 鰐坂隆一, 松田光生: 中高年齢者の運動習慣と動脈 stiffness の関係にナトリウム利尿ペプチド遺伝子多型が及ぼす影響. 日本体育学会第 58 回大会. 2007.09.07, 神戸
 - 41) 河野 寛, 谷本道哉, 山元 健太, 真田 樹義, 呉 泰雄, 丸藤 祐子, 田畑泉, 樋口 満, 宮地元彦: 筋力トレーニング者における局所的寒冷刺激に対する頸動脈径の反応性. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.14, ノースアジア大学
 - 42) 山元 健太, 河野 寛, 真田 樹義, 丸藤 祐子, 谷本道哉, 呉 泰雄, 樋口 満, 田畑泉, 宮地元彦: 身体の柔軟性は動脈硬化と関連する. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.14, ノースアジア大学
 - 43) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療. 東京都肥満症医療セミナー. 2007.09.14, 東京
 - 44) 藤本恵理, 樋口満, 田畑泉: 一過性の低強度長時間水泳運動後のラット滑車上筋の PGC-1 α 濃度. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.15, 秋田市
 - 45) 丸藤 祐子, 宮地元彦, 河野 寛, 真田 樹義, 山元 健太, 谷本道哉, 呉 泰雄, 宮谷 昌枝, 薄井澄誉子, 高橋 恵理, 田畑泉, 樋口 満, 饗場直美: 心肺体力の高い女性では加齢による動脈硬化と左心室肥大が抑制される. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.15, ノースアジア大学
 - 46) 片山 敬章, 佐藤 耕平, 堀田 典生, 石田 浩司, 渡邊 航平, 増田 和実, 宮地元彦, 小池 晃彦, 秋間 広: 片脚サスペンション中のインターバルトレーニングが有酸素性運動能力に及ぼす効果—トレーニング頻度の違いによる影響について—. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.15, ノースアジア大学
 - 47) 真田 樹義, 宮地元彦, 山元 健太, 村上 晴香, 家光 素行, 谷本道哉, 河野 寛, 丸藤 祐子, 鈴木 克彦, 田畑泉, 樋口 満: 中高年男女を対象とした肥満関連遺伝子、身体組成、有酸素性能力とメタボリックシンドロームとの関係. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.15, ノースアジア大学
 - 48) 谷本道哉, 真田 樹義, 山元 健太, 河野 寛, 丸藤 祐子, 田畑泉, 宮地元彦: 筋発揮力維持法 (LST) を用いた筋力トレーニングが四肢血流量に与える影響. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.15, ノースアジア大学
 - 49) 薄井 澄誉子, 高橋 恵理, 丸藤 祐子, 真田 樹義, 宮地元彦, 田畑泉, 樋口 満: 閉経後中高年女性の基礎代謝量とアディポサイトカインの関係. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.15, ノースアジア大学
 - 50) 泉福英信, 木村靖夫, 西牟田守, 島田美恵子, 中川直樹, 吉武裕: 体力と口腔微生物叢との関係. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.15, 秋田
 - 51) 島田美恵子, 西牟田守, 吉武裕: 高齢者の日常身体活動量を推定する歩数の測定期間について. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.15, 秋田
 - 52) 大河原一憲, 田中茂穂, 引原有輝, 高田和子, 大島秀武, 川口加織, 土井龍介, 田畑泉: 1 次元および 3 次元合成加速度を用いた歩行と日常生活活動強度の推定. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.16, 秋田
 - 53) 引原有輝, 田中茂穂, 大河原一憲, 高田和子, 三宅理江子, 田栗恵美子, 田畑泉: 加速度計を用いた身体活動強度の評価の妥当性. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.16, 秋田
 - 54) 大島秀武, 川口加織, 土井龍介, 大河原一憲, 引原有輝, 高田和子, 田中茂穂, 田畑泉: 1 次元加速度および 3 次元加速度を用いた歩行動作と日常活動動作の判別. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.16, 秋田
 - 55) 田栗恵美子, 田中茂穂, 大河原一憲, 高田和子, 引原有輝, 三宅理江子, 田畑泉: 活動強度を表す指標における体格補正の妥当性. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.16, 秋田
 - 56) 三宅理江子, 田中茂穂, 大河原一憲, 高田和子, 引原有輝, 田栗恵美子, 栢下淳, 田畑泉: 基礎代謝量の推定式の妥当性. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.16, 秋田
 - 57) 高橋恵理, 薄井澄誉子, 樋口満, 田畑泉: 若年女性の日常生活における歩数とエクササイズ(メッツ・時)の関係. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.16, 秋田市
 - 58) 門脇孝: 糖尿病の一次、二次、三次予防とコメディカルへの期待. 第 12 回日本糖尿病教育 看護学会学術集会 ランチョンセミナー. 2007.09.16, 千葉
 - 59) 松本 希, 宮地元彦, 高橋 康輝, 安東 裕美, 小堀 浩志, 小野寺 昇: 運動を主体とした保健指導モデルがメタボリックシンドロームに及ぼす影響. 第 62 回日本体力医学会大会. 2007.09.17, ノースアジア大学
 - 60) 川上純子, 秋山治子, 田邊弘子, 成田宣子, 手嶋登志子: 介護保険制度における管理栄養士の居宅療養管理指導を考える 訪問栄養食事指導の成立例と不成立例 第 2 報. 第 54 回日本栄養改善学会. 2007.09.19, 長崎
 - 61) 秋山治子, 川上純子, 田邊弘子, 成田宣子, 手嶋登志子: 介護保険制度における「管理栄養士の居宅療養管理を考える」. 第 54 回日本栄養改善学会. 2007.09.19, 長崎
 - 62) 中村育子, 水野三千代, 手嶋登志子: 在宅版介護予防プログラムにおける栄養士の介入効果 第 1 報. 第 54 回日本栄養改善学会. 2007.09.19, 長崎
 - 63) 水野三千代, 中村育子, 手嶋登志子: 在宅版介護予防プログラムにおける栄養士の介入効果 第 2 報. 第 54 回日本栄養改善学会. 2007.09.19, 長崎
 - 64) 吉池信男, 林芙美, 草間かおる, 角倉知子, 瀧本秀美: 「妊産婦のための食事バランスガイド」を用いた食事評価の検討: (その 1)SV と栄養素量の比較. 第 54 回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.20, 長崎市
 - 65) 草間かおる, 林芙美, 角倉知子, 瀧本秀美, 吉池信

- 男:「妊産婦のための食事バランスガイド」を用いた食事評価の検討:(その2)関連指標との比較. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.20, 長崎市
- 66) 黒谷佳代, 早瀬仁美, 坂田郁子, 梅本陽子, 吉池信男: 職域における生活習慣病予防のための栄養教育手法の検証. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.20, 長崎市
- 67) 別所京子, 大迫早苗, 高田和子: 大量調理作業時における疲労状態とエネルギー消費量との関連について. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.20, 長崎
- 68) 鈴木亜夕帆, 渡邊智子, 渡邊令子, 西牟田守: 高齢者を対象とした「簡易食物摂取状況調査票」結果を五訂増補成分表を用いた栄養価計算に発展させる試み. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.20, 長崎
- 69) 尾高有希乃, 三戸夏子, 蕪木智子, 佐藤和人: 食事誘導性肥満マウスにおける免疫機能と aging. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.20, 長崎
- 70) 石脇亜紗子, 横山徹爾, 藤井紘子, 齋藤京子, 野末みほ, 由田克士, 吉池信男: 食事摂取基準に基づく栄養学的リスク者の評価 - 統計的手法を用いた推定習慣的摂取量分布のアプローチ -. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.21, 長崎市
- 71) 林芙美, 由田克士, 荒井裕介, 吉池信男: 若い女性の「やせ」と体型認識の変化: 国民健康・栄養調査データに基づく経年的な検討. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.21, 長崎市
- 72) 田口素子, 高田和子, 辰田和佳子, 長坂聡子: 女子アスリートのエネルギーバランスとエネルギー代謝に影響を及ぼす諸要因. 回. 2007.09.21, 長崎
- 73) 由田克士, 荒井裕介, 野末みほ, 石井美子, 大野尚子, 猿倉薫子: 食事摂取基準を考慮した栄養調査成績の評価に関する検討(第1報) - 集団データにおける基本的な考え方 -. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.21, 長崎市
- 74) 野末みほ, 荒井裕介, 石井美子, 大野尚子, 猿倉薫子, 由田克士: 食事摂取基準を考慮した栄養調査成績の評価に関する検討(第2報) - 個人データにおける基本的な考え方 -. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.21, 長崎市
- 75) 石井美子, 荒井裕介, 野末みほ, 大野尚子, 猿倉薫子, 由田克士: 食事摂取基準を考慮した栄養調査成績の評価に関する検討(第3報) - 集団でのたんぱく質・脂質について -. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.21, 長崎市
- 76) 大野尚子, 荒井裕介, 野末みほ, 石井美子, 猿倉薫子, 由田克士: 食事摂取基準を考慮した栄養調査成績の評価に関する検討(第4報) - 集団におけるミネラル・ビタミンについて -. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.21, 長崎市
- 77) 猿倉薫子, 荒井裕介, 野末みほ, 石井美子, 大野尚子, 由田克士: 食事摂取基準を考慮した栄養調査成績の評価に関する検討(第5報) - 個人データにおける示し方 -. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.21, 長崎市
- 78) 荒井裕介, 三好美紀, 草間かおる, 溝口景子, 常賀由子, 清野富久江, 田中弘之, 由田克士, 吉池信男: 管理栄養士養成施設の専門分野別担当教員を対象にしたファカルティデベロップメント研修会. 第54回日本栄養改善学会総会. 2007.09.21, 長崎県
- 79) 大森由実, 鈴木望, 森田明美, 饗場直美, 渡邊昌: 肥満者の性格特性が身体活動・食行動に及ぼす影響. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.21, 長崎
- 80) 三戸夏子, 佐々木敏, 村上健太郎, 大久保公美, 高橋佳子, 山田和彦, 第二次栄養関連学科新入生調査グループ: 起床時刻と食品・栄養素摂取量及び食行動の関連. 第54回日本栄養改善学会学術総会. 2007.09.21, 長崎
- 81) 窪田哲也, 窪田直人, 熊谷洋紀, 小園秀樹, 伊藤晋介, 植木浩二郎, 門脇孝: 血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質(IRS)2の役割の解明—血管内皮細胞特異的 IRS2 欠損マウスを用いて—. 第48回日本脈管学会総会. 2007.10, 松本
- 82) Yano T, Kashiwagi K, Yano Y, Sato H: Inhibition of hypoxic adaptation of lung cancer cells by a redox-silent new analogue of alpha-tocotrienol (T3E). 第66回日本癌学会総会. 2007.10.03, 横浜
- 83) Sato H, Hagiwara H, Nagashima Y, Yano T: Effects of restoration of connexin 32 gene in human metastatic renal cell carcinoma xenografts in mice. 第66回日本癌学会総会. 2007.10.04, 横浜
- 84) 高野泰幸, 萩原ヒロミ, 佐藤洋美, 上野光一, 矢野友啓: 転移性腎細胞癌における Cx32 の発現回復及び癌抑制効果の検討. 第51回日本薬学会関東支部大会. 2007.10.06, 東京
- 85) 中森正代, Ninh NX, Khan NC, Huong CT, Mai LB, Hien VTT, 中野貴史, 吉池信男, 草間かおる, 山本茂: ベトナム山岳地域における完全母乳保育実施状況と乳幼児の成長発達、感染症の罹患. 第22回日本国際保健医療学会全国総会. 2007.10.07, 大阪
- 86) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と治療・予防戦略. 第23回長崎腎臓フォーラム. 2007.10.16, 長崎
- 87) 大河原一憲, 田中茂穂, 高田和子, 三宅理江子, 田栗恵美子, 田畑泉: 日常生活時における身体活動後の代謝亢進が1日当たりのエネルギー消費量に及ぼす影響. 第28回日本肥満学会. 2007.10.19, 東京
- 88) 門脇孝: 血管合併症抑制にむけたメタボリックシンドローム・糖尿病の治療戦略. 第28回日本肥満学会 ランチョンセミナー. 2007.10.19, 東京
- 89) 三浦進司, 江崎治: 運動による筋肉での PGC-1 α 発現増加は β 2-アドレナリン受容体の活性化を介している. 第28回日本肥満学会. 2007.10.20, (東京)
- 90) 亀井康富, 菅波孝祥, 赤池史子, 金井沙綾香, 岡淳一郎, 三浦進司, 江崎治, 小川佳宏: 骨格筋で転写因子 FOXO1 を過剰発現させ筋萎縮が生じたマ

- ウスでは体脂肪量の増加をきたす. 第 28 回日本肥満学会. 2007.10.20, (東京)
- 91) 鈴木洋子, 大坂寿雅, 金高有里, 井上修二: 電気凝固法による VMH 破壊マウスの作製と病態に関する検討. 第 28 回日本肥満学会. 2007.10.20, 都市センターホテル(東京)
- 92) 川口加織, 大島秀武, 土井龍介, 大河原一憲, 引原有輝, 高田和子, 田中茂穂, 田畑泉: 加速度計法および歩数計法に基づく歩行活動と日常生活活動強度の推定. 第 28 回日本肥満学会. 2007.10.20, 東京
- 93) 森田明美, 渡邊昌, 饗場直美, 宮地元彦, 佐々木敏, 盛岡正博, 肥満克服プログラムグループ: 人間ドック受診者を対する肥満解消への介入効果の検討 - 佐久肥満克服プログラム(SCOP Study) -. 第 28 回日本肥満学会. 2007.10.20, 東京
- 94) 宇田川孝子, 三好美紀, 吉池信男: 中年男性における食事の自己評価と改善意欲からみたメタボリックシンドローム関連リスク因子及び食生活状況. 第 54 回日本栄養改善学会学術総会. 2007.10.21, 長崎市
- 95) 宮崎有紀子, 林邦彦, 小林亜由美, 松村康弘, 水沼英樹, 今関節子, 鈴木庄亮: 女性看護職の生活習慣の再現性に関する検討. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.24, 松山市
- 96) 安部喜代子, 玉置淳子, 門脇英子, 佐藤裕保, 森田明美, 小松美砂, 武内さやか, 梶田悦子, 伊木雅之: 推体骨折スクリーニングとしての身体計測指標の有効性に関する検討. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.24, 松山
- 97) 玉置淳子, 伊木雅之, 甲田勝康, 森田明美, 鏡森定信, 香川芳子, 米島秀夫: 若年女性での適正体重の獲得は最大骨量を高めるか-JPOS Cohort Study-. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.24, 松山
- 98) 佐藤理恵, 宇津木恵, 大久保孝義, 栗本鮎美, 鈴木和広, 末永カツ子, 小林光樹, 佐藤洋, 今井潤: 地域在宅高齢者における高次生活機能低下の予測因子は何か? : 大迫研究. 日本公衆衛生学会総会. 2007.10.24, 松山
- 99) 栗本鮎美, 大久保孝義, 佐藤理恵, 鈴木和広, 宇津木恵, 瀬川香子, 末永カツ子, 小林光樹, 佐藤洋, 今井潤: 農村地域住民は「メタボリックシンドローム」という言葉をどのくらい正しく認識しているか: 大迫研究. 日本公衆衛生学会総会. 2007.10.24, 松山
- 100) 岩室紳也, 福永一郎, 櫃本真幸, 藤内修二, 石川貴美子, 中瀬克己, 松岡宏明, 国吉秀樹, 松村康弘, 武村真治, 谷原真一, 中川昭生, 福田展之, 安藤美里, 下田智久: 「健康日本 21」地方計画推進・評価事業 その 1 医療制度改革の時代の健康増進計画. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.25, 松山市
- 101) 福永一郎, 岩室紳也, 櫃本真幸, 藤内修二, 石川貴美子, 中瀬克己, 松岡宏明, 国吉秀樹, 松村康弘, 武村真治, 谷原真一, 中川昭生, 中本稔, 田中久子, 下田智久: 「健康日本 21」地方計画推進・評価事業 その 2 地方計画の策定推進に影響する要因. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.25, 松山市
- 102) 櫃本真幸, 岩室紳也, 福永一郎, 藤内修二, 石川貴美子, 中瀬克己, 松岡宏明, 国吉秀樹, 松村康弘, 谷原真一, 中川昭生, 中本稔, 新山徹二, 田中久子, 下田智久: 「健康日本 21」地方計画推進・評価事業 その 3 計画策定済み市町村の実態から見た計画策定推進支援のあり方に関する検討. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.25, 松山市
- 103) 三浦克之, 川島ひろ子, 塚田久恵, 菊地修一, 丸銭笑子, 米山智子, 櫻井勝, 吉池信男, 中川秀昭: 出生体重と成人後の生活習慣病危険因子およびアレルギー疾患との関連. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.25, 松山
- 104) 横山鞆爾, 由田克士, 吉池信男: 都道府県民健康・栄養調査における複数日調査の方法に関する検討. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.25, 松山
- 105) 杉山みち子, 多田由紀, 三橋扶佐子, 遠又靖丈, 西村秋生, 加藤昌彦, 小山秀夫, 宮本啓子, 星野和子, 合田敏尚, 高田和子, 太田貞次, 臼井正樹: 介護保険施設における栄養ケア・マネジメントの課題. 第 45 回日本病院管理学会. 2007.10.25, 横浜
- 106) 野末みほ, 猿倉薫子, 大西公子, 前田美穂, 宅宮早苗, 小西典子, 島瀬恭子, 中村清司, 近藤弘一, 寺本辰之, 吉池信男, 荒井裕介, 由田克士: 愛媛県松山市における栄養及び食生活調査(第 1 報)栄養素別・食品群別摂取量について. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.25, 松山市
- 107) 猿倉薫子, 野末みほ, 大西公子, 前田美穂, 宅宮早苗, 小西典子, 島瀬恭子, 中村清司, 前田弘一, 寺本辰之, 吉池信男, 荒井裕介, 由田克士: 愛媛県松山市における栄養及び食生活調査(第 2 報)食生活・生活習慣について. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.25, 松山市
- 108) 由田克士, 三浦克之, 石田裕美, 富松理恵子, 中川秀昭: 従業員食堂を活用した勤労者の健康づくり対策 第 2 報 食環境整備に関する検討. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.25, 松山市
- 109) 荒井裕介, 三好美紀, 大久保公美, 橋本令子, 坪倉もえ, 野末みほ, 古池直子, 廣田晃一: 食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究. 第 66 回日本公衆衛生学会. 2007.10.25, 松山市
- 110) 伊木雅之, 玉置淳子, 門脇英子, 甲田勝康, 池田行宏, 由良晶子, 佐藤裕保, 森田明美, 鏡森定信, 香川芳子, 米島秀夫: 日本人女性の無作為抽出コホート 10 年追跡研究で見た骨密度の年齢効果とコホート効果. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 2007.10.25, 松山
- 111) 家光素行, 下條信威, 前田清司, 入鹿山容子, 大久保剛, 宮地元彦, 田中幸久, 宮内卓: 中鎖脂肪酸長期摂取における高血圧自然発症ラット(SHR)の心臓エネルギー代謝および心機能の改善効果. 第 30 回日本高血圧学会総会. 2007.10.26, 沖縄
- 112) 吉川俊博, 後藤貴裕, 進士三三, 濱口浩太, 山田英毅, 内田信也, 山田静雄, 松田捷彦, 梅垣敬三, 大

- 門貴志, 山田浩: 培養開始時間が細胞質分裂阻害小核試験に与える影響に関する研究. 日本臨床薬理学会第 29 回年会. 2007.10.28, 宇都宮
- 113) 石見佳子, 大友拓弥, 上原万里子, 武田健: 水溶性食物繊維が大豆イソフラボンの生体利用性に及ぼす影響. 第 12 回日本食物繊維学会. 2007.11.09, 神戸
- 114) 小坂谷典子, 江崎潤子, 西牟田守, 山内淳, 橋爪恵理香, 森下幸治, 佐々木敏, 石見佳子: ビタミン K2(MK-4)の補給摂取が閉経後女性の生体に及ぼす影響. 第 9 回日本骨粗鬆症学会. 2007.11.15, 東京
- 115) 脇昌子, 山田浩, 山田薫, 秋山礼子, 山田静雄, 大門貴志, 内田信也, 梅垣敬三: 血糖コントロールとビタミン C 値: 抗酸化マーカーとしてのリンパ球中ビタミン C 測定の意義. 日本臨床栄養学会第 29 回総会. 2007.11.16, 京都
- 116) 篠塚和正, 窪田洋子, 禰占奈美江, 多田有加里, 籠田智美, 梅垣敬三: 医薬品とサプリメント. 第 29 回日本臨床栄養学会総会. 2007.11.18, 京都市
- 117) 古池直子, 梅國智子, 辻雅子, 海老原美樹, 細井俊克, 松村康弘, 廣田晃一: 小学生向け健康栄養情報サイトの構築. 第 27 回医療情報学会連合大会. 2007.11.24, 神戸
- 118) 山田和彦: 食品のエネルギー換算係数. NR 研修会. 2007.11.24, 福岡
- 119) 松本圭司, 清水雅之, 熊谷翼, 梅垣敬三, 大門貴志, 山田浩: 健康食品等の安全性情報を正しくかつ効率的に評価するための有害事象因果関係分類評価アルゴリズムの検討. 日本臨床薬理学会第 29 回年会. 2007.11.28, 宇都宮
- 120) 窪田哲也, 窪田直人, 熊谷洋紀, 小園秀樹, 伊藤晋介, 植木浩二郎, 門脇孝: 血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質 (IRS)2 の役割の解明 –血管内皮細胞特異的 IRS2 欠損マウスを用いて-. 第 19 回分子糖尿病学シンポジウム. 2007.12., 神戸
- 121) 窪田哲也, 諸井雅男, 窪田直人, 熊谷洋紀, 小園秀樹, 伊藤晋介, 杉薫, 門脇孝: 血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質 (IRS)2 の役割の解明. 第 2 回高血圧と冠動脈疾患研究会. 2007.12, 東京
- 122) 三戸夏子, 山田和彦, 上村智美, 佐藤和人: アルコール摂取による行動リズムの変化. 第 5 回日本機能性食品医学会学術集会. 2007.12.01, 東京
- 123) 竹澤 純, 石見幸男, 山田晃一: プロテアソーム阻害剤はがん細胞に於いて、紫外線傷害後の損傷バイパス複製を顕著に阻害する. 第 30 回日本分子生物学会年会・第 80 回日本生化学会大会. 2007.12.11, パシフィコ横浜
- 124) 窪田直人, 窪田哲也, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 箕越靖彦, 門脇孝: アディポネクチンは視床下部の AMPK を介して食欲とエネルギー代謝を調節する. 第 11 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2008.01, 京都
- 125) 高橋雄大, 窪田哲也, 窪田直人, 熊谷洋紀, 小園秀樹, 伊藤晋介, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 門脇孝: 血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質 (IRS)2 の役割の解明. 第 11 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2008.01., 京都
- 126) 門脇孝: 心血管病を抑制する 2 型糖尿病の治療戦略 ~J-DOIT3 のコンセプト~. Tama Actos Forum. 2008.01.15, 東京
- 127) 門脇孝: 心血管病抑制にむけた統合的な糖尿病治療戦略 ~J-DOIT3 のコンセプト~. 第 4 回城南メタボリックシンドローム研究会. 2008.01.23, 東京
- 128) 奥田奈賀子, 寶澤 篤, 高嶋 直敬, 村上義孝, 門脇崇, 上島弘嗣, 由田克士, 斎藤重幸, 坂田清美, 三浦克之, 中川秀昭, 岡山明: 24 時間尿中 Na 排泄量により分類した高食塩摂取者と低食塩摂取者の食事パターン INTERMAP Japan より. 第 18 回日本疫学会学術総会. 2008.01.26, 東京
- 129) 後藤美央, 大森由美, 鈴木望, 須田尚美, 饗場直美, 森田明美, 渡邊昌: 肥満者への栄養教育による食行動変化の検討 佐久肥満克服プログラム (SCOP Study)-1. 第 18 回日本疫学会学術総会. 2008.01.26, 東京
- 130) 鈴木望, 大森由美, 後藤美央, 須田尚美, 饗場直美, 森田明美, 渡邊昌: 性格特性が肥満解消への介入効果に及ぼす影響 佐久肥満克服プログラム (SCOP Study) - 2. 第 18 回日本疫学会学術総会. 2008.01.26, 東京
- 131) 須田尚美, 大森由美, 鈴木望, 後藤美央, 森田明美, 饗場直美, 渡邊昌, 江指隆年: 減量プログラムにおける行動変容と体重減少の関連性についての検討 佐久肥満克服プログラム (SCOP Study) - 3. 第 18 回日本疫学会学術総会. 2008.01.26, 東京
- 132) 李廷秀, 林邦彦, 松村康弘, 藤田利治, 鈴木庄亮, 片野田耕太, 今関節子, 水沼英樹, 久保田俊郎, 麻生武志: 専門職として働く女性の勤務中の身体活動強度別時間の実態: Japan Nurses' Health Study (JNHS). 第 18 回日本疫学会総会. 2008.01.26, 東京
- 133) 松村康弘, 藤田利治, 李廷秀, 鈴木庄亮, 磯博康, 岡野浩哉, 安井敏之, 水沼英樹, 麻生武志, 林邦彦: 女性看護職における乳がんの罹患状況およびその妥当性の検討: Japan Nurses' Health Study (JNHS). 第 18 回日本疫学会総会. 2008.01.26, 東京
- 134) 林邦彦, 李廷秀, 松村康弘, 藤田利治, 鈴木庄亮, 片野田耕太, 今関節子, 水沼英樹, 久保田俊郎, 麻生武志: 女性看護職における身体活動レベルからのエネルギー消費量の推定: Japan Nurses' Health Study. 第 18 回日本疫学会総会. 2008.01.26, 東京
- 135) 窪田直人, 窪田哲也, 伊藤晋介, 高本偉碩, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 戸辺一之, 門脇孝: 肝臓特異的 Irs2 欠損マウスはインスリン抵抗性、耐糖能異常を呈する. 第 22 回日本糖尿病・肥満動物学会. 2008.02, 東京
- 136) 窪田哲也, 窪田直人, 熊谷洋紀, 小園秀樹, 高橋雄大, 伊藤晋介, 植木浩二郎, 門脇孝: 血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質 (IRS)2 の役割の解明 –血管内皮細胞特異的 IRS2 欠損マウスを用いて-, 第 22 回日本糖尿病・肥満動

- 物学会. 2008.02, 東京
- 137) 佐藤陽子, 梅垣敬三, 卓興鋼, 芝池伸彰: 健康食品等に対する意識と情報提供について. 第 21 回公衆衛生情報研究協議会研究会. 2008.02.01, 和光市
- 138) 佐藤洋美, 萩原ヒロミ, 上野光一, 矢野友啓: 悪性中皮腫細胞におけるコネキシン 43 遺伝子の薬剤感受性改善作用. 第 81 回日本薬理学会年会. 2008.03.17, 横浜
- 139) 大坂寿雅, 小山有布, 塚本絢子, 井上修二: 腓ホルモン・アミリンによる熱産生. 第 4 回環境生理学プレコングレス. 2008.03.24, 東京都養育院記念講堂(板橋)
- 140) 沖智之, 竹林純, 山崎光司, 佐藤麻紀, 須田郁夫: 食品の Antioxidant Unit 測定法の確立(1)市販飲料の DPPH ラジカル消去活性と ORAC との比較. 日本農芸化学会 2008 年度大会. 2008.03.27, 名古屋
- 141) 竹林純, 沖智之, 山崎光司, 陳健斌, 山田和彦, 渡邊昌: 食品の Antioxidant Unit 測定法の確立(2)ORAC と他の良く知られている抗酸化アッセイ法の比較. 日本農芸化学会 2008 年度大会. 2008.03.27, 名古屋
- 142) 山崎光司, 沖智之, 竹林純, 佐藤孝史, Lekh R. Juneja, 津志田藤二郎: 食品の Antioxidant Unit 測定法の確立(3)食品抽出液と、その抗酸化物質含量から算出した抗酸化能の比較. 日本農芸化学会 2008 年度大会. 2008.03.27, 名古屋
- 143) 高野泰幸, 萩原ヒロミ, 佐藤洋美, 中村智徳, 上野光一, 矢野友啓: コネキシン 32 遺伝子と化学療法薬の癌増殖抑制効果に関する検討. 日本薬学会第 128 回年会. 2008.03.28, 横浜
- 144) 新村哲夫, 海栄, 堀井裕子, 中崎美峰子, 長瀬博文, 桑守豊美, 森田明美, 王紅兵, 胡莉珍, 孫迎春, 蘇秀蘭, 常虹, 畢力夫, 鏡森定信: 中国内モンゴル自治区フッ素汚染地域女性における骨吸収亢進に関する調査研究(1)―尿中フッ素濃度と骨吸収マーカーについて―. 第 78 回日本衛生学会総会. 2008.03.29, 熊本市
- 145) 大賀英史, 東久留米生涯学習まちづくり研究会, 狩野照誉, 稲葉陽二: ソーシャル・キャピタルと主観的な健康感及び精神的健康との関連-近郊都市の市民活動による環境測定尺度を用いたスノーボール調査より-. 第 78 回日本衛生学会総会. 2008.03.30, 市民会館(熊本県熊本市)
2. 国家予算による研究(競争的資金)
- (1) 厚生労働省厚生労働科学研究費
- a. 主任研究者
- 1) 渡邊昌(主任研究者): 健診受診者のコホート化と運動・栄養介入による生活習慣病予防. 厚生労働省厚生科学研究費. 糖尿病戦略等研究事業. 2007
- 2) 芝池伸彰(主任研究者): 特定保健用食品等の有効性・安全性を確保するための科学的根拠の評価方法に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業. 2007
- 3) 高橋佳子(主任研究者): 日本人の生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定のための大規模介入研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 4) 梅垣敬三(主任研究者): いわゆる健康食品の安全性に影響する要因分析とそのデータベース化・情報提供に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業. 2007
- 5) 江崎治(主任研究者): メタボリックシンドローム予防・治療薬の開発のための基盤研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 政策創薬総合研究事業. 2007
- 6) 高田和子(主任研究者), 小長谷陽子, 田中喜代次, 吉田佑子: 大規模コホートの観察研究に基づく生活機能低下スクリーニング質問表の開発. 厚生労働省厚生科学研究費. 長寿科学総合研究事業. 2007
- 7) 田畑泉(主任研究者): 健康づくりのための運動基準・エクササイズガイド改定に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 8) 由田克士(主任研究者): 日本人の食事摂取基準の活用に関する検討. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 9) 荒井裕介(主任研究者): 食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 10) 田中茂穂(主任研究者): エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 11) 矢野友啓(主任研究者): 多様な生理活性を持つ機能性成分の安定化による新たな難治性慢性疾患の予防および治療法の構築. 厚生労働省厚生科学研究費. 政策創薬総合研究. 2007
- 12) 吉池信男(主任研究者): 都道府県等の生活習慣病リスク因子の格差及び経年モニタリング手法に関する検討. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 13) 山田和彦(主任研究者): 特定保健用食品の新たな審査基準に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業. 2007
- 14) 大賀英史(主任研究者): 民間衛生施設を活用した健康増進のための効果的なシステムの開発及び評価に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 15) 門脇孝(主任研究者): アディポネクチンを標的にしたと糖尿病・メタボリック症候群の新規診断法・治療法の床応用. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働省厚生科学研究費. 基礎研究成果の臨床応用推進研究事業. 2007
- 16) 門脇孝(主任研究者): 保健指導への活用を前提としたメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出のための横断・縦断研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等総合研究事業. 2007

b. 分担研究者

- 1) 高橋佳子(分担研究者), 宮地元彦, 田畑泉, 佐々木敏, 樋口満, 宮武伸行: 生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業). 2006
- 2) 江崎治(分担研究者): 慢性疾患としての糖尿病の病期の注目した病態の解析と、新たな診断・治療法の探索. 厚生労働省厚生科学研究費. ヒトゲノム・再生医療等研究事業. 2007
- 3) 杉山みち子(分担研究者), 加藤昌彦, 合田敏尚, 西村秋生, 高田和子, 太田貞次, 臼井正樹: 介護保険制度における栄養ケア・マネジメント事業評価に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 科学. 2007
- 4) 植田耕一郎(分担研究者), 相田潤, 大原里子, 北原稔, 木村隆次, 杉山みち子, 高田和子, 月岡正朋, 戸原玄, 三橋扶佐子: 介護予防給付の栄養改善・口腔機能の向上の実施に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 老人保健事業推進費等補助金. 2007
- 5) 山崎聖美(分担研究者): 形態形成期・思春期などの高感受性期にある集団での核内受容体作動性化学物質の有害性発現メカニズムの解明及びその評価手法にかかる総合研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 化学物質リスク事業. 2007
- 6) 高橋佳子(分担研究者), 宮地元彦, 田畑泉, 佐々木敏, 樋口満, 宮武伸行: 生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業). 2007
- 7) 由田克士(分担研究者): 都道府県等の生活習慣病リスク因子の格差及び経年モニタリング手法に関する検討. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 8) 由田克士(分担研究者): 勤労者の健康づくりのための給食を活用した集団及びハイリスク者への対策に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 9) 由田克士(分担研究者): 生活習慣病予防のための効果的な栄養教育手法に関する検討. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 10) 由田克士(分担研究者): 食生活・栄養素摂取状況が高齢者の健康寿命に与える影響に関する研究: NIPPON DATA80・90の追跡調査. 厚生労働省厚生科学研究費. 長寿科学総合研究事業. 2007
- 11) 宇津木恵(分担研究者): 日本人の食事摂取基準の活用に関する検討. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 12) 荒井裕介(分担研究者): 日本人の食事摂取基準の活用に関する検討. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 13) 松村康弘(分担研究者): 食生活・栄養素摂取量が
- 高齢者の健康寿命に与える影響に関する研究: NIPPON DATA 80・90の追跡調査. 厚生労働省厚生科学研究費. 長寿科学総合研究事業. 2007
- 14) 松村康弘(分担研究者): わが国の女性における生活習慣病の実態把握と発症要因の探索及び介入に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 15) 廣田晃一(分担研究者): 民間衛生施設を活用した健康増進のための効果的なシステムの開発及び評価に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 16) 廣田晃一(分担研究者): 食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 17) 廣田晃一(分担研究者): いわゆる健康食品の安全性に影響する要因分析とそのデータベース化・情報提供に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業. 2007
- 18) 吉池信男(分担研究者): 乳幼児食品中の有害物質及び病原微生物の暴露調査に関する基礎的研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安全性高度化推進研究事業. 2007
- 19) 吉池信男(分担研究者): 食品中残留農薬等の汚染実態の把握と急性暴露評価に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安全性高度化推進研究事業. 2007
- 20) 吉池信男(分担研究者): 健康づくりを支援する環境とその整備状況の評価手法に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 21) 吉池信男(分担研究者): 生活習慣病予防のための効果的な栄養教育手法に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 22) 吉池信男(分担研究者): 乳幼児死亡原因の解明とその削減対策に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 国際医療協力研究費. 2007
- 23) 吉池信男(分担研究者): 健康復帰を目指す入院患者教育の手法の開発. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器病委託研究費. 2007
- 24) 杉山みち子(分担研究者), 太田貞司, 加藤昌彦, 木下福子, 合田敏尚, 小山秀夫, 西村秋生, 高田和子, 星野和子, 三橋扶佐子: 施設及び居宅高齢者に対する栄養・食事サービスのマネジメントに関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 老人保健事業推進等補助金. 2007
- 25) 水野正一(分担研究者): がん死亡動向分析および地分布解析. 厚生労働省厚生科学研究費. がん罹患・死亡動向の実態把握の研究. 2007
- 26) 門脇孝(分担研究者): 生活習慣病の鍵分子、アディポネクチン受容体の病態生理的意義と情報伝達経路の解明. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働省厚生科学研究費. ヒトゲノム・再生医療等研究事業. 2007
- 27) 門脇孝(分担研究者): 生活習慣と遺伝子型による

- 2 型糖尿病発症リスク予測法の開発. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働省厚生科学研究費. ヒトゲノム・再生医療等研究事業. 2007
- 28) 門脇孝(分担研究者): 多目的コホートにおける糖尿病・メタボリックシンドロームの発症要因と実態分析に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等総合研究事業(臨床研究実施チームの整備). 2007
- 29) 三好美紀(分担研究者): 食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 30) 山田和彦(分担研究者): 特定保健用食品等の有効性・安全性を確保するための科学的根拠の評価方法に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進事業. 2007
- 31) 山田和彦(分担研究者): 健康食品における安全性確保を目的とした基準等作成のための研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業. 2007
- 32) 田畑泉(分担研究者): 特定保健指導の実践的指導実施者育成プログラムの開発. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働科学特別研究事業. 2008
- 33) 田中茂穂(分担研究者): 「日本人の食事摂取基準」策定のための文献学的研究. 厚生労働省厚生科学研究. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 34) 宮地元彦(分担研究者): 健診受診者のコホート化と運動・栄養介入による生活習慣病予防. 厚生労働省厚生科学研究. 糖尿病戦略等研究事業. 2007
- 35) 梅垣敬三(分担研究者): 特定保健用食品等の有効性・安全性を確保するための科学的根拠の評価方法に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究. 食品の安心・安全確保推進研究事業. 2007
- 36) 吉池信男(分担研究者): 特定保健用食品等の有効性・安全性を確保するための科学的根拠の評価方法に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究. 食品の安心・安全確保推進研究事業. 2007
- 37) 吉池信男(分担研究者): 日本人の食事摂取基準の活用方法に関する検討. 厚生労働省厚生科学研究. 循環器等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 38) 高田和子(分担研究者): エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究. 厚生労働省厚生科学研究. 循環器等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 39) 宮地元彦(分担研究者): エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究. 厚生労働省厚生科学研究. 循環器等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 40) 梅垣敬三(分担研究者): 特定保健用食品の新たな新作基準に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究. 食品の安心・安全確保推進研究事業. 2007
- 41) 渡邊昌(分担研究者): メタボリックシンドロームのアジアと米国における発症機序とその健康対策に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究. 国際医学協力研究事業. 2007
- 42) 江崎治(分担研究者): 日本人の食事摂取基準策定のための文献学的研究. 厚生労働省厚生科学研究. 循環器等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 43) 田中茂穂(分担研究者): 日本人の食事摂取基準策定のための文献学的研究. 厚生労働省厚生科学研究. 循環器等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 44) 由田克士(分担研究者): 日本人の食事摂取基準策定のための文献学的研究. 厚生労働省厚生科学研究. 循環器等生活習慣病対策総合研究事業. 2007
- 45) 吉池信雄(分担研究者): 自然災害発生後の二次的健康被害発生防止及び有事における健康危機管理の保健所等行政機関の役割に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究. 地域健康危機管理研究事業. 2007
- 46) 梅垣敬三(分担研究者): 日本人の食事摂取基準(栄養所要量)の策定に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究. 循環器疾患等総合研究事業. 2007
- 47) 西牟田守(分担研究者): フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究. 医療技術評価総合研究事業. 2007
- 48) 宮地元彦(分担研究者): 地域・職域における生活習慣病予防活動・疾病管理による医療費適正化効果に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究. 循環器疾患等総合研究事業. 2007
- (2) 文部科学省科学研究費
- a. 主任研究者
- 1) 江崎治(主任研究者): 三浦進司: 運動は MEF2 を介して GLUT4 を増加させるか. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(B)(2). 2007
- 2) 山崎聖美(主任研究者): フルクトース摂取による肥満発症機序の解明と予防法の開発. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(C). 2007
- 3) 田畑泉(主任研究者): 運動で増加する転写補助因子等による骨格筋 GLUT4 発現増加の分子機構に関する研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 B. 2007
- 4) 宮地元彦(主任研究者): 介護予防と生活習慣病予防を両立させる中高齢者のトレーニング指針の作成. 文部科学省科学研究費. 2007
- 5) 羽田裕亮(主任研究者): 抗糖尿病因子アディポネクチンの高活性型フォーム同定と制御機構解明による治療応用. 文部科学省科学研究費. 若手研究(B). 2007
- 6) 松村康弘(主任研究者): 女性の健康増進のための科学的根拠の新展開. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(B). 2007
- 7) 石見佳子(主任研究者): 大豆イソフラボンの代謝産物に着目した骨粗鬆症の予防に関する研究. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費基盤研究 B. 2007
- 8) 永田純一(主任研究者): 機能性食品の組み合わせ摂取による有効性と安全性に関する研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(C). 2007
- 9) 矢野友啓(主任研究者): 大豆由来成分の新規食素材としての可能性. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究補助金(基盤研究 C). 2007
- 10) 三戸夏子(主任研究者): 高脂肪食誘導性肥満マウ

- スにおける免疫機能と aging. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費補助金(若手 B). 2007
- 11) 吉田真咲(主任研究者): ダンスがもたらす身体への適応現象 - 下腿三頭筋の筋持久力に着目して -. 文部科学省科学研究費. 若手研究 B. 2007
 - 12) 大坂寿雅(主任研究者): 視索前野 GABA 感受性かつ GABA 作動性ニューロンによる熱産生調節機構. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 C. 2007
 - 13) 田中茂穂(主任研究者): 肥満のリスクファクターとしての脂質酸化能および身体活動量に及ぼす運動の影響. 文部科学省科学研究費. 平成 19 年度科学研究費補助金 基盤研究(A). 2007
 - 14) 門脇孝(主任研究者): アディポネクチン受容体の生理・病態生理的意義解明と生活習慣病治療の分子標的同定. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(A). 2007
 - 15) 門脇孝(主任研究者): メタボリックシンドローム・糖尿病の鍵分子アディポネクチン受容体 AdipoR/AMPK/ACC タンパク群の構造解析とそれに基づく機能解明及び治療法開発. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. ターゲットタンパク研究. 2007
 - 16) 門脇孝(主任研究者): システム疾患生命科学による先端医療技術開発の拠点. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 科学技術振興調整費. 2007
 - 17) 山内淳(主任研究者): 糖新生酵素遺伝子発現抑制に関わる新規転写因子の生体機能解析. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(C). 2007
 - 18) 谷本道哉(主任研究者): 筋発揮張力維持法を取り入れたレジスタンストレーニングが動脈・血管系に与える影響. 文部科学省科学研究費. 若手スタート. 2007
 - 19) 森田明美(主任研究者): 骨折テラーメイド予防のために大規模コホートで遺伝-生活習慣相互作用を解明する. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(C). 2007
 - 20) 大石由美子(主任研究者): 心血管病の基礎的病態としてのメタボリックシンドローム発症・進展の分子機構の解明. 文部科学省科学研究費. 特別研究員奨励. 2007
 - 21) 笠岡(坪山)宜代(主任研究者): 文部科研費 基盤 C, 主任研究者 肥満発症に対するタウリンの新規機能の解明. 文部科学省科学研究費. 2008
- b. 分担研究者
- 1) 金子佳代子(分担研究者), 高田和子, 大森桂: 現代の小・中学生の生活スタイルと身体活動レベル(PAL)に関する研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 A. 2007
 - 2) 芝山秀太郎(分担研究者), 竹倉宏明, 宮地元彦, 藤本俊彦, 佐古隆之, 町田修一, 田巻弘之: 運動トレーニングに伴うメンタルヘルス改善の分子機構の解明と応用技術の開発. 文部科学省科学研究費. 基盤 A. 2007
 - 3) 饗場直美(分担研究者): 肥満発症に対するタウリンの新規機能の解明. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 C 一般. 2007
 - 4) 門脇孝(分担研究者): インスリン依存症 PI3 キナーゼが膵β細胞において増殖・再生・分泌に果たす役割の解明. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(B). 2007
 - 5) 門脇孝(分担研究者): 糖尿病患者の療養関連 QOL の向上とその血縁者の予防行動促進に関する研究. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(B). 2007
 - 6) 門脇孝(分担研究者): アディポネクチンの肥満による低下の原因となる新規転写因子の同定と増加剤の開発. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(B). 2007
 - 7) 門脇孝(分担研究者): 発生工学的手法を用いた個体レベルでの脂肪細胞機能と病態の解明. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 特定領域研究(2). 2007
 - 8) 門脇孝(分担研究者): 膵ベータ細胞の増殖調節機構の研究. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(C). 2007
 - 9) 門脇孝(分担研究者): 糖尿病疾患関連遺伝子同定と医療への応用. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 特定領域研究(2). 2007
 - 10) 門脇孝(分担研究者): ヒト内臓脂肪の発現解析によるメタボリックシンドローム発症分子機構の解明. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(C). 2007
 - 11) 門脇孝(分担研究者): 糖代謝調節・動脈硬化症における血管内皮インスリン受容体基質—2 の役割の解明. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(C). 2007
 - 12) 門脇孝(分担研究者): 環境・遺伝素因相互作用に起因する疾患研究—システム疾患生命科学の研究拠点形成—. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 21 世紀 COE プログラム研究拠点形成費補助金. 2007
 - 13) 宮地元彦(分担研究者): 肥満リスクファクターとしての脂質酸化能および身体活動量に及ぼす運動の影響. 文化科学省科学研究費. 基盤研究(A). 2007
 - 14) 熊江隆(分担研究者): 肥満リスクファクターとしての脂質酸化能および身体活動量に及ぼす運動の影響. 文化科学省科学研究費. 基盤研究(A). 2007
 - 15) 田畑泉(分担研究者): 肥満リスクファクターとしての脂質酸化能および身体活動量に及ぼす運動の影響. 文化科学省科学研究費. 基盤研究(A). 2007
 - 16) 山田和彦(分担研究者): 大豆由来成分の新規食素材としての可能性. 文部科学省科学研究費. 基盤研究(C). 2007

(3) その他

a. 主任研究者

- 1) 石見佳子(主任研究者), 梅垣敬三, 卓興鋼, 山内淳: 大豆成分の生活習慣病予防効果の系統的レビューとその効果の検証に関する研究.(財)不二たん白質研究振興財団(特定研究). 2007
- 2) 門脇孝(主任研究者): アディポネクチンを標的とした生活習慣病の機能性(予防/改善)食品の開発. 科学技術振興機構 産学協同シーズイノベーション事業(育成ステージ). 2007

b. 分担研究者

- 1) 江崎治(分担研究者), 山崎聖美: ニュートリゲノミクスを用いた高機能性新規食品の多機能性解明とその評価・管理に関する研究. 農林水産省 安信プロジェクト(安全で信頼性・機能性が高い食品・農産物供給のための評価・管理技術の開発). 2007
- 2) 徳田治彦(分担研究者), 伊藤健吾, 早坂和正, 新畑豊, 角保徳, 京兼和宏, 志賀幸夫, 岡村菊夫, 長屋政博, 高田和子: 高齢者の特質に配慮した総合検診システムの構築に関する研究. 厚生労働省長寿医療委託研究. 2007
- 3) 山田晃一(分担研究者): カフェイン及びプロテアソーム阻害剤の損傷バイパス DNA 複製に対する阻害機序の解析. 厚生労働省がん研究助成金. 2007

3. 民間等からの受託研究、等

- 1) 田中茂穂: 睡眠時代謝量および基礎代謝量がその後の体重変動に及ぼす影響. 2007 年度 花王健康科学研究会助成金. 2007
- 2) 梅垣敬三, 卓興鋼: 大豆成分の生活習慣病予防効果の系統的文献レビューとその効果の検証に関する研究.(財)不二たん白質研究振興財団 研究助成金(分担). 2007
- 3) 松村康弘: トンガにおける肥満の社会学的および生物学的研究. 国際協力医学研究振興財団調査研究助成金. 2007
- 4) 石見佳子, 西牟田守, 久米村恵, 藤井康弘, 吉田真咲: エクオール含有食品の骨代謝及び脂質代謝に対する有効性の評価. 大塚製薬共同研究. 2007
- 5) 石見佳子, 西牟田守, 佐々木敏: 閉経後女性におけるビタミン K の機能性評価に関する研究 2. 協和発酵工業株式会社共同研究. 2007
- 6) 石見佳子: 野菜類の骨代謝改善作用の検討に関する研究. カゴメ株式会社総合研究所共同研究. 2007
- 7) 矢野友啓: 癌化学予防に有効な食品機能性成分のスクリーニング. 日本アムウエーとの共同研究. 2007
- 8) 廣田晃一, 笠岡(坪山)宜代: 「食と健康に関する学術文献情報の活用方法」についての研究. 日本水産株式会社からの受託研究. 2007
- 9) 野末みほ, 石田裕美: 個々の児童における学校給食の摂取状況の把握及び身体状況、生活環境との関連の検討. 財団法人日本科学協会 笹川科学研

究助成. 2007

- 10) 田中茂穂: 日本の子どもにおける身体活動・運動の行動目標設定と効果の検証. 平成 19 年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究. 2007
- 11) 大石由美子: 研究助成プログラム「アストラゼネカ・リサーチ・グラント 2006」採択研究テーマ、「Molecular mechanisms of pathogenesis of metabolic syndrome」に関する研究助成. アストラゼネカ株式会社. 2007
- 12) 大賀英史, 宮地元彦, 吉池信男: 生活学習を取り入れた保健指導に基づく次世代の人間ドックのあり方に関する研究. 医療法人城見会との産学共同研究. 2007
- 13) 大賀英史, 宮地元彦, 高田和子, 吉池信男: 健診受信者の予防医学的行動を支援する「健康パスウェイ」の作成に向けたデータ蓄積体制の構築と評価. 日本事務器株式会社との産学共同研究. 2007
- 14) 熊江隆: 生態の抗酸化能力の測定法の開発. 株式会社トッケンとの共同研究. 2007

4. 研究所外での講義、講演等

(1) 大学等、教育機関における特別講義等

- 1) 門脇孝: 糖尿病と付き合うコツ. 東大病院 CDE と患者さんの会. 2007.04.21, 東京
- 2) 宮地元彦: . 特定健診・特定保健指導の実践、(2)運動・身体活動指導のポイント. 平成 19 年度生活習慣病対策健診・保健指導に関する企画・運営・技術研修会. 国立保健医療科学院. 2007.05.10, 埼玉県和光市
- 3) 三好美紀: 国際社会と医療活動「途上国における栄養問題と評価手法」. 聖母大学. 2007.05.16, 東京
- 4) 門脇孝: 糖尿病の病態・分類・診断. M2 カリキュラム(糖代謝)講義. 2007.05.18, 東京
- 5) 由田克士: 国民健康・栄養調査方式による栄養摂取状況調査について. 女子栄養大学. 2007.05.28, 坂戸市
- 6) 吉池信男: 公衆衛生における“栄養・食生活”～ポピュレーションアプローチのための戦略とツール～. 東京医科歯科大学医学部・公衆衛生学実習・講義. 2007.05.29, 東京
- 7) 山田和彦: 保健機能食品制度. 神奈川県立保健福祉大学大学院. 2007.06.01, 横須賀市
- 8) 山田和彦: 国際食品規格策定制度. 神奈川県立保健福祉大学大学院. 2007.06.08
- 9) Yoshiike N: Health Japan 21, National Health and Nutrition Survey. 保健衛生管理セミナー・国立保健医療科学院. 2007.06.12, 和光市
- 10) 矢野友啓: いわゆる健康食品をめぐる最近の話題. 平成 19 年度千葉大学薬学部「第 3 回卒業後教育研修講座」. 2007.06.16, 千葉
- 11) 吉池信男: 公衆衛生における“栄養・食生活”. 新潟大学医学部公衆衛生学講義. 2007.06.18, 新潟市
- 12) 吉池信男: 栄養政策～ポピュレーションストラテジーの戦略とツール～. 大学院講義(栄養政策論)、

- 神奈川県立保健福祉大学. 2007.06.29, 横須賀市
- 13) 梅垣敬三: 健康・栄養食品の最新情報. 共立薬科大学公開講座 C. 2007.07.01, 東京
 - 14) 廣田晃一: 生活習慣病予防のための栄養情報とその考え方について. 神奈川県立保健福祉大学 栄養教育各論 I. 2007.07.05, 横須賀
 - 15) 門脇孝: 糖尿病・肥満・メタボリックシンドロームの分子機構. 慶應義塾大学医学部 生理学講義講義. 2007.07.12, 東京
 - 16) 山田和彦: 保健機能食品、特別用途食品. 栄養ケア・マネジメント課程、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター. 2007.07.14, 横浜市
 - 17) 三好美紀: 国際保健・栄養協力論. 県立広島大学大学院. 2007.08.09, 広島
 - 18) 吉池信男: 地域における栄養モニタリング. 平成 19 年度特別課程公衆栄養コース、保健医療科学院. 2007.08.28, 和光市
 - 19) 由田克士: 健診・保健指導を視野に入れた特定給食施設における支援・指導のあり方. 国立保健医療科学院 平成 19 年度特別課程公衆栄養コース講義. 2007.08.29, 和光市
 - 20) 由田克士: 集団における栄養素等摂取量の評価. 国立保健医療科学院 平成 19 年度特別課程公衆栄養コース 講義. 2007.08.29, 和光市
 - 21) 門脇孝: 糖尿病と肥満の分子機構. 群馬大学医学部講義. 2007.09.10, 群馬
 - 22) 吉池信男: 栄養政策～ポピュレーションストラテジーの戦略とツール. 栄養政策論、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター. 2007.09.15, 横浜市
 - 23) 梅垣敬三: 消費者に対する健康食品情報の提供. 食のコミュニケーション会議オープンカレッジ (共立薬科大学). 2007.10.14, 東京
 - 24) 吉池信男: 予防医学特論. 公立大学法人首都大学東京人間健康科学研究科大学院. 2007.10.19, 東京
 - 25) 吉池信男: 公衆栄養学. 高知女子大学生生活科学部健康栄養学科. 2007.10.29, 高知市
 - 26) 門脇孝: M4 臨床統合講義. 東京大学 M4 臨床統合講義. 2007.11.13, 東京
 - 27) 吉池信男: 栄養・健康づくりと食事摂取基準. 慶應義塾大学医学部衛生・公衆衛生学講義. 2007.11.19, 東京
 - 28) 山内淳: 分子生物学的手法を用いた栄養学研究の例. 東京農業大学大学院特別講義. 2007.11.20, 東京
 - 29) 門脇孝: 糖尿病に重篤な合併症を併発した症例. 東京大学 M3 臨床統合講義. 2007.11.30, 東京
 - 30) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの臨床研究とトランスレーショナルリサーチ. 横浜市立大学 第 9 回最先端セミナー講演会. 2007.12.04, 横浜
 - 31) 石見佳子: 骨代謝と運動・栄養. 早稲田大学運動生化学講義. 2007.12.13, 所沢
 - 32) 永田純一: 生活習慣病改善が期待される機能性構造油脂について. 中村学園大学大学院. 2007.12.19, 福岡市
 - 33) Yoshiike N: Overview of Health and Nutrition Policy in Japan. JICA(集団)「健康と栄養改善のための女性指導者研修、JICA 帯広国際センター. 2007.12.21, 帯広
 - 34) Miyoshi M: "Roles of dietitians in Japan" and "Nutritional Assessment in the field: Dietary Surveys". JICA(集団)「健康と栄養改善のための女性指導者研修、JICA 帯広国際センター. 2007.12.21, 帯広
 - 35) 門脇孝: 糖尿病への扉を開く—東京大学の医学生へ—. 東京大学 M3 クリニカルクラークシップクルズス. 2008.01.08, 東京
 - 36) 廣田晃一: 栄養情報とその考え方について. 神奈川県立保健福祉大学 栄養教育総論. 2008.01.10, 横須賀
 - 37) 松村康弘: ポリネシアの栄養. 講座医療人類学 (順天堂大学医療看護学部). 2008.01.11, 浦安
 - 38) 梅垣敬三: 機能性食品の安全性と有効性の評価. グローバル COE プログラム主催特別セミナー、静岡県立大学. 2008.01.22, 静岡
 - 39) 田中茂穂: 新しい運動基準とエクササイズガイド. 平成 19 年度 臨地実習・校外実習講演会. 2008.03.04, 女子栄養大学
 - 40) 笠岡(坪山)宜代: Energy-Sensitive Pathways and cancer risk. NUTRITION AND CANCER PREVENTION RESEARCH PRACTICUM, NIH, National Cancer Institute, Nutritional Science Research Group. 2008.03.19
- (2) 大学・研究所における研究セミナー等
- 1) 渡邊昌: 見直させられる大豆の機能. 第 2 回農研機構産学官連携交流セミナー. 2007.05.30, 東京
 - 2) 梅垣敬三: 「健康食品」の安全性・有効性の考え方と保健機能食品制度. 徳島大学薬学部卒業教育公開講座. 2007.06.02, 徳島
 - 3) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの賢い使い方について. 京都女子大学 食物栄養学科公開講座. 2007.06.09, 京都
 - 4) 松村康弘: トングの人々の食物摂取と身体活動. 第 5 回前橋疫学公開セミナー. 2007.06.22, 前橋
 - 5) 門脇孝: メタボリックシンドローム—あなたも御用心—. 東京大学 疾患生命工学センター 教育・啓発セミナー. 2007.08.07, 東京
 - 6) 水野正一: 15 カ国原子力施設作業者の健康影響調査についてその内容と放射線防護上の意味. 環境科学技術研究所. 2007.08.24, 青森県
 - 7) 山田和彦: 食品の健康栄養表示とその対応. 特別課程公衆栄養コース、国立保健医療科学院. 2007.08.30
 - 8) 高田和子: 健康づくりのための運動基準 2006 と運動指針 2006 を使いこなす. 専門家講座 女子栄養大学香友会. 2007.10.27, 女子栄養大学駒込校舎(東京)
 - 9) 石見佳子: 保健機能食品と健康. 東京女子医科大学公開講座. 2007.11.17, 東京
 - 10) 吉池信男: 新しい特定健診・特定保健指導によるメタボリックシンドロームの予防・管理～医療制

- 度改革と予防医学のストラテジー～、高知女子大学健康フォーラム(2008)、高知女子大学、2008.01.26, 高知市
- 11) 矢野友啓: 癌抑制遺伝子としてのコネキシン遺伝子の役割. 酪農学園大学動物病院腫瘍科セミナー. 2008.03.07, 北海道江別市
 - (3) 地方自治体、栄養士会等主催の講演会等
 - 1) 梅垣敬三: サプリメントについて知っておきたいこと. 第 27 回日本医学会総会 企画展示 市民公開講座. 2007.04.01, 大阪
 - 2) 宮地元彦: メタボリックシンドローム改善のための運動指導. 平成 19 年度第 1 回特定健診・保健指導の実施にむけた実践者研修会、富山県国保連合会. 2007.04.17
 - 3) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの実態と問題点. 第 5 回統合医療検討委員会(新宿区医師会). 2007.04.25, 新宿区
 - 4) 宮地元彦: メタボリックシンドロームセミナー. 平成 19 年度家庭の健康セミナー、神奈川県横浜市中区. 2007.05.21, 中原区役所
 - 5) 吉池信男: 今後の生活習慣病対策と特定健診・保健指導. 東京都栄養士会総会・特別講演. 2007.05.22, 東京
 - 6) 石見佳子: 骨の健康と健康食品. 福島県大熊町保健センター. 2007.05.23, 福島
 - 7) 高田和子: 現場で生かす運動基準・エクササイズガイド. 中央労働災害防止協会. 2007.05.25, 安全衛生総合開会(東京)
 - 8) 宮地元彦: 健康づくりのための運動基準・運動指針 2006. 香取保健所管内栄養士会研修会、香取健康福祉センター. 2007.05.28
 - 9) 饗場直美: 生涯を通じた健康づくりを目指した食育の展開. 栗原市栄養士会. 2007.06.01, 宮城県栗原市
 - 10) 渡邊昌: 子どもの将来の健康を考えた食生活 - メタボリックシンドローム予防は子どもの頃の食習慣から. 2007 年歯の健康シンポジウム. 2007.06.02, 東京
 - 11) 大賀英史: ご近所さんの底力”で健康づくりをしよう - 健康づくりは仲間づくり、地域づくり -. 平成 19 年度 杉並区健康づくり推進員地区会連絡会. 2007.06.04, 杉並区役所(東京都杉並区)
 - 12) 宮地元彦: 運動・身体活動指導のポイント. 平成 19 年度特定健診・保健指導事業実践者養成研修会、静岡県国保連合会. 2007.06.11, 浜松市福祉交流会館
 - 13) 梅垣敬三: 健康食品の有効性とエビデンス. くらしの情報交流プラザ(国民生活センター). 2007.06.13, 東京
 - 14) 宮地元彦: 運動・身体活動のポイント. 人間ドック健診情報管理指導士リーダー研修会. 2007.06.22, 東京都港区 ホテルはあといん乃木坂
 - 15) 宮地元彦: エクササイズガイド 2006. 長野県支部平成 19 年度研修会. 2007.06.23, 長野県松本市松本大学
 - 16) 大賀英史: 杉並ウエストサイズ物語チャレンジャー支援講習会. メタボリックシンドロームの基礎知識 - 腹囲と内臓脂肪の過剰が問題になる理由. 2007.06.23, 東京都 杉並保健所 講堂
 - 17) 梅垣敬三: サプリメントの安全性の評価法. 第 34 回日本トキシコロジー学会学術年会 市民公開セミナー. 2007.06.29, 江戸川区
 - 18) 吉池信男: ポピュレーションアプローチとしての「食育」とハイリスクアプローチとしての「特定健診・保健指導」. 食育シンポジウム(健康づくりの第一歩は食育と体育のフュージョンから)、十文字女子大学. 2007.06.30, 新座市
 - 19) 大賀英史: メタボリックシンドロームの基礎知識 - 腹囲と内臓脂肪の過剰が問題になる理由. 2007.06.30, 東京都 杉並区立産業商工会館 大会議室
 - 20) 吉池信男: 特定健診・保健指導とメタボリックシンドローム. コメディカルのためのステップアップセミナー、(社)家族計画協会. 2007.07.01, 東京
 - 21) 由田克士: 日本人の食事摂取基準(2005 年版)を活用した特定給食施設における栄養計画及び食事の方針. 横浜市金沢区保健センター研修会. 2007.07.02, 横浜市
 - 22) 吉池信男: 「授乳・離乳の支援ガイド」の策定経緯、具体的内容について. 横浜市こども青少年局. 2007.07.06, 横浜市
 - 23) 宮地元彦: 健康づくりのための運動指針 2006 について. 生活習慣病予防のための健康教育・保健指導従事者研究会. 2007.07.06, 長野県木曽郡木曽町 木曽福島公民館
 - 24) 石見佳子: 骨を支える大豆の栄養. 食と健康を考えるアンチエイジングセミナー in 入間. 2007.07.11, 入間市
 - 25) 門脇孝: 糖尿病と上手に付き合うコツ!. 静岡県糖尿病協会 講演会 特別講演. 2007.07.14, 静岡
 - 26) 吉池信男: 健診データからみた生活習慣病管理の戦略. 生活習慣病予防のための標準的な健診・保健指導に関する企画・評価研修、日本栄養士会・全国行政栄養士協議会. 2007.07.21, 名古屋
 - 27) 吉池信男: レセプト分析の概要と、分析からわかること. 生活習慣病予防のための標準的な健診・保健指導に関する企画・評価研修、日本栄養士会・全国行政栄養士協議会. 2007.07.21, 名古屋
 - 28) 森田明美: これからの生活習慣病予防～特定保健指導に向けて～. 平成 19 年度総合健康センター調査研究事業の概要報告会. 2007.07.24, 静岡
 - 29) 梅垣敬三: 健康食品の特性を理解しましょう. 平成 19 年度佐倉市消費者大学(佐倉市消費生活センター). 2007.07.25, 佐倉
 - 30) 梅垣敬三: 健康食品の有効性とエビデンス. 教職員消費生活セミナー(埼玉県消費生活支援センター). 2007.07.27, 川口市
 - 31) 吉池信男: 食事バランスガイドの正しい理解と活用. 日本栄養士会全国福祉栄養士協議会第 12 回専門研修会(西日本ブロック). 2007.07.29, 大分
 - 32) 梅垣敬三: 健康食品の現状とその効果と安全性に

- ついて、平成 19 年度第 3 回神奈川県行政栄養士等研修会(神奈川県). 2007.07.30, 横浜市
- 33) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの賢い使い方について。第 1 回岩手県食の安全・安心リスクコミュニケーション(岩手県). 2007.08.01, 盛岡
- 34) 饗場直美: 健康教育に欠かせない『食育』の重要性を考える。八王子市教育委員会. 2007.08.03, 八王子市創価大学
- 35) 吉池信男: 健診データ・レセプト分析から見る生活習慣病管理。生活習慣病予防のための標準的な健診・保健指導に関する企画・評価研修、日本栄養士会・全国行政栄養士協議会. 2007.08.05, 東京
- 36) 由田克士: 食事摂取基準の基礎・食事摂取基準の活用法。平成 19 年 福井県栄養士会生涯学習研修会. 2007.08.05, 福井市
- 37) 由田克士: 日本人の食事摂取基準について。平成 19 年度石川県高等学校教育研究会家庭部会夏季研修会. 2007.08.10, 金沢市
- 38) 梅垣敬三: 正しい情報とは何か。平成 19 年度生涯学習研修会(福島県栄養士会). 2007.08.18, 郡山市
- 39) 吉池信男: 食事バランスガイドの正しい理解と活用。日本栄養士会全国福祉栄養士協議会第 12 回専門研修会(中日本ブロック). 2007.08.19, 静岡
- 40) 田中茂穂: 栄養摂取と運動「身体活動量の定量法とその実際(1)(2)」. 第 109 回 健康運動指導士養成講習会. 2007.08.25, 戸山サンライズ(東京)
- 41) 梅垣敬三: 健康食品の有効性とエビデンス。千葉県薬業会健康食品研修会((社)千葉県薬業会). 2007.08.26, 千葉市
- 42) 宮地元彦: 健康づくりのための運動基準・運動指針。健康運動指導士養成制度見直しに伴う特別補修講座。2007.08.26, 大阪市西区 大阪 YMCA 国際文化センター
- 43) 宮地元彦: メタボリックシンドロームの運動処方—エクササイズガイドの活用。平成 19 年度宮崎県栄養士会研究会. 2007.09.01, 宮崎市霧島 宮崎県総合保健センター5 階研修室
- 44) 吉池信男: 食事バランスガイドの正しい理解と活用。日本栄養士会全国福祉栄養士協議会第 12 回専門研修会(東日本ブロック). 2007.09.02, 仙台市
- 45) 梅垣敬三: 「健康食品」の安全性・有効性の考え方と保健機能食品制度。平成 19 年度消費生活実習講座(社ふくい・くらしの研究所). 2007.09.04, 小浜市
- 46) 梅垣敬三: 「健康食品」の安全性・有効性の考え方と保健機能食品制度。平成 19 年度消費生活実習講座(社ふくい・くらしの研究所). 2007.09.05, 福井市
- 47) 吉池信男: 健診データ・レセプト分析から見る生活習慣病管理。生活習慣病予防のための標準的な健診・保健指導に関する企画・評価研修、日本栄養士会・全国行政栄養士協議会. 2007.09.08, 熊本市
- 48) 梅垣敬三: 健康食品について。平成 19 年度「公開講座」(船橋市保健所). 2007.09.14, 船橋市
- 49) 梅垣敬三: 科学的根拠のある健康食品情報のとらえ方。平成 19 年度健康と栄養を考える講演会(日本栄養士会). 2007.09.15, 大分市
- 50) 饗場直美: 健康情報の見極め方。富士宮市フードバレー食の大学(富士宮市政政策推進課). 2007.09.21, 富士宮市
- 51) 吉池信男: 健診データ・レセプト分析から見る生活習慣病管理。生活習慣病予防のための標準的な健診・保健指導に関する企画・評価研修、日本栄養士会・全国行政栄養士協議会. 2007.09.22, 仙台市
- 52) 高田和子: メタボリックシンドローム予防のための運動。特定給食施設栄養管理講習会 八王子保健所. 2007.09.27, 八王子労政会館(東京)
- 53) 廣田晃一: 科学的根拠に基づくアドバイス。社団法人東京都栄養士会. 2007.09.28, お茶の水女子大学
- 54) 吉池信男: 標準的な健診・保健指導プログラム(確定版)・特定保健指導の階層化について～計画、階層化、評価を実施するための基礎知識と技術。保健指導実践者育成研修会、全国集団健康管理栄養士協議会. 2007.09.30, 東京
- 55) 饗場直美: 健康を維持するための栄養の役割と高齢期の栄養の摂り方。第 18 回栄養士調理員研修会(社会福祉法人日本失明者協会). 2007.10.02, 埼玉県深谷市
- 56) 手嶋登志子: 高齢者の QOL を高める食介護。大阪府健康福祉部. 2007.10.04, 大阪市
- 57) 梅垣敬三: 健康食品の賢い使い方。食のコミュニケーション会議オープンカレッジ(世田谷区世田谷保健所). 2007.10.06, 世田谷
- 58) 饗場直美: 食習慣を理想に近づけるための工夫・食生活改善プログラムの作成。平成 19 年度メタボリックシンドローム予防専門研修(滋賀県健康づくり財団). 2007.10.09, 滋賀県大津市
- 59) 山田和彦: 特別用途食品の現状と今後の展望。湘南ライフサイエンスコンソーシアム特別セミナー、藤沢市企画部. 2007.10.12, 藤沢市
- 60) 永田純一: 食品の栄養成分及び健康表示と科学的根拠のある食品情報のとらえ方。H19 年度健康と栄養を考える講演会、日本栄養士会、長崎県栄養士会. 2007.10.13, 長崎県雲仙市国見町
- 61) 高田和子: 食生活に関する保健指導。特定健診・保健指導実践者育成研修会 栃木県保険者協議会. 2007.10.14, 白鷗大学東キャンパス(栃木)
- 62) 由田克士: 施設にあった有効な食情報の提供について ～食環境整備を始めましょう～。平成 19 年千葉市保健所健康づくり研修会. 2007.10.17, 千葉市
- 63) 野末みほ: 国楽調ソフトを使用した栄養調査の集計法について - 実務研修を中心に -。新潟市保健所. 2007.10.19, 新潟市
- 64) 石見佳子: 大豆の健康効果～生活習慣病の予防を目指して～。平成 19 年度指導者のための健康・栄養セミナー石川県栄養士会. 2007.10.21, 金沢
- 65) 梅垣敬三: 健康食品とサプリメント。静岡県薬剤師会医薬品情報委員会・介護保険委員会合同研修

- 会. 2007.10.21, 静岡
- 66) 手嶋登志子: 高齢者の QOL を高める食介護論. 福岡県栄養士会. 2007.10.21, 福岡市
- 67) 梅垣敬三: 健康食品について. 消費生活センター月間講演会(町田市消費生活センター). 2007.10.23, 町田市
- 68) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントのこんな点に気をつけて. 消費者教育講座(大田区立生活センター). 2007.10.25, 大田区
- 69) 饗場直美: 行動変容に関する理論・保健指導を支えるカウセリング術. 保健指導実践者育成研修(東京都栄養士会). 2007.10.27, 東京
- 70) 吉池信男: 平成 20 年度保健医療制度改革と健康教育に求められるもの. 第 9 回健康教育・ヘルスプロモーション実践セミナー、(社)日本家族計画協会. 2007.10.28, 東京
- 71) 大賀 英史: 住民が支えあい生活できる地域づくりの魅力. 平成 19 年度猿払村主催村民講座. 2007.10.29, 北海道 猿払村 保健福祉センター
- 72) 高田和子: 食生活に関する保健指導. 特定健診・保健指導実践者育成研修会、栃木県保険者協議会. 2007.10.31, パルティーホール(栃木)
- 73) 梅垣敬三: 健康食品の基礎知識. 平成 19 年度健康食品の知識普及員養成事業、茨城県栄養士会. 2007.10.31, 古川市
- 74) 吉池信男: 健診データ・レセプト分析から見る生活習慣病管理 / 食生活に関する保健指導と評価. 生活習慣病予防のための標準的な健診・保健指導に関する実践研修(第 3 ステップ). 2007.11.10, 新潟県栄養士会、新潟市
- 75) 吉池信男: 食事バランスガイドの活用について. 社団法人埼玉県栄養士会平成 19 年度シンポジウム. 2007.11.17, さいたま市
- 76) 吉池信男: 健診・保健指導事業の企画・立案・評価. 特定健診・特定保健指導実務者研究会、福井県健康福祉部. 2007.11.18, 福井市
- 77) 梅垣敬三: 健康食品の基礎知識. 平成 19 年度健康食品の知識普及員養成事業、茨城県栄養士会. 2007.11.20, 常陸大宮市
- 78) 梅垣敬三: 健康食品の基礎知識. 平成 19 年度健康食品の知識普及員養成事業、茨城県栄養士会. 2007.11.21, 行方市
- 79) 高田和子: 食生活に関する保健指導. 特定健診・保健指導実践指導者育成研修会、栃木県保険者協議会. 2007.11.26, 那須野が原ハーモニーホール(栃木)
- 80) 森田明美: メタボリックシンドロームと生活習慣病-特定健診・保健指導にむけて-. 健康管理研修、総務省 人事・恩給局. 2007.11.28, 東京
- 81) 石見佳子: 大豆の健康効果～生活習慣病予防を目指して～. 平成 19 年度指導者のための健康・栄養セミナー 宮城県栄養士会. 2007.12.02, 仙台
- 82) 大賀英史: いただきます! 都筑野菜～地域の野菜と健康づくり～. 横浜市都筑区. 2007.12.02, 都筑公会堂大ホール
- 83) 饗場直美: 健康を考える～どのような食生活をしたらよいか～. 総務省関東総合通信局. 2007.12.05, 東京
- 84) 梅垣敬三: あふれる健康情報も見抜く. 平成 19 年度東京都消費者啓発員の再養成講座、東京都消費生活総合センター. 2007.12.05, 新宿
- 85) 梅垣敬三: 科学的根拠のある健康食品情報のとらえ方. 平成 19 年度健康と栄養を考える講演会(富山会場)、日本栄養士会. 2007.12.08, 富山市
- 86) 田中茂穂: エネルギー代謝の計算. 第 21 回 ACSM ヘルスフィットネスインストラクター教習ワークショップ. 2007.12.11, 東京
- 87) 饗場直美: 自分の食生活をデザインしよう. 特別授業(新島村立新島中学校). 2007.12.17, 東京都新島村
- 88) 高田和子: 健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド 2006)を理解する. 最上・庄内地域健康運動指導者研修会、山形県最上保健所. 2007.12.19, 山形県最上総合支庁(山形)
- 89) 田中茂穂: 現場で生かす運動基準 - エクササイズガイド -. THP 指導者のための実務向上研修. 2007.12.21, 広島
- 90) 饗場直美: 食習慣改善(減量)プログラム体験から保健指導の評価と保健指導の改善. 平成 19 年度メタボリックシンドローム予防専門研修(滋賀県健康づくり財団). 2007.12.21, 滋賀県大津市
- 91) 由田克士: 食事の評価—食事摂取基準との関連—. 第 3 回日本栄養改善学会「実践栄養学研究集中セミナー」. 2008.01.12, 名古屋
- 92) 梅垣敬三: 科学的根拠のある健康食品情報のとらえ方. 平成 19 年度健康と栄養を考える講演会(岩手会場)、日本栄養士会. 2008.01.19, 盛岡市
- 93) 高田和子: 特定健診・保健指導の実践. 特定健診・保健指導研修会、足利市保健センター. 2008.01.21, 足利市保健センター(栃木)
- 94) 石見佳子: 大豆の健康効果～生活習慣病予防を目指して～. 平成 19 年度指導者のための健康・栄養セミナー 京都府栄養士会. 2008.01.26, 京都
- 95) 西牟田守: ミネラルと健康. 岩手県医師会. 2008.01.26
- 96) 饗場直美: 子供の食育—食習慣の基礎づくりを支援するために—. 食育事例発表大会(神奈川県秦野保健福祉事務所). 2008.01.29, 伊勢原市
- 97) 門脇孝: メタボリックシンドロームとは. 国立健康・栄養研究所主催「第 9 回一般公開セミナー」. 2008.02.02, 東京
- 98) 由田克士: 効果的な健診・保健指導をめざして～管理栄養士・栄養士の役割と保健指導のポイント～. 平成 19 年度いわき市地域保健関係職員等研修会. 2008.02.06, いわき市
- 99) 饗場直美: 行動変容に関する理論・保健指導を支えるカウセリング技術. 保健指導実践者育成研修(東京都栄養士会). 2008.02.11, 東京都
- 100) 石見佳子: 大豆の健康効果～生活習慣病予防を目指して～. 平成 19 年度指導者のための健康・栄養セミナー 東京都栄養士会. 2008.02.14, 東京
- 101) 吉池信男: 食事バランスガイドと エクササイズ

- ガイド 2006 を組み合わせた展開～食育と新しい保健指導の流れをふまえて～. 徳島県集団給食施設協議会(仮称)設立記念特別講演、徳島県集団給食施設協議会. 2008.02.15, 徳島市
- 102) 由田克士: 給食の役割とアセスメントの実践方法. 平成 19 年度足立区給食関係技術者講習会. 2008.02.15, 東京
- 103) 饗場直美: 元気に楽しく食べるために～みんな(家庭、地域、学校等)で取り組む食育～. 長野市保健所. 2008.02.18
- 104) 由田克士: 特定健診・保健指導と連動する給食施設からの健康づくり～事業所給食を活用した具体的な取り組み事例を中心として～. 平成 19 年度川崎市給食管理者、栄養士及び産業保健関係者等講習会. 2008.02.20, 川崎
- 105) 梅垣敬三: 健康食品の安全性と有効性. 福井県衛生・環境技術研修会・福井県衛生環境研究センター. 2008.02.22, 福井市
- 106) 山田和彦: 栄養成分表示・保健機能食品. 県民の健康づくり支援研修会、群馬県栄養士会. 2008.03.02, 高崎市
- 107) 森田明美: 栄養・食品の摂取からみたメタボリックシンドロームの予防. 第 4 回信州機能性食品開発研究会. 2008.03.07, 諏訪市
- 108) 吉池信男: 市町村保健活動を効果的に展開するための研究について. 第 12 回地域栄養指導者研修会、全国保健センター連合会. 2008.03.14, 東京都
- 109) 大賀英史: 東久留米における健康づくり活動の紹介. 主催: 東久留米市医師会 共催: 東久留米市健康課 東久留米生涯学習まちづくり研究会 市民のための医療講座. 2008.03.15
- 110) 門脇孝: メタボリックシンドロームのしくみと予防・治療のすすめ方. 健やか生活習慣フェア. 2008.03.16, 東京
- 111) 吉池信男: 栄養士・管理栄養士の専門性と「食育」. 第 33 回神奈川県栄養改善学会. 2008.03.19, 横浜市
- (4) その他、講演会等
- 1) 渡邊昌: メタボリックシンドロームのメカニズム、問題点、解消のヒント. メタボリックシンドローム改善パイオニア・プロジェクトキックオフ. 2007.01.01, 東京
- 2) 渡邊昌: 食事・栄養とアンチエイジング. 日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会. 日本. 2007.02.04, 東京
- 3) 渡邊昌: 特定保健用食品・栄養機能食品の現状と今後の商品開発へのヒント. 品質保証研究会. 2007.03.02, 東京
- 4) Yoshiike N: "Health Japan 21" and National Health and Nutrition Survey - An introduction on plan for actions and monitoring systems for NCD controls. Japan-WHO International Visitors Programme on NCD Prevention and Control, 国立保健医療科学院. 2007.04.10, 和光
- 5) 吉池信男: 『標準的な健診・保健指導プログラム(確定版)』について. 保健医療セミナー、医療法人城見会. 2007.04.13, 大阪
- 6) 吉池信男: 『標準的な健診・保健指導プログラム(確定版)』について. 保健医療セミナー、医療法人城見会. 2007.04.23, 横浜
- 7) 大賀英史: 青色申告会の会員有志の協力による「銭湯の場を活用した健康づくり講座と市内ウォーキング」. 東村山青色申告会東久留米支部 役員会. 2007.04.25, 東久留米商工会館 大会議室
- 8) 梅垣敬三: 健康食品の安全性ネットワークの活用と消費者への情報提供について. 平成 19 年度「定時総会シンポジウム」(薬業健康食品研究会). 2007.04.27, 千代田区
- 9) 吉池信男: 平成 20 年度から始まる新しい健診・保健指導～より効果的な生活習慣病予防をめざして. 栄養情報担当者(NR)協会総会. 2007.05.13, 東京
- 10) 渡邊昌: サプリメントの現状と安全性. 都市エリア産学官連携推進事業平成 18 年度専科普及発表会. 2007.05.17, 米子
- 11) 梅垣敬三: 健康食品開発・販売で注意すべきポイント. 第 2 回からだにいいこと博覧会 2007(日本工業新聞社). 2007.05.18, 大阪
- 12) 矢野友啓, 柏木維人, 佐藤洋美: 癌抑制遺伝子(コネキシン 43)の発現・機能回復による中皮腫発生抑制に関する研究ー大豆由来の Bowman-Birk protease (BBI) inhibitor を用いた検討ー. 第 10 回不二たんぱく研究振興財団研究会. 2007.05.24, 大阪
- 13) 宮地元彦: メタボを予防・改善して健康長寿をめざす. 第 26 回生活習慣病セミナー、柏健診クリニック. 2007.05.29
- 14) 梅垣敬三: 健康食品を考える. ifia/HFE JAPAN2007 フォーラム・ディスカッション(食品化学新聞社). 2007.05.31, 東京
- 15) 石見佳子: 大豆イソフラボンと骨の健康. ifia JAPAN2007 大豆機能研究会設立シンポジウム. 2007.06.01, 東京
- 16) 渡邊昌: 大豆機能研究会(Soy Nutrition Institute Japan: SNIJ)設立記念シンポジウム. 第 12 回国際食品素材/添加物展・会議 ifiaJAPAN2007. 2007.06.01, 東京
- 17) Watanabe S: Soy and the Discoveries of Healthy Ingredients from Soy in Japan. . The Ultimate Innovation of SOYPEPTIDE for Health. 2007.06.01, Bangkok
- 18) 宮地元彦: メタボリックシンドロームを予防・改善する運動. 第 45 回健康教室、健康保険組合連合会東京連合会. 2007.06.07, ヒルトン小田原リゾート&スパ
- 19) 門脇孝: アディポネクチンから見た糖尿病治療の新知見. 第 15 回長崎県糖尿病治療研究会. 2007.06.08, 長崎
- 20) 宮地元彦: メタボリックシンドロームのための運動. ヘルス&フィットネスジャパン 2007、ヘルス&フィットネスジャパン実行委員会. 2007.06.13, 東京ビッグサイト

- 21) 江崎治: 知っていますか? トランス脂肪酸. 食の安全・監視市民委員会学習会. 2007.06.20, 飯田橋セントラルプラザ 16 階 東京都消費生活総合センター(東京)
- 22) 吉池信男: 「食事バランスガイド」の策定背景と基本的な考え方, 「食事バランスガイド」と「エクササイズガイド 2006」を組み合わせた展開～新しい特定健診・保健指導の流れを踏まえて～. 第 1616 回チーム医療セミナー、(株)チーム医療. 2007.06.24, 東京
- 23) 吉池信男: 食事バランスガイドの正しい理解と活用. 給食管理講習会、(株)ニッコトラスト. 2007.06.30, 東京
- 24) Watanabe S: Diversity on Consumer Food-choices-Asian Context Case Study-Japan. Consumer Food Behaviors For Health.. 2007.07.01
- 25) 江崎治: 糖尿病とメタボリックシンドロームの予防法について. 財団法人日本分析センター所内セミナー. 2007.07.06, 財団法人日本分析センター講義室(千葉)
- 26) 吉池信男: 今後の生活習慣病対策と新しい特定健診・保健指導. 第 17 回糖尿病センター同門会、東京女子医科大学糖尿病センター. 2007.07.07, 東京
- 27) 石見佳子: 閉経後の体重増加に対する大豆イソフラボン摂取の影響. 日本豆乳協会奨励寄付研究報告会. 2007.07.09, 東京
- 28) 梅垣敬三: 「健康食品」の現状とかしこい使い方. 平成 19 年度第 1 回消費者団体情報交流集会(東京都消費生活総合センター). 2007.07.09, 東京
- 29) 吉池信男: 食品添加物の一日摂取量推計の基盤となる食品摂取量データベース. 第 30 回食品添加物技術フォーラム、日本食品添加物協会. 2007.07.11, 東京
- 30) 渡邊昌: 人間として美しくあるには. アルソアワールド 2007. 2007.07.12, 大宮
- 31) 門脇孝: 厳格な血糖コントロールの意義. Lilly Web Conference. 2007.07.12, 東京
- 32) 大賀英史: わたしたちの生活に忍び寄るメタボリックシンドロームの影 - 「静かな厄介者」を寄せ付けない具体的な秘訣-. 東村山法人会東久留米第二支部 平成 19 年度第 1 回市民公開講座. 2007.07.14, 市役所市民プラザ(東京都東久留米市)
- 33) 大賀英史: 個人事業者に求められる健康づくり-家庭内・事業所内の健康づくりを地域に広げる-. 東村山青色申告会 女性部主催健康倶楽部 第一回健康づくり講座. 2007.07.24, 東村山青色申告会本部会館
- 34) 江崎治: トランス脂肪酸の危険性 世界の取り組みと日本の現状、今後について. コロンビア・トランス脂肪酸セミナー. 2007.07.26, 日本貿易振興機構 ビジネス・サポート・センター5 階(東京)
- 35) 田中茂穂: 健康増進に関わる日常生活モニタリングの必要性と現状 - 日常活動量のモニタリングを中心に -. ナノテクノロジー推進協議会 エレクトロニクス分科会. 2007.07.26, 東京
- 36) 高田和子: 今日から使うエクササイズガイド 2006. 食と健康セミナー 味の素株式会社. 2007.07.28, イイノホール(東京)
- 37) 門脇孝: メタボリックシンドロームとバイオマーカー. アークレイ サンク HbA1c 発売記念セミナー. 2007.07.30, 東京
- 38) 渡邊昌: 健康長寿の推進を巡る沖縄の現状と課題、長寿世界一復活に向けた健康づくり運動の新たな展開に関する有識者懇談会. 沖縄県健康福祉部. 2007.07.30, 那覇
- 39) 門脇孝: メタボリックシンドロームの基礎. 第 51 回社会保険指導者講習会. 2007.08.22, 東京
- 40) 江崎治: 生活習慣病予防のための脂質摂取: 理論と現実. 第 6 回 岐阜臨床検査研究会. 2007.08.26, 大垣フォーラムホテル(岐阜)
- 41) 山田和彦: 食生活と健康増進、消化と吸収の機構. 財団法人健康・体力づくり事業財団、健康運動指導士養成講習会. 2007.08.29, 東京
- 42) Watanabe S: saku Control of Obesity Program(SCOP).. U.S.Japan Nutrition and Metabolism Panel U.S.japan Cooperative Medical Science Program. 2007.09.01, Minneapolis
- 43) 田中茂穂: メタボリックシンドロームの予防や改善のための身体活動. 第 21 回 聖隷ウェルネス講座. 2007.09.05, 浜松
- 44) 由田克士: メタボリックシンドロームに着目した栄養指導について. 平成 19 年度 広島県産業保健研究会 第 1 回研修会. 2007.09.08, 広島市
- 45) 渡邊昌: 食品機能のわかりやすい表示方法. 第 14 回健康野菜塾「野菜ルネッサンス」, デリカフーズ(株). 2007.09.12, 東京
- 46) 由田克士: データが語る、健康家族の食事の秘訣. 日本心臓財団 世界ハートの日 プレスセミナー. 2007.09.13, 東京
- 47) 大賀英史: 「脳とこころ」の研究成果に基づく 食欲とストレスの制御法 ～満足しつつ、苦勞知らずで、安全に痩せる秘訣～. 有限責任中間法人 MOA インターナショナル. 2007.09.15, MOA インターナショナル所沢(埼玉県所沢市)
- 48) 渡邊昌: 2008 年医療保険改革改正, 抗加齢医学の実践 2007. 抗加齢学会. 2007.09.17, 東京
- 49) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と対策. メタボリックシンドローム対策検討委員会. 2007.09.19, 東京
- 50) 西牟田守: 日本における微量元素(ミネラル)の摂取基準について. 第 54 回日本栄養改善学会学術総会 ランチョンセミナー. 2007.09.21, 長崎
- 51) 大賀英史, 伊藤真由美: 「普段着で若さを保つエクササイズ」自分でも簡単に出来る体力年齢測定法・自宅でも出来る簡単ストレッチ法. 東村山青色申告会女性部主催健康倶楽部 第二回健康づくり講習会. 2007.09.21, 東京あぐり農業協同組合 田無支店
- 52) 由田克士: 特定保健指導と栄養. 保健科学総合研究会 研修会. 2007.09.28, 東京
- 53) 渡邊昌: 健康長寿を手に入れるには. 平成 19 年

- 度日本栄養・食料学会九州・沖縄支部大会. 2007.09.28, 熊本
- 54) Watanabe S: Risk of lifestyle related diseases due to obesity. 5th Nutrition and Aging. ILSI. 2007.10.01, Tokyo
- 55) 矢野友啓: サプリメントによる健康の増進と病気予防の可能性. 日経ヘルスサプリ&機能性食品セミナー. 2007.10.04, 東京
- 56) 渡邊昌: 高齢者に必要な栄養素. 第 34 回国際福祉機器展 H.C.R.2007, (財)保健福祉広報協会. 2007.10.05, 東京
- 57) 吉池信男: 「食育」の実践と評価・研究をどのようににつなぐか?. 第 9 回ダノン健康・栄養フォーラム、ダノン健康・栄養普及協会. 2007.10.06, 東京
- 58) 梅垣敬三: 健康食品の安全性・有効性情報に関して. 食品ニューテクノロジー研究会 10 月定例会 (日本食糧新聞社). 2007.10.12, 東京
- 59) 松村康弘: 有効性の科学的根拠. 日本サプリメントアドバイザー認定機構フォローアップセミナー. 2007.10.13, 大阪
- 60) 吉池信男: 主食を中心とした食生活で食事のバランスを整えよう～食事バランスガイドの考え方と活用. 第 5 回大麦食品シンポジウム、大麦食品推進協議会. 2007.10.13, 東京
- 61) 田中茂穂: エクササイズガイド 2006 の正しい理解と活用. ニッコクトラスト 栄養士合同研修会. 2007.10.13, 東京
- 62) 石見佳子: 骨の健康と栄養. NR 研修会. 2007.10.13, 東京
- 63) 渡邊昌: 大豆イソフラボンと大豆ペプチドの将来性、大豆の働きとこれからの食生活を考える.(財)不二たん白質研究振興財団. 2007.10.13, 東京
- 64) 田中茂穂: 活動量計測の意義. オムロンヘルスケア 活動量に関するマスコミ勉強会. 2007.10.16, 東京
- 65) 由田克士: 生活習慣病を予防する食事とは. 総務省統計局 職員の健康に関する講演会. 2007.10.16, 東京
- 66) 渡邊昌: 食品機能表示の現状と将来. 第 10 回健康食品セミナー, 健康食品の機能表示の最近の動向. 2007.10.17, 東京
- 67) Nagata J, Saito M: Effects of structured lipids (SLs) containing eicosapentaenoic (E) and docosahexaenoic (D) acid and caprylic acid (8) on lipid profiles in rats fed cholesterol diets and oxidative stability of SLs in vitro. UJNR. 2007.10.20, つくば
- 68) 門脇孝: 生活習慣病とアディポネクチン. 病態代謝研究会平成 19 年度第 38 回研究報告会. 2007.10.20, 東京
- 69) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態を考えた治療戦略. 葛飾糖尿病医会 特別講演. 2007.10.23, 東京
- 70) 門脇孝: 糖尿病の合併症の管理—日常診療を向上させる 7 つのポイント. 千葉市医師会内科医会学術講演会 特別講演. 2007.10.24, 千葉
- 71) 梅垣敬三: 健康食品の安全性・有効性の普及. 日本食品免疫学会産学官交流会 (日本食品免疫学会). 2007.10.26, 東京
- 72) 松村康弘: 有効性評価の科学的根拠. 日本サプリメントアドバイザー認定機構フォローアップセミナー. 2007.10.27, 東京
- 73) 梅垣敬三: 健康食品の安全性・有用性について. 港南区食の安全公開講座 (横浜市港区福祉保健センター). 2007.10.28, 横浜市
- 74) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの現状と対応. 第 43 回薬物治療研究会. 2007.11.01, 浜松
- 75) 門脇孝: 2 型糖尿病の分子機構に関する研究. 日本医師会医学賞受賞記念講演. 2007.11.01
- 76) 門脇孝: メタボリックシンドロームとアディポネクチン. 第 9 回神奈川ハートリスク研究会. 2007.11.01, 神奈川
- 77) 石見佳子: 閉経後女性の個体特性に着目した大豆イソフラボンの骨代謝調節作用. 更年期と加齢のヘルスケア研究会 ランチョンセミナー. 2007.11.03, 都市センターホテル
- 78) 大賀英史: 健康づくり研究・実践活動の発表会. 厚生労働科学研究 研究成果報告会 (一般向け). 2007.11.04, 成美教育文化会館 (東京都東久留米市)
- 79) 大賀英史: 「専門職、押さえておきたい【技術】と【マネジメント能力】」講義 3: 認知科学から見た休養・ストレス等のマネジメント. 平成 20 年度からの特定保健指導に対応した専門職育成セミナー 社団法人 日本家族計画協会 企画協力: ヘルシーライフクリエイティブ・リサーチ&コンサルティング合同会社 後援: 独立行政法人国立健康・栄養研究所. 2007.11.07, はあといん乃木坂 (健保会館)東京都港区
- 80) Yoshiike N: Nutritional status in the world and Asia. The 16th Symposium on the International Medical Cooperation. 2007.11.16, 東京
- 81) 吉池信男: 特定健診・保健指導による今後のメタボリックシンドローム対策. 食品開発展、CMP ジャパン. 2007.11.20, 東京
- 82) 大賀英史: 冬眠なんてしてられない! -ゆっくりラジオ体操 ストレッチ&ウォーキング- 春までの目標設定と実行・継続の方法. 東村山青色申告会女性部主催健康倶楽部 第三回健康づくり講座. 2007.11.26, 東京あぐり農業協同組合 田無支店
- 83) 窪田哲也: 中枢におけるアディポネクチンの役割. 平成 19 年度 第 3 次対がん総合戦略研究事業「がん化学予防剤の開発に関する基礎及び臨床研究」. 平成 19 年度第 1 回若林班 班会議. 2007.12.01, 東京
- 84) 門脇孝: メタボリック健診と糖尿病. 第 4 回 SRL Update Forum. 2007.12.01, 東京
- 85) 大賀英史: 専門職、押さえておきたい【技術】と【マネジメント能力】. 主題テーマ: 人の行動を変えるのには専門的知識に加え、何が必要か. 講義と演習 1: 保健指導スタッフの自らの性格のタ

- イブを知り、"自己流"を確立する。平成 20 年度からの特定保健指導に対応した専門職育成セミナー「社団法人 日本家族計画協会 企画協力：ヘルシーライフクリエイト・リサーチ&コンサルティング合同会社 後援：独立行政法人国立健康・栄養研究所. 2007.12.07, はあといいん乃木坂 (健保会館)東京都港区
- 86) 由田克士: 栄養・食生活にかかわる保健指導ポイント ―対象者のレベルや状況に応じた取り組みの必要性―.(社)日本家族計画協会 専門職育成セミナー. 2007.12.08, 東京
- 87) 松村康弘: 科学的根拠に基づく栄養実践活動. NR 養成講座講習会 (東京栄養食糧専門学校). 2007.12.15, 東京
- 88) 門脇孝: 糖尿病・メタボの仕組みと予防法. 第一回「筑駒アカデメイア」. 2007.12.18, 東京
- 89) 吉池信男: 栄養疫学のデザインと解析の実践. 第 3 回日本栄養改善学会「実践栄養学研究集中セミナー」. 2008.01.13, 名古屋
- 90) 永田純一: 保健・医療分野における保健機能食品等の正しい活用法 - 栄養成分表示と健康強調表示を中心に -. 宮城県病院薬剤師会. 2008.01.19, 仙台市
- 91) 松村康弘: NR 倫理. NR 養成講座講習会 (東京栄養食糧専門学校). 2008.01.19, 東京
- 92) 松村康弘: メタボリックシンドロームとその対策. NR 養成講座講習会 (東京栄養食糧専門学校). 2008.01.19, 東京
- 93) 吉池信男: 運動・食事に関する保健指導のポイント. 「特定健診・保健指導」第 3 回講演会、関門医療センター. 2008.01.23, 下関市
- 94) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの現状と関わり方. 第 18 回日本病態生理学会 市民公開講座. 2008.01.27, 神戸
- 95) 門脇孝: メタボにご用心—あなたの対策—. 東京大学医師会主催第 11 回市民公開講座. 2008.01.31, 東京
- 96) 廣田晃一: IT を活用した健康づくり. 厚生労働省科学研究推進事業費: 研究事業による成果発表会. 2008.02.11
- 97) 大賀英史: 健康づくり研究・実践活動の発表会. 厚生労働省科学研究 研究成果報告会 (一般向け). 2008.02.11, セシオン杉並 (東京都杉並区)
- 98) 門脇孝: エビデンスに基づく新しい糖尿病・メタボリックシンドロームの治療戦略. 脳卒中抑制をめざして—大規模臨床試験から見た新しい糖尿病治療戦略— 特別講演. 2008.02.16, 大阪
- 99) 梅垣敬三: 健康食品の有効性と安全性をめぐる問題. 平成 19 年度健康食品管理士研修会フォーラム、健康食品管理士協会. 2008.02.17, 東京
- 100) 梅垣敬三: 健康食品の上手な使い方. 杉並区消費者講座. 杉並区消費者センター. 2008.02.19, 杉並区
- 101) 梅垣敬三: 機能性食品の種類とその位置付け. 第 18 回多摩糖尿病チーム医療研究会. 薬剤師分科会. 2008.02.20, 国分寺
- 102) 廣田晃一: 科学的根拠に基づくアドバイス. EBS. 2008.02.24, 東京
- 103) 門脇孝: アディポネクチンを標的にした糖尿病・メタボリックシンドローム症候群の新規診断法・治療法の臨床応用. トランスレーショナル研究成果発表会. 2008.02.26, 東京
- 104) 梅垣敬三: 健康食品の健康への影響と健康被害. フードバイオビジネススクールプレススクール、非特定営利活動法人イマジン. 2008.02.29, 福岡
- 105) 梅垣敬三: 「健康情報を賢く見抜く」- サプリメントで健康になれる? -. 特別講演会、足立区消費者センター. 2008.03.05, 足立区
- 106) 門脇孝: 2 型糖尿病の分子機構に関する研究. 上原賞受賞者記念講演会. 2008.03.11, 東京
- 107) 大賀英史: 「脳とこころ」の研究成果に基づく 食欲とストレスの制御法 ~満足しつつ、苦労知らずで、安全に痩せる秘訣~. MOA 健康生活ネットワーク. 2008.03.16, 東京都多摩障害者スポーツセンター (東京都国立市)
- 108) 門脇孝: 脂肪細胞とメタボリックシンドロームの分子機構. 第 24 回臨床フリーラジカル会議. 2008.03.28, 京都
- ## 5. 政府関係機関審議会、委員会等
- ### (1) 厚生労働省等中央政府関連
- 1) 渡邊昌: 薬事・食品衛生審議会臨時委員. 厚生労働省医薬食品局食品安全部. 2007.
 - 2) 渡邊昌: 環境省ダイオキシン類への蓄積量調査検討委員会委員. いであ (株)環境創造研究所. 2007.
 - 3) 渡邊昌: 生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業に係る選考・評価委員. 独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構生物系特定産業技術研究支援センター. 2007.
 - 4) 田畑泉: 日本学術会議 連携会員. 日本学術会議 (平成 19 年), 非常勤国家公務員. 2007.
 - 5) 田畑泉: 科学研究費委員会専門委員会. 独立行政法人 日本学術振興会. 2007.
 - 6) 吉池信男: 厚生労働省 薬事・食品衛生調査会臨時委員 [農薬・動物用医薬品部会委員、添加物部会委員]. 2007.
 - 7) 吉池信男: 内閣府 食品安全委員会専門員 (食品添加物調査会). 2007.
 - 8) 吉池信男: 厚生労働省 新開発食品評価第三調査会委員. 2007.
 - 9) 吉池信男: 厚生労働省 管理栄養士国家試験委員. 2007.
 - 10) 吉池信男: 厚生労働省 国民健康・栄養調査企画解析検討会構成員. 2007.
 - 11) 石見佳子: 文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分會会専門委員. 平成 19 年 2 月 23 日. 2007.
 - 12) 石見佳子: 内閣府食品安全委員会新開発食品専門調査会専門委員. 平成 19 年 10 月 1 日. 2007.
 - 13) 石見佳子: 内閣府食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会専門委員. 平成 19 年 10 月 1 日. 2007.
 - 14) 饗場直美: 健康増進総合支援システム開発事業評

- 価検討会委員、厚生労働省、2007.
- 15) 饗場直美: 薬事・食品衛生審議会委員、厚生労働省、2007.
 - 16) 饗場直美: 企業分野等食育活動検討会委員、内閣府、2007.
 - 17) 饗場直美: 健康増進総合支援システム開発業務の調達にかかる技術審査委員会、厚生労働省、2007.
 - 18) 門脇孝: 厚生労働省「食品の安心・安全確保推進研究事前評価委員会委員」、2007.4. 2007.
 - 19) 門脇孝: 文部科学省「地域科学技術施策専門委員」、2007.4. 2007.
 - 20) 渡邊昌: ヒューマンサイエンス振興財団評議員、2007.
 - 21) 渡邊昌: 中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター清掃作業従事者のダイオキシンばく露による健康影響に係わる調査研究委員会委員、2007.
 - 22) 渡邊昌: 中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センターダイオキシン健康影響 W.G.委員会委員、2007.
 - 23) 渡邊昌: 厚生科学審議会委員、厚生労働省大臣官房厚生科学課、1.24. 2007.
 - 24) 渡邊昌: 国際医療協力研究委託費評価委員会委員、厚生労働省医政局国立病院課、4.1. 2007.
 - 25) 渡邊昌: 糖尿病等の生活習慣病対策推進に関する検討会構成員、厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室、6.20. 2007.
 - 26) 渡邊昌: 食育推進会議委員、内閣府食育推進室、8.25. 2007.
 - 27) 渡邊昌: 薬事・食品衛生審議会臨時委員、厚生労働省医薬食品局、1.23. 2007.
 - 28) 渡邊昌: 化学物質リスク研究事業企画運営委員会委員、厚生労働省医薬食品局化学物質安全対策課、8.7. 2007.
 - 29) 渡邊昌: 国立保健医療科学院研究評価委員、7.1. 2007.
 - 30) 渡邊昌: 「独立行政法人食品総合研究所アドバイザー・ボード」委員、(独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所、5.30. 2007.
 - 31) 渡邊昌: 「生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業」に係る選考・評価委員、(独)農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター、4.2. 2007.
 - 32) 山田和彦: 薬事・食品衛生審議会新開発食品調査部会委員、厚生労働省医薬食品局、2007.
 - 33) 山田和彦: 管理栄養士国家試験委員、厚生労働省健康局、2007.
 - 34) 田畑泉: 平成 18 年度国民健康・栄養調査企画解析検討会、厚生労働省健康局長、2008.
 - 35) 渡邊昌: 食品の安心・安全確保推進研究仲間・事後評価委員、厚生労働省医薬食品局、1.1. 2008.
- (2) 地方自治体等
- 1) 吉池信男: 神奈川県 成人病対策委員会神奈川県健康プラン 21 目標評価部会委員、2007.
 - 2) 大賀英史: 静岡県小山町保健事業推進プロジェクト アドバイザリーボード主査、2007.
- (3) その他
- 1) 田中茂穂:(財)日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会「日本の子どもにおける身体活動・運動目標設定と効果の検証」研究班員、2007 年 4 月 1 日、2007.
 - 2) 江崎治: 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構「新技術・新分野創出のための基礎研究推進事業」中間評価専門委員、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所 生物系特定産業技術研究支援センター(平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)、2007.
 - 3) 江崎治: 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所における人間を対象とする生物医学的研究倫理委員会 倫理委員会委員、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所(平成 18 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)、2007.
 - 4) 石見佳子: 文部科学省女性研究者支援モデル育成「東京農工大学理系女性のエンパワーメントプログラム」評価委員、平成 19 年 1 月 30 日、2007.
 - 5) 大賀英史: 社団法人東村山法人会本部役員(厚生委員)、2007.
 - 6) 大賀英史: 全国保健師長会調査研究事業青柳班「政令市保健所における保健師活動の課題に関する調査研究」アドバイザー、財団法人日本公衆衛生協会、2007.
6. 関連学術団体等への貢献
- (1) 理事等の役員
- 1) 渡邊昌: 生命科学振興会理事長、2007.
 - 2) 渡邊昌: 専門管理栄養士認定機構理事長、2007.
 - 3) 渡邊昌: Soy Nutrition Institute Japan 代表幹事、2007.
 - 4) 渡邊昌: 日本病態栄養学会常務理事、2007.
 - 5) 渡邊昌: 日本抗加齢協会(国際学術担当)、2007.
 - 6) 渡邊昌: 日本健康・栄養食品協会理事、2007.
 - 7) 渡邊昌: 第 15 回国際栄養士会組織委員会第 15 回国際栄養士会議(ICD2008)顧問、2007.
 - 8) 渡邊昌: Antioxidant Unit 研究会常任理事、2007.
 - 9) 西牟田守: 日本マグネシウム学会理事、2007.
 - 10) 西牟田守: 日本心体美学学会理事、2007.
 - 11) 由田克士: 日本栄養改善学会理事、(～10 月 31 日まで)、2007.
 - 12) 由田克士: 日本循環器病予防学会(日本循環器管理研究協議会)理事、2007.
 - 13) 吉池信男: 日本栄養改善学会副理事長、2007.11.1 発令、2007.
 - 14) 吉池信男: 日本栄養改善学会食育推進企画検討会委員長、2007.
 - 15) 吉池信男: 日本食育学会 理事、企画委員会委員、2007.
 - 16) 高田和子: 日本スポーツ栄養研究会理事、2007.
 - 17) 門脇孝: 日本糖尿病学会(常務理事)、2007.4. 2007.
 - 18) 門脇孝: 日本内分泌学会(理事)、2007.4. 2007.
 - 19) 門脇孝: 日本糖尿病協会(常任理事)、2007.4. 2007.
 - 20) 門脇孝: 日本病態栄養学会(常任理事)、2007.4.

- 2007.
- 21) 門脇孝: 日本糖尿病・肥満動物学会(理事長). 2007.4. 2007.
 - 22) 門脇孝: 日本糖尿病合併症学会(幹事). 2007.4. 2007.
 - 23) 門脇孝: 日本体質医学会(常任理事). 2007.4. 2007.
 - 24) 門脇孝: 日本肥満学会(評議員). 2007.4. 2007.
 - 25) 門脇孝: 日本臨床分子医学会(評議員). 2007.4. 2007.
 - 26) 門脇孝: 日本適応医学会(評議員). 2007.4. 2007.
 - 27) 門脇孝: 日本再生医学会(評議員). 2007.4. 2007.
 - 28) 門脇孝: 日本内科学会(評議員). 2007.4. 2007.
 - 29) 門脇孝: 日本生化学会(評議員). 2007.
 - 30) 門脇孝: 日本分子生物学会(評議員). 2007.
 - 31) 門脇孝: American Diabetes Association. 2007.
 - 32) 門脇孝: American Endocrine Society. 2007.
 - 33) 渡邊昌: 日本抗加齢医学会理事. 2007.
 - 34) 渡邊昌: 健康・体力づくり事業財団理事. 2007.
 - 35) 渡邊昌: 日本予防医療評価機構理事. 2007.
 - 36) 渡邊昌: 食品機能表示研究会代表幹事. 2007.
 - 37) 大賀英史: 国際システムダイナミックス学会 理事. 2007.
 - 38) 山田和彦: 日本栄養・食糧学会理事. 2007.
 - 39) 山田和彦: 日本栄養改善学会理事、倫理委員会委員. 2007.
 - 40) 山田和彦: 日本食物繊維学会常務理事. 2007.
 - 41) 熊江隆: 体力・栄養・免疫学会理事. 2007.
- (2) 雑誌編集委員
- 1) 渡邊昌: ライフサイエンス編集長. 2007.
 - 2) 田中茂穂: 日本体育測定評価学会機関誌編集委員会委員(平成 19、20 年度). 2007.
 - 3) 西牟田守: 日本体力医学会「体力科学」編集委員. 2007.
 - 4) 西牟田守: 日本栄養・食糧学会英文機関誌「J Nutr Sci Vitaminol」編集委員. 2007.
 - 5) 田畑泉: 日本体育学会編集 体育の科学 編集委員. 2007 年 4 月 1 日. 2007.
 - 6) 田畑泉: International Journal of Sports and Health Science, Section Editor. 2007.
 - 7) 田畑泉: Journal of Open Physiology, Associate editor. 2007.
 - 8) 吉池信男: 日本栄養改善学会 栄養学雑誌副編集委員長. 2007.11.1 発令. 2007.
 - 9) 宇津木恵: 雑誌編集委員. Public Health Nutrition. 2007.
 - 10) 江崎治: 「International Journal of Obesity」Editorial Board. H18.10.1 ~ . 2007.
 - 11) 江崎治: 日本肥満学会誌「肥満研究」編集委員. H18.1.1 ~ H20.12.31. 2007.
 - 12) 永田純一: 栄養学雑誌編集委員. 2007.
 - 13) 高田和子: 栄養学雑誌. 2007.
 - 14) 田中茂穂: School Health, Section Editor. 2007.
 - 15) 田中茂穂: Journal of Training Science for Exercise and Sport, 編集委員. 2007.
 - 16) 廣田晃一: 『臨床栄養』編集委員. 2006 年 4 月-2008 年 3 月. 2007.
 - 17) 門脇孝: 『Diabetes Journal』編集委員. 2007.
 - 18) 門脇孝: 『Diabetes Nursing』編集委員. 2007.
 - 19) 門脇孝: 『Diabetes News in the World』編集委員. 2007.
 - 20) 門脇孝: 『DITN』編集委員. 2007.
 - 21) 門脇孝: 『DM Communications』. 2007.
 - 22) 門脇孝: 『糖尿病治療ガイド』編集委員. 2007.
 - 23) 門脇孝: 『科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン』編集委員. 2007.
 - 24) 門脇孝: Diabetes, Editorial Board. 2007.
 - 25) 門脇孝: J. Clin. Invest, Editorial Board. 2007.
 - 26) 門脇孝: Metabolic Syndrome and Related Disorders, Editorial Board. 2007.
 - 27) 門脇孝: The Journal of Endocrine Genetics, Editorial Board. 2007.
 - 28) 門脇孝: Diabetes, Obesity and Metabolism, Editorial Board. 2007.
 - 29) 門脇孝: Current Diabetes Reviews, Editorial Board. 2007.
 - 30) 門脇孝: Arteriosclerosis Thrombosis and Vascular Biology, Editorial Board. 2007.
 - 31) 門脇孝: Endocrinology, Editorial Board. 2007.
 - 32) 門脇孝: Diabetes Care, Editorial Board. 2007.
 - 33) 門脇孝: The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, Editorial Board. 2007.
 - 34) 門脇孝: Best Practice & Research Clinical Endocrinology & Metabolism, Editorial Board. 2007.
 - 35) 渡邊昌: Biofactors 編集委員. 2007.
 - 36) 渡邊昌: European Journal of Epidemiology and Biostatistics 編集委員. 2007.
 - 37) 山田和彦: 日本食物繊維学会誌 編集委員. 2007.
 - 38) 熊江隆: 体力・栄養・免疫学会編集委員. 2007.
- (3) その他
- 1) 渡邊昌: 不二たん白質研究振興財団選考委員. 2007.
 - 2) 渡邊昌: 国立環境研究所ダイオキシン国際会議 2007 組織委員会委員. 2007.
 - 3) 渡邊昌: ILSI 国際学会組織委員. 2007.
 - 4) 吉池信男: 日本動脈硬化学会学術委員会生活習慣部会委員. 2007.
 - 5) 矢野友啓: 日本ビタミン学会編集委員会トピックス等担当委員. 2007.
 - 6) 饗場直美: 食育学会総務委員. 2007. 2007.
 - 7) 笠岡(坪山)宜代: 栄養学若手研究者の集い 世話人. 2008.
7. 併任、非常勤講師等
- (1) 厚生労働省等への併任
- 1) 卓興綱: 特定保健用食品の表示許可に係る審査に関する助言等(食安発第 0308002 号 平成 19 年 3 月 8 日). 2007.
- (2) 大学の客員教授・非常勤講師
- 1) 熊江隆: 日本体育大学 非常勤講師
 - 2) 熊江隆: 関東学院大学 非常勤講師

3) 熊江隆: 東京農業大学 客員教授

(3) その他

1) 永田純一: 特定保健用食品の表示許可に係る審査に関する助言等. 食安発第 0313002 号 平成 20 年 3 月 13 日. 2007.

8. 国際貢献

(1) 相手国への派遣による科学・技術協力

1) 笠岡(坪山)宜代: 米国 NIH への派遣による研究協力、情報収集、共同研究事業の構築. National Cancer Institute, Nutritional Science Research Group. 2007, メリーランド州、ベセスダ.

(2) 海外からの研究員の受け入れ・指導

1) 饗場直美: ライフステージにあわせた栄養教育方法の検討～学童から成人までの栄養教育の展開～. 若手外国人研究者招へい事業. 2007.

2) 森田明美: 生活習慣病予防対策のための栄養・運動介入試験の解析. 若手外国人研究者招へい事業. 2007.

3) 田畑泉: 身体活動、食生活改善及び体重減少が糖尿病の危険因子に及ぼす影響. 若手外国人研究者招へい事業. 2007.

4) 吉池信男, 三好美紀, 田畑泉, 田中茂穂, 宮地元彦: JICA カウンターパート研修受入(スリランカ国別「保健システム強化」). JICA 九州国際センター. 2007.

5) 饗場直美, 森田明美, 渡邊昌, 三好美紀: 日本における子どもの栄養教育プログラム等の情報収集. 韓国地域栄養学会より事務局長他の来訪. 2007.

6) 田中茂穂, 三好美紀, 高田和子, 田畑泉, 吉池信男: Regional Training Course on “Anthropometry and stable isotope preparation and administration for body composition assessment” の開催. IAEA Technical Cooperation Project RAS/6/050: Control and Prevention of Childhood Malnutrition in Asia”. 2007, 国立健康・栄養研究所.

7) 吉池信男, 三好美紀, 田畑泉, 田中茂穂, 宮地元彦: JICA 集団研修「病院管理・財務管理コース」受入. 聖マリア病院国際協力部. 2007.

8) 吉池信男, 三好美紀, 田畑泉, 田中茂穂, 宮地元彦: JICA 南東欧地域別「病院運営」研修コース受

入. 聖マリア病院国際協力部. 2008.

(3) 国際会議への対応・出席

1) 渡邊昌: わが国における生活習慣病対策に関する政策の動向 - 肥満と糖尿病の管理. Japan-WHO International Visitors Programme on NCD Prevention and Control in NIPH 2007. 2007, 和光市.

2) Yoshiike N: Expert group -- Economics of Prevention. OECD Health Committee. 2007, Paris.

3) 宇津木 恵: "Development of DRIs, 1994-2004: Lessons Learned and New Challenges". Institute of Medicine, Food and Nutrition Board Workshop. 2007, Washington, DC.

4) 山田和彦: FAO/WHO 合同コーデックス会議第 29 回栄養・特殊用途食品部会出席. 2007, パートノイエナール、ドイツ.

(4) その他

1) 笠岡(坪山)宜代: 米国 Nutrition Coordinating Committee (NCC) meeting. NIH, FDA, USDA, CDC, HHS の栄養専門家による栄養委員会. 2008.

2) 笠岡(坪山)宜代: 米国 National Food And Nutrient Analysis Program (NFNAP) meeting. USDA, NIH による食品成分データベース検討委員会. 2008.

9. 特許等の取得

(1) 特許の取得

1) 矢野友啓: 特許出願番号: 2007-246535 発明名称: 抗中皮腫用剤の殺細胞効果増強剤. 2007.

2) 石見佳子: 特許出願審査請求 平成 20 年 1 月 10 日 特 2005-027939 微小重力環境下における骨量低下を抑制するための組成物. 2008.

(2) その他

1) 窪田哲也: 平成 19 年 7 月 第 44 回日本臨床分子医学会学術奨励賞. 2007.

2) 窪田哲也: 平成 19 年 12 月 第 19 回分子糖尿病学シンポジウム 分子糖尿病学研究奨励賞. 2007.

3) 窪田哲也: 平成 19 年 12 月 第 2 回高血圧と冠動脈疾患研究会 特別研究賞. 2007.

4) 窪田哲也: 平成 19 年 10 月 第 48 回日本脈管学会 YIA. 2007.

資 料

1. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標

独立行政法人通則法(平成 11 年法律第 103 号)第 29 条第 1 項の規定に基づき、独立行政法人国立健康・栄養研究所が達成すべき業務運営に関する目標(以下「中期目標」という。)を次のとおり定める。

平成 18 年 3 月 1 日

厚生労働大臣 川崎二郎

(前文)

独立行政法人国立健康・栄養研究所(以下「研究所」という。)は、人々の栄養・食生活、運動と健康との関わりについて、基礎から応用に至るまでの調査及び研究を包括的かつ国際的な水準で行い得る試験研究機関であることから、国民の健康・栄養状態及び QOL(生活の質)の向上に直接あるいは間接的に寄与することのできる調査及び研究を効率的に行い、国民の健康と福祉のために貢献することが重要である。

そのため、特にヒトを対象とした研究に関して、わが国の大学・研究機関の中心的存在として、総合的・統合的な研究を推進するとともに、研究者を育成する役割を果たすことを求める。

また、厚生労働行政上の重要な健康・栄養施策を推進する上で不可欠な科学的根拠を質の高い研究によって示し、それらを専門的立場から要約して発信するとともに、健康科学・栄養学領域において、アジア地域への貢献を含め、国際的なリーダーシップを担うことを期待する。

第 1 中期目標の期間

独立行政法人通則法(以下「通則法」という。)第 29 条第 2 項第 1 号の中期目標の期間は、平成 18 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの 5 年間とする。

第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

通則法第 29 条第 2 項第 3 号の国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項は、次のとおりとする。

1. 研究に関する事項

(1) 重点調査研究に関する事項

研究所の独自性を発揮するとともに、厚生労働省における健康づくり施策に必要な科学的知見を蓄積し、発信することを目的として、以下の分野に特化・重点化して研究を行うこと。

ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究

イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究

ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価

及び健康影響評価に関する調査研究

(2) 重点調査研究以外の調査研究に関する事項

ア 科学技術基本計画(仮称)に沿って、研究機関として独自性の高い基礎的・応用的研究を行うこと。

イ 研究の成果をより広く社会に還元するために、食育推進基本計画(仮称)に資する調査研究を推進し、専門家(管理栄養士等)への情報提供を行うこと。

(3) 研究水準及び研究成果等に関する事項

ア 健康・栄養に関する施策、ガイドライン等の科学的根拠につながる質の高い研究を行い、研究成果を論文等を通じて社会に発信・還元を行うこと。

イ 調査・研究の成果を社会に還元するために、知的財産権の取得・開示を行うこと。

ウ 健康・栄養関連の専門家を対象としたセミナー、一般向けの講演会等を開催すること。

エ 研究所の一般公開を実施するとともに、中学校・高等学校等からの見学にも積極的に応じること。

(4) 研究実施体制等の整備に関する事項

ア 独立行政法人という組織形態の利点を最大限活かした研究資金等の運用及び人的資源の配置により、研究・業務の効率化を図ること。

イ 国内外の産業界を含む健康・栄養・食品関係の機関との共同研究の拡充等を目的として、研究所研究員の派遣及び他機関等の研究員の受入れをより積極的に行うこと。

ウ 大学及び民間企業等との連携・協力により、研究者の交流を進め、人材の養成と資質の向上を図ること。

エ 調査及び研究の円滑な実施が図られるよう、適切な措置を講ずるとともに、他機関との共同研究及び受託研究において、双方の研究施設及び研究設備の稼働状況に応じた共同利用を図ること。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項

ア 国民健康・栄養調査の実施に関する事務のうち、集計事務については、「健康日本 21」、都道府県健康増進計画等の政策ニーズに適時対応して、迅速かつ効率的に集計を行うこと。

また、外部委託のより積極的な活用、高度集計・解析システムの活用等により効率化を図る。

イ 厚生労働省が収去した特別用途表示及び栄養表示がなされた食品の試験業務を的確に実施する。また、特定保健用食品の関与成分等、新たな食品成分の分析技術及びそれらの分析に用いる食品成分の標準品等を規格化すること。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項

ア 関連機関等と定期的な情報交換の場を設け、社会的・行政ニーズを把握すること。

イ ホームページ等を通じて国民からのニーズを把握すること。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項
ア 国際栄養協力体制を充実強化し、特にアジア地域における国際貢献と学術的ネットワークの構築を行うことにより、国際社会における役割を果たすこと。

イ 産学連携推進機能の強化、寄附研究部門の充実等により、産学連携をより一層進め、研究成果の社会への還元と知的財産の獲得を目指すこと。

(4) 栄養情報担当者(NR)制度に関する事項

栄養情報担当者(以下「NR」という。)が社会的役割を果たすことができるよう、研修や情報提供等を通じてその質的向上を図るとともに、実際の業務内容のモニタリング等を行い、制度や研究所の関与のあり方について検討すること。

3. 情報発信の推進に関する事項

- (1) 研究所として総合的な情報発信を行うための体制を強化し、対外的な業務の推進を図ること。
- (2) 研究所の活動状況に関する情報をホームページを介して広く公開すること。
- (3) 研究所の諸活動及び研究業績については、研究所報告やニュースレターの刊行及び電子メディアでの配信により公開すること。
- (4) 研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報開示は、ホームページ等を活用し積極的に行うこと。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

通則法第29条第2項第2号の業務運営の効率化に関する事項は次のとおりとする。

1. 運営体制の改善に関する事項

- (1) 研究所の意思決定と運営を機動的かつ効率的に行うことができるよう、役員組織と研究部門及び事務部門との間の連絡を密にし、執行体制を強化すること。
- (2) 研究企画及び評価に関わる機能及び体制の強化を図り、研究業務の包括的、計画的な実施を進めること。
- (3) 業務の確実な実施のため、各研究・業務に関する内部進行管理及び評価を行うこと。
- (4) 法人運営に関して透明性を確保するとともに、国民に向けての説明責任を全うするため、広報体制を強化し、迅速な情報公開に努めること。
- (5) 外部資金の獲得に積極的に取り組むとともに、経費節減や現況資源の有効利用を進めること。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項

- (1) 業務効率化の観点から、研究部組織体制の見直しを行い、その最適化を図ること。
- (2) 他機関との連携・交流を強化し、組織の活性化を目指すこと。

3. 職員の人事の適正化に関する事項

- (1) 重点的に行う研究及び法律に基づく業務に対して適切に職員を配置し、効率的に研究業務を行うこと。
- (2) 研究職員の個人評価の結果を昇級・昇任等、給与面に反映させること。
- (3) 研究職員の流動化計画に沿って原則公募制・任期制により採用を行い、研究者層の向上を図ること。
- (4) 事務職員についても適切に評価を行い、資質の向上と業務の効率化を図ること。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項

- (1) 業務の効率化を図るため、事務書類の簡素化、電子化、事務作業の迅速化を進めるとともに、定型的な業務でアウトソーシング可能なものについては外部委託を行うこと。
- (2) 事務職員については、研修会やマネジメントセミナー等を通じ、研究所経営への参加意識を高めるとともに、業務意識の高揚を図ること。
- (3) 業務の効率化を図るため、業務・システムの最適化を図ること。

5. 評価の充実に関する事項

- (1) 毎年度内部評価委員会において、主要な研究業務に関して内部評価を実施すること。
- (2) 第三者による外部評価委員会により、年度計画の事前及び事後評価を行うこと。
- (3) 評価に関する結果は、ホームページで公開すること。
- (4) 研究職員について自己点検・評価を行うとともに、できるだけ客観的な指標に基づく評価を毎年実施すること。

6. 業務運営全体での効率化

一般管理費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費は除く。)については、中期目標期間の最終年度までに、平成17年度を基準として10%以上の削減を達成すること。

人件費については、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、平成18年度以降の5年間において、国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うこと。

併せて、国家公務員の給与構造改革を踏まえ、給与体系の見直しを進めること。

業務経費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。)については、中期目標期間の最終年度までに、平成17年度を基準として5%以上の削減を達成すること。

第4 財務内容の改善に関する事項

通則法第29条第2項第4号の財務内容の改善に関する事項は、次のとおりとする。

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項
 - (1) 運営費交付金以外の競争的研究資金の積極的獲得を図ること。
 - (2) 各種研究から生じる知的財産(特許権等)の有効活用及び研究成果の社会への還元を目的とした出版等を行うことにより、自己収入の増加を図ること。
2. 経費の抑制に関する事項
 - (1) 各部門において、常勤職員の人件費も含めたコスト管理を四半期毎に行い、効率的な資金の運用とコスト意識の向上を図ること。

- (2) 研究業務の集約化、アウトソーシング等により人的資源の有効活用並びに経費の節減を図るとともに、業務運営に係る経常的経費の削減を図ること。

第 5 その他の業務運営に関する重要事項

通則法第 29 条第 2 項第 5 号のその他の業務運営に関する重要事項は、次のとおりとする。

- (1) セキュリティの確保
情報セキュリティの強化と利用者への情報提供等の利便性の向上を図ること。

2. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画

独立行政法人通則法(平成 11 年法律第 103 号)第 29 条第 1 項の規定に基づき、平成 18 年 3 月 1 日付けをもって厚生労働大臣から指示のあった独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標を達成するため、同法第 30 条の規定に基づき、次のとおり、独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画を作成する。

平成 18 年 4 月 1 日

独立行政法人国立健康・栄養研究所
理事長 渡邊 昌

(前文)

独立行政法人国立健康・栄養研究所(以下「研究所」という。)は、人々の健康・栄養状態及び QOL(生活の質)の向上への貢献という目的を踏まえ、短期的・中期的・長期的な視点から重点的に行う研究課題を選択するとともに、研究所の社会的役割を踏まえつつ、独自性の高い研究や将来に向けて発展が期待される萌芽的・創造的な研究の推進に努める。

第 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項を達成するための措置

1. 研究に関する事項を達成するための措置

(1) 重点調査研究に関する事項を達成するための措置

研究所の独自性を発揮するとともに、厚生労働省における健康づくり施策に必要な不可欠な科学的知見を蓄積し、発信することを目的として、以下の分野に特化・重点化して研究を行う。

ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究

運動・身体活動による生活習慣病の一次予防、食事と遺伝的因子の相互作用の解明並びに運動と食事とによるテラーメード予防法に関して、ヒトを対象とした試験、動物や細胞等を用いた実験を行う。特に糖尿病及びメタボリックシンドロームの一次予防に資する調査及び研究に特化・重点化する。

a 運動・身体活動による生活習慣病予防、運動と食事指導の併用を行った場合の効果等について、実験的、疫学的な調査及び研究を行う。これにより食事摂取基準、運動基準等を作成するための科学的根拠の提示を行う。

b 遺伝子改変動物を用いて、運動や食事指導によってメタボリックシンドローム及び生活習慣病がいかに予防されるのかを、遺伝子解析等による分子レベルでの機序解明を試み、運動と食事指導による生活習慣病のテラーメード予防法の開発に資する科学的根拠を提示する。

c ヒトを対象として、基礎代謝量と遺伝素因の相互作用や遺伝子多型と各栄養素摂取量、身体活動量等との関係を明らかにし、生活習慣病発症の遺伝・環境リスクの相互関係を解明する。

イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究

日本人の食生活の多様性を科学的に評価するための指標及び調査手法を開発し、それが健康に及ぼす影響について疫学的な調査及び研究を行う。特に日本人の食事摂取基準等の科学的根拠となるデータの蓄積と「健康日本 21」の評価への応用という点を重点目標とする。

a 栄養に関する実践において最も基本的かつ重要な指針である「食事摂取基準」について、平成 20 年度に予定される改定作業に向け、系統的レビューを平成 19 年度まで重点的に行う。また、今後の改定に向けて、ヒトを対象とした疫学的研究及び基本的情報の収集等を継続的に行う。

b 「健康日本 21」推進のためには、効果的な運動・食事指導プログラムの開発と普及や、国及び地方自治体での適切な指導効果の評価の実施等が重要であることから、これらの手法の開発、国民健康・栄養調査の機能強化及びデータ活用に資する検討を行う。

ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

「健康食品」に含まれる食品成分の有効性及び健康影響に関して、実社会における使用実態等を把握するとともに、ヒトに対する影響を評価する手法を開発する。その結果を幅広く公開し、「健康食品」に関わるリスクコミュニケーションに資するデータベースの更新及び充実に継続して行う。

a 保健機能食品等の健康志向に基づく食品の使用実態等の情報を収集・把握し、栄養表示及び健康表示の側面から、健康影響について調査検討する。

また、栄養素以外の食品成分から広く健康影響を持つ食品素材をスクリーニングして、そのヒトにおける有効性評価について細胞モデル及び動物モデルを用いて検討する。

b 「健康食品」に関する正しい知識の普及と健康被害の未然防止並びに拡大防止を目的に、公正で科学的な健康食品の情報を継続的に収集・蓄積し、幅広く公開する。

(2) 重点調査研究以外の調査研究に関する事項を達成するための措置

ア 研究所の研究能力を向上させ、将来、その応用・発展的な展開を可能とするために、関連研究領域における基礎的・独創的・萌芽的研究を行う。

イ コホートを設定し、介入研究による栄養教育の成果を研究する。食育及び栄養ケアマネジメントに関

して、行政、他機関と協力してエビデンス作りを図る。また、管理栄養士等保健従事者の教育及び情報の提供方法を研究する。

(3) 研究水準及び研究成果等に関する事項を達成するための措置

ア 論文、学会発表等の促進

調査及び研究の成果の普及を図るため、学術誌への学術論文の投稿、シンポジウム、学会等での口頭発表を行う。

これらについては、中期目標期間内に、学術論文の掲載を 250 報以上、口頭発表を 750 回以上行う。なお、口頭発表は、海外においても積極的に行う。

イ 知的財産権の活用

調査及び研究の成果については、それらが知的財産につながるかどうかのスクリーニングを行い、中期目標期間内に 20 件以上の特許出願を行う。

取得した特許権の実施を図るため、特許権情報のデータベースをホームページ上に公開する。

また、非公務員化の利点を活用し、研究所が所有する知的財産の活用、又は所有する情報等を用いた共同研究を民間企業及び大学等と積極的に行うこととし、毎年 2 件以上の増加を目標とする。

ウ 講演会等の開催

健康・栄養関連の専門家向けのセミナー、幅広い人々を対象とした講演会等をそれぞれ年 1 回以上開催し、調査及び研究の成果を社会に還元する。

また、関係団体が実施する教育・研修プログラムへの職員の派遣を積極的に推進する。

一般及び専門家からの電話、メール等による相談を受けるとともに、それらの相談に適切に対応する。

エ 開かれた研究所への対応

幅広い人々に研究所の業務について理解を深めてもらうことを目的に、年 1 回オープンハウスとして研究所を公開する。

また、健康と栄養に興味を抱かせ、将来、栄養学研究を担う人材の育成に資するよう、「総合的な学習の時間」による中学・高校生等の見学を積極的に受け入れる。

(4) 研究実施体制等の整備に関する事項を達成するための措置

ア 研究・業務の効率的な実施という観点から、研究員、研究補助員の配置を戦略的に行う。

研究所として重点的に実施すべき調査及び研究並びに法律に基づく業務については、研究業務費を適切に配分し、確実な業務の執行に努める。

イ 民間企業、大学、他の研究機関等との間で従前から実施している共同研究に加え、新たな共同研究等を積極的に推進するため、民間企業、大学等へ研究所研究員を派遣するとともに、資質の高い研究員を受け入れる。

ウ 連携大学院、民間企業及び各種研究機関等から研究員を年間 20 名程度受け入れ、研究所が所有する情報・技術等を提供するとともに、研究員を広く大学院や関係機関等に年間 5 名程度派遣し、研究所の持つ情報・技術等を社会に還元する。

また、国内外の若手研究員等の育成に貢献するため、博士課程修了者、大学院生、他機関に属する研究員等を継続的に受け入れるための体制の充実を図る。また、連携大学を増やし、兼任教授の派遣を行うとともに、若手研究員の指導・育成を行うため、求めに応じ、研究所研究員を他機関へ派遣する。

エ 施設・設備について、自らが有効に活用するとともに、「独立行政法人国立健康・栄養研究所設備等利用規程」に基づき、大学、他研究機関による共同研究等での外部研究者等の利用に供する。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項を達成するための措置

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項を達成するための措置

ア 国民健康・栄養調査の集計事務については、政策ニーズに対応した迅速かつ効率的な集計を行う。具体的には、当該年度の集計事務を調査票のすべてを受理してから 7 ヶ月を目途(ただし、調査項目に大幅な変更が生じない場合に限る。)に行う。

また、外部委託、高度集計・解析システムの活用等により、効率的な集計を行うことにより、経費の削減を図る。

さらに、都道府県等が行う健康・栄養調査に対する支援を含めて関連する技術的な事項について、研究所がより積極的に対応する。

特に、平成 22 年度に行われる都道府県等健康増進計画の最終評価に向けて、調査結果の活用、評価手法等について、平成 20 年度までに重点的に技術支援を行う。

イ 厚生労働省が収去した特別用途食品及び栄養表示がなされた食品の試験業務を的確かつ迅速に実施する。

特別用途食品の許可に係る試験業務について、分析技術が確立している食品成分の試験業務は、検体の受理から試験の回答までを 2 ヶ月以内に行うことを目指す。

また、分析技術の確立していない特定保健用食品の関与成分等の新たな食品成分への技術的対応については、他登録試験機関での応用も可能な分析技術の規格化及び当該食品成分の標準品の開発の実現を図る。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項を達成するための措置

ア 健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等から直接的に研究所に対する要望等を伺う機会を年 6 回程度設け、社会的ニーズを把握する。さらに、業務関連行政部局との間で、定期的な情報及び意見等を交換する場を設け、行政ニーズを把握する。

また、国、地方自治体、国際機関等より、専門的な立場からの技術的な協力、指導等の求めには積極的に応じて研究員を派遣し、研究所における調査及び研究の成果が適切に施策等に反映できるよう努める。

イ 研究所に対する意見、要望等をホームページやセミナー等の参加者を通じて把握し、その内容を検討

し、可能な限り業務に反映させる。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項を達成するための措置

ア アジア諸国との間で、栄養調査、栄養改善及び健康づくり等に関する共同研究において中心的な役割を果たすとともに、WHO 西太平洋地域における協力センターの設置(平成 19 年度を目途)に向けての準備を行う。

また、研究者養成及び共同研究の促進を図るため、「国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業」により、年間 2 名程度の若手研究者に研究所での研修機会を提供するとともに、アジア地域の研究者を交えたシンポジウムの開催等を行い、アジア地域における栄養学研究基盤の強化に寄与する。

イ 民間企業、大学等の複合的な連携を強化するとともに、寄附研究部門の充実を図る。

これにより、研究所の研究成果と社会ニーズの橋渡し、新たな展開・応用を図るとともに、知的財産の獲得を積極的に行う。

(4) 栄養情報担当者(NR)制度に関する事項を達成するための措置

栄養情報担当者(以下「NR」という。)が、保健機能食品等の利用に関して、消費者に適切に情報を提供し、消費者が気軽に相談できる者となれるよう、研修や情報提供等を通じてその質的向上を図る。

また、中期目標期間開始より 3 年以内に、NR の実際の業務内容、社会でのあり方についてモニタリングを行う。この結果に基づき、制度のあり方や研究所の係わりについて検討を行い、中期目標期間終了までに結論を得る。

NR 事務業務について、効率的かつ的確な業務が実施できるよう見直しを行う。また、外部委託が可能な業務については、アウトソーシングを行う。

3. 情報発信の推進に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究所として総合的な情報発信を行うとともに、対外的な業務の推進を図るための組織整備を行う。
- (2) ホームページに研究所の活動状況を積極的に配信し、ホームページの掲載内容をより充実させる。ホームページアクセス件数は、中期目標期間中、毎年 50 万件程度を維持させる。

- (3) 研究所の諸活動及び研究業績については、毎年度 1 回研究報告としてとりまとめるとともに、最新の研究成果やトピックス等を紹介したニュースレターを年 4 回刊行する。

また、これらについては、ホームページ上で公開するとともに、電子メディアでの配信も行う。

- (4) 研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報開示は、ホームページ等を活用し積極的に行う。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項を達成するための措置

1. 運営体制の改善に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究所の意思決定と運営を機動的かつ効率的に行うことができるよう、役員組織と研究部門及び事務部門との間の連絡調整を密にし、執行体制を強化する。

また、研究所運営に対する研究所職員の意識を高めるため、研究所運営に関する必要な情報の共有化を図る。

- (2) 研究部門間での連携を強め、異なる研究分野からの情報や研究手法を積極的に利用して戦略的な事業の立案・実施を図る。
- (3) 調査及び研究業務の効率的かつ確実な推進を図るため、所内報告会等により各業務の進捗状況を把握し、適切な評価を行い、その結果を計画的・効率的な業務の遂行に反映させる。

また、所内イントラネットを活用し、業務の進捗状況管理等の効率化を図る。

- (4) 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成 13 年法律第 140 号)に則り、積極的な情報公開を行う。
- (5) 研究所の経営基盤の安定化のため、外部資金の獲得に積極的に取り組むとともに、経費の節減や研究所の所有する設備等の有効利用を進める。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究所が中期計画の中で重点的に行う調査及び研究並びに法律に基づく業務に関して、業務量や集中的に遂行すべき時期等を勘案しながら研究及び業務チームを組織する。

非公務員型の利点を生かして柔軟に組織の見直し・改編を行うこととし、従来の部体制から中期目標に掲げる業務を行うためのプログラム等を受け、各々が独立した形での業務運営を行う。また、組織の見直し・改編後、毎年、その効果を検証する。

- (2) 民間企業、大学等との連携・交流を積極的に行い、研究員の交流を進め、人材の養成と資質の向上に努めることにより、組織の活性化を図る。

3. 職員の人事の適正化に関する事項を達成するための措置

- (1) 重点的に行う研究及び法律に基づき実施すべき業務については、業務運営の効率性を勘案しながらも、必要な人員を十分に担保した上で組織体制を構築する。
- (2) 非公務員型への移行のメリットを最大限に活かした柔軟な人事システムを構築し、研究職員の個人評価の結果を昇級・昇任等の処遇及び給与面に反映させる。

- (3) 研究員の採用に当たっては、「独立行政法人国立健康・栄養研究所における研究者の流動化計画」に沿って、原則として公募制、任期付の採用を行う。研究所が重点的に推進する調査及び研究業務が着

実に成果が挙げられるよう、資質の高い人材を広く求める。また、資質の高い人材については、任期中の実績評価に基づき、任期を付さない形での採用を行う。

さらに、外国人及び女性研究者が業務に従事しやすい環境づくりを推進し、外国人及び女性職員の採用も可能な限り行う。

- (4) 事務職員の質の向上を図るため、研究員と同様に評価を行うこととし、その評価システムとして自己評価による評価を行い、その結果を昇給・昇任等に反映する。

人事に関する指標

期末の常勤職員数は、期初の 100% を上限とする。

- (参考 1) 期初の常勤職員数 47 名
期末の常勤職員数 47 名(以内)

- (参考 2) 中期目標期間中の人件費総額
2,335 百万円(見込)

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、休職者給与及び国際派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究組織体制の見直しに併せて、業務の効率化を図るため、事務部門の組織を見直す。この際、事務部門に研究員の研究成果の積極的な活用や、対外的な業務を担う業務課(仮称)を設け、研究員が最大限の成果を得られるようにする。

また、権限の明確化及び決裁プロセスの短縮化により、意志決定の迅速化を図るとともに、事務作業の迅速化、事務書類の簡素化、電子化等を進める。さらに、定型的な業務でアウトソーシング可能なものについては外部委託を進める。

- (2) 事務職員については、研究所で働く者として必要な法令・知識を習得するための各種研修会やセミナー等への参加を充実させ、職員が働きやすく自己能力を最大限発揮できるような職場環境の整備を推進する。

これにより、研究所経営への参加意識を高め、業務の質の向上及び効率化の一層の推進を図る。

- (3) 業務の効率化を図るため、業務・システムの最適化を図る。

5. 評価の充実に関する事項を達成するための措置

- (1) 毎年度内部評価委員会を開催し、主要な研究業務に関して、内部評価を実施し、研究業務の確実な実施及び効率化に資する。

- (2) 柔軟かつ競争的で開かれた調査及び研究環境の実現や経営資源の重点的・効率的配分に資するため、外部の専門家等の評価者による外部評価を毎年度 2 回程度実施する。

- (3) 内部及び外部評価結果は、ホームページ上で公表するとともに、組織や施設・設備の改廃等を含めた予算・人材等の資源配分に反映させる等、調査及び研究活動の活性化・効率化に積極的に活用する。

- (4) 研究員については、自己点検・評価を行うとともに、可能な限り客観的な指標に基づき評価を行う。

また、理事長は自ら全研究員との面談を行い、適切かつ公平な評価を行う。

さらに、評価の結果は各職員にフィードバックするとともに、所内イントラネットを活用して、各研究の研究業績を公開し、評価の透明性の確保に努める。

6. 業務運営全体での効率化を達成するための措置

一般管理費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費を除く。)については、中期目標期間中、毎年度、2%以上削減し、中期目標期間の最終年度までに、平成 17 年度を基準として 10%以上の削減を達成する。

人件費については、「行政改革の重要方針」(平成 17 年 12 月 24 日閣議決定)を踏まえ、中期目標期間の最終年度までに平成 17 年度を基準として 5%以上の削減を達成する。

併せて、国家公務員の給与構造改革を踏まえ、給与体系の見直しを行う。

業務経費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。)については、中期目標期間中、毎年度、1%以上削減し、中期目標期間の最終年度までに、平成 17 年度を基準として 5%以上の削減を達成する。

第 3 財務内容の改善に関する事項を達成するための措置

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項を達成するための措置

- (1) 運営費交付金以外の競争的研究資金の積極的な獲得を図り、外部研究資金、その他の競争的資金の募集等に積極的に参加し、その増加に努める。

- (2) 各種研究から生じる知的財産(特許権等)の有効活用並びに研究成果の社会への還元を目的とした出版等を行うことにより、自己収入の確保につなげる。

また、「独立行政法人国立健康・栄養研究所施設・設備等利用規程」に基づき、地域住民等への施設開放を行い、研究所の設備等の効率的な利用に努め、併せて自己収入の増加に寄与する。

2. 経費の抑制に関する事項を達成するための措置

- (1) 各部門において、常勤職員の人件費を含めたコスト管理を四半期毎に行い、効率的な資金の運用とコスト意識の向上を図る。

- (2) 研究業務の集約化、アウトソーシング等により人的資源の有効活用並びに経費の削減を図るとともに、業務運営に係る経常的経費についても、法令集の追録購入中止等により削減を図る。

第 4 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画

1. 予算

別紙 1 のとおり。

2. 収支計画
別紙 2 のとおり。
3. 資金計画
別紙 3 のとおり。

第 5 短期借入金の限度額

1. 限度額
100,000,000 円
 2. 想定される理由
- ア 運営費交付金等の受入れの遅延等による資金の不足
- イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給
- ウ その他不測の事態により生じた資金の不足

第 6 重要な資産を譲渡、又は担保に供するときは、その計画

該当なし。

第 7 剰余金の使途

- ア 研究環境の整備に係る経費
- イ 職員の資質向上に係る経費
- ウ 知的財産管理、技術移転に係る経費 等

第 8 その他の業務運営に関する重要事項を達成するための措置

- (1) セキュリティの確保
情報システムに係る情報のセキュリティの確保に努める。
- (2) 施設及び設備に関する計画
該当なし。
- (3) 積立金処分に関する事項
該当なし。

(別紙 1)

中期計画(平成 18 年度～平成 22 年度)の予算

(単位:百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	4,170
手数料収入	60
受託収入	758
栄養情報担当者事業収入	189
寄附金収入	160
雑収入	21
計	5,359
支出	
人件費	2,908
うち 基本給等	2,606
退職手当	302
一般管理費(光熱水料、図書館関係経費等)	458
業務経費	825
国民健康・栄養調査に関連するサーベイランスプログラム	65
食品収去試験等業務	59
栄養疫学プログラム	88
健康増進プログラム	85
臨床栄養プログラム	39
基礎栄養プログラム	61
食品保健プログラム	49
創造的研究	95
国際栄養協力事業	49
健康食品安全情報ネットワーク事業	126
健康栄養情報事業	109
受託経費	1,167
特別用途食品表示許可試験費	60
受託経費	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
計	5,359

〔人件費の見積り〕期間中総額 2,335 百万円を支出する。

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過

勤務手当、教職者給与及び国際派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

〔運営費交付金の算定ルール〕:別紙 1 - 1

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 1 - 1)

運営費交付金の算定ルール

1. 平成 18 年度

平成 18 年度は、平成 17 年度運営費交付金の額に各経費にかかる効率化係数に基づき算出し、非公務員化に伴う新たな経費を加え、合理化額を減額し算出した。

2. 平成 19 年度以降

次の算定式による。

$\text{運営費交付金} = \text{人件費} + \text{一般管理費} + \text{業務経費} + \text{特殊要因} - \text{自己収入}$

- 人件費 = 当該年度基本給等 (A) + 退職手当 (S)

A : 基本給、諸手当、共済組合負担金等の人件費 (退職手当を除く) をいい、次の式により算出する。

$$A = \{ (P1 \times \alpha \times \beta) + (P2 \times \beta) + P3 \} \times \gamma 1 + (P4 \times \gamma 2)$$

A : 当該年度基本給等

P1 : 前年度の基本給中昇給及び給与改定の影響を受けるもの
(労働保険料を除く)

P2 : 前年度の基本給中給与改定の影響を受けるもの

P3 : 前年度の基本給中昇給及び給与改定の影響を受けないもの

P4 : 労働保険料

α : 運営状況等を勘案した昇給原資率

β : 運営状況等を勘案した給与改定率

$\gamma 1$: 効率化係数 (人件費 (労働保険料を除く))

$\gamma 2$: 効率化係数 (労働保険料)

- 一般管理費 = (一般管理費 (B) $\times \gamma 3 \times \delta$)

B : 前年度一般管理費

$\gamma 3$: 効率化係数 (一般管理費)

δ : 消費者物価指数

- 業務経費 = (業務経費 (C) $\times \gamma 4 \times \delta$)

C : 前年度業務経費

$\gamma 4$: 効率化係数 (業務経費)

δ : 消費者物価指数

- 特殊要因 = 法令等の改正等に伴い必要となる措置又は現時点で予測不可能な事由により発生する資金需要であって、毎年度の予算編成過程において決定する。

- 自己収入 = 知的財産権収入、印税収入等の直接事業を実施しない収入について、過去の実績を勘案し決定する。

〔注記〕

1. α 、 β 、 δ については、各年度の予算編成過程において、当該年度における計数値を決める。

2. 中期計画全般にわたる予算の見積に際しては、
人件費のうち、退職手当については、定年退職者見込みによる。

α 、 β 、 δ については、伸び率を 0 と仮定した。

$\gamma 1$ (人件費の効率化係数) については、節減額 5% 分を $\Delta 1.02\%$ と仮定した。但し、労働保険料については、節減額 5% 分を平成 19 年度から 4 年で節減することから $\Delta 1.35\%$ と仮定した。

$\gamma 2$ (一般管理費の効率化係数) については、節減額 10% 分を $\Delta 2.1\%$ と仮定した。

$\gamma 3$ (業務経費の効率化係数) については、節減額 5% を $\Delta 1.02\%$ と仮定した。

自己収入額については、平成 18 年度については平成 16 年度実績と同額とし、平成 19 年度以降は平成 17 年度の実績見込を基準とし、毎年一定額を増額させ算出した。

(別紙 2)

平成 1 8 ~ 2 2 年度収支計画

(単位 : 百万円)

区 別	金 額
費用の部	5,444
経常費用	5,444
人件費	2,908
うち 基本給等	2,606
退職手当	302
一般管理費 (光熱水料、図書館関係経費等)	458
業務経費	825
国民健康・栄養調査に関連するサーベイランスプログラム	65
食品収去試験等業務	59
栄養疫学プログラム	88
健康増進プログラム	85
臨床栄養プログラム	39
基礎栄養プログラム	61
食品保健プログラム	49
創造的研究	95
国際栄養協力事業	49
健康食品安全情報ネットワーク事業	126
健康栄養情報事業	109
受託経費	1,167
特別用途食品表示許可試験費	60
受託経費	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
減価償却費	85
収益の部	5,444
運営費交付金収益	4,170
手数料収入	60
受託収入	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
雑収入	21
資産見返物品受贈額戻入	2
資産見返運営費交付金戻入	83
純利益	-
目的積立金取崩額	-
総利益	-

〔注記〕当法人における退職手当については、役員退職手当支給基準及び国家公務員退職手当法（昭和 2 8 年法律第 1 8 2 号）に準じて支給することとなるが、その全額について運営費交付金を財源とするものと想定している。

（注）単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙3)

平成18～22年度資金計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
資金支出	5,359
業務活動による支出	5,359
投資活動による支出	0
資金収入	5,359
業務活動による収入	5,359
運営費交付金による収入	4,170
手数料収入	60
受託収入	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
雑収入	21
前期中期目標の期間よりの繰越金	0

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

3. 独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画

平成 19 年度の業務運営について、独立行政法人通則法(平成 11 年法律第 103 号)第 31 条第 1 項の規定に基づき、独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画を次のとおり定める。

平成 19 年 3 月 30 日

独立行政法人国立健康・栄養研究所
理事長 渡邊 昌

第 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項を達成するための措置

1. 研究に関する事項を達成するための措置

(1) 重点調査研究に関する事項を達成するための措置

ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究(健康増進プログラム、臨床栄養プログラム、基礎栄養プログラム、栄養教育プログラム)

a 運動・身体活動による生活習慣病予防、運動と食事指導の併用を行った場合の効果等についての研究を行う。

具体的には、食事調査を行った中年男女 1500 名を対象とし運動基準 2006 で示された身体活動量、運動量、体力基準の妥当性について検討するための大規模無作為割り付け介入研究、安全なレジスタンス・トレーニングが中高齢者の筋機能及び脂質、糖質消費量に及ぼす影響についての研究、食事と運動による肥満者の内臓脂肪量減少法に関する研究、認知行動変容理論を用いた食事と運動による介入研究を行う。

b 運動の肥満・糖尿病予防機序、脂質(飽和脂肪酸、トランス脂肪酸等)や糖質(果糖、蔗糖等)過剰摂取による肥満・糖尿病発症機序、及びそれらの予防法について、分子レベルでの研究を行う。

c 肥満や糖尿病などの生活習慣病に、遺伝子多型や栄養素等摂取量・身体活動量などの環境因子が、どの程度寄与しているかについて研究を行う。食習慣の心理的要因についても調査する。

イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究(栄養疫学プログラム)

a 平成 20 年度に予定されている「日本人の食事摂取基準(2010 年版)」の改定に先立ち、その基礎資料を得ることを目的とした研究者ネットワーク(作業チーム)を組織し、系統的レビュー(文献研究)を行なう。

b 摂取量・健康影響ともに、十分には明らかになっていない栄養素及び非栄養素成分(イソフラボン等)を取り上げ、関連する生体指標の測定技術を確立させ、その健康影響に関する研究を行なう。

ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究(食品保健機能プログラム、情報センター)

a 健康志向に基づく食品成分、素材の使用状況等の最新情報を収集・把握し、健康影響健康影響を持つ食品成分を生活習慣病、慢性疾患への応用に

焦点を当てる。慢性疾患の補完・代替医療成分として有望な食品由来の生理活性成分を、慢性疾患の発症抑制に絞り込んだ遺伝子機能を指標にして、有効性を細胞レベルで評価する。また、既に健康志向食品成分として使用されているビタミン E 同族体の中から多様な生理活性を同時に持つ安定化分子を合成して、生体内における高活性発現のための新たな方法を開発する。統一的な機能評価の指標として ORAC(oxygen radical absorbance capacity) Assay の開発を行う。

b 科学的根拠に基づく最新の健康食品情報、ならびに国内外の危害情報を継続的に蓄積し、ホームページ上で公開する。また現場の専門家との連携をより積極的に行うためのシステム構築をさらに進める。特に本年度は、既公開の健康食品素材 329 に対して最新情報の追加作業を重点的に行う。

(2) 重点調査研究以外の調査研究に関する事項を達成するための措置

ア 独創的で、次期中期計画において発展的に展開し得る研究課題のシーズとなるような研究を、所内公募による競争的な環境の下で行う。

その際、外部の専門家を含めた事前・事後の評価を行い、研究の質を担保する。

イ 生涯を通じた健康づくりの一環として、栄養教育の面から、食育、メタボリックシンドローム、高齢者の食介護に関する研究を行う。人間ドック受診者を対象に 1 万人以上のコホート(後ろ向き・前向き)研究を始める。

食育に関しては、学校保健データと国民健康・栄養調査のデータを基に、エビデンス構築の研究を行う。

管理栄養士に関しては、日本栄養士会、日本栄養改善学会など関連する職能団体や学会等との協調により卒後教育内容(又は方法)を検討する。

(3) 研究水準及び研究成果等に関する事項を達成するための措置

ア 論文、学会発表等の促進

研究成果については、できるだけ国際的な場での発表を目指し、査読付き学術論文 50 報以上(1.5 報/常勤研究員 1 人あたり)、口頭発表 150 回以上(4.5 回/常勤研究員 1 人あたり)行う。

そのため、優れた研究成果の発表に対しては、競争的な事前審査により課題を選定し、渡航費の付与を行う。

イ 知的財産権の活用

知的財産権取得に適した研究について、その成果の学会及び論文発表の前に掘り起こしを行い、年間約5件程度特許の出願を行う。

特許に関わる情報を、ホームページ上に公開し民間企業等に積極的に技術の紹介を行う。また、民間企業との共同研究を年間10件程度行う。

ウ 講演会等の開催

一般向けの公開セミナー(第9回)を、平成20年2月に東京で開催する。研究で得られた成果を社会に還元するため、専門家向けのセミナーを他機関との連携による開催を含めて2回程度行う。

管理栄養士・栄養士等の研修の講師として職員を積極的に派遣するとともに、研修の企画等に対して支援を行う。また必要に応じて、学会のシンポジウムやワークショップを企画する。

外部からの相談・問合せに効率的に対応するため、頻度の高い質問等については、FAQとしてとりまとめを進め、ホームページ上で公開する。18年度は特に、健康食品について立ち上げたが、19年度は「保健指導(食事・運動等)」についてFAQを整備する。

エ 開かれた研究所への対応

平成19年9月29日に、オープンハウスとして、運動実験施設等における体験コーナーや食事・体力診断等を含めて、研究所の研究・業務内容を身近に知っていただくための機会を設ける。(休日実施で内容の拡充に努める)

「総合的な学習の時間」による中学・高校生等の見学にも積極的に応じ、健康や栄養にかかわる知識や興味をもってもらう。

(4) 研究実施体制等の整備に関する事項を達成するための措置

ア 法律に基づく業務及び重点調査研究を確実に実施するために、特別研究員及び研究補助員の重点配置を行う。

プログラム、センターにおける研究や業務に付随する事務的作業の効率化を更に推進し、研究者の生産性をより高めていくために「研究支援チーム」を事務部に設ける。事務部の課・係横断的にチームを編成することで、多様な研究業務内容に適応した柔軟な運用と、事務手続きステップの効率化及び研究部門と事務部門の意識及び情報の共有を図る。

運営費交付金については、4半期毎に各研究・業務の進捗状況及び費用、並びに新たに生じた課題等を勘案しながら、配分の調整を行う。

イ 民間企業、大学、他の研究機関等との間で、研究員の相互交流、研究技術の交換、施設・設備の有効活用を行う。また、当研究所の研究員を大学等へ積極的に派遣し、研究ネットワークの拡大を図る。

ウ 連携大学院、民間企業及び各種研究機関等から研究員を年間10名程度受け入れるとともに、研究員を大学院や関係機関等に年間5名程度派遣し、研究所の持つ情報・技術等を社会に還元する。

お茶の水女子大学、東京農業大学、女子栄養大学、早稲田大学との連携大学院について、兼任教授の派

遣を行い、お互いの強みを活かした研究協力を行う。

また、流動研究員制度や連携大学院制度を活用し、博士課程修了者等の若手研究者や大学院生を積極的に受け入れることにより、将来の研究人材の育成に資するとともに、研究所の研究機能の強化を図る。

エ 施設・設備については、各プログラムで共通して使用する、測定室、RI室、動物室、運動トレーニング室等を整備し、自ら有効に活用するとともに、外部研究者等の利用に供する。さらに、オンラインジャーナルの活用により雑誌閲覧の費用軽減、便宜性の向上を図るとともに、図書館の相互貸借を活用して、図書スペースの効率的な活用につなげる。また、国内他機関で入手困難な学術雑誌を充実させる。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項を達成するための措置

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項を達成するための措置

ア 国民健康・栄養調査の集計業務については、より一層の効率化と結果発表までの期間の迅速化を図るとともに、調査対象者への結果の返却を速やかに行うように努める。データ収集に携わる行政の担当者等に対して、講習や情報提供などを通じて積極的な技術支援を行なう。

イ 厚生労働省が収去した特別用途食品及び栄養表示がなされた食品の試験業務及び、特別用途表示の許可などを行うに当たり、申請者の申請に基づく試験の業務を的確、迅速に実施する。特定保健用食品関与成分の分析法、標準品の妥当性等を検討する。試験検査機器の有効利用及び整備を強化して食品試験業務の適性かつ効率的な実施を図る。

特に汎用分析機器を用いたペプチド類、糖アルコール、フラボノイド類、脂質成分等に関する測定技術及び分析値の精度管理を強化し、信頼性の向上を図る。抗酸化能や腸内細菌の16SrRNAによる測定など新規測定方法を開発する。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項を達成するための措置

ア 社会的ニーズを把握するため、健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等との意見交換会を年6回程度設ける。「栄養・食生活」、「食品」、「運動・健康づくり」及び「医学関係(特に生活習慣病予防医学領域)」の4つの分野から偏り無くニーズを把握する。特に、研究所は国民生活に密着した分野を対象としており、国民に成果を還元することが重要であることから、現場に近い人々(利用者等)から、具体的なニーズ等の把握に努める。

行政ニーズを適時把握するために、厚生労働省生活習慣病対策室、新開発食品保健対策室、内閣府食育推進担当等と情報及び意見交換を行う。

また、国、地方自治体、国際機関等からの技術的な協力依頼に応えるために、各種審議会、検討会等に専門委員として職員を派遣し、行政ニーズの把握を図る。

イ ホームページ上で意見、要望等を収集するための新たなコミュニケーションチャンネル(『健康・栄養

フォーラム(仮称)』などの設置を検討する。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項を達成するための措置

ア アジア諸国との間で、栄養学研究の発展につながる共同研究及び人材育成を積極的に行う。研究交流を推進する観点から、国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業を活用し、年間 3 名(マレーシア 2 名、バングラデシュ 1 名を予定)の若手研究者を受け入れる。

また、WHO、CODEX 等との協力関係を強化し、関連する会議に研究員を派遣する。

国民健康・栄養調査、運動基準及び指針、食事摂取基準並びに食事バランスガイド等、我が国の栄養、運動施策上の重要なガイドラインについて、ホームページ上に英語での情報発信に努め、海外からのニーズに的確かつタイムリーに応える。

イ 寄付研究部(ニュートラシューティカルズプロジェクト)については、ヒトを対象とした実験研究を進め、新たな科学的知見、知的財産、商品開発に向けた取組を行う。

また、これまでに強化してきた企業との共同研究の成果を踏まえ、新たな寄付研究プロジェクトの開始に向けて準備を行う。

(4) 栄養情報担当者(NR)制度に関する事項を達成するための措置

NR は、平成 18 年度までに 1,898 名を輩出している。NR のスキルアップを図るとともに、社会的なニーズに対応したトピックスを含めた、最新の情報提供等を行うため、全国 6 か所において研修会を実施する。

NR 認定試験等は、外部有識者の協力の下、的確かつ公正に実施する。また、管理栄養士養成施設等において、NR 養成講座指定への要望が多いことから、講座の質の向上に努める。NR 数、NR 受験者、養成講座数の増加に併せて、誤りなく効率的に事務が運営できるよう人員の配置を行う。また、アウトソーシングによる効率性の向上が期待できる業務についてはアウトソーシングを行う。

NR 制度のあり方の検討については、外部の有識者による委員会において検討を行い、平成 19 年度末までにとりまとめる。

3. 情報発信の推進に関する事項を達成するための措置

(1) 情報センターにおいて、引き続き、所内各プログラムにおける研究成果及び研究所内外の関連情報を集約・加工し、国民が適切な運動・食生活を実践するために必要な情報の提供を行う。

(2) コンテンツマネジメントシステム、メールマガジン等の運用により、研究所の活動内容・成果等を積極的に配信するとともに、ホームページの内容全般について、最新情報の追加・更新を精力的に行う。

(3) 研究所の活動および研究業績を年 1 回研究報告として刊行する。

また、研究所のプロジェクト紹介や研究成果をわかりやすくまとめた、『健康・栄養ニュース』を

年 4 回(季刊)刊行し、ホームページ上で公開するとともに、電子メディアでの配信も行う。

(4) 研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報開示は、ホームページ等を活用し積極的に行う。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項を達成するための措置

1. 運営体制の改善に関する事項を達成するための措置

(1) 意思決定の迅速化を図るため、権限と責任を明確にした組織運営を行う。

人員や研究資源の配置を適正に行うことを含めて、研究所の重要な経営判断に関する審議は、役員及び各プログラムリーダー、事務部長等から構成される運営会議で行う。

研究成果が最大限あげられるよう、各プログラムで行われている業務の特性を理解し、効率的、効果的な研究支援体制を作る。経営管理に関する理念と運営に関して、研究員の理解を促すとともに、管理部門と研究部門の間の情報の共有化を促進する。

また、研究及び技術的事項について、各プログラム相互の連携を強化するため、毎週プログラムリーダー会議を行う。プログラムリーダーは、研究所の方向性、学術動向、社会的ニーズを理解した上で、各プロジェクトのスタッフにこれら重要事項を伝え、プログラムで実施されている業務について、何を目標として研究を行うべきか、共通意識を持たせるようにする。

(2) 6 プログラム及び 2 センター間において、専門領域が異なる研究者が、それぞれの研究内容及び成果を知るために、定期的な所内セミナーや研究交流会を通じて、活発な発表及び討議を行う。

また、プログラムリーダーは、各プログラムの活動内容、成果について、組織横断的で、より統合された研究に向け戦略的な立案を行う。

(3) 各プロジェクトにおける研究及び業務については、それらを統括するプログラムリーダーが進捗状況を把握し、プログラムリーダー会議や運営会議において、報告を行う。また、定例セミナー等で各プロジェクトの進捗、成果を把握し、評価を行う。さらに、所内公開でプログラムリーダーからの報告会(年 2 回)及び全プロジェクトリーダーからの報告会(年 1 回)を行う。

所内イントラネットを活用し、業務の進捗状況管理を行うとともに、各プログラム間、事務部門との情報の共有化を促進する。

(4) 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成 13 年法律第 140 号)に則り、文書を適正に管理し、積極的な情報公開を行う。

(5) 研究所の経営基盤の安定化を図るため、競争的研究資金や、受託研究など外部資金の獲得に積極的に取り組む。

また、経費の節減や研究所の所有する設備等の有効利用を進める。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項を達成するための措置

- (1) 第二期中期計画を遂行するために抜本的に組織の再構築を行ったプログラム・プロジェクトチーム(別紙 1)については、プログラムリーダーの責任と権限を強化し、各プログラムにおいて、常勤職員の人件費を含めたコスト管理及び研究業務について、経営的な視点を併せ持ちながら運営を行う。
- (2) 国内外の民間企業、大学、他研究機関との研究協力を推進し、研究者の受け入れ及び研究所研究員の派遣を行う。それにより人材の養成と資質を向上させ、組織の活性化を図る。

3. 職員の人事の適正化に関する事項を達成するための措置

- (1) 重点的に行う研究及び法律に基づき確実に実施すべき業務については、重点プロジェクトとして位置づけ、研究員、研究補助員等を適切に配置する。
また、一部の職員への過重な負担とならないよう、研究・業務等の適正配分に努めるとともに、自主的な健康の維持・増進につながる職場環境づくりを目指す。
- (2) 非公務員型への移行に伴い、大学、民間企業等との多様な形態の連携が可能となるよう、起業も含めて、民間企業、団体等との兼業についても、研究所の目的、理念に合致したものについて積極的に行い、成果の社会還元を促進する。
また、各研究員の個人業績及び各プロジェクトの実績評価を、各個人の昇級・昇任等、給与面に反映させる。
- (3) 「独立行政法人国立健康・栄養研究所における研究者の流動化計画」に沿って、原則公募制、任期付の採用を行う。

任期付研究員については、任期中の実績評価を厳密に行い、任期を付さない職員としての採用を検討する。任期付き研究員の採用にあたっては、流動化計画を図る一方、研究所における長期的な展望を考えるとデメリットもあることから、研究や業務の性質、行政及び社会的ニーズに応じて、柔軟な運用を行う。

女性研究員の採用を可能な限り行うとともに、研究業務に従事しやすい環境づくりとして、フレックスタイム制をフル活用するとともに、各種制度の活用を進める。産休及び育休(男性を含む)によるブランクを埋める一手段として、メール等の活用を検討する。

国際協力の推進、グローバル化する健康食品等の情報の収集や発信をより積極的に行うために、外国人研究者の採用を考慮する。

- (4) 事務職員についても、自己評価を行うとともに、個人面接を行い、直近上司と総括上司の段階評価を実施する。評価の結果は、昇給・昇任等に反映する。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項を達成するための措置

- (1) 業務の効率化を図るため、意志決定の迅速化を図

るとともに、権限と責任を明確にした組織運営を行う。

迅速な意志決定と柔軟な対応をとるため、各種事務手続きの簡素化、迅速化、電子化を図るとともに、業務を見直し、可能かつ適切な業務については、外部委託を進める。

- (2) 事務職員の資質向上を図るため、業務上必要とされる知識(知的財産、安全管理、会計・契約等)の技術取得ができるよう、自己啓発や能力開発のための研修を行う。また、職員が働きやすく自己能力が最大限発揮できるよう、職場環境の整備を充実する。
- (3) 業務の効率化を図るため、情報総括責任者(CIO)を中心に、業務・システムの最適化・効率化を図る。

5. 評価の充実に係る事項を達成するための措置

- (1) プログラム及びセンターの報告会を年 2 回、全プロジェクトの報告会を年 1 回行い、それらをふまえて中間及び年度の内部評価を実施する。中間評価については、年度途中の研究業務の見直しにより、効果的な実施につなげる。
- (2) 外部有識者による評価委員会については、研究所の主要な研究業務の進捗状況、成果の社会へのアウトプット、将来の発展性という観点から、また研究所の組織運営に関しては、特により良い研究環境の構築という視点から、評価を受ける。また、平成 20 年度計画について、当評価委員会から事前に評価を得る。
- (3) 内部及び外部評価の結果は、ホームページ上で公開する。評価結果については、プログラム、プロジェクトリーダーの範囲にとどまらず、非常勤職員を含めた職員全員に結果を伝え、研究所に求められている方向性や課題等の共通理解を促し、研究及び業務の内容の改善などにつなげる。また、理事長等役員は、評価結果等を踏まえて、研究資源の配分等に反映させる。
- (4) 各研究員においては、社会及び研究所で求められている自らの役割を十分認識した上で、当該年度における自らの研究及び業務の成果について、点検を行う。その際、可能な限り客観的な指標を整理・分析するために、所内イントラネットを活用した業績等の登録システムを活用する。

各研究員の評価は、主にプログラム内での十分な成果の達成という視点からプログラムリーダー及び理事長が行う。なお、任期付研究員については、任期中の実績評価を行い、その結果をその後の採用等に反映させる。

6. 業務運営全体での効率化を達成するための措置

一般管理費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費を除く。)については、光熱水料等の削減等に努め、平成 17 年度に比べて 4%以上の削減を図る。

人件費(退職手当及び法定福利費を除く。)については、適正な人員配置に努め、平成 17 年度に比べて 2%程度の削減を図る。

業務経費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。)については、業務の効率化、コストの削減に努め、平成 17 年度に比べて 2%以上の削減を図る。

第 3 財務内容の改善に関する事項を達成するための措置

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項を達成するための措置

- (1) 厚生労働省、文部科学省等の政府機関、科学技術振興機構等の機関が実施する公募型研究に研究課題の応募を積極的に行う。その際に、研究所の目的等を勘案し、競争力の高い研究課題を選択し、また、他の研究機関等との共同研究の中核となる課題に従事する。

健康・栄養に関する調査及び研究について、国、民間企業等の受託研究及び業務については、研究所の目的やその後の発展性及び交付金事業として行う研究を勘案しながら、それらに合致するものについては積極的に受入、自己収入の増加に資する。

- (2) 知的財産については、その出願や維持にかかる費用を勘案しながら、実施につながる可能性の高いものについて必要な維持を行い、自己収入につなげる。また、研究成果等の社会還元を目的に出版(研究所監修による書籍、マニュアル、テキスト等)を行うことにより、自己収入の確保につなげる。

施設開放にあたっては、自己収入の確保という点だけでなく、ヒトを対象とした研究への参加、地域住民の健康づくりという視点を踏まえて検討を行う。

2. 経費の抑制に関する事項を達成するための措置

- (1) 6つのプログラム、2つのセンターにおいて、常勤職員の人件費を含めた業務費のコスト管理を四半期毎に行う。その結果については、運営会議、役員会で分析を行い、効率的な運用につなげる。このようなマネジメントサイクルにより、研究職員のコスト意識の向上を図る。
- (2) プログラムにまたがる研究の実施や、施設整備、スペース等の共有利用により、人的資源、コスト

削減につなげる。また、研究業務の遂行に付随する事務的手続き等の簡素化を図り、人的コストの削減につなげる。

さらに、データ入力、検体の定期検査、文献資料の収集、コンピュータプログラム、データベース開発等、アウトソーシングが効率化やコスト削減につながるものについては、アウトソーシングを進める。アウトソーシングを行う場合は、その内容の質の担保を確保するために必要な措置を講じる。

また、一般競争入札への移行を進めるとともに、法令集の追録購入の全面的廃止等により、経常的経費の削減を図る。

第 4 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画

1. 予算

別紙 2 のとおり。

2. 収支計画

別紙 3 のとおり。

3. 資金計画

別紙 4 のとおり。

第 5 その他の業務運営に関する重要事項を達成するための措置

(1) セキュリティの確保

情報システムに係る情報のセキュリティの確保に努める。

第 6 平成 19 年度独立行政法人国立健康・栄養研究所行事等予定表

別紙 5 のとおり。

```

graph TD
    President[理事長] --- Board[理事]
    President --- Supervisors[監事]
    President --- MainTrunk[研究企画評価主幹]
    MainTrunk --- ResearchDept[研究部門]
    MainTrunk --- InfoDept[情報部門]
    MainTrunk --- ExternalDept[対外部門]
    MainTrunk --- AffairsDept[事務部門]

    ResearchDept --- NutritionProgram[栄養疫学プログラム]
    NutritionProgram --- NationalHealth[National Health・Nutrition Survey Project]
    NutritionProgram --- DietIntake[Dietary Intake Standard Project]
    NutritionProgram --- Biomarkers[Biomarkers Project]

    ResearchDept --- HealthProgram[健康増進プログラム]
    HealthProgram --- ExerciseGuideline[Exercise Guideline Project]
    HealthProgram --- EnergyMetabolism[Energy Metabolism Project]
    HealthProgram --- Rest[Rest Project]

    ResearchDept --- ClinicalNutrition[臨床栄養プログラム]
    ClinicalNutrition --- MetabolicSyndrome[Metabolic Syndrome Project]
    ClinicalNutrition --- NutritionTherapy[Nutrition Therapy Project]

    ResearchDept --- NutritionEducation[栄養教育プログラム]
    NutritionEducation --- NutritionManagement[Nutrition Care Management Project]
    NutritionEducation --- LifestyleDiseasePrevention[Lifestyle Disease Prevention Project]
    NutritionEducation --- FoodEducation[Food Education Project]

    ResearchDept --- BasicNutrition[基礎栄養プログラム]
    BasicNutrition --- LipidMetabolism[Lipid・Carbohydrate Metabolism Project]

    ResearchDept --- FoodSafety[食品保健機能プログラム]
    FoodSafety --- FoodAnalysis[Food Analysis Project]
    FoodSafety --- Supplement[Supplement Project]
    FoodSafety --- FoodFunction[Food Function Project]

    InfoDept --- InfoCenter[情報センター]
    InfoCenter --- HealthFoodInfo[Health Food Information Project]
    InfoCenter --- HealthNutritionInfo[Health・Nutrition Information Project]
    InfoCenter --- ITSupport[IT Support Project]

    ExternalDept --- IntProdCollab[国際産学連携センター]
    IntProdCollab --- IntNutrition[International Nutrition Project]
    IntProdCollab --- NutraTech[NutraScience Technological Projects]
    IntProdCollab --- BioStats[Bioinformatics Project]

    AffairsDept --- Affairs[事務部]
    Affairs --- GeneralAffairs[庶務課]
    Affairs --- Accounting[会計課]
    Affairs --- Business[業務課]
  
```

The organizational chart of AIST is structured as follows:

- 理事長 (President)**
 - 理事 (Board Members)**
 - 監事 (Supervisors)**
 - 研究企画評価主幹 (Main Trunk for Research, Planning, and Evaluation)**
 - 研究部門 (Research Department)**
 - 栄養疫学プログラム (Nutrition Epidemiology Program)**
 - 国民健康・栄養調査プロジェクト (National Health and Nutrition Survey Project)
 - 食事摂取基準プロジェクト (Dietary Intake Standard Project)
 - 生体指標プロジェクト (Biomarkers Project)
 - 健康増進プログラム (Health Promotion Program)**
 - 運動ガイドラインプロジェクト (Exercise Guideline Project)
 - エネルギー代謝プロジェクト (Energy Metabolism Project)
 - 休養プロジェクト (Rest Project)
 - 臨床栄養プログラム (Clinical Nutrition Program)**
 - メタボリックシンドロームプロジェクト (Metabolic Syndrome Project)
 - 栄養療法プロジェクト (Nutrition Therapy Project)
 - 栄養教育プログラム (Nutrition Education Program)**
 - 栄養ケアマネジメントプロジェクト (Nutrition Care Management Project)
 - 生活習慣病予防プロジェクト (Lifestyle Disease Prevention Project)
 - 食育プロジェクト (Food Education Project)
 - 基礎栄養プログラム (Basic Nutrition Program)**
 - 脂質・糖代謝プロジェクト (Lipid・Carbohydrate Metabolism Project)
 - 食品保健機能プログラム (Food Safety and Health Function Program)**
 - 食品分析プロジェクト (Food Analysis Project)
 - 補完成分プロジェクト (Supplement Project)
 - 食品機能プロジェクト (Food Function Project)
 - 情報部門 (Information Department)**
 - 情報センター (Information Center)**
 - 健康食品情報プロジェクト (Health Food Information Project)
 - 健康・栄養情報プロジェクト (Health・Nutrition Information Project)
 - IT 支援プロジェクト (IT Support Project)
 - 対外部門 (External Department)**
 - 国際産学連携センター (International Industry-Academia Cooperation Center)**
 - 国際栄養プロジェクト (International Nutrition Project)
 - ニュートラシューティカルズプロジェクト (NutraScience Technological Projects)
 - 生物統計プロジェクト (Bioinformatics Project)
 - 事務部門 (Affairs Department)**
 - 事務部 (Affairs Department)**
 - 庶務課 (General Affairs Section)
 - 会計課 (Accounting Section)
 - 業務課 (Business Section)

(別紙 2)

年度計画 (平成 19 年度) の予算

(単位: 百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	812
手数料収入	12
受託収入	80
栄養情報担当者事業収入	64
寄附金収入	30
雑収入	17
計	1,015
支出	
人件費	557
うち 基本給等	527
退職手当	30
一般管理費 (光熱水料、図書館関係経費等)	105
業務経費	167
栄養疫学プログラム	24
健康増進プログラム	27
臨床栄養プログラム	7
栄養教育プログラム	9
基礎栄養プログラム	9
食品保健機能プログラム	24
創造的研究	20
情報センター	32
国際産学連携センター	15
受託経費	186
特別用途食品表示許可試験費	12
受託経費	80
栄養情報担当者事業経費	64
寄附研究事業費	30
計	1,015

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 3)

平成 19 年度収支計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
費用の部	
經常費用	1,038
人件費	557
うち 基本給等	527
退職手当	30
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	105
業務経費	167
栄養疫学プログラム	24
健康増進プログラム	27
臨床栄養プログラム	7
栄養教育プログラム	9
基礎栄養プログラム	9
食品保健機能プログラム	24
創造的研究	20
情報センター	32
国際産学連携センター	15
受託経費	186
特別用途食品表示許可試験費	12
受託経費	80
栄養情報担当者事業経費	64
寄附研究事業費	30
減価償却費	23
収益の部	1,038
運営費交付金収益	812
手数料収入	12
受託収入	80
栄養情報担当者事業経費	64
寄附研究事業費	30
雑収入	17
資産見返物品受贈額戻入	0
資産見返運営費交付金戻入	23
純利益	-
目的積立金取崩額	-
総利益	-

〔注記〕当法人における退職手当については、役員退職手当支給規程及び職員退職手当規程に基づき支給することとなるが、その全額について運営費交付金を財源とするものと想定している。

（注）単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 4)

平成 19 年度資金計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
資金支出	1,015
業務活動による支出	1,015
投資活動による支出	0
資金収入	1,015
業務活動による収入	1,015
運営費交付金による収入	812
手数料収入	12
受託収入	80
栄養情報担当者事業経費	64
寄附研究事業費	30
雑収入	17
前期中期目標の期間よりの繰越金	0

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 5)

平成 19 年度独立行政法人国立健康・栄養研究所行事等予定表

平成 19 年 4 月 18 日(水)	○ 研究所一般公開(パネル展示)
5 月 17 日(金)～20 日(日)	○ 第 62 回日本栄養・食糧学会大会(国立京都国際会館)
6 月 16 日(土)～17 日(日) 17 日(日) -	○ 第 7 回産学官連携推進会議(国立京都国際会館) ○ 第 5 回独立行政法人国立健康・栄養研究所栄養情報担当者認定実施試験 ○ 平成 19 年度業務実績報告及び中期目標期間における業務実績報告を厚生労働省独立行政法人評価委員会に、平成 19 年度財務諸表等を厚生労働大臣にそれぞれ提出 ○ 「健康・栄養ニュース」(第 24 号)の発行
7 月 -	○ 第 5 回独立行政法人国立健康・栄養研究所栄養情報担当者認定試験合格者発表
8 月	
9 月 - 27 日(土)	○ 「健康・栄養ニュース」(第 25 号)の発行 ○ 研究所一般公開(オープンハウス)
10 月	
11 月 11 日(日)	○ 第 6 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験
12 月 - - -	○ 「健康・栄養ニュース」(第 26 号)の発行 ○ 第 6 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験合格発表 ○ 外国人研究者招へい者審査・招へい者発表
平成 20 年 1 月	
2 月 - - -	○ 第 10 回研究所主催一般公開セミナー兼第 6 回研究所公開業務報告会(東京) ○ 独立行政法人国立健康・栄養研究所指定栄養情報担当者養成講座の指定 ○ 第 6 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験実施要綱の公表
3 月 - - -	○ 外部評価委員会 ○ 平成 21 年度計画を厚生労働大臣へ提出 ○ 「健康・栄養ニュース」(第 27 号)の発行

運営会議は 8 月を除く毎月第 2 木曜日に開催する。

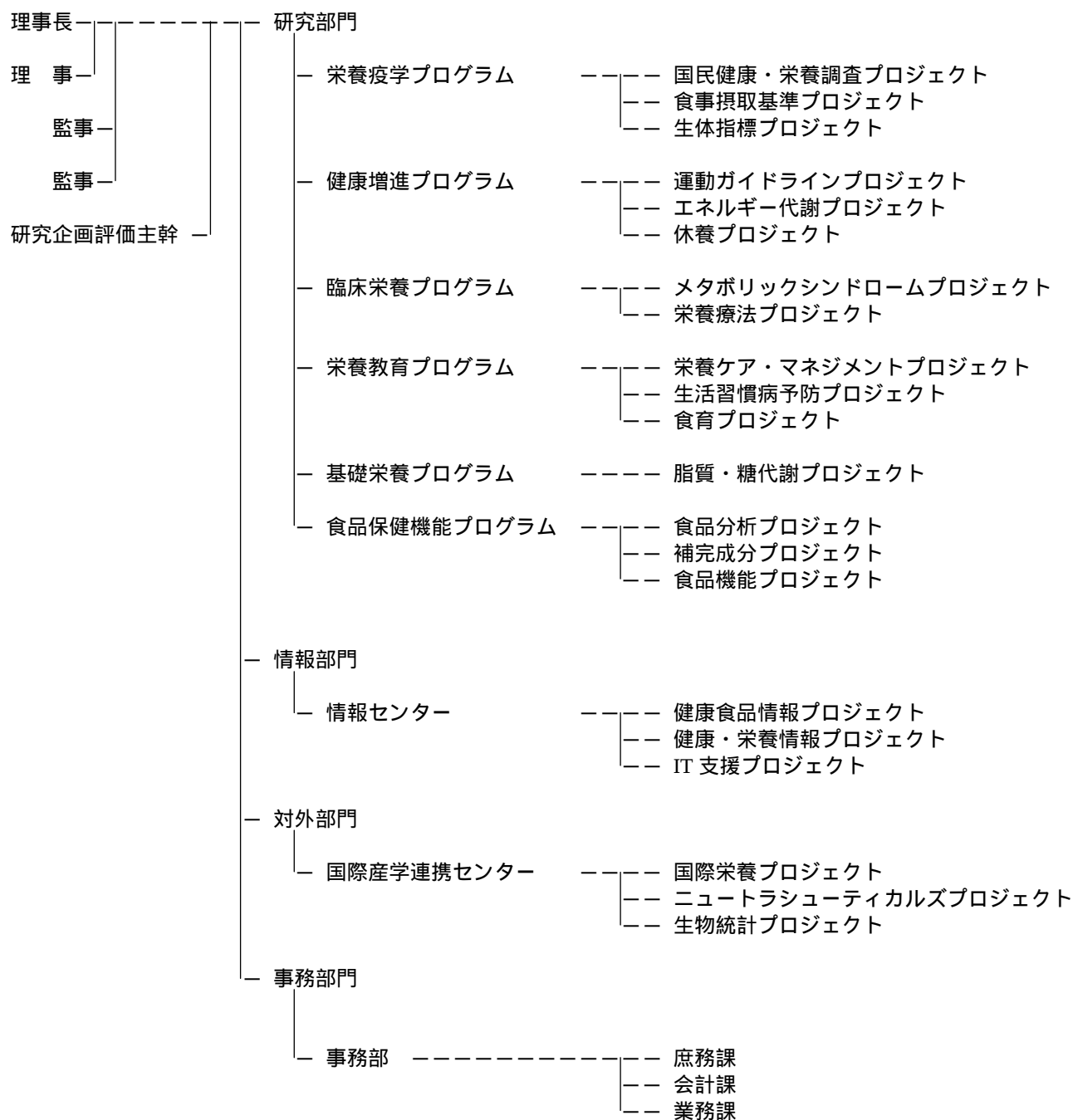
栄養セミナーは原則、毎月第 1 及び第 3 月曜日に開催する。

専門家向け公開セミナーを東京及び地方にて開催する。

実施日については、諸般の都合により変動があり得る。

4. 研究所組織

平成 19 年 4 月 1 日



5. 平成 19 年度予算額

支出

(単位：千円)

事 項	平成 18 年度 予 算 額	平成 19 年度 予 算 額	増 減額
人件費	646,545	556,634	▲ 89,911
基本給・諸手当	479,319	474,429	▲ 4,890
共済組合負担金	45,058	44,598	▲ 460
児童手当拠出金	381	377	▲ 4
労働保険料	7,339	7,240	▲ 99
退職手当	114,448	29,990	▲ 84,458
一般管理費	93,041	88,901	▲ 4,140
業務経費	168,441	166,723	▲ 1,718
栄養疫学プログラム	24,461	23,562	▲ 899
国民健康・栄養調査プロジェクト	13,702	12,562	▲ 1,140
食事摂取基準プロジェクト	6,253	5,000	▲ 1,253
生体指標プロジェクト	4,506	6,000	▲ 1,494
健康増進プログラム	31,490	26,863	▲ 4,627
運動ガイドラインプロジェクト	15,791	10,181	▲ 5,610
エネルギー代謝プロジェクト	15,699	15,982	283
休養プロジェクト	-	700	700
臨床栄養プログラム	7,485	7,476	▲ 9
メタボリックシンドロームプロジェクト	7,485	6,676	▲ 809
栄養療法プロジェクト	-	800	800
栄養教育プログラム	4,128	8,910	4,782
栄養ケア・マネジメントプロジェクト	-	2,000	2,000
生活習慣病予防プロジェクト	1,671	4,100	2,429
食育プロジェクト	2,457	2,810	353
基礎栄養プログラム	9,447	9,351	▲ 96
脂質・糖代謝プロジェクト	9,447	9,351	▲ 96
食品保健機能プログラム	25,296	24,158	▲ 1,138
食品分析プロジェクト	15,309	15,197	▲ 112
補完成分プロジェクト	4,317	3,100	▲ 1,217
食品機能プロジェクト	5,670	5,861	191
創造的研究費	14,546	20,074	5,528
情報センター	39,158	31,724	▲ 7,434
健康食品情報プロジェクト	16,866	15,905	▲ 961
健康・栄養情報プロジェクト	3,943	3,300	▲ 643
IT 支援プロジェクト	18,349	12,519	▲ 5,830
国際産学連携センター	12,430	14,605	▲ 2,175
国際栄養プロジェクト	9,600	10,365	765
NR・セミナープロジェクト	2,830	4,240	1,410
受託経費	258,358	203,031	▲ 26,265
特別用途食品表示許可試験費	12,040	12,040	▲ 5,160
受託経費	156,700	91,404	▲ 44,473
栄養情報担当者事業経費	54,550	69,587	19,300
寄附研究事業	35,068	30,000	4,068
支出計	1,166,385	1,015,289	▲ 151,096

収入

(単位：千円)

事 項	平成 18 年度 予 算 額	平成 19 年度 予 算 額	増 減額
運営費交付金	812,258	908,027	95,769
手数料収入	12,040	12,040	0
受託収入	156,700	91,404	▲ 65,296
栄養情報担当者事業収入	54,550	69,587	15,037
寄附金収入	35,068	30,000	▲ 5,068
収入計	1,166,385	1,015,289	▲ 151,096

6. 人事異動

発令年月日	異動内容	氏 名	所属名 (転入、転出先)
19.3.31	定年退職	萩原清和	食品保健機能プログラム食品分析プロジェクトリーダー 上級研究員
19.3.31	定年退職	柏崎浩	健康増進プログラムエネルギー代謝プロジェクト 上級研究員
19.3.31	退職	佐々木敏	栄養疫学プログラムリーダー上級研究員
19.3.31	退職	齋藤衛郎	食品保健機能プログラム食品機能プロジェクトリーダー 上級研究員
19.3.31	退職	近藤雅雄	栄養疫学プログラム生体指標プロジェクト上級研究員
19.3.31	退職 (転出)	横尾年裕	事務部長兼業務課長 (厚生労働省・北海道厚生局へ)
19.3.31	退職 (転出)	金田真千子	事務部庶務課庶務係長 (国立感染症研究所へ)
19.3.31	退職 (転出)	吉田正和	事務部会計課経理係長 (厚生労働省へ)
19.3.31	退職 (転出)	古賀政史	事務部業務課調整係長兼 NR 担当係長 (国立感染症研究所へ)
19.3.31	退職 (転出)	吉越臣宏	事務部業務課主任 (国立保健医療科学院へ)
19.4.1	採用	水野正一	国際産学連携センター上級研究員 (任期付) 生物統計プロジェクトリーダー
19.4.1	採用	千葉 剛	基礎栄養プログラム研究員 (任期付)
19.4.1	採用 (転入)	岡田誠治	事務部長
19.4.1	採用 (転入)	吉村由紀夫	事務部庶務課庶務係長
19.4.1	採用 (転入)	箕浦正之	事務部会計課経理係長
19.4.1	採用 (転入)	橋本光彦	事務部業務課調整係長兼 NR 担当係長
19.4.1	採用 (転入)	三國良樹	事務部庶務課主事兼会計課主事
19.4.1	併任	門脇 孝	臨床栄養プログラムリーダー (東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科教授)
19.4.1	併任	手嶋登志子	栄養教育プログラム栄養ケア・マネジメントプロジェクトリ ーダー (浜松大学健康プロデュース学部健康栄養学科教授)
19.4.1	昇任	永田純一	食品保健機能プログラム食品分析プロジェクトリーダーに 昇任
19.4.1	併任	山田和彦	食品保健機能プログラムリーダー (食品機能プロジェクトリ ーダーに併任)
19.4.1	併任解除	荒井裕介	国際産学連携センター研究員 (NR・セミナー業務研究員の 併任解除)
19.4.1	配置換	末永和義	事務部庶務課主事 (事務部会計課主事へ)

発令年月日	異動内容	氏 名	所属名（転入、転出先）
19.7.5	任期満了	芝池伸彰	理事
19.7.6	再任	芝池伸彰	理事
19.10.1	昇任	森田明美	栄養疫学プログラムリーダーに昇任（任期付）
19.10.30	退職 （転出）	國井大輔	研究企画評価主幹付（厚生労働省へ）
20.1.1	採用	野末みほ	栄養疫学プログラム国民健康・栄養調査プロジェクト 研究員（任期付）
20.1.1	採用	竹林 純	食品保健機能プログラム食品機能プロジェクト 研究員（任期付）
20.1.1	採用	三好美紀	国際産学連携センター国際栄養プロジェクト 研究員（任期付）
20.1.1	昇任	饗場直美	栄養教育プログラムリーダーに昇任
20.3.1	採用	メリッサ・ メルビー	栄養教育プログラム食育プロジェクトリーダー 上級研究員（任期付）
20.3.31	退職	吉池信男	研究企画評価主幹（青森県立保健大学へ）
20.3.31	退職	松村康弘	情報センター健康・栄養情報プロジェクトリーダー（桐生大 学へ）
20.3.31	退職 （転出）	菅谷正幸	事務部庶務課長（関西空港検疫所総務課長へ）
20.3.31	退職 （転出）	渡邊克彦	事務部会計課長（名古屋検疫所総務課長へ）
20.3.31	退職 （転出）	千羽智之	事務部庶務課人事・厚生係長（国立感染症研究所総務部へ）
20.3.31	退職 （転出）	内藤万佐子	事務部業務課主任（国立保健医療科学院総務部へ）

7. 海外出張

出張者氏名	所 属	出張国	出張期間	渡 航 内 容
矢野 友啓	食品保健機能プログラム	米国・ロサンゼルス	H19.4.15-4.21	アメリカ癌学会(AACR)出席および発表
田中 茂穂	健康増進プログラム	中国・北京	H19.4.16-4.21	IAEA によるプロジェクト会議出席
高田 和子	健康増進プログラム	中国・北京	H19.4.16-4.21	IAEA によるプロジェクト会議出席
吉池 信男	国際産学連携センター	フランス・パリ	H19.4.25-4.29	OECD 疾病予防の経済効果に関する専門家会議出席
宮地 元彦	健康増進プログラム	米国・ニューオリンズ	H19.5.29-6. 1	第 54 回アメリカスポーツ医学会にて発表・情報収集
吉田 真咲	国際産学連携センター	米国・ニューオリンズ	H19.5.29-6. 4	第 54 回アメリカスポーツ医学会のポスターセッションで発表
饗場 直美	栄養教育プログラム	ノルウェー・オスロ、スウェーデン・ストックホルム	H19.6.17-6.25	ISBNPA2007 への参加
森田 明美	栄養教育プログラム	ノルウェー・オスロ、スウェーデン・ストックホルム	H19.6.17-6.25	ISBNPA2007 への参加
山田 和彦	食品保健機能プログラム	カナダ・ウィニペグ市	H19.6.19-6.24	食品と健康表示に関する国際ワークショップおよびカナダ栄養学会大会 2007 に出席
三浦 進司	基礎栄養プログラム	米国・シカゴ	H19.6.21-6.28	第 67 回アメリカ糖尿病学会で発表
窪田 哲也	臨床栄養プログラム	平国・シカゴ	H19.6.21-6.25	第 67 回アメリカ糖尿病学会出席
由田 克士	栄養疫学プログラム	米国・ワシントン	H19.6.23-6.30	研究班における情報収集
荒井 裕介	栄養疫学プログラム	米国・ワシントン	H19.6.23-6.30	研究班における情報収集
宇津木 恵	栄養疫学プログラム	米国・ワシントン	H19.6.23-6.30	研究班における情報収集

出張者氏名	所 属	出張国	出張期間	渡 航 内 容
谷本 道哉	健康増進プログラム	フィランド・ヘルシンキ、ブルガリア・ソフィア	H19.7.11-7.25	第 12 回ヨーロッパスポーツ科学学会にて発表・情報収集ならびにブルガリア国立スポーツアカデミーでの打合せ
家光 素行	健康増進プログラム	フィランド、イバスキュラ・ヘルシンキ	H19.7.10-7.17	第 12 回ヨーロッパスポーツ科学学会にて発表・情報収集
吉池 信男	国際産学連携センター	韓国・ソウル	H19.7.14-7.17	研究班による情報収集
由田 克士	栄養疫学プログラム	韓国・ソウル	H19.7.14-7.17	研究班による情報収集
荒井 裕介	栄養疫学プログラム	韓国・ソウル	H19.7.14-7.17	研究班による情報収集
三好 美紀	国際産学連携センター	イギリス・ロンドン、アイルランド・ダブリン	H19.7.15-7.23	研究班に係る打合せおよび資料収集
渡邊 昌	理事長	シンガポール	H19.7.17-7.20	ILSI international symposium
田畑 泉	健康増進プログラム	中国・北京	H19.7.17-7.20	中国疾病予防対策センターにおける身体活動ガイドラインに関するグループ会議
森田 明美	栄養教育プログラム	中国・蒙古	H19.7.28-8.9	中国蒙古フッ素汚染地域における活性型血中ビタミン D3 著高と骨吸収亢進に関する研究
石見 佳子	栄養疫学プログラム	中国、北京・上海	H19.8.25-8.30	日中笹川医学研究者制度記念式典および北京中医薬大学、中国科学院上海生命科学学院訪問
松村 康弘	情報センター	バングラデシュ・ダッカ	H19.8.31-9.27	アジア地域における経済発展による環境省負荷評価およびその低減を実現する政策研究にかかる調査研究
石見 佳子	栄養疫学プログラム	台湾・台北	H19.9.9-9.12	アジア栄養会議発表および情報収集

出張者氏名	所 属	出張国	出張期間	渡 航 内 容
山田 和彦	食品保健機能プログラム	台湾・台北	H19.9.9-9.12	台湾における食品の健康表示の現状、評価方法などに関する調査
永田 純一	食品保健機能プログラム	台湾・台北	H19.9.9-9.13	2007 10th Asian Congress of Nutrition 参加
由田 克士	栄養疫学プログラム	台湾・台北	H19.9.10-9.12	2007 10th Asian Congress of Nutrition での発表
石見 佳子	栄養疫学プログラム	ハワイ・ホノルル	H19.9.15-9.21	米国骨代謝学会発表および情報収集
宇津木 恵	栄養疫学プログラム	米国・ワシントン	H19.9.16-9.22	次期 DRI 策定に向けての情報収集
渡邊 昌	理事長	米国・ミネソタ州	H19.9.17-9.27	DRI ワークショップ、日米医学協会会議ニュートリションパネル出席
由田 克士	栄養疫学プログラム	英国・ロンドン、フィランド・ヘルシンキ	H19.10.1-10.10	研究班における情報収集
荒井 裕介	栄養疫学プログラム	英国・ロンドン、フィランド・ヘルシンキ	H19.10.1-10.10	研究班における情報収集
宇津木 恵	栄養疫学プログラム	英国・ロンドン、フィランド・ヘルシンキ	H19.10.1-10.10	研究班における情報収集
佐々木 敏	栄養疫学プログラム	英国・ロンドン	H19.10.1-10.5	研究班における情報収集
田畑 泉	健康増進プログラム	米国・ルイジアナ州	H19.10.20-10.26	米国肥満学会年次集会参加
大河原一憲	健康増進プログラム	米国・ルイジアナ州	H19.10.20-10.26	The Obesity society annual scientific meeting 2007 参加
吉田 真咲	国際産学連携センター	オーストラリア・キャンベラ	H19.10.23-10.29	The international Association for Dance Medicine & Science 17th Annual Meeting 参加

出張者氏名	所 属	出張国	出張期間	渡 航 内 容
大石由美子	臨床栄養プログラム	米国・フロリダ州	H19.11.3-11.8	米国心臓学会学術集会 2007 での発表および参加
宮地 元彦	健康増進プログラム	米国・フロリダ州	H19.11.4-11.8	米国心臓学会学術集会 2007 会議出席・情報収集
家光 素行	健康増進プログラム	米国・フロリダ州	H19.11.4-11.8	米国心臓学会 2007 会議出席・情報収集
梅垣 敬三	情報センター	マレーシア・クアランプー	H19.11.4-11.8	2nd International Conference on East -West Perspective on Functional Foods にて発表
山田 和彦	食品保健機能プログラム	ドイツ・バートノイエナール	H19.11.11-11.18	FAO/WHO 合同食品規格委員会 (CODEX) 第 29 回栄養・特殊用途食品部会出席
高田 和子	健康増進プログラム	タイ・バンコク	H19.12.3-12.10	2007 SEA Game & ASEAN Para Game Scientific Congresses
吉池 信男	国際産学連携センター	ベトナム・ハノイ	H20.1.3-1.7	研究打合せ・フィールド調査
羽田 裕亮	臨床栄養プログラム	米国・コロラド州	H20.1.22-1.28	Keystone Symposia, Session: Diabetes Mellitus, Insulin Action and Resistance に参加、発表
水野 正一	国際産学連携センター	米国・ワシントン D.C.	H20.1.23-1.28	Second International Systems Radiation Biology Workshop 参加
高田 和子	健康増進プログラム	米国・コロラド州	H20.2.2-2.9	情報収集及び学会出席
大河原一憲	健康増進プログラム	米国・カリフォルニア州・コロラド州	H20.2.4-2.9	RACMEM2008 に参加および発表
引原 有輝	健康増進プログラム	米国・カリフォルニア州・コロラド州	H20.2.4-2.9	RACMEM2008 に参加および発表
大石由美子	臨床栄養プログラム	米国、アルバート州・カリフォルニア州	H20.2.19-2.27	キーストーンシンポジウムでの発表およびカリフォルニア大学サンディエゴ校との研究打合せ

8. 名誉所員

氏 名	授与年月日	在職当時の職名
鈴江緑衣郎	10.4.1	所長
印南 敏	10.4.1	食品科学部長
宮崎 基嘉	10.4.1	基礎栄養部長
宇津木良夫	10.4.1	病態栄養部長
山口 迪夫	10.4.1	食品科学部長
市川 富夫	10.4.1	応用食品部長
伊東 蘆一	10.4.1	老人健康・栄養部長
板倉 弘重	10.4.1	臨床栄養部長
池上 幸江	11.4.1	食品科学部長
小林 修平	11.7.1	所長
江指 隆年	12.4.1	応用食品部長
澤 宏紀	13.4.1	所長
戸谷 誠之	13.4.1	母子健康・栄養部長
樋口 満	15.4.1	健康増進研究部長
岡 純	16.4.1	応用栄養学研究部長
増田 和茂	16.8.1	理事
田中 平三	17.4.1	理事長

9. 客員研究員

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
太田 篤胤	栄養疫学プログラム	19.4.1～20.3.31	骨粗鬆症予防における栄養疫学的研究
吉武 裕	栄養疫学プログラム	19.4.1～20.3.31	人体におけるエネルギー代謝
呉 堅	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	食品成分と運動の併用が生活習慣病予防に及ぼす影響に関する研究
山本 祐司	栄養疫学プログラム	19.6.1～20.3.31	メタボリックシンドロームにおけるビタミンA転送タンパク質の役割の解析
二見 順	健康増進プログラム	19.4.1～20.3.31	ヒューマンカロリーメーターによるエネルギー消費量測定に関する研究
木村 靖夫	健康増進プログラム	19.4.1～20.3.31	日常生活に即した運動の抗加齢効果
川中健太郎	健康増進プログラム	19.4.1～20.3.31	運動が骨格筋糖代謝に及ぼす影響
真田 樹義	健康増進プログラム	19.4.1～20.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模研究
井上 修二	健康増進プログラム	19.4.1～20.3.31	エネルギー代謝に関する研究
田中 千晶	健康増進プログラム	19.4.1～20.3.31	加齢に伴う日常生活における身体活動量の変動
高橋 佳子	健康増進プログラム	19.4.1～20.3.31	日本人の生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定のための大規模介入研究
家光 素行	健康増進プログラム	19.4.1～20.3.31	日本人の生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定のための大規模介入研究
寺田 新	健康増進プログラム	20.1.18～20.3.31	運動トレーニングによる骨格筋ミトコンドリア増加の分子機序に関する研究
野田 光彦	臨床栄養プログラム	19.4.1～20.3.31	メタボリックシンドロームにおける膵島の代謝・インスリン分泌の関連に関する研究
梶本 雅俊	栄養教育プログラム	19.4.1～20.3.31	高齢者の食事パターン解析と健康指標に関する研究

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
石渡 尚子	栄養教育プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	健康づくりのための栄養教育プログラムの開発
川上 純子	栄養教育プログラム	19.4.12 ~ 20.3.31	高齢者の食介護に関する研究 - 介護食を中心に -
近藤 雅雄	栄養教育プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	ニュートリゲノミクスを用いた高機能性新規食品の多機能解明に関する研究
手嶋登志子	栄養教育プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	高齢者の食介護に関する研究 - 介護食を中心に -
渡辺 光博	基礎栄養プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	分子制御によるメタボリックシンドロームへのアプローチ
辻 悦子	基礎栄養プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	メタボリックシンドローム予防における脂質及び運動負荷の相互作用に関する研究
亀井 康富	基礎栄養プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	骨格筋の遺伝子発現調節に焦点をおいた生活習慣病の分子機構解明
中川 靖枝	食品保健機能プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	食物繊維の生理作用
江指 隆年	食品保健機能プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	栄養素の栄養機能代謝に関する研究
中嶋 洋子	食品保健機能プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	食品成分の健康影響に関する研究
久保 和弘	食品保健機能プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	脂質の機能特性に関する研究
清瀬千佳子	食品保健機能プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	食品成分の新規機能性の解明
林 邦彦	情報センター	19.4.1 ~ 20.3.31	女性の生活習慣病と健康に関する疫学調査研究
梅國 智子	情報センター	19.4.1 ~ 20.3.31	ウェブ上の栄養情報教育に関する研究
草間かおる	国際産学連携センター	19.4.1 ~ 20.3.31	アジア諸国(ベトナム・カンボジア)における栄養および給食支援に関する研究
菅野 幸子	国際産学連携センター	19.4.1 ~ 20.3.31	食生活・栄養に関する疫学的研究
大賀 英史	国際産学連携センター	19.4.1 ~ 20.3.31	地域保健、産業保健におけるポピュレーションアプローチによる保健指導等のあり方に関する研究
藤井 康弘	国際産学連携センター	19.8.1 ~ 19.1.31	食品および食品素材の機能性評価
久米村 恵	国際産学連携センター	19.4.1 ~ 20.3.31	特別用途食品の有効性に関する調査研究

10. 協力研究員

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
岩本 珠美	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	脂質代謝とミネラル代謝の 関連について
大木 和子	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	高齢者の口腔保健と全身的 な健康状態の関係について の総合研究 - 全身的な健康 状態の評価とその経年変化 -
武山 英磨	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	人体におけるミネラル代謝
佐藤 七枝	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	カルシウムと食生活に関す る研究
島田美恵子	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	高齢者の生理特性と日常身 体活動との関係
児玉 直子	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	人体におけるミネラルの役 割
吉岡やよい	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	人体におけるミネラルの役 割
森國 英子	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	人体におけるミネラルの役 割
松崎 伸江	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	人体におけるミネラルの役 割
千葉 大成	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	フラボノイドに着目した骨 粗鬆症予防に関する研究
村上健太郎	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	食事摂取基準の策定に関連 する文献学的研究
大久保公美	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	食事摂取基準の策定に関連 する文献学的研究
板橋 真美	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	食事摂取基準の策定に関連 する文献学的研究
八幡 智野	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	食事摂取基準の策定に関連 する文献学的研究
猿倉 薫子	栄養疫学プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	栄養調査及び栄養の指導者 側のマニュアル作成やその 評価
王 新祥	栄養疫学プログラム	19.4.12 ~ 20.3.31	骨粗鬆症の予防における栄 養学的研究
佐藤 裕美	栄養疫学プログラム	19.6.11 ~ 20.3.31	人体におけるミネラル代謝
佐々木 敏	栄養疫学プログラム	19.10.25 ~ 20.3.31	食事摂取基準の研究

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
小林 優子	健康増進プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	国民の健康と QOL に関する研究
町田 修一	健康増進プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	運動不足によって惹起される生活習慣病発症のメカニズムの解明
薄井澄誉子	健康増進プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	勤労中高年女性の健康増進に及ぼす水泳トレーニングの効果に関する研究
安田 剛	健康増進プログラム	19.5.28 ~ 20.3.31	フィットネスクラブにおけるプログラム開発における指導・研究
別所 京子	健康増進プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	調理作業中のエネルギー消費量に関する研究
山元 健太	健康増進プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量体力基準値の策定
緑川 泰史	健康増進プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	身体活動量の量的および質的評価法に関する研究
窪田 直人	臨床栄養プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	メタボリックシンドロームプロジェクト・各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討
原 一雄	臨床栄養プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	メタボリックシンドロームプロジェクト・各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討
松下 由実	臨床栄養プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	メタボリックシンドロームプロジェクト・基礎代謝に影響を与える遺伝子素因の研究
眞鍋 一郎	臨床栄養プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	代謝ストレス応答の分子機構の研究
平川あずさ	栄養教育プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	栄養教育・食育に関する情報数集
拓殖 光代	栄養教育プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	高齢者の QOL 向上のための日本型食生活の解析および食育への活用をめざす手法の開発
井出 智子	栄養教育プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	女子大学生の居住形態における食習慣の検討
宮城 節子	栄養教育プログラム	19.4.1 ~ 20.3.31	δ - アミノ酸の栄養学的研究

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
メリッサ・メルビー	栄養教育プログラム	19.4.1～20.3.31	健康づくりのための栄養教育プログラムの開発
日比野佐和子	栄養教育プログラム	19.9.1～20.3.31	
柳沢 佳子	基礎栄養プログラム	19.4.1～20.3.31	遺伝子背景を考慮した肥満予防プログラムの作成
石田 達也	食品保健機能プログラム	19.4.1～20.3.31	保健機能食品の微生物成分に関する調査研究
前田 剛希	食品保健機能プログラム	19.4.1～20.3.31	黒糖と脂質・糖代謝の関係を明らかにするために、黒糖抽出液が脂肪細胞の分化や肥大化に与える影響を生化学的手法で調べる
花井 美保	食品保健機能プログラム	19.4.1～20.3.31	クローン病モデルマウスを用いたクローン病候補遺伝子の探索および発症に及ぼす飼料栄養素の影響
木村 典代	情報センター	19.4.1～20.3.31	食品の安全性と有効性に関する研究
杉山 朋美	情報センター	19.4.1～20.3.31	健康食品と医薬品との相互作用に関する研究及び情報収集
沢村 耕太	情報センター	19.4.1～20.3.31	食品・栄養素摂取状況とがんの罹患・死亡との関連に関する分析
阿部 詠子	情報センター	19.4.1～20.3.31	老年期の食事状況による健康状態変化要因及のコホート型研究
片山 由香	国際産学連携センター	19.4.1～20.3.31	福祉栄養(障害者)に関する研究
齋藤 京子	国際産学連携センター	19.4.1～20.3.31	
石田 晋也	国際産学連携センター	19.4.1～20.3.31	健康関連の新規有用性物質の探索及び評価

11. 特別研究員

氏 名	所 属 部	期 間
野末 みほ	栄養疫学プログラム	19. 4.1 ~ 19.12.31
大瀧 裕子	栄養疫学プログラム	19.10.1 ~ 20. 3.30
谷本 道哉	健康増進プログラム	19. 4.1 ~ 20. 3.30
引原 有輝	健康増進プログラム	19. 4.1 ~ 20. 3.30
羽田 祐亮	臨床栄養プログラム	19. 4.1 ~ 20. 3.30
佐藤 (三戸) 夏子	食品保健機能プログラム	19. 4.1 ~ 20. 3.30
竹林 純	食品保健機能プログラム	19. 4.1 ~ 19.12.31
瀧 優子	情報センター	19. 4.1 ~ 20. 3.30
佐藤 陽子	情報センター	19. 4.1 ~ 20. 3.30
三好 美紀	国際産学連携センター	19. 4.1 ~ 19.12.31
吉田 真咲	国際産学連携センター	19. 4.1 ~ 20. 3.30

12. 平成 19 年度所内研究セミナー

期日	演 題	所 属
2007/4/19	メタボリックシンドローム診断基準の問題点	江崎 治 基礎栄養プログラム
	ゲノミックおよびノンゲノミック作用発現におけるビタミンDのリガンド選択性	山内 淳 栄養疫学プログラム
	イチヨウ葉エキスと医薬品の相互作用について	梅垣 敬三 情報センター
5/24	大迫(おおはさま)研究の概要	宇津木 恵 栄養疫学プログラム
	ILSI ヨーロッパ機能性食品と健康表示シンポジウム参加報告	山田 和彦 食品保健機能プログラム
	SCOP(Saku Cohort Obesity Program)における遺伝子多型解析について	山田 晃一 栄養教育プログラム
6/21	日常生活における身体活動後の代謝亢進が1日当たりのエネルギー消費量に及ぼす影響	田中 茂穂 健康増進プログラム
	脂肪肝に対する魚油の効果は脂肪肝発症原因により異なる	山崎 聖美 基礎栄養プログラム
	大豆由来成分 Bowman-Birk protease inhibitor (BBI)による癌予防・治療の可能性	矢野 友啓 食品保健機能プログラム
6/28	Usage of Iodized salt in Lao PDR ～ラオスにおけるヨード添加塩使用の現状～	Dr. Intong Keomoungkhoun Assistant Project Officer Health and Nutrition Section UNICEF, Lao PDR
7/19	Food assistance and nutritional support systems for natural disasters in local communities in Japan	吉池 信男 研究企画評価主幹 国際産学連携センター
	栄養調査の資質向上に関する取り組み	由田 克士 栄養疫学プログラム
	機能性食品因子データベースの構築	卓 興鋼 情報センター
7/26	医中誌 WEB の概要と検索について	黒沢俊典 NPO 医学中央雑誌刊行 会 電子出版課
	AOCS Your global fats and oils connection	Mr. Jeffry L. Newan Senior Director of American Oil Chemical Society(AOCS)

9/12	Evidence-based recommendation for physical activity in school age youth	Dr.R.M.Malina,PhD,FACSM Professor Emeritus, Dept. of Kinesiology, Univ. of Texas at Austin; Research Professor, Tarleton State Univ., Stephenville, Texas
9/13	糖尿病発症と嗜好品の疫学	野田光彦 国立国際医療センター 臨床検査部長
9/27	佐久肥満克服プログラムにおける行動変容理論に 基づいた栄養教育の試み	饗場 直美 栄養教育プログラム
	管理栄養士養成施設の専門分野別担当教員を対象 にした FD 研修会を実施して	荒井 裕介 栄養疫学プログラム
	マクロニュートリエント欠乏による脳卒中発症へ の影響およびそのメカニズム	千葉 剛 基礎栄養プログラム
10/18	カロリーカウンターによる料理のエネルギー評価	高田 和子 健康増進プログラム
	ウェブ上の一般向け健康栄養情報の新たな判別法 の検討	廣田 晃一 情報センター
	閉経後女性におけるビタミン K2(MK-4)の機能性に 関する研究	石見 佳子 栄養疫学プログラム
11/22	血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質(IRS)2 の役割の解明	窪田 哲也 臨床栄養プログラム
	女子長距離選手の血清オプソニン化活性と血漿中 サイトカインレベルに及ぼす夏期合宿の影響	熊江 隆 健康増進プログラム
12/14	The central role for PAT proteins in managing lipids in animals	Dr. Constantine Londos Chief of Membrane Regulation Section,Laboratory of Cellular and Developmental Biology, NIDDK, National Institutes of Health, Bethesda, Maryland, USA
12/20	日本ナースヘルス研究について	松村 康弘 情報センター
	栄養表示基準における栄養成分の分析方法」の測定 精度向上のための研究	松本 輝樹 食品保健機能プロ ラム
2008/1/17	運動トレーニングによる肥満予防への交感神経系 の役割 - 分子レベルからのアプローチ -	三浦 進司 基礎栄養プログラム
	生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準 値策定を目的とした大規模介入研究(2年目の進捗 状況)	宮地 元彦 健康増進プログラム

	健康と栄養、縦断研究と横断研究	水野 正一 国際産学連携センター
1/22	Current and future health claims in European countries	Dr. Nils-Georg Asp, MD, PhD, Professor, Applied Nutrition, Lund University, Sweden Director, SNF Swedish Nutrition Foundation, Sweden
2/21	減量介入プログラムへの取組	森田 明美 栄養疫学プログラム
	食品成分分析における精度管理システムの構築	永田 純一 食品保健機能プログラム
	微量元素の食事摂取基準	西牟田 守 栄養疫学プログラム

13. 食品分析リスト (特別用途食品の分析)

平成 18 年 4 月より平成 19 年 3 月までの間、特別用途食品の許可表示取得のために提出されたものについて分析した結果は次のとおりである。分析方法等は健康増進法に記載されている。

分析担当者：山田和彦、萩原清和、永田純一、松本輝樹、佐藤 (三戸) 夏子、垣外菜生子、小林 香、二井千日、矢野友啓、佐藤洋美、梅垣敬三、石見佳子、山内 淳

特別用途食品	製造元	商品名
低ナトリウム食品	静岡県産醤油協業組合	ケンサン特選減塩しょうゆ
乳児用調製粉乳	アイクレオ(株)	赤ちゃんが選ぶアイクレオのバランスミルク
低ナトリウム食品	マルキン忠勇(株)	マルキン減塩しょうゆ
低ナトリウム食品	マルキン忠勇(株)	マルキンおいしい減塩しょうゆ
低ナトリウム食品	ヤマサ醤油(株)	減塩習慣 しょうゆ
低ナトリウム食品	(株)サンビシ	サンビシ減塩しょうゆ
乳児用調製粉乳	和光堂(株)	和光堂レーベンスミルクはいはい
病者用食品個別評価型	(株)大塚製薬工業	オーエスワンゼリー
低ナトリウム食品	(株)日本セルコ	ナチュライブ 特選減塩しょうゆ
低カロリー食品	三星食品(株)	梅のど飴
低ナトリウム食品	富士甚醤油(株)	くらしらく 減塩醤油 特級
低ナトリウム食品	マルコメ(株)	おいしく塩分 1 / 2
低カロリー食品	(株)ディーエイチシー	DHC スイートナー
低カロリー食品	サラヤ(株)	ラカント S ピュアテイスト
アレルギー除去食品・無乳糖食品	明治乳業(株)	明治ミルフィーHP
乳児用調製粉乳	雪印乳業(株)	雪印びゅあ
低ナトリウム食品	ちば醤油(株)	特選減塩醤油
乳児用調製粉乳	森永乳業(株)	森永ドライミルク はぐくみ
乳児用調製粉乳	明治乳業(株)	明治ほほえみ (らくらくキューブ)
乳児用調製粉乳	ビーンスターク・スノー(株)	ビーンスターク ネオミルク すこやか
特定保健用食品	製造元	商品名
特定保健用食品	トーラク(株)	豆乳で作ったヨーグルト フルーツ味 ブルーベリー果肉入り
特定保健用食品	仙味エキス(株)	エスピーマリン ONE
特定保健用食品	(株)小谷穀粉	食物繊維入り粉末緑茶
特定保健用食品	アビ(株)	ステイバランス RJ
特定保健用食品	日本サプリメント(株)	TG バランスつづタイプ
特定保健用食品	キューサイ(株)	トーチミン
特定保健用食品	キューサイ(株)	カツオール
特定保健用食品	(株)アドバンス	ブルーベリーオリゴ
特定保健用食品	日清食品(株)	サイリウムヌードル シーフード
特定保健用食品	(株)東洋新薬	べじる
特定保健用食品	(株)東洋新薬	畑育ちの孝行青汁
特定保健用食品	(株)東洋新薬	緑がおいしい青汁
特定保健用食品	よつ葉乳業(株)	北海道十勝牛乳 100 プレーンヨーグルト
特定保健用食品	よつ葉乳業(株)	CO・OP Wellplus 北海道十勝プレーンヨーグルト 100
特定保健用食品	(株)ラビー	豆鼓のおかげ
特定保健用食品	(株)ラビー	かつおの幸せ
特定保健用食品	協同薬品工業(株)	ラブリア
特定保健用食品	キャドバリー・ジャパン(株)	リカルデント フレッシュミント

特別用途食品	製造元	商品名
特定保健用食品	(株)ミツカン	有機栽培大豆 はね元気
特定保健用食品	(株)ミツカン	はね元気 国産大粒納豆
特定保健用食品	(株)ミツカン	はね元気
特定保健用食品	サントリー(株)	胡麻麦茶
特定保健用食品	井藤漢方製薬(株)	オリゴトップシロップ N
特定保健用食品	(株)ロッテ	キシリトールガム ニューアップルミント
特定保健用食品	(株)ロッテ	キシリトールガム ニューフレッシュミント
特定保健用食品	(株)ロッテ	キシリトールガム ニューライムミント
特定保健用食品	(株)ロッテ	キシリトールガム ニューロゼミント
特定保健用食品	(株)ロッテ	キシリトールガム ニューストロングミント
特定保健用食品	(株)ロッテ	キシリトールガム ニュースピックミント
特定保健用食品	フィプロ製薬(株)	イサゴール・ジンジャー味
特定保健用食品	(株)ジェイローゼ	オリゴチョコキレ
特定保健用食品	明治製菓(株)	キシリッシュプラスエフ フレッシュアップル
特定保健用食品	(株)上薬研究所	食後のとう番
特定保健用食品	カルビス(株)	カルビス酸乳 アミールエス
特定保健用食品	日清ファルマ(株)	サーデンベプチド ドリンク
特定保健用食品	塩水港精糖(株)	オリゴのおかげダブルサポート
特定保健用食品	塩水港精糖(株)	オリゴのおかげダブルサポート顆粒タイプ
特定保健用食品	明治製菓(株)	キシリッシュプラスエフ フレッシュアップル
特定保健用食品	名糖産業(株)	レモンティー食物繊維入り
特定保健用食品	ライオン(株)	トマト酢習慣トマト酢飲料
特定保健用食品	(株)ファンケル	おなかピオ
特定保健用食品	不二製油(株)	リボスルー
特定保健用食品	キャドバリー・ジャパン(株)	リカルデント グレープミント
特定保健用食品	キャドバリー・ジャパン(株)	リカルデント グリーンアップルミント
特定保健用食品	キャドバリー・ジャパン(株)	リカルデント レッドアップルミント
特定保健用食品	キャドバリー・ジャパン(株)	リカルデント グレープフルーツミント
特定保健用食品	キャドバリー・ジャパン(株)	リカルデント レモンミント
特定保健用食品	キャドバリー・ジャパン(株)	リカルデント ライムミント
特定保健用食品	キャドバリー・ジャパン(株)	リカルデント ブルーベリーミント
特定保健用食品	キャドバリー・ジャパン(株)	リカルデント アップル&アップルミント

平成 2 0 年 3 月 3 1 日 発行

発 行 者 独立行政法人 国立健康・栄養研究所

〒162 - 8636
東京都新宿区戸山 1 - 2 3 - 1
. 0 3 - 3 2 0 3 - 5 7 2 1 (代)
